

令和7（2025）年度
伊丹市人権・男女共同参画に関する
市民意識調査結果報告書

令和8（2026）年3月

伊丹市

目次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	回答者の属性.....	2
7	調査結果の表示方法.....	2
II	調査結果のまとめ（人権）.....	3
1	人権全般について.....	3
2	人権啓発について.....	4
III	調査結果のまとめ（男女共同参画）.....	5
1	男女共同参画について.....	5
2	セクハラ・DVについて.....	6
IV	調査結果.....	8
	（1）人権問題について.....	8
	（2）男女共同参画について.....	85
	（3）セクハラ・DVについて.....	143
	（4）人権・男女共同参画に関する市の計画・施策等について.....	161
	（5）回答者属性.....	166
V	自由記述.....	177
VI	調査票.....	178

I 調査の概要

1 調査の目的

人権と男女共同参画に関する市民意識の現状を把握するとともに、今後の人権教育・啓発の効果的な推進及び男女共同参画計画の推進・見直しの基礎資料として、調査を実施するものです。

2 調査対象

伊丹市在住の満15歳以上から、3,000人を無作為抽出

3 調査期間

令和7年10月6日～令和7年10月24日

4 調査方法

郵送による配布、郵送回収及びWEBフォームによる回答

5 回収状況

配布数	回収数	回収率
3,000件	1,410件 うち郵送 823件、WEB 587件	47.0% うち郵送 58.4%、WEB 41.6%

6 回答者の属性（※詳細は「IV 調査結果（5）回答者属性」を参照ください。）

回答者数 = 1,410人	男性	女性	その他(または答えたくない)	無回答				
性別	38.1% (537人)	57.3% (808人)	1.0% (14人)	3.6% (51人)				
回答者数 = 1,410人	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答
年齢	3.8% (53人)	5.0% (71人)	8.1% (114人)	12.8% (181人)	18.9% (267人)	16.7% (236人)	30.9% (436人)	3.7% (52人)
回答者数 = 1,410人	日本国籍	日本国籍以外	その他(または答えたくない)	無回答				
国籍	95.3% (1,344人)	1.1% (16人)	0.1% (1人)	3.5% (49人)				
回答者数 = 1,410人	未婚・非婚	既婚	既婚 (離別・死別)	無回答				
結婚	21.2% (299人)	60.5% (853人)	16.8% (237人)	1.5% (21人)				
回答者数 = 1,410人	単身(一人暮らし)	夫婦・パートナーのみ	2世代家族 (親と子)	3世代家族 (親と子と孫、親と子と祖父母など)	その他	無回答		
同居人	17.8% (251人)	27.1% (382人)	44.7% (630人)	3.8% (54人)	2.3% (33人)	4.3% (60人)		
回答者数 = 1,410人	いない	乳幼児(小学校入学前)	小学生	中学生	無回答			
子ども	69.6% (981人)	5.2% (73人)	6.2% (87人)	4.3% (61人)	14.8% (208人)			
回答者数 = 1,410人	勤め人(常勤・フルタイム)	商工業、農業などの自営業	執筆業、弁護士などの専門的職業	勤め人(パートタイム、アルバイト)	派遣社員	内職などの家庭内請負業	家事専業	学生(受験勉強中の方も含む)
職業	29.6% (418人)	2.5% (35人)	0.9% (13人)	16.3% (230人)	1.6% (22人)	0.4% (5人)	13.0% (184人)	4.3% (60人)
	その他	無職(家事専業、学生以外)	無回答					
	2.3% (32人)	23.4% (330人)	5.7% (81人)					

7 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）

- ・過去調査との比較で参照した調査は、下表のとおりです。

分野	比較対象	実施調査
人権問題	令和2年度調査	伊丹市人権・男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書（令和3年2月発行）
	平成27年度調査	伊丹市人権・男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書（平成28年2月発行）
	兵庫県調査	人権に関する県民意識調査調査結果報告書（令和6年3月発行）
	全国調査	人権擁護に関する世論調査（令和4年8月調査）
男女共同参画	令和2年度調査	伊丹市人権・男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書（令和3年2月発行）
	平成27年度調査	伊丹市人権・男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書（平成28年2月発行）
	兵庫県調査	第3回県民モニターアンケート調査「男女共同参画社会と芸術文化に関する意識調査」（令和6年10月調査）
	全国調査	男女共同参画社会に関する世論調査（令和6年9月調査）
	全国調査（DV）	男女間における暴力に関する調査（令和5年度調査）

伊丹市が行った「男女共同参画に関する市民意識調査」について

伊丹市は過去7回、「男女共同参画に関する市民意識調査」を行っています。令和7年度調査は第8回目の調査です。

第1回	平成3年度	「女と男の暮らしと意識」調査
第2回	平成8年度	「第2回男女共同参画型社会づくりに関する市民意識調査」
第3回	平成13年度	「第3回男女平等に関する市民意識調査」
第4回	平成16年度	「第4回男女平等に関する市民意識調査」
第5回	平成22年度	「第5回男女共同参画に関する市民意識調査」
第6回	平成27年度	「人権・男女共同参画に関する市民意識調査」
第7回	令和2年度	「人権・男女共同参画に関する市民意識調査」

Ⅱ 調査結果のまとめ（人権）

1 人権全般について

人権を身近な問題と感じるかについては、「非常に身近に感じる」と「かなり身近に感じる」を合わせた“身近に感じる”の割合が38.3%、「あまり身近に感じない」と「まったく身近に感じない」を合わせた“身近に感じない”の割合が28.1%となっています。過去調査と比較すると、令和7年度では“身近に感じない”の割合が減少しており、人権を意識する人の割合が増加しています。性別では女性に比べ男性で“身近に感じる”割合が高く、年齢別では年齢が下がるほど「かなり身近に感じる」割合が高くなる傾向がみられます。兵庫県調査と比較すると、“身近に感じる”割合で大きな差が無い一方で、“身近に感じない”割合が高くなっています。（問1）

「今の日本は、人権が尊重されている社会である」かについては、“そう思う”割合が51.7%、“そうは思わない”割合が17.3%となっています。過去調査と比較して大きな変化はみられず、兵庫県調査とも大きな差はありません。性別では女性に比べ男性で“そう思う”割合が高くなっています。年齢別では10歳代で“そう思う”割合が高くなっており、若年層で肯定的な認識がみられます。（問2①）

また、「市民一人ひとりの人権意識は5～6年前に比べて高くなっている」かについては、“そう思う”割合が46.9%、“そうは思わない”割合が14.6%となっています。過去調査と比較すると、令和7年度では“そう思う”割合が増加しており、市民の人権全般に関する意識が高まっていることがうかがえます。性別では男性に比べ女性で、年齢別では10歳代および40歳代で“そう思う”割合が高くなっています。兵庫県調査との比較では大きな差はありません。（問2②）

「5～6年前に比べて人権が侵害されていることは減っている」かについては、“そう思う”割合が35.8%、“そうは思わない”割合が20.9%となっています。過去調査と比較して大きな変化はみられません。年齢別では10歳代および70歳以上で“そう思う”割合が高く、20歳代では“そうは思わない”割合が高くなっており、世代間で認識に差がみられます。（問2③）

今までに自分の人権が侵害されたと思ったことがあるかについては、「ある」が18.9%、「ない」が59.8%となっています。過去調査と比較して大きな変化はみられず、兵庫県調査と比較すると、「ある」の割合が低くなっています。性別では男性に比べ女性で「ある」の割合が高く、年齢別では年齢が下がるほど「ある」と回答する割合が高い傾向がみられます。（問3）

人権侵害の内容については、「職場でのいじめやいやがらせ」が36.1%と最も高く、次いで「名誉・信用などの侵害」「学校でのいじめや体罰」となっています。過去調査と比較すると、「職場でのいじめやいやがらせ」「学校でのいじめや体罰」の割合が増加しています。性別では、女性に比べ男性で「職場でのいじめやいやがらせ」、男性に比べ女性で「セクシュアル・ハラスメント」や「ドメスティック・バイオレンス」の割合が高く、年齢別では30歳代で「あらぬうわさや悪口による、名誉・信用などの侵害」「職場でのいじめやいやがらせ」「学校でのいじめや体罰」の割合が高くなっています。兵庫県調査と比較すると、「職場でのいじめやいやがらせ」「学校でのいじめや体罰」の割合が低くなっています。

（問3-1）

人権侵害を受けたときの対応については、「何もできなかった」が43.6%と最も高く、「家族や友人など信頼できる人に相談した」が35.7%となっています。過去調査と比較すると、「何もできなかった」割合が増加しており、支援につながりにくい状況がうかがえます。性別では女性に比べ男性で「何もできなかった」、男性に比べ女性で「相談した」割合が高く、年齢別では若年層ほど相談行動が多い傾向がみられます。兵庫県調査と比較すると、「相手に抗議した」割合が高くなっています。（問3-2）

今までに、他人の人権を侵害したことがあると思うかについては、「ないと思う」が46.9%、「あるか

もしれない」が40.7%となっています。過去調査と比較して大きな変化はみられません。年齢別では70歳以上で「ないと思う」割合が高くなっています。(問4)

関心のある人権問題については、「インターネットによる人権侵害の問題」が45.0%と最も高く、次いで「障がいのある人に関する問題」「女性に関する問題」となっています。令和2年度調査と比較すると、「外国人に関する問題」などの関心が高まる一方、「新型コロナウイルス感染症に関する問題」は低下しており、社会状況の変化に伴い、人権課題に対する関心の度合いも変化していることがうかがえます。兵庫県調査との比較では「外国人に関する問題」の割合が高くなっています。(問5)

2 人権啓発について

人権尊重の考えについて強く影響を受けたと思うものについては、「小学校時代の人権教育」が35.9%と最も高く、次いで「中学校時代の人権教育」が29.4%、「家族でのふれあいの中から」が24.5%となっています。学校教育、特に義務教育段階における人権教育が、人権意識の形成に大きな役割を果たしていることがうかがえます。令和2年度調査と比較すると、「中学校時代の人権教育」の割合が増加している一方、「家族でのふれあいの中から」は減少しており、人権意識の形成において学校教育の影響が相対的に高まっている傾向が見られます。「人権」を身近に感じる程度別でみると、“身近に感じる”と回答した人ほど「地域でのふれあい」「友人とのふれあい」を挙げる割合が高くなっています。(問24)

人権啓発を進めるために効果的と思う啓発活動については、「テレビ・ラジオ」が33.1%と最も高く、次いで「インターネット」が25.0%、「県・市の広報紙」が21.6%となっています。マスメディアやインターネットを中心とした情報発信が重要な手段として認識されていることがわかります。一方で、年齢が上がるほど「県・市の広報紙」や「講演会・研修会」が重視され、年齢が下がるほど「SNS（X〈旧ツイッター〉、フェイスブックなど）、ホームページなどのインターネット」が重視される傾向があることから、対象に応じた効果的な情報発信の必要性がうかがえます。(問25)

Ⅲ 調査結果のまとめ（男女共同参画）

1 男女共同参画について

日常的な家事・仕事などの役割分担については、「①生活費の確保」で理想に比べ現状で「主に夫」の割合が高くなっています。一方、「②炊事・掃除・洗濯などの家事」「③近所とのつきあい」「④子育て」「⑤高齢者の介護」では、理想に比べ現状で「主に妻」の割合が高く、令和2年度調査と同様の傾向がみられます。「夫婦同程度」は「④子育て」「⑤高齢者の介護」で理想と現状の乖離が大きくなっています。（問27）

「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について、「賛成」と「どちらかといえば賛成する」を合わせた“賛成する”の割合が34.5%、「どちらかといえば賛成しない」と「賛成しない」を合わせた“賛成しない”の割合が62.7%となっています。性別では、女性に比べ、男性で“賛成する”の割合が高くなっています。過去調査と比較すると、“賛成しない”の割合が増加しており、“賛成する”の割合が減少しています。“賛成する”と考える理由は、「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が最も多く61.1%、一方、“賛成しない”と考える理由は、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が74.4%で、育児・介護・家事の両立の大変さを理解し、固定的な性別役割分担意識を持つ人が少なくなっている状況がうかがえます。（問28）

「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という考え方については、“賛成する”の割合が48.0%、“賛成しない”の割合が48.9%となっています。過去調査と比較すると、“賛成しない”の割合が高くなっています。性別では、女性に比べ、男性では“賛成する”の割合が高くなっています。（問29）

男性と女性の地位は平等になっていると思うかについて、分野別の男女の地位の平等感では、「学校教育」で比較的高い一方、「雇用の機会や職場での賃金・待遇」「政治・経済活動の場」では低くなっています。「全体として、男女の地位」について、兵庫県調査と比較すると「平等である」の割合が6.4ポイント高くなっていますが、兵庫県調査や全国調査同様に、男性の方が優遇されている人が高い状況がうかがえます。性別では、多くの項目で男性の方が平等と感じる割合が高くなっています。（問31）

一般的に女性が仕事をもつことについては、「ずっと仕事を続ける方がよい」が最も多く、過去調査より増加しており、女性が仕事を続ける方がよいとする考えが定着しつつある状況がうかがえます。性別では、男性に比べ女性で「ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が高くなっています。（問32）

「仕事」と「家庭生活や地域活動」の優先度では、『仕事』と『家庭生活や地域活動』のバランスをうまくとっている」の割合が理想では45.9%、現状では14.7%となっています。一方、『仕事』を優先している」と「どちらかといえば『仕事』を優先している」を合わせた“「仕事」を優先している”の割合が、理想では13.4%、現状では33.9%となっています。このことから、前回調査時と同様に、理想と現実に大きな差がある状況がうかがえます。現状について、性別では、男性は女性に比べて“「仕事」を優先している”の割合が高く、女性は男性に比べて『家庭生活や地域活動』を優先している」と「どちらかといえば『家庭生活や地域活動』を優先している」を合わせた“「家庭生活や地域活動」を優先している”の割合が高くなっています（問33）

育児時間については「3時間以上」が69.9%と最も高くなっていますが、性別にみると女性で87.2%、男性で37.5%と大きな差があります（問34）。

収入をとまなう仕事についての労働時間は、「40時間以上50時間未満」が31.7%と最も高くなっています。過去調査と比較すると、「20時間未満」は増加し、「60時間以上」は減少しています。性別にみると、男性では女性に比べて「40時間以上50時間未満」、女性では男性に比べて「20時間未満」「30時間以

上40時間未満」の割合が高くなっています（問35）。

育児休業については、「夫も妻も取る方がよい」が58.9%と最も高くなっており、過去調査と比較すると「夫も妻も取る方がよい」の割合が増加しています（問36A）。実際の取得は男性で12.3%、女性で35.5%となっています（問37-1）。介護休業については、「夫も妻も取る方がよい」が46.0%と最も高くなっており、次いで「夫の親族は夫が、妻の親族は妻が取る方がよい」が20.2%となっています（問36B）。休業を取得しない理由では、育児・介護ともに「仕事に支障がでるから」が最も高くなっており、「職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから」「職場に育児・介護休業制度がないから」の割合も高くなっています（問37-1A・B）。

女性の再就職や社会参画に向けては「家族の支援」や「育児に関する支援」、「介護に関する支援」の割合が高くなっています（問38）。女性が出産などを理由に離職せず、同じ職場で働きつづけるためには、保育環境の整備や男性の家事・育児・介護への理解・意識改革に加え、短時間勤務制度や在宅勤務制度を始めとする柔軟な働き方の推進が求められています。（問39）再就職後の働き方では、正社員としての再就職を望む割合が高くなっています。（問40）

政策決定の場においては、「男女の比率が偏らないように積極的に女性に参画してもらうこと」や「市、企業、各関係機関・団体などが女性の登用を推進すること」の割合が高くなっています。（問41）

男性が育児・介護・地域活動に参加しやすくするためには、「男性が育児休業・介護休業を取得しやすい職場環境の整備を推進する」の割合が63.8%と最も高く、次いで「男性も育児や地域活動に参加するのはあたりまえという風潮をつくる」の割合が56.7%となっています。このことから、男性が制度利用できる職場環境づくりを促進するとともに男性が育児や地域活動に参加しやすくなるような環境が求められているとかがえまます。（問42）

2 セクハラ・DVについて

セクシュアル・ハラスメントの被害経験については、自分自身では「ある」が15.2%、「ない」が78.4%となっています。性別では、男性に比べ女性で「ある」の割合が高くなっています。一方、友人や職場の仲間など周囲の人については、「ある」が24.3%と、自身の被害経験より高く、過去調査と比較すると増加しています。性別による大きな差はみられません。（問43）

配偶者間や交際相手間の行為が暴力にあたるかについては、「③いやがっているのに性的な行為を強要する」では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が高く、「②大声でどなる」では「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」、「⑤交友関係や電話を監視・制限する」では「暴力にあたると思わない」が高くなっています。いずれの項目も、令和7年度では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が増加していますが、全国調査（DV）と比べるとその割合は低い傾向にあります。性別にみると、女性では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が高く、暴力に対する意識の違いが見られます。（問44）

配偶者や交際相手からのDV被害経験については、精神的暴力で「何度もあった」と「1、2度あった」をあわせた“あった”が21.1%と最も高く、次いで身体的暴力11.0%、性的暴力9.0%となっています。いずれも女性で被害割合が高い傾向がみられます。（問45）

暴力について相談したかでは、「どこにも相談しなかった」が45.7%と最も高く、男性でその割合が高くなっています。相談しなかった理由としては、「相談するほどのことではないと思った」「相談しても無駄だと思った」が多く、全国調査（DV）と比較すると、「どこに（誰に）相談したらよいかわ

からなかった」の割合が8.5ポイント、「相談しても無駄だと思った」の割合が6.9ポイント高くなっています（問45-2、45-3）。

DV防止や被害者支援に必要な取組としては、「避難先情報の管理徹底」「被害者の保護体制充実」「相談体制の充実」が高く挙げられています。一方、過去調査と比べると、多くの支援項目で割合は低下しています。性別にみると、女性で「被害者が住居を確保できるように支援する」「被害者の自立を目指し、就労支援を充実する」の割合が高くなっています。（問47）

これらのことから、被害者が安全に安心して相談できる体制の充実を図るとともに、被害を受けた場合は、自分の被害を過小に評価することなく相談できるよう、相談窓口の周知啓発が必要です。

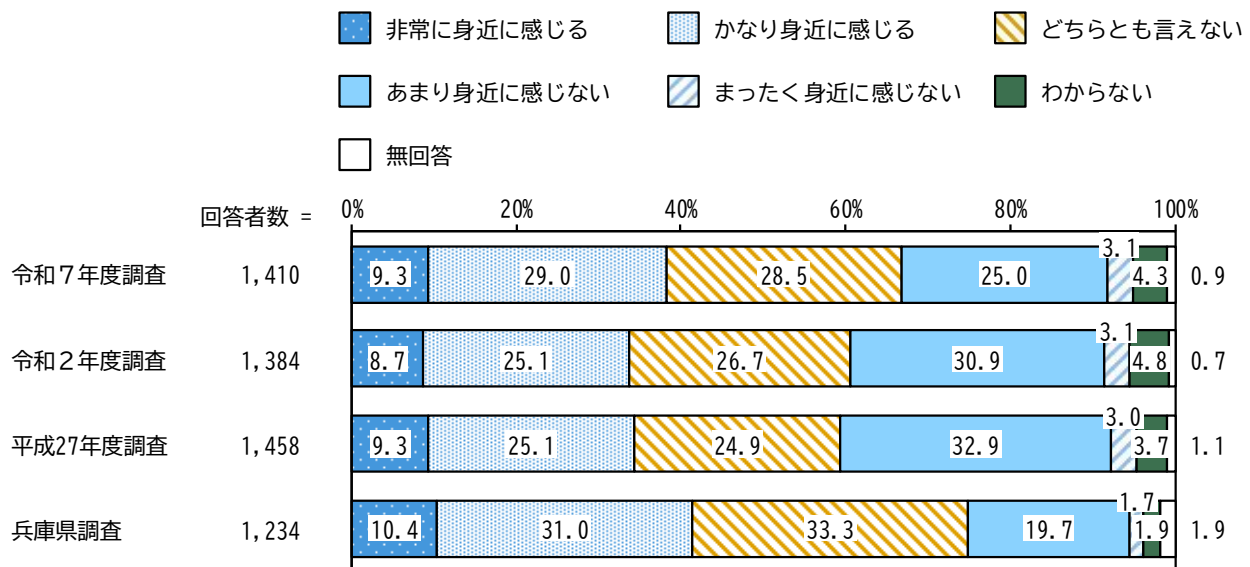
IV 調査結果

(1) 人権問題について

問1 あなたは、「人権」を、どのくらい身近な問題として感じていますか（○は1つ）

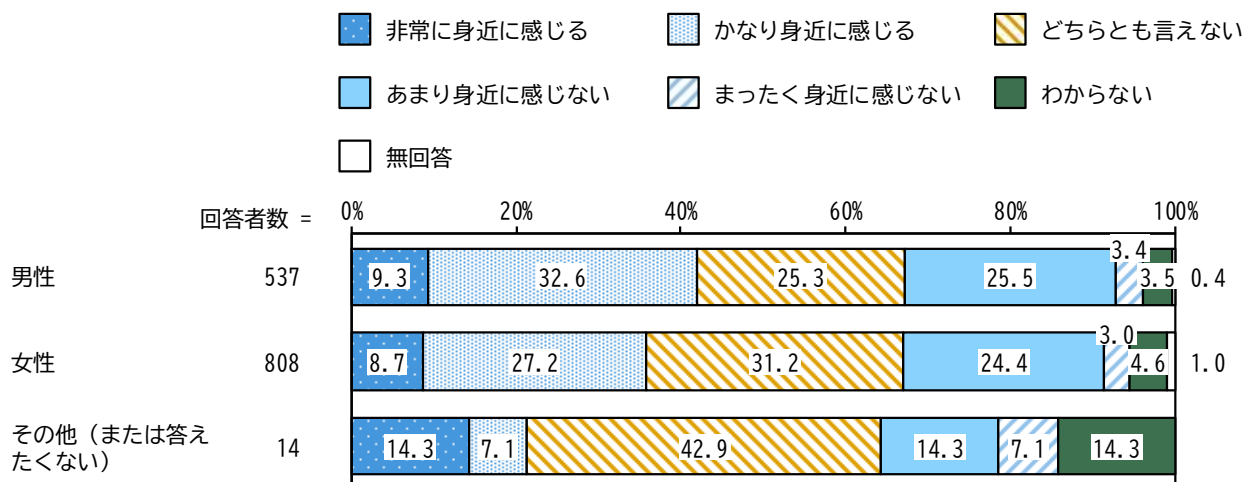
「非常に身近に感じる」「かなり身近に感じる」を合わせた“身近に感じる”の割合が38.3%、「あまり身近に感じない」「まったく身近に感じない」を合わせた“身近に感じない”の割合が28.1%となっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降“身近に感じない”の割合が減少しています。
兵庫県調査と比較すると、“身近に感じない”の割合が6.7ポイント高くなっています。



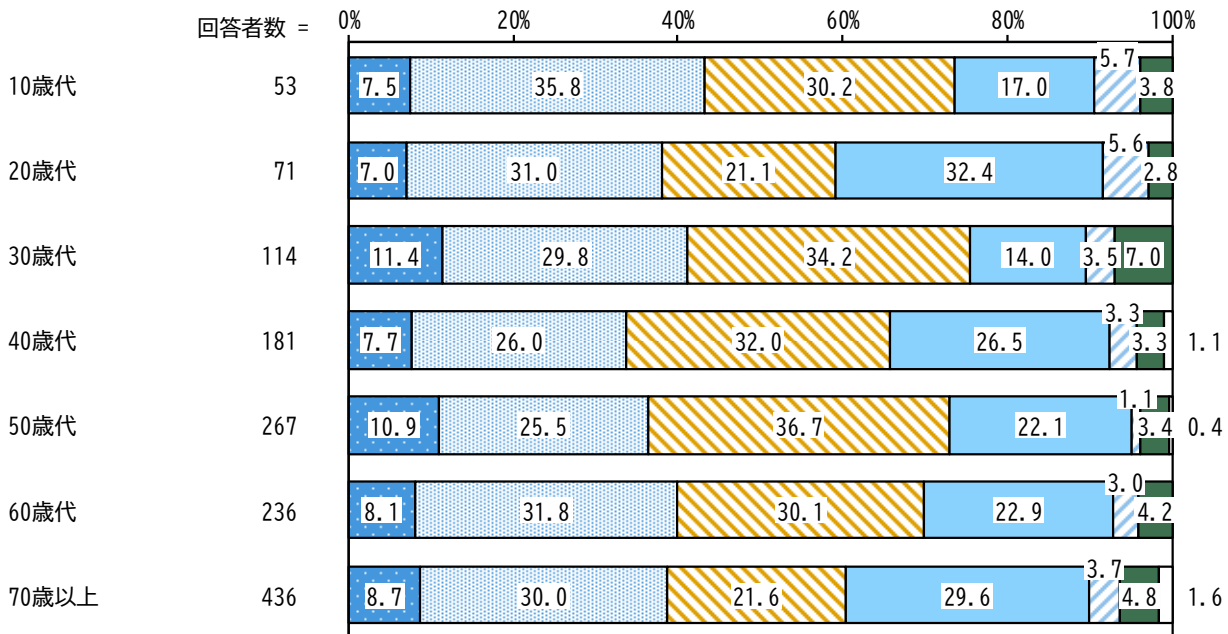
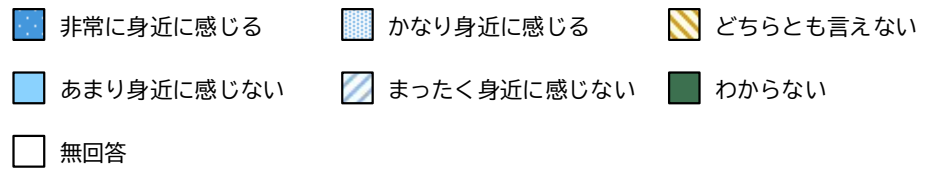
【性別】

性別にみると、女性に比べ、男性で“身近に感じる”の割合が高くなっています。



【年齢別】

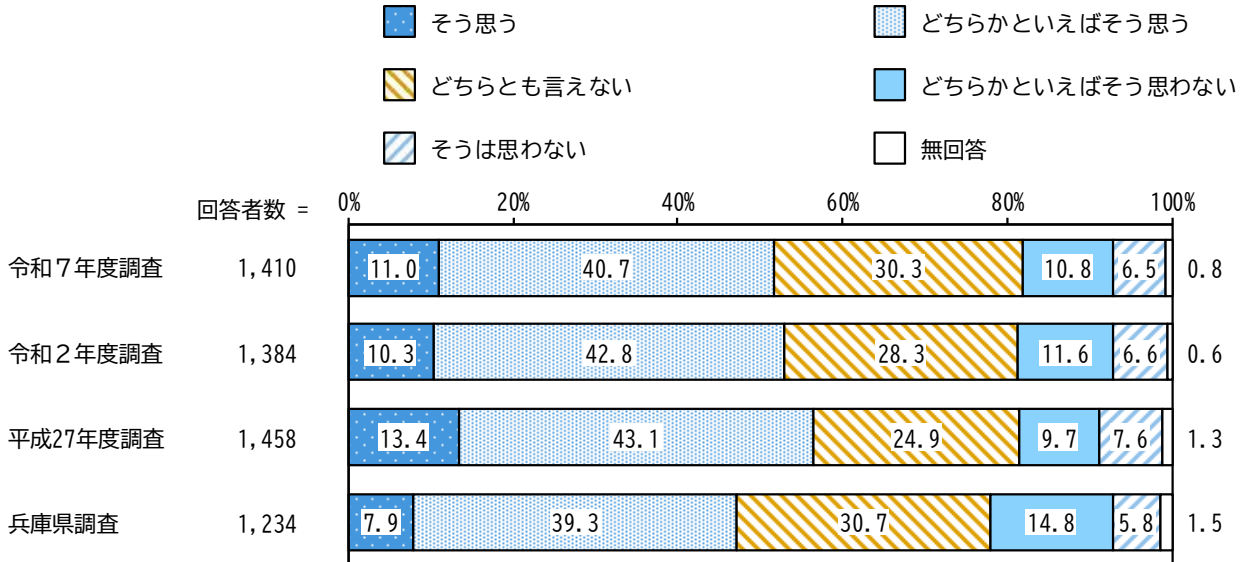
年齢別にみると、50歳代から10歳代まで年齢が下がるほど「かなり身近に感じる」の割合が高くなっています。また、30歳代で「あまり身近に感じない」の割合が低くなっています。



問2 次の①～③のそれぞれについて、あなたはどのように思いますか（○はそれぞれ1つ）

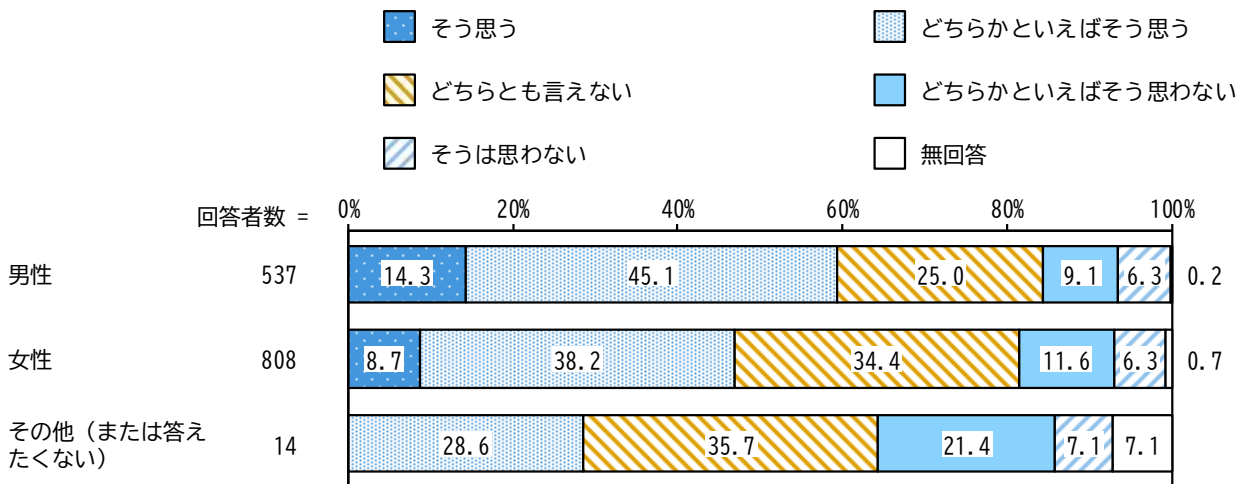
①今の日本は、人権が尊重されている社会である

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が51.7%、「どちらかといえばそう思わない」「そうは思わない」を合わせた“そうは思わない”の割合が17.3%となっています。
過去調査と比較すると、大きな変化はみられません。
兵庫県調査と比較すると、大きな差はみられません。



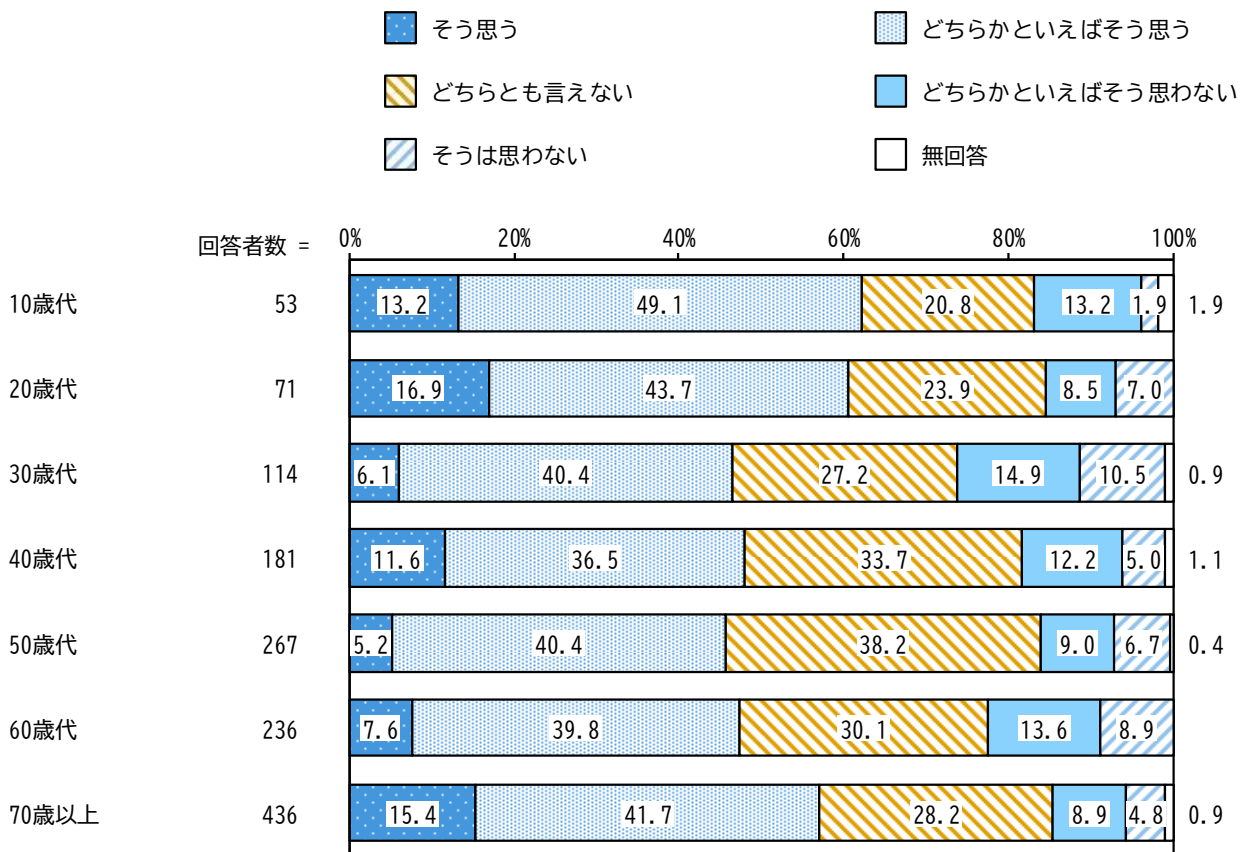
【性別】

性別にみると、女性に比べ、男性で“そう思う”の割合が高くなっています。



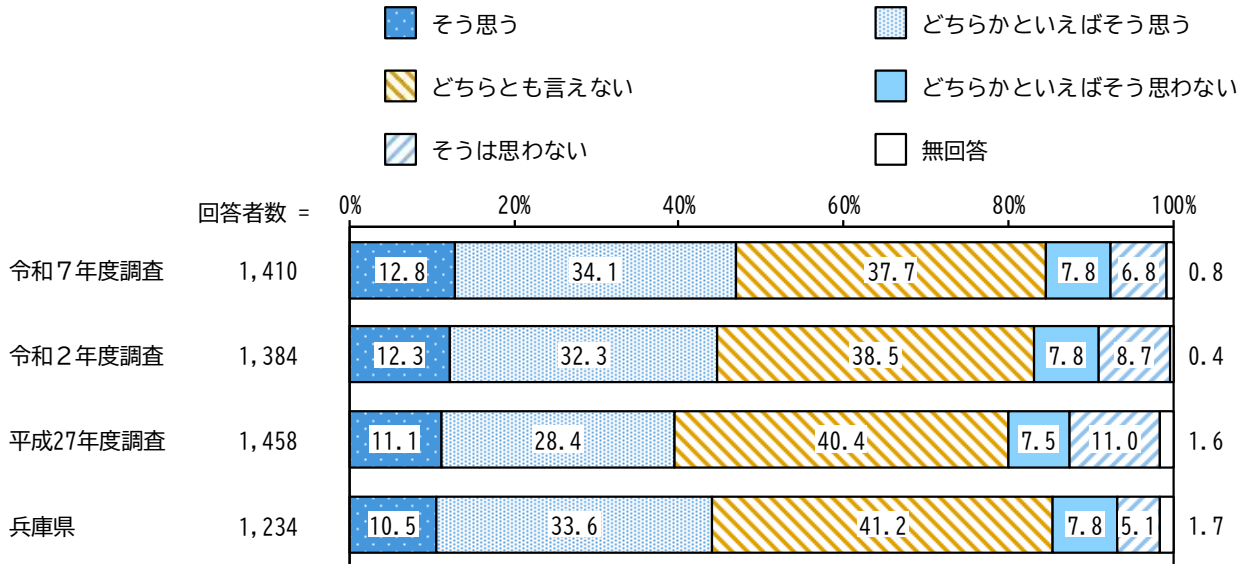
【年齢別】

年齢別にみると、10歳代で“そう思う”の割合が高くなっています。



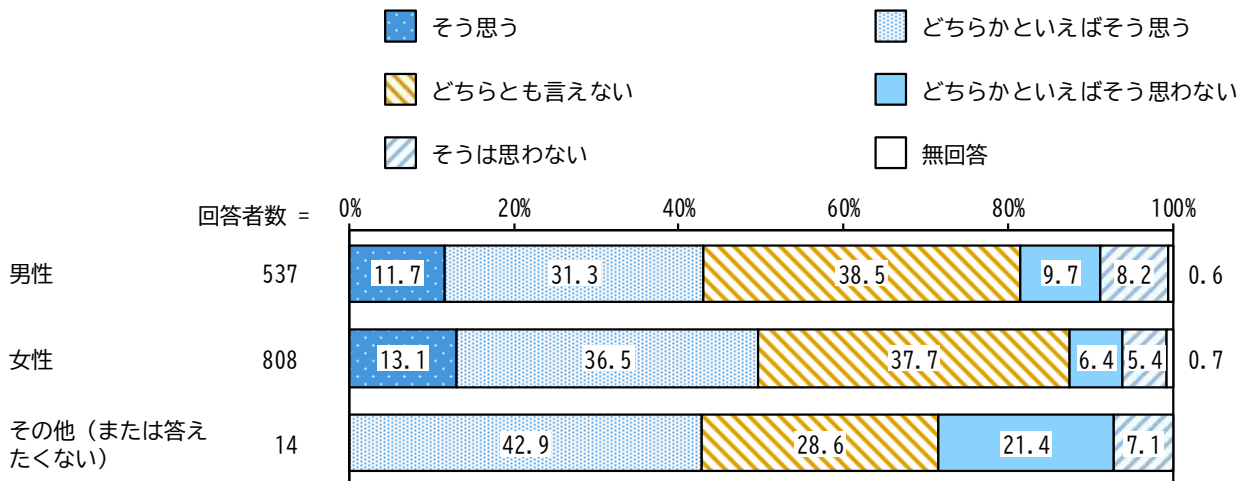
②市民一人ひとりの人権意識は5～6年前に比べて高くなっている

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が46.9%、「どちらかといえばそう思わない」「そうは思わない」を合わせた“そうは思わない”の割合が14.6%となっています。過去調査と比較すると、平成27年度以降“そう思う”の割合が増加しています。兵庫県調査と比較すると、大きな差はみられません。



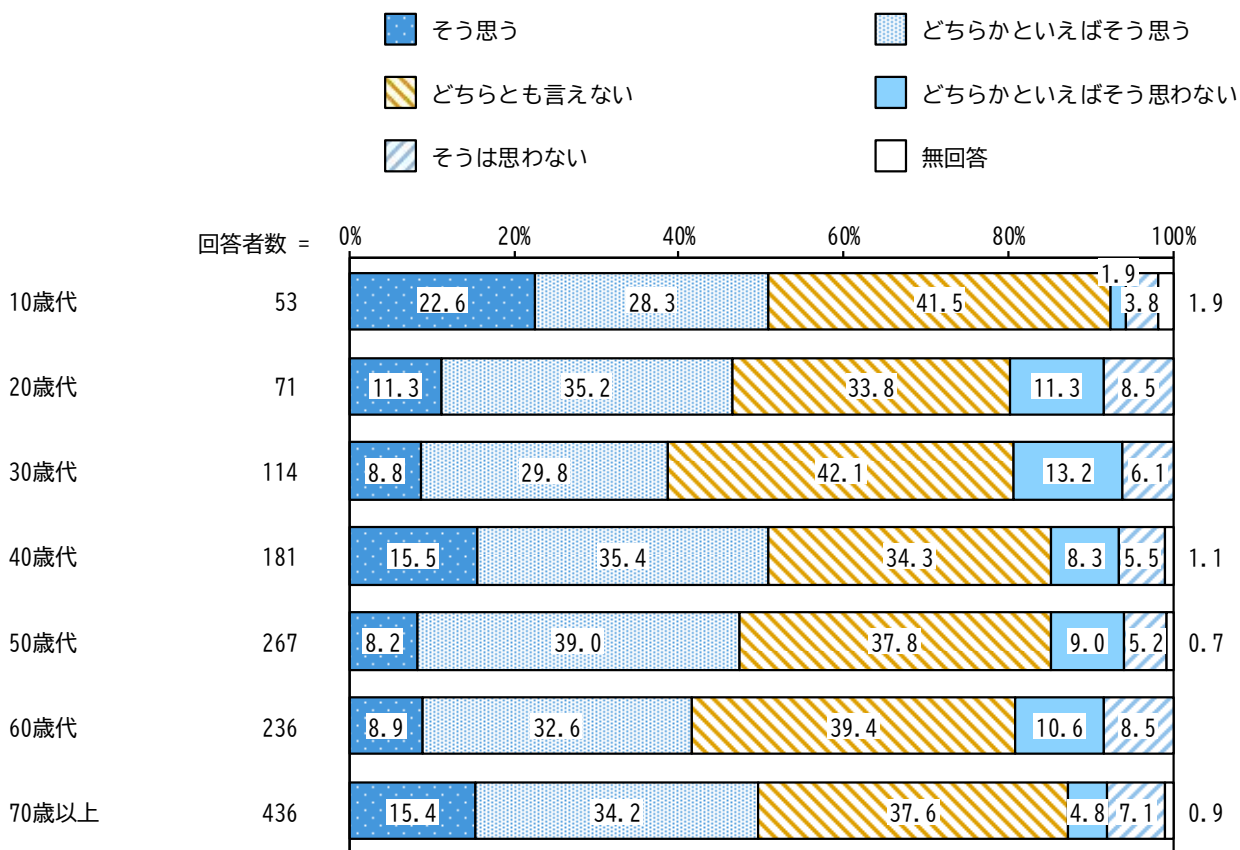
【性別】

性別にみると、男性に比べ、女性で“そう思う”の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、10歳代、40歳代で“そう思う”の割合が高くなっています。

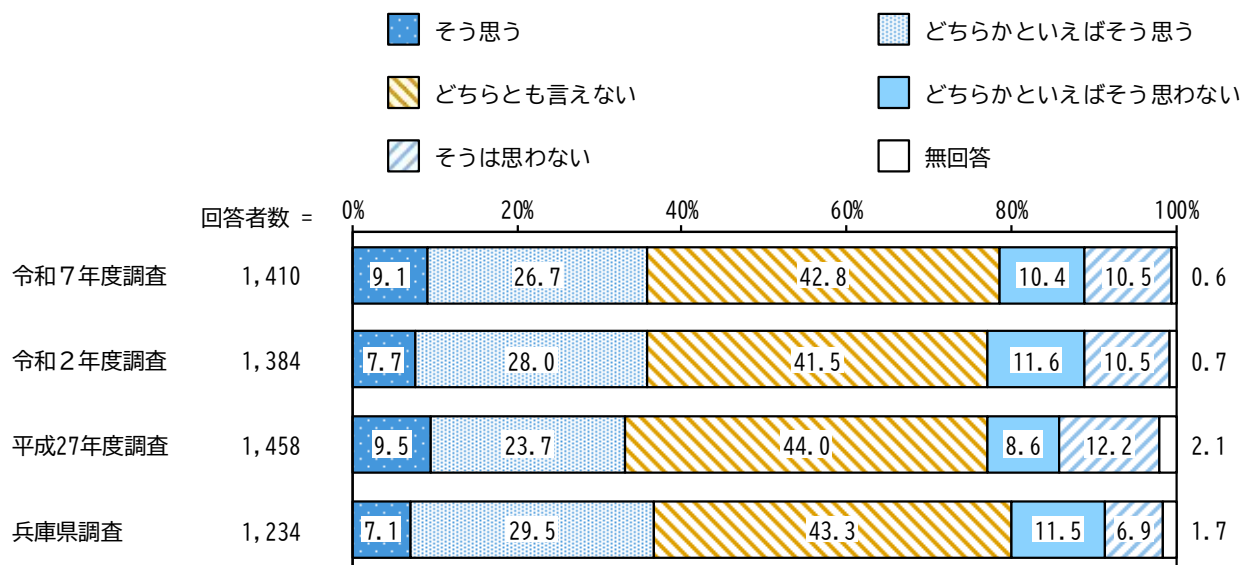


③ 5～6年前に比べて人権が侵害されていることは減っている

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が35.8%、「どちらかといえはそう思わない」「そうは思わない」を合わせた“そうは思わない”の割合が20.9%となっています。

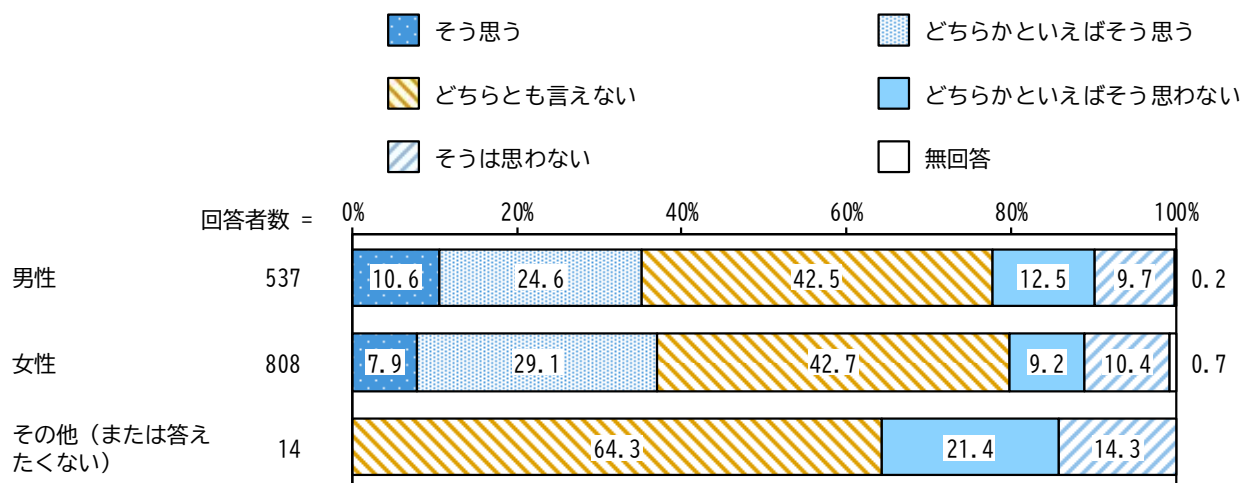
過去調査と比較すると、大きな変化はみられません。

兵庫県調査と比較すると、大きな差はみられません。



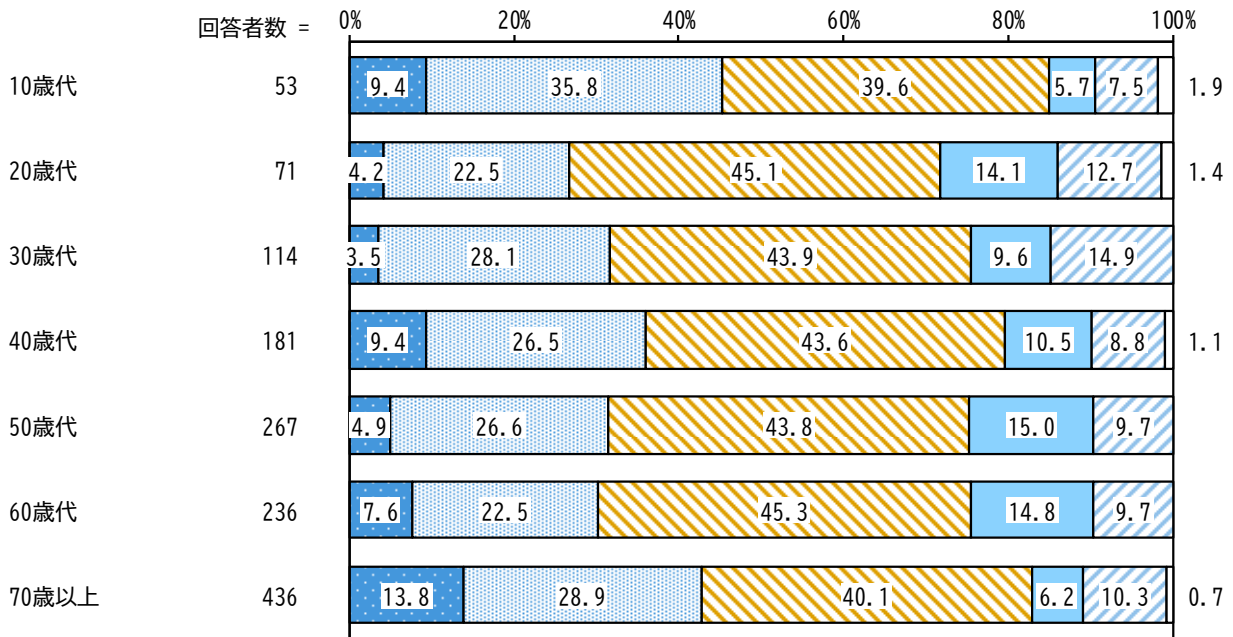
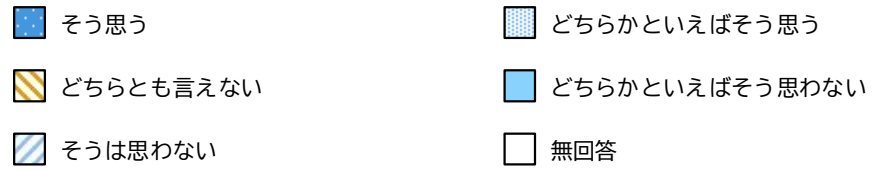
【性別】

性別にみると、男女で大きな差はみられません。



【年齢別】

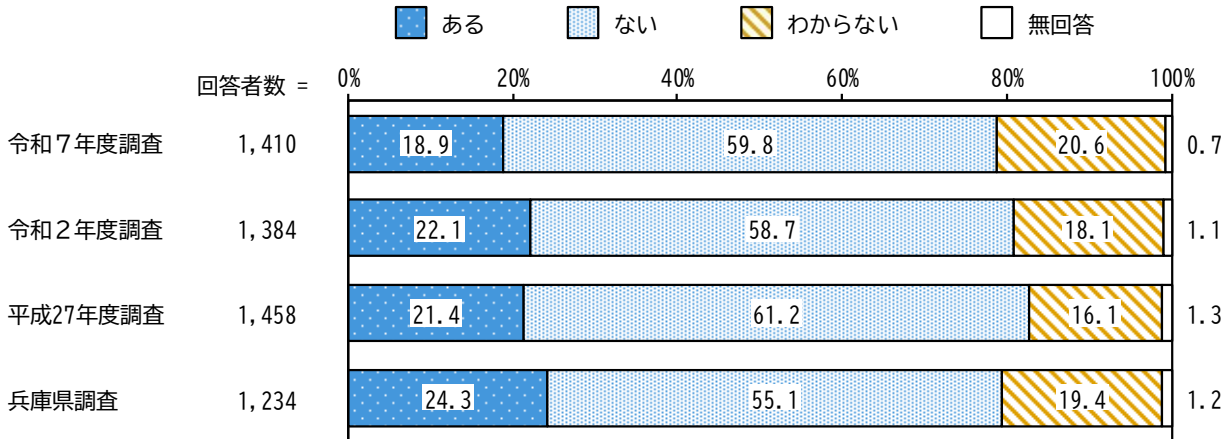
年齢別にみると、10歳代、70歳以上で“そう思う”、20歳代で“そうは思わない”の割合が高くなっています。



問3 あなたは、今までに、自己的人権が侵害されたと思っただことがありますか（〇は1つ）

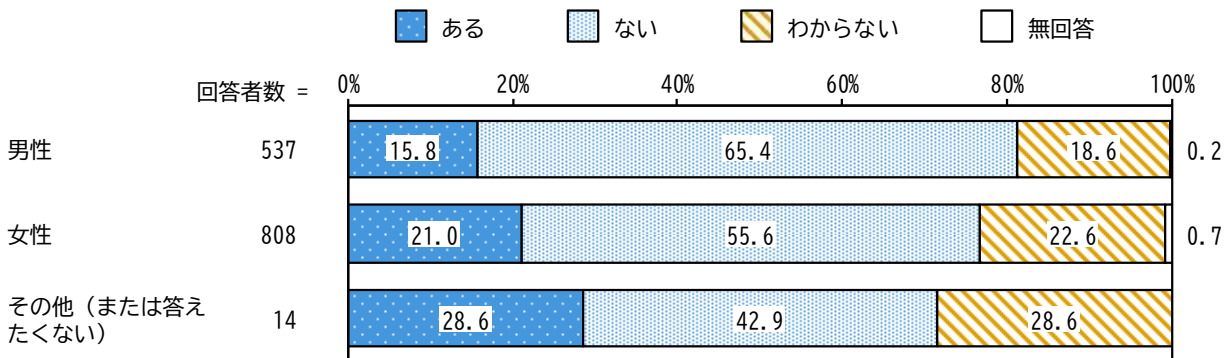
「ある」の割合が18.9%、「ない」の割合が59.8%、「わからない」の割合が20.6%となっています。過去調査と比較すると、大きな変化はみられません。

兵庫県調査と比較すると、「ある」の割合が5.4ポイント低くなっています。



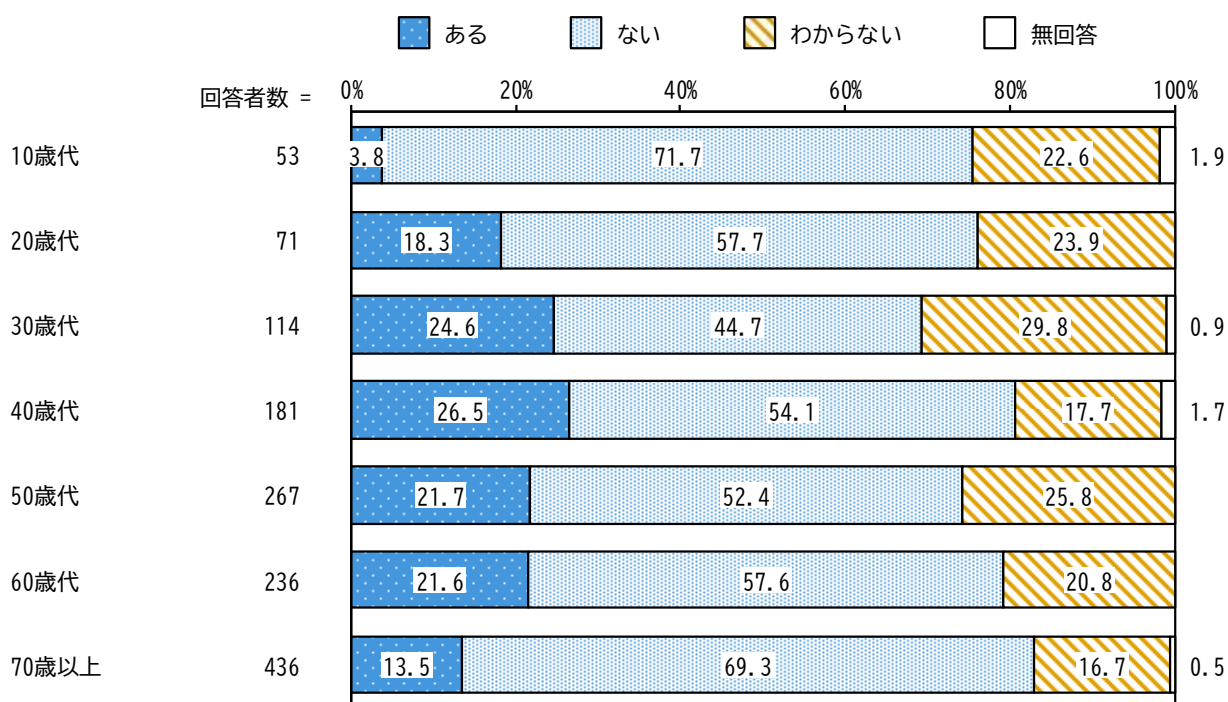
【性別】

性別にみると、男性に比べ、女性で「ある」の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、10歳代から40歳まで年齢が上がるほど「ある」の割合が高くなっています。



問3で「ある」を選ばれた方におうかがいします。

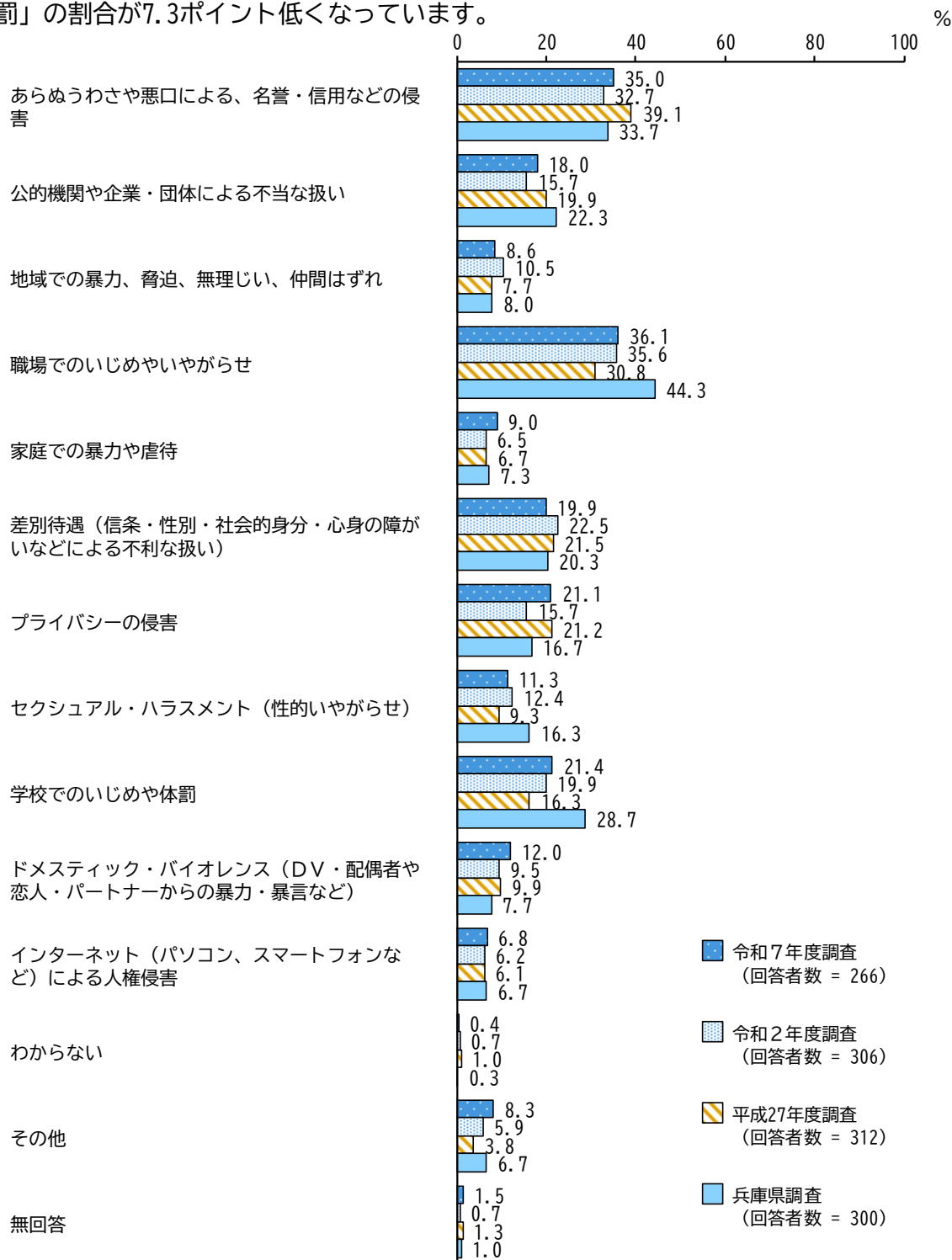
問3-1 それは、どのような人権侵害でしたか（〇はいくつでも）

「職場でのいじめやいやがらせ」の割合が36.1%と最も高く、次いで「あらぬうわさや悪口による、名誉・信用などの侵害」の割合が35.0%、「学校でのいじめや体罰」の割合が21.4%となっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降「職場でのいじめやいやがらせ」「学校でのいじめや体罰」の割合が増加しています。

また、令和2年度調査に比べ、令和7年度では「プライバシーの侵害」の割合が5.4ポイント増加しています。

兵庫県調査と比較すると、「職場でのいじめやいやがらせ」の割合が8.2ポイント、「学校でのいじめや体罰」の割合が7.3ポイント低くなっています。



※令和2年度調査では、「ドメスティック・バイオレンス（DV・配偶者や恋人・パートナーからの暴力・暴言など）」が「ドメスティック・バイオレンス（DV・配偶者やパートナーからの暴力）」となっていました。

【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「公的機関や企業・団体による不当な扱い」「職場でのいじめやいやがらせ」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」「ドメスティック・バイオレンス（DV・配偶者や恋人・パートナーからの暴力・暴言など）」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」の割合が高く、10歳代から50歳代まで年齢が上がるほど「ドメスティック・バイオレンス（DV・配偶者や恋人・パートナーからの暴力・暴言など）」の割合が高い傾向にあります。また、30歳代で「あらぬうわさや悪口による、名誉・信用などの侵害」「職場でのいじめやいやがらせ」「学校でのいじめや体罰」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		回答者数(件)	あらぬうわさや悪口による、名誉・信用などの侵害	公的機関や企業・団体による不当な扱い	地域での暴力、脅迫、無理じい、仲間はずれ	職場でのいじめやいやがらせ	家庭での暴力や虐待	差別待遇(信条・性別・社会的身分・心身の障がいなどによる不利な扱い)	プライバシーの侵害	セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)	学校でのいじめや体罰	ドメスティック・バイオレンス(DV・配偶者や恋人・パートナーからの暴力・暴言など)	インターネット(パソコン、スマートフォンなど)による人権侵害	わからない	その他	無回答
性別	男性	85	32.9	25.9	8.2	41.2	7.1	17.6	23.5	0.0	21.2	3.5	7.1	0.0	5.9	1.2
	女性	170	35.3	14.7	8.8	33.5	10.0	21.8	20.0	15.9	21.8	16.5	6.5	0.6	9.4	1.2
	その他(または答えたくない)	4	50.0	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0	50.0	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
年齢別	10歳代	2	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	13	30.8	15.4	0.0	15.4	0.0	30.8	23.1	15.4	30.8	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0
	30歳代	28	50.0	10.7	14.3	53.6	14.3	28.6	17.9	25.0	35.7	7.1	14.3	0.0	7.1	0.0
	40歳代	48	29.2	12.5	4.2	35.4	8.3	14.6	29.2	16.7	20.8	8.3	10.4	2.1	10.4	2.1
	50歳代	58	27.6	24.1	6.9	36.2	13.8	25.9	13.8	13.8	31.0	25.9	3.4	0.0	10.3	0.0
	60歳代	51	37.3	21.6	15.7	41.2	5.9	17.6	19.6	3.9	19.6	9.8	5.9	0.0	2.0	2.0
	70歳以上	59	37.3	20.3	6.8	28.8	8.5	16.9	27.1	3.4	5.1	10.2	5.1	0.0	10.2	1.7

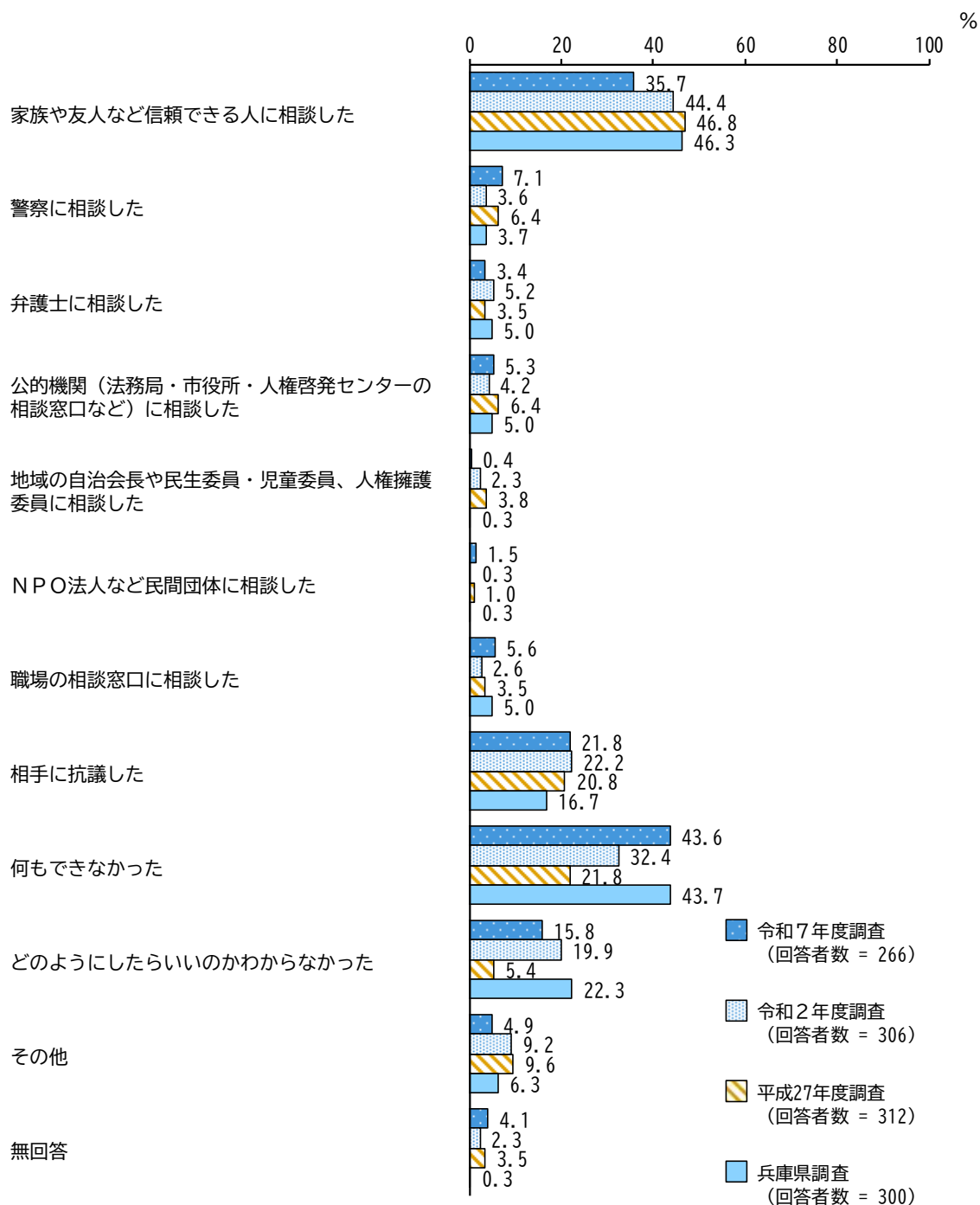
問3で「ある」を選ばれた方におうかがいします。

問3-2 人権侵害を受けたとき、あなたはどうしましたか

「何もできなかった」の割合が43.6%と最も高く、次いで「家族や友人など信頼できる人に相談した」の割合が35.7%、「相手に抗議した」の割合が21.8%となっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降「何もできなかった」の割合が増加しています。一方、「家族や友人など信頼できる人に相談した」の割合が減少しています。

兵庫県調査と比較すると、「相手に抗議した」の割合が5.1ポイント高くなっています。一方、「家族や友人など信頼できる人に相談した」の割合が10.6ポイント、「どのようにしたらいいのかわからなかった」の割合が6.5ポイント低くなっています。



【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「何もできなかった」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「家族や友人など信頼できる人に相談した」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、60歳代から20歳代まで年齢が下がるほど「公的機関（法務局・市役所・人権啓発センターの相談窓口など）に相談した」の割合が高く、40歳代から10歳代まで年齢が下がるほど「家族や友人など信頼できる人に相談した」の割合が高くなっています。また、30歳代で「相手に抗議した」、30歳代、50歳代で「何もできなかった」の割合が高くなっています。

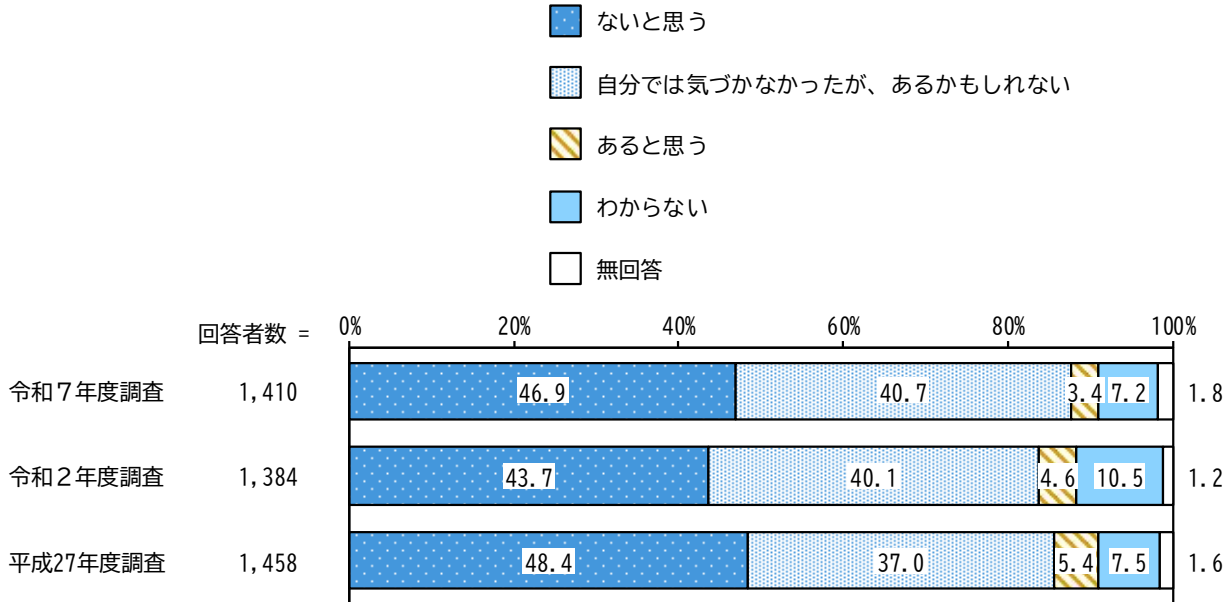
単位：％

区分		回答者数 (件)	家族や友人など信頼できる人に相談した	警察に相談した	弁護士に相談した	公的機関（法務局・市役所・人権啓発センターの相談窓口など）に相談した	地域の自治会長や民生委員・児童委員、人権擁護委員に相談した	NPO法人など民間団体に相談した	職場の相談窓口に相談した	相手に抗議した	何もできなかった	どのようにしたらいいのかわからなかった	その他	無回答
性別	男性	85	25.9	5.9	5.9	4.7	0.0	0.0	5.9	24.7	47.1	17.6	5.9	5.9
	女性	170	41.8	7.6	2.4	5.3	0.6	2.4	4.7	20.0	41.2	15.3	4.7	2.9
	その他（または答えたくない）	4	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	75.0	25.0	0.0	0.0
年齢別	10歳代	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	13	61.5	7.7	7.7	15.4	0.0	0.0	0.0	23.1	23.1	30.8	7.7	7.7
	30歳代	28	46.4	14.3	0.0	7.1	0.0	3.6	10.7	32.1	53.6	17.9	7.1	0.0
	40歳代	48	33.3	4.2	2.1	6.3	0.0	2.1	6.3	20.8	47.9	25.0	4.2	0.0
	50歳代	58	37.9	10.3	6.9	5.2	0.0	3.4	1.7	17.2	55.2	12.1	0.0	1.7
	60歳代	51	21.6	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	9.8	17.6	41.2	9.8	3.9	7.8
	70歳以上	59	39.0	5.1	3.4	6.8	1.7	0.0	3.4	27.1	32.2	15.3	10.2	6.8

問4 あなたは、今までに、他人の人権を侵害したことがあると思いますか（○は1つ）

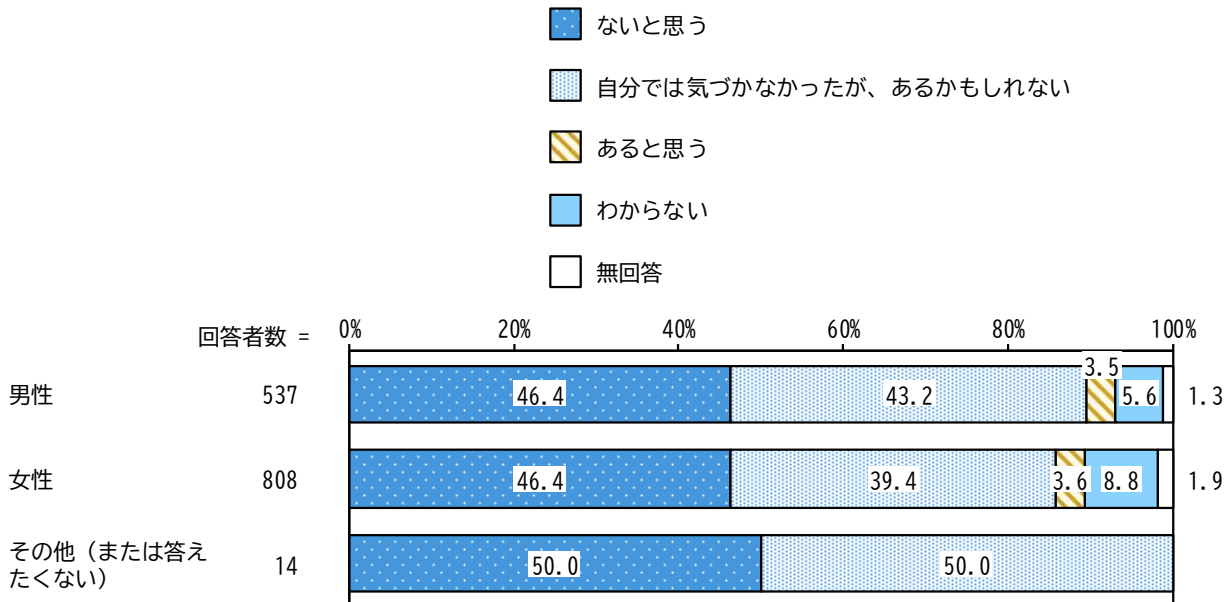
「ないと思う」の割合が46.9%、「自分では気づかなかったが、あるかもしれない」の割合が40.7%、「わからない」の割合が7.2%となっています。

過去調査と比較すると、大きな変化はみられません。



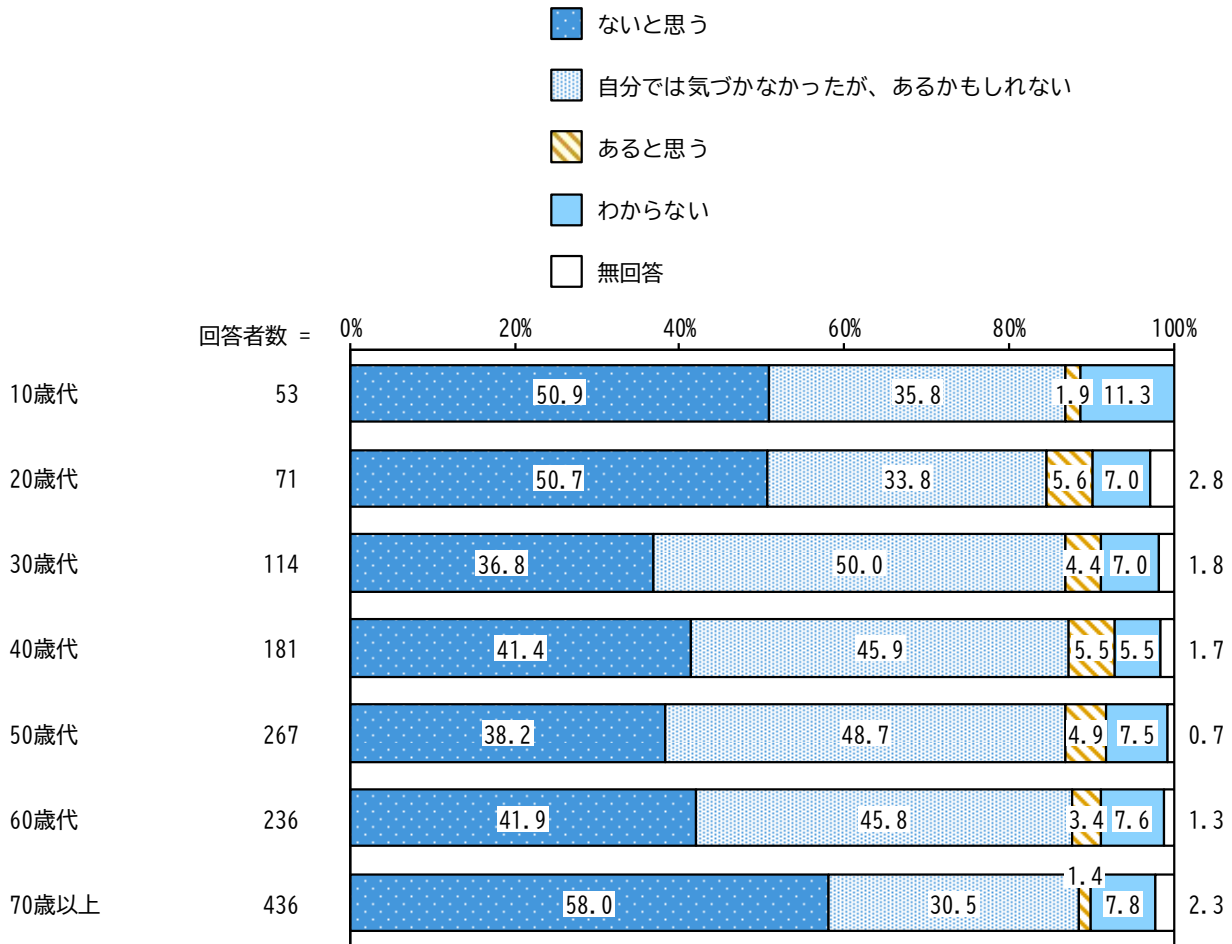
【性別】

性別にみると、男女で大きな差はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、70歳以上で「ないと思う」の割合が高く、「自分では気づかなかったが、あるかもしれない」の割合が低くなっています。



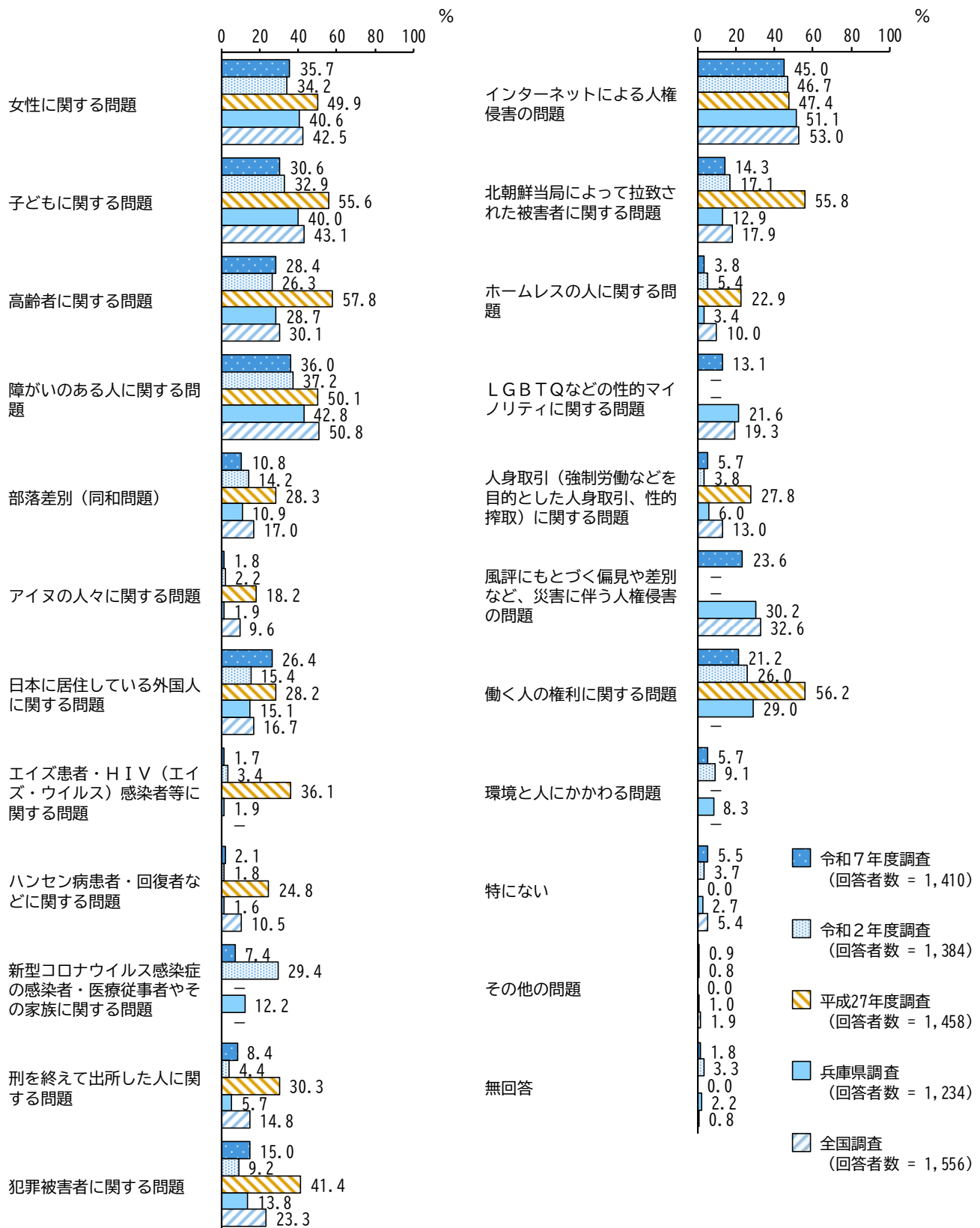
問5 日本の社会には、人権にかかわるさまざまな問題がありますが、あなたが特に興味をお持ちのものはどのようなことですか（〇は5つまで）

「インターネットによる人権侵害の問題」の割合が45.0%と最も高く、次いで「障がいのある人に関する問題」の割合が36.0%、「女性に関する問題」の割合が35.7%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「日本に居住している外国人に関する問題」の割合が11.0ポイント、「犯罪被害者に関する問題」の割合が5.8ポイント増加しています。一方、「新型コロナウイルス感染症の感染者・医療従事者やその家族に関する問題」の割合が22.0ポイント減少しています。

兵庫県調査と比較すると、「日本に居住している外国人に関する問題」の割合が11.3ポイント高くなっています。一方、「子どもに関する問題」の割合が9.4ポイント、「障がいのある人に関する問題」の割合が6.8ポイント、「インターネットによる人権侵害の問題」の割合が6.1ポイント、「LGBTQなどの性的マイノリティに関する問題」の割合が8.5ポイント、「風評にもとづく偏見や差別など、災害に伴う人権侵害の問題」の割合が6.6ポイント、「働く人の権利に関する問題」の割合が7.8ポイント低くなっています。

全国調査では、「インターネットによる人権侵害の問題」の割合が53.0%と最も高く、次いで「障がいのある人に関する問題」の割合が50.8%、「子どもに関する問題」の割合が43.1%となっています。



※平成27年度調査は、各項目それぞれについて関心度を問う設問であったため、令和2年度調査と関心度が大きく異なります。
 ※令和2年度調査では、「新型コロナウイルス感染症の感染者・医療従事者やその家族に関する問題」が「新型コロナウイルス感染症に関する問題」となっていました。

※令和2年度調査、平成27年度調査では、「LGBTQなどの性的マイノリティに関する問題」は、「性的指向 (異性愛・同性愛など) を理由とした人権侵害の問題」と「性同一性障害 (心と体の性が一致しない人) に関する人権侵害」の2つの選択肢に分かれていました。

※令和2年度調査、平成27年度調査では、「風評にもとづく偏見や差別など、災害に伴う人権侵害の問題」の選択肢はありません。また、平成27年度調査では「新型コロナウイルス感染症に関する問題」「環境と人にかかわる問題」の選択肢はありません。

※全国調査には「エイズ患者・HIV (エイズ・ウイルス) 感染者等に関する問題」「新型コロナウイルス感染症の感染者・医療従事者やその家族に関する問題」「働く人の権利に関する問題」「環境と人にかかわる問題」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「障がいのある人に関する問題」「日本に居住している外国人に関する問題」「インターネットによる人権侵害の問題」「風評にもとづく偏見や差別など、災害に伴う人権侵害の問題」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「女性に関する問題」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、年齢が下がるほど「LGBTQなどの性的マイノリティに関する問題」の割合が高く、10歳代から60歳代まで年齢が上がるほど「風評にもとづく偏見や差別など、災害に伴う人権侵害の問題」の割合が高くなっています。また、30歳代で「女性に関する問題」「働く人の権利に関する問題」、30歳代、40歳代で「子どもに関する問題」、60歳代で「高齢者に関する問題」、70歳以上で「北朝鮮当局によって拉致された被害者に関する問題」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	女性に関する問題	子どもに関する問題	高齢者に関する問題	障がいのある人に関する問題	部落差別(同和問題)	アイヌの人々に関する問題	日本に居住している外国人に関する問題	エイズ患者・HIV(エイズ・ウイルス)感染者等に関する問題	ハンセン病患者・回復者などに関する問題	新型コロナウイルス感染症の感染者・医療従事者やその家族に関する問題	刑を終えて出所した人に関する問題
性別												
男性	537	26.6	28.9	26.8	39.5	12.5	1.9	33.9	1.9	2.0	8.4	8.9
女性	808	41.5	32.4	28.8	34.0	9.4	1.9	22.0	1.5	2.1	6.8	8.3
その他(または答えたくない)	14	64.3	21.4	14.3	28.6	7.1	0.0	14.3	7.1	14.3	7.1	7.1
年齢別												
10歳代	53	39.6	18.9	15.1	35.8	3.8	1.9	26.4	0.0	1.9	1.9	9.4
20歳代	71	36.6	29.6	4.2	31.0	8.5	2.8	32.4	1.4	0.0	9.9	9.9
30歳代	114	49.1	45.6	8.8	37.7	14.0	0.9	28.9	0.0	0.0	8.8	6.1
40歳代	181	42.5	47.0	19.9	30.9	3.3	1.1	26.5	0.6	1.7	8.8	9.4
50歳代	267	40.1	33.0	24.0	36.7	11.6	2.2	32.6	1.5	1.1	4.1	6.7
60歳代	236	41.1	27.5	39.4	38.1	18.6	3.0	25.8	2.5	2.5	6.8	9.3
70歳以上	436	23.9	22.5	38.1	37.2	9.6	1.4	22.5	2.5	3.9	9.2	9.2

区分	犯罪被害者に関する問題	インターネットによる人権侵害の問題	北朝鮮当局によって拉致された被害者に関する問題	ホームレスの人に関する問題	LGBTQなどの性的マイノリティに関する問題	人身取引(強制労働などを目的とした人身取引、性的搾取)に関する問題	風評にもとづく偏見や差別など、災害に伴う人権侵害の問題	働く人の権利に関する問題	環境と人にかかわる問題	特になし	その他の問題	無回答
性別												
男性	15.6	48.8	13.0	4.7	11.7	5.6	28.3	23.3	5.6	5.2	1.9	1.3
女性	15.5	43.8	14.7	3.1	14.2	5.8	20.7	20.2	6.1	5.4	0.4	1.9
その他(または答えたくない)	0.0	14.3	7.1	0.0	21.4	14.3	14.3	35.7	0.0	14.3	0.0	0.0
年齢別												
10歳代	9.4	43.4	7.5	0.0	32.1	0.0	7.5	9.4	3.8	3.8	0.0	1.9
20歳代	18.3	45.1	8.5	2.8	26.8	2.8	14.1	31.0	5.6	4.2	0.0	1.4
30歳代	13.2	43.0	5.3	4.4	17.5	9.6	14.9	32.5	6.1	7.9	0.0	0.0
40歳代	16.0	46.4	5.0	2.8	17.1	6.1	19.3	26.0	7.2	5.0	3.3	1.1
50歳代	18.4	52.1	9.0	2.2	15.7	7.5	25.8	28.5	8.2	2.6	0.7	1.1
60歳代	16.5	50.4	14.0	3.0	14.0	5.5	30.1	17.8	3.8	3.4	1.3	0.4
70歳以上	13.5	39.0	24.8	5.7	4.6	5.0	26.4	14.4	5.0	8.3	0.5	3.0

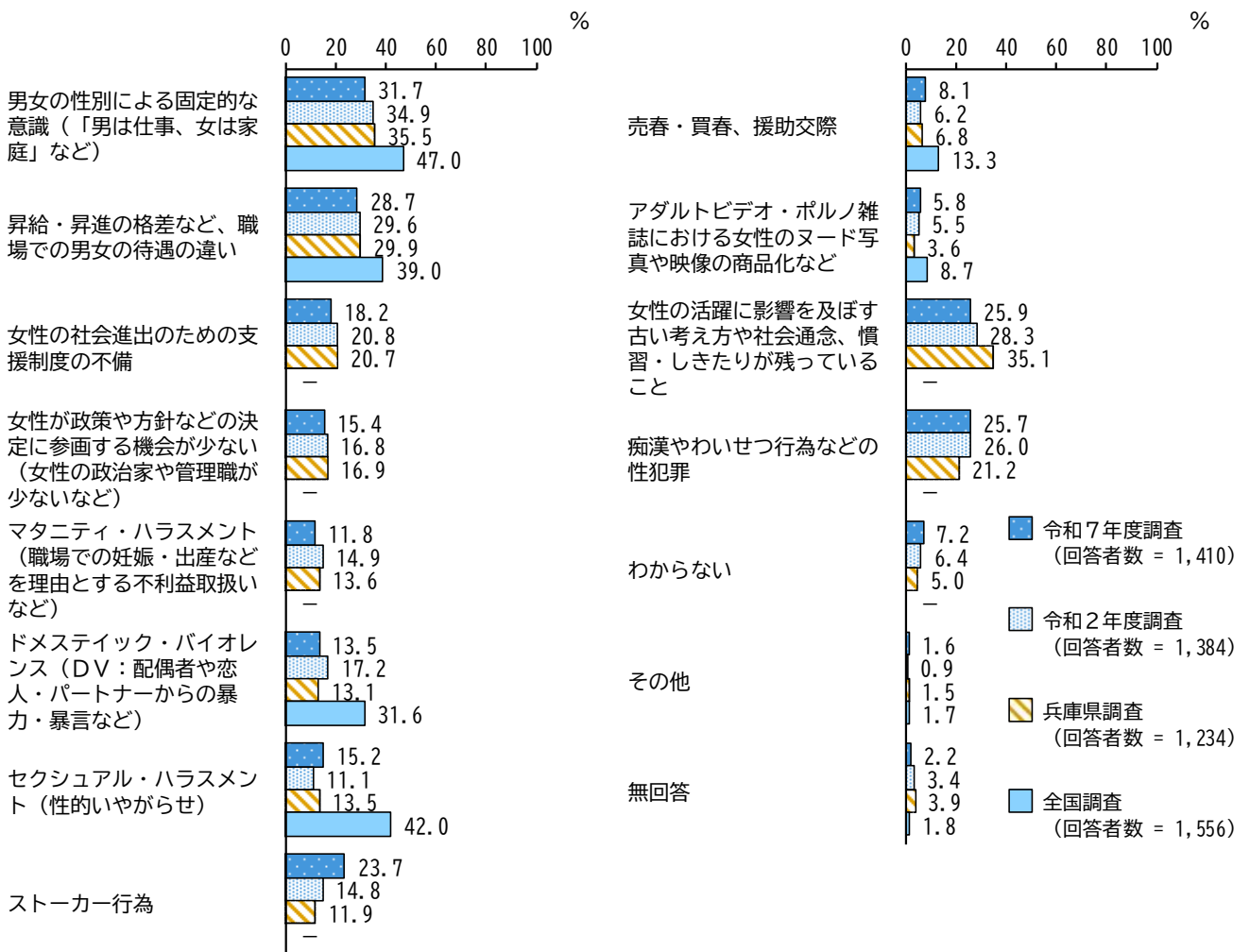
問6 女性に関する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか（〇は3つまで）

「男女の性別による固定的な意識（「男は仕事、女は家庭」など）」の割合が31.7%と最も高く、次いで「昇給・昇進の格差など、職場での男女の待遇の違い」の割合が28.7%、「女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること」の割合が25.9%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「ストーカー行為」の割合が8.9ポイント増加しています。

兵庫県調査と比較すると、「ストーカー行為」の割合が11.8ポイント高くなっています。一方、「女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること」の割合が9.2ポイント低くなっています。

全国調査では、「男女の性別による固定的な意識（「男は仕事、女は家庭」など）」の割合が47.0%と最も高く、次いで「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」の割合が42.0%、「昇給・昇進の格差など、職場での男女の待遇の違い」の割合が39.0%となっています。



※令和2年度調査では、「ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人・パートナーからの暴力・暴言など）」が「ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者やパートナーからの暴力・暴言など）」となっていました。
 ※平成27年度調査では、「女性に関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。
 ※全国調査には「女性の社会進出のための支援制度の不備」「女性が政策や方針などの決定に参画する機会が少ない(女性の政治家や管理職が少ないなど)」「マタニティ・ハラスメント（職場での妊娠・出産などを理由とする不利益取扱いなど)」「ストーカー行為」「女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること」「痴漢やわいせつ行為などの性犯罪」の選択肢はありません。
 ※全国調査の「昇給・昇進の格差など、職場での男女の待遇の違い」の値は、「職場において差別待遇（女性が管理職になりにくい、マタニティ・ハラスメントなどの妊娠、出産等を理由とする不利益取扱い等）を受けること」の値です。

【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「ストーカー行為」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「女性の社会進出のための支援制度の不備」「女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、70歳以上から20歳代まで年齢が下がるほど「痴漢やわいせつ行為などの性犯罪」の割合が高い傾向にあり、70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「女性の社会進出のための支援制度の不備」の割合が高い傾向にあります。また、20歳代、30歳代で「マタニティ・ハラスメント（職場での妊娠・出産などを理由とする不利益取扱いなど）」、20歳代で「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男女の性別による固定的な意識（「男は仕事、女は家庭」など）	昇給・昇進の格差など、職場での男女の待遇の違い	女性の社会進出のための支援制度の不備	女性が政策や方針などの決定に参画する機会が少ない（女性の政治家や管理職が少ないなど）	女性が政策や方針などの決定に参画する機会が少ない（女性の政治家や管理職が少ないなど）	マタニティ・ハラスメント（職場での妊娠・出産などを理由とする不利益取扱いなど）	暴力・暴言など） 恋人・パートナーからのドメスティック・バイオレンス（DV）・配偶者や	セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）
性別									
男性	537	33.1	28.7	14.7	15.1	11.5	15.5	16.2	
女性	808	31.6	28.5	19.9	15.1	12.4	12.9	14.9	
その他（または答えたくない）	14	42.9	7.1	28.6	7.1	7.1	7.1	7.1	
年齢別									
10歳代	53	37.7	34.0	15.1	9.4	15.1	15.1	22.6	
20歳代	71	33.8	19.7	4.2	7.0	23.9	5.6	26.8	
30歳代	114	33.3	28.1	27.2	13.2	22.8	4.4	15.8	
40歳代	181	37.6	27.6	19.9	8.8	18.2	11.0	19.9	
50歳代	267	31.5	32.2	19.1	13.9	10.5	20.2	18.4	
60歳代	236	28.0	30.9	20.8	14.0	13.6	19.1	17.8	
70歳以上	436	31.4	26.1	15.1	21.3	4.4	11.9	7.6	

区分	ストーカー行為	売春・買春、援助交際	アダルトビデオ・ポルノ雑誌における女性のヌード写真や映像の商品化など	女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること	痴漢やわいせつ行為などの性犯罪	わからない	その他	無回答
性別								
男性	28.7	8.8	4.3	22.2	24.0	5.8	2.6	1.9
女性	20.5	7.4	6.6	29.0	27.0	7.9	1.0	2.1
その他（または答えたくない）	21.4	14.3	7.1	28.6	28.6	7.1	0.0	7.1
年齢別								
10歳代	17.0	9.4	1.9	11.3	22.6	7.5	5.7	0.0
20歳代	31.0	14.1	5.6	22.5	35.2	7.0	1.4	0.0
30歳代	14.0	4.4	5.3	29.8	29.8	4.4	0.0	2.6
40歳代	16.6	12.2	7.2	25.4	26.0	5.5	3.3	0.6
50歳代	26.6	6.7	3.7	28.1	28.8	4.1	1.5	0.7
60歳代	28.0	5.5	5.1	28.4	23.3	3.8	2.1	1.7
70歳以上	25.2	8.3	7.3	25.9	22.9	11.9	0.7	4.1

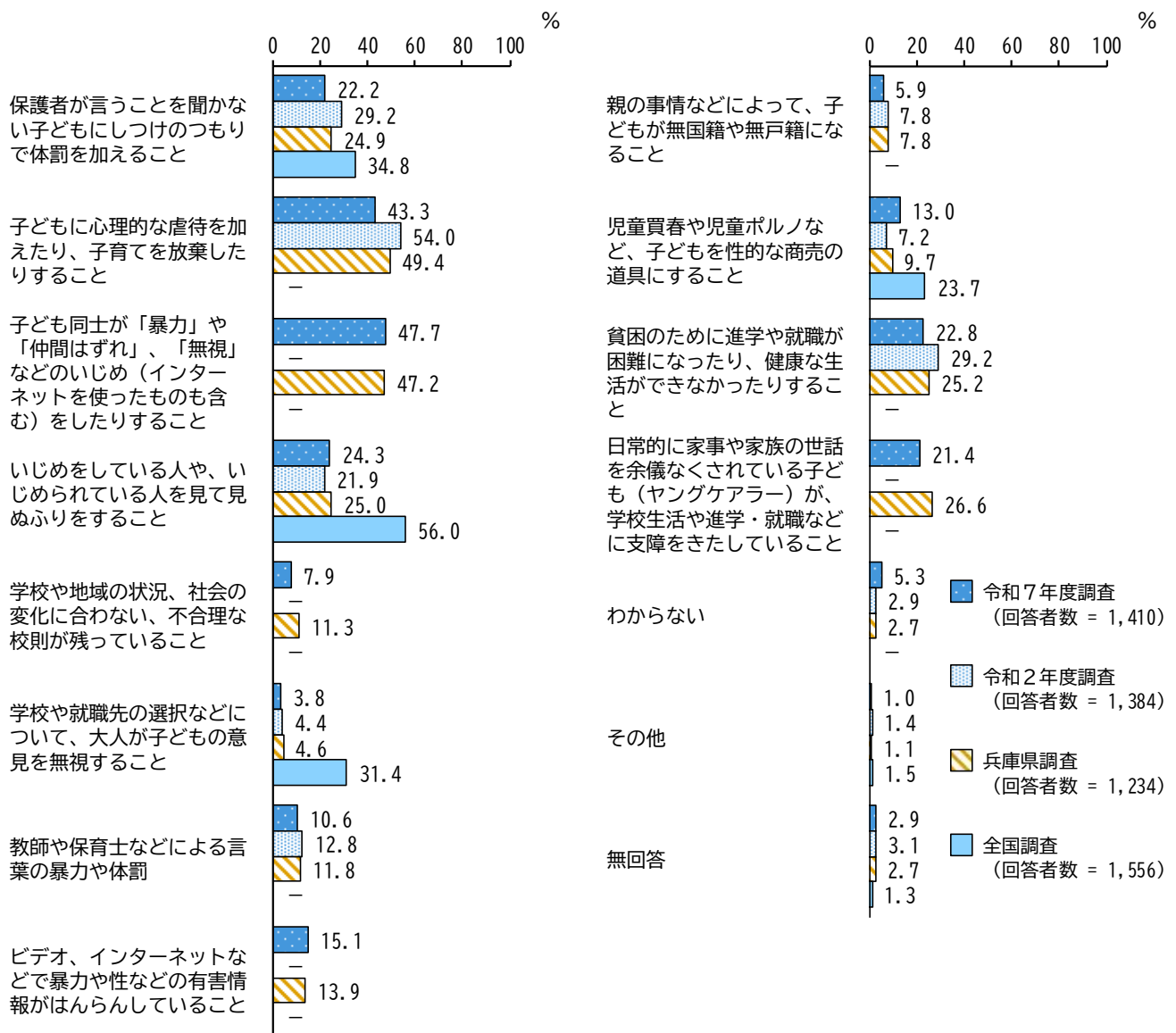
問7 子どもに関する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか（〇は3つまで）

「子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめ（インターネットを使ったものも含む）をしたりすること」の割合が47.7%と最も高く、次いで「子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄したりすること」の割合が43.3%、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをすること」の割合が24.3%となっています。

新設した選択肢の回答割合が高くなっており、過去調査との単純な比較はできません。

兵庫県調査と比較すると、「子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄したりすること」の割合が6.1ポイント、「日常的に家事や家族の世話を余儀なくされている子ども（ヤングケアラー）が、学校生活や進学・就職などに支障をきたしていること」の割合が5.2ポイント低くなっています。

全国調査では、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをすること」の割合が56.0%と最も高く、次いで「保護者が言うことを聞かない子どもにしつけのつもりで体罰を加えること」の割合が34.8%、「学校や就職先の選択などについて、大人が子どもの意見を無視すること」の割合が31.4%となっています。



※令和2年度調査では、「教師や保育士などによる言葉の暴力や体罰」が「教師が体罰を加えること」、「児童買春や児童ポルノなど、子どもを性的な商売の道具にすること」が「児童買春や子どものヌード写真・映像を商品化すること」となっており、「子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめ（インターネットを使ったものも含む）をしたりすること」、「学校や地域の状況、社会の変化に合わない、不合理な校則が残っていること」、「ビデオ、インターネットなどで暴力や性などの有害情報がはらんしていること」、「日常的に家事や家族の世話を余儀なくされている子ども（ヤングケアラー）が、学校生活や進学・就職などに支障をきたしていること」の選択肢はありません。

※平成27年度調査では、「子どもに関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。

※全国調査には「子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄したりすること」「子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめをしたりすること」「学校や地域の状況、社会の変化に合わない、不合理な校則が残っていること」「教師や保育士などによる言葉の暴力や体罰」「ビデオ、インターネットなどで子どもを取り巻く性情報はらん」「親の事情などによって、子どもが無国籍や無戸籍になること」「貧困のために進学や就職が困難になったり、健康な生活ができなかったりすること」「日常的に家事や家族の世話を余儀なくされている子ども（ヤングケアラー）が、学校生活や進学・就職などに支障をきたしていること」「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「児童買春や児童ポルノなど、子どもを性的な商売の道具にすること」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、20歳代から60歳代まで年齢が上がるほど「保護者が言うことを聞かない子どもに仕上げのつもりで体罰を加えること」の割合が高く、「学校や地域の状況、社会の変化に合わない、不合理な校則が残っていること」の割合が低くなっています。また、30歳代で「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		回答者数(件)	保護者が言うことを聞かない子どもに仕上げのつもりで体罰を加えること	子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄したりすること	子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめ(インターネットを使ったものも含む)をしたりすること	いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事	学校や地域の状況、社会の変化に合わない、不合理な校則が残っていること	学校や就職先の選択などについて、大人が子どもの意見を無視すること	教師や保育士などによる言葉の暴力や体罰
性別	男性	537	24.8	43.6	46.6	29.1	10.2	3.9	7.8
	女性	808	21.2	43.9	49.5	21.3	6.6	3.7	12.6
	その他(または答えたくない)	14	7.1	28.6	28.6	21.4	14.3	0.0	14.3
年齢別	10歳代	53	18.9	47.2	34.0	20.8	18.9	5.7	13.2
	20歳代	71	9.9	52.1	43.7	23.9	22.5	9.9	11.3
	30歳代	114	14.9	43.0	54.4	39.5	16.7	6.1	9.6
	40歳代	181	21.0	42.0	50.3	17.1	9.4	4.4	11.0
	50歳代	267	22.1	47.2	54.3	25.1	6.4	5.6	8.2
	60歳代	236	27.1	46.2	49.2	23.7	3.4	1.7	11.4
	70歳以上	436	25.0	39.4	43.8	24.5	5.0	1.6	11.5

区分		ビデオ、インターネットなどで暴力や性などの有害情報はらんしていること	親の事情などによって、子どもが無国籍や無戸籍になること	児童買春や児童ポルノなど、子どもを性的な商売の道具にすること	日常的に家事や家族の世話を余儀なくされている子ども(ヤングケアラー)が、学校生活や進学・就職などに支障をきたしていること	わからない	その他	無回答
性別	男性	13.6	6.5	9.7	19.6	5.2	1.1	2.4
	女性	15.8	5.3	15.6	22.9	5.3	0.9	2.2
	その他(または答えたくない)	7.1	0.0	7.1	21.4	14.3	7.1	14.3
年齢別	10歳代	5.7	5.7	9.4	11.3	5.7	0.0	0.0
	20歳代	11.3	5.6	5.6	26.8	2.8	0.0	0.0
	30歳代	20.2	2.6	12.3	19.3	0.0	0.0	0.9
	40歳代	19.9	2.8	16.6	22.7	4.4	2.8	1.1
	50歳代	13.9	6.4	13.9	21.3	4.1	1.1	2.2
	60歳代	12.3	7.6	9.3	25.8	5.5	2.1	1.3
	70歳以上	15.6	6.4	15.8	20.0	8.3	0.2	4.4

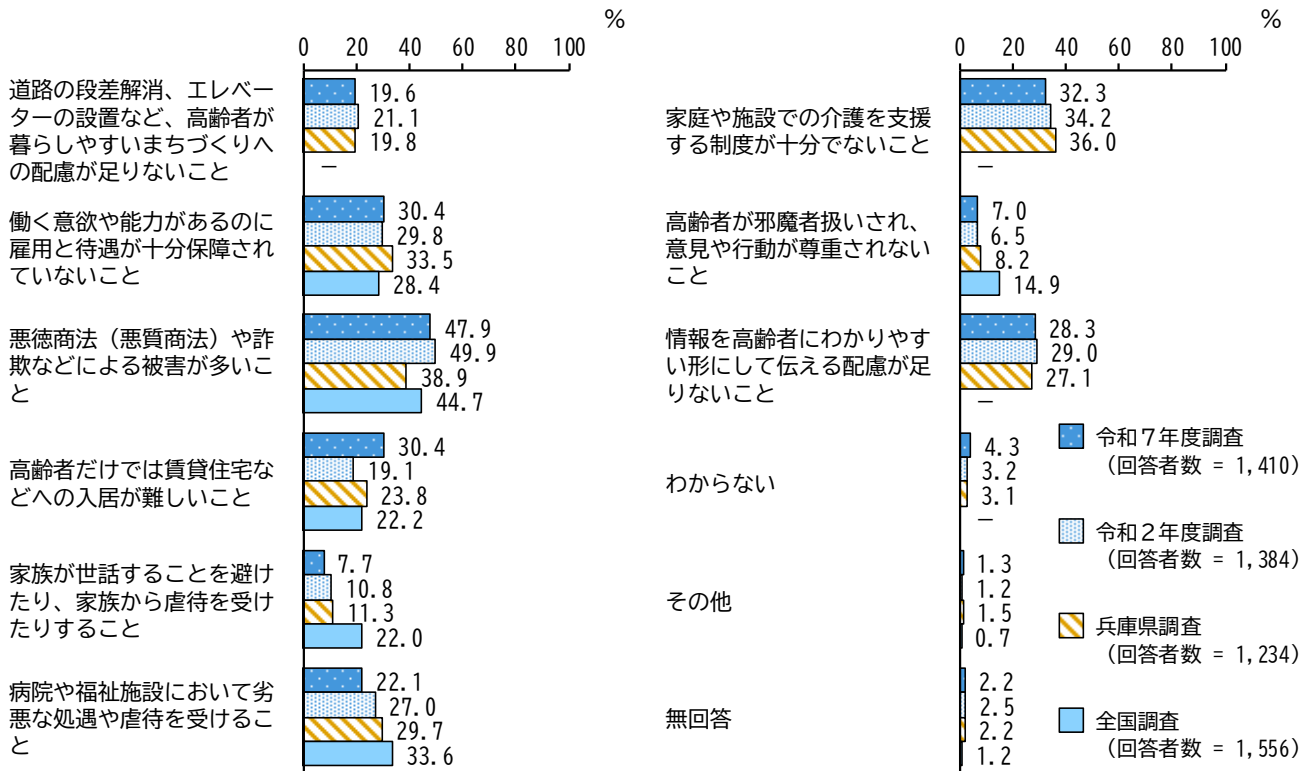
問8 高齢者に関する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか（〇は3つまで）

「悪徳商法（悪質商法）や詐欺などによる被害が多いこと」の割合が47.9%と最も高く、次いで「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」の割合が32.3%、「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分保障されていないこと」、「高齢者だけでは賃貸住宅などへの入居が難しいこと」の割合が30.4%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「高齢者だけでは賃貸住宅などへの入居が難しいこと」の割合が11.3ポイント増加しています。

兵庫県調査と比較すると、「悪徳商法（悪質商法）や詐欺などによる被害が多いこと」の割合が9.0ポイント、「高齢者だけでは賃貸住宅などへの入居が難しいこと」の割合が6.6ポイント高くなっています。一方、「病院や福祉施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」の割合が7.6ポイント低くなっています。

全国調査では、「悪徳商法（悪質商法）や詐欺などによる被害が多いこと」の割合が44.7%と最も高く、次いで「病院や福祉施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」の割合が33.6%、「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分保障されていないこと」の割合が28.4%となっています。



※平成27年度調査では、「高齢者に関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。
 ※全国調査には「道路の段差解消、エレベーターの設置など、高齢者が暮らしやすいまちづくりへの配慮が足りないこと」「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分保障されていないこと」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「病院や福祉施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、20歳代から70歳以上まで年齢が上がるほど「道路の段差解消、エレベーターの設置など、高齢者が暮らしやすいまちづくりへの配慮が足りないこと」の割合が高く、10歳代から60歳代まで年齢が上がるほど「悪徳商法（悪質商法）や詐欺などによる被害が多いこと」の割合が高い傾向にあります。

単位：％

区分	回答者数（件）	道路の段差解消、エレベーターの設置など、高齢者が暮らしやすいまちづくりへの配慮が足りないこと	働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分保障されていないこと	悪徳商法（悪質商法）や詐欺などによる被害が多いこと	高齢者だけでは賃貸住宅などへの入居が難しいこと	家族が世話することを避けたり、家族から虐待を受けたりすること	病院や福祉施設において劣悪な処遇や虐待を受けること	家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと	高齢者が邪魔者扱いされ、意見や行動が尊重されないこと	情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと	わからない	その他	無回答	
性別	男性	537	20.3	34.3	50.8	29.1	6.7	18.6	33.3	8.0	25.3	4.1	1.9	1.5
	女性	808	18.7	28.5	47.3	31.1	8.8	24.3	32.2	6.3	30.6	4.3	1.0	1.9
	その他（または答えたくない）	14	7.1	14.3	28.6	21.4	0.0	28.6	42.9	0.0	21.4	7.1	7.1	14.3
年齢別	10歳代	53	15.1	26.4	37.7	5.7	9.4	24.5	17.0	9.4	15.1	15.1	1.9	0.0
	20歳代	71	8.5	14.1	38.0	15.5	16.9	26.8	35.2	8.5	23.9	8.5	0.0	0.0
	30歳代	114	12.3	30.7	41.2	35.1	7.9	20.2	38.6	7.0	13.2	7.9	1.8	3.5
	40歳代	181	16.0	35.4	50.3	26.0	6.6	28.7	38.1	3.9	21.5	4.4	5.0	0.0
	50歳代	267	17.2	40.1	50.2	37.5	6.0	23.2	36.7	6.4	24.7	1.5	0.7	2.2
	60歳代	236	20.8	33.9	52.5	35.2	8.9	23.3	33.1	7.6	30.9	2.1	1.3	1.7
	70歳以上	436	25.7	23.6	49.5	29.1	7.3	17.9	27.3	7.8	38.1	4.1	0.5	2.5

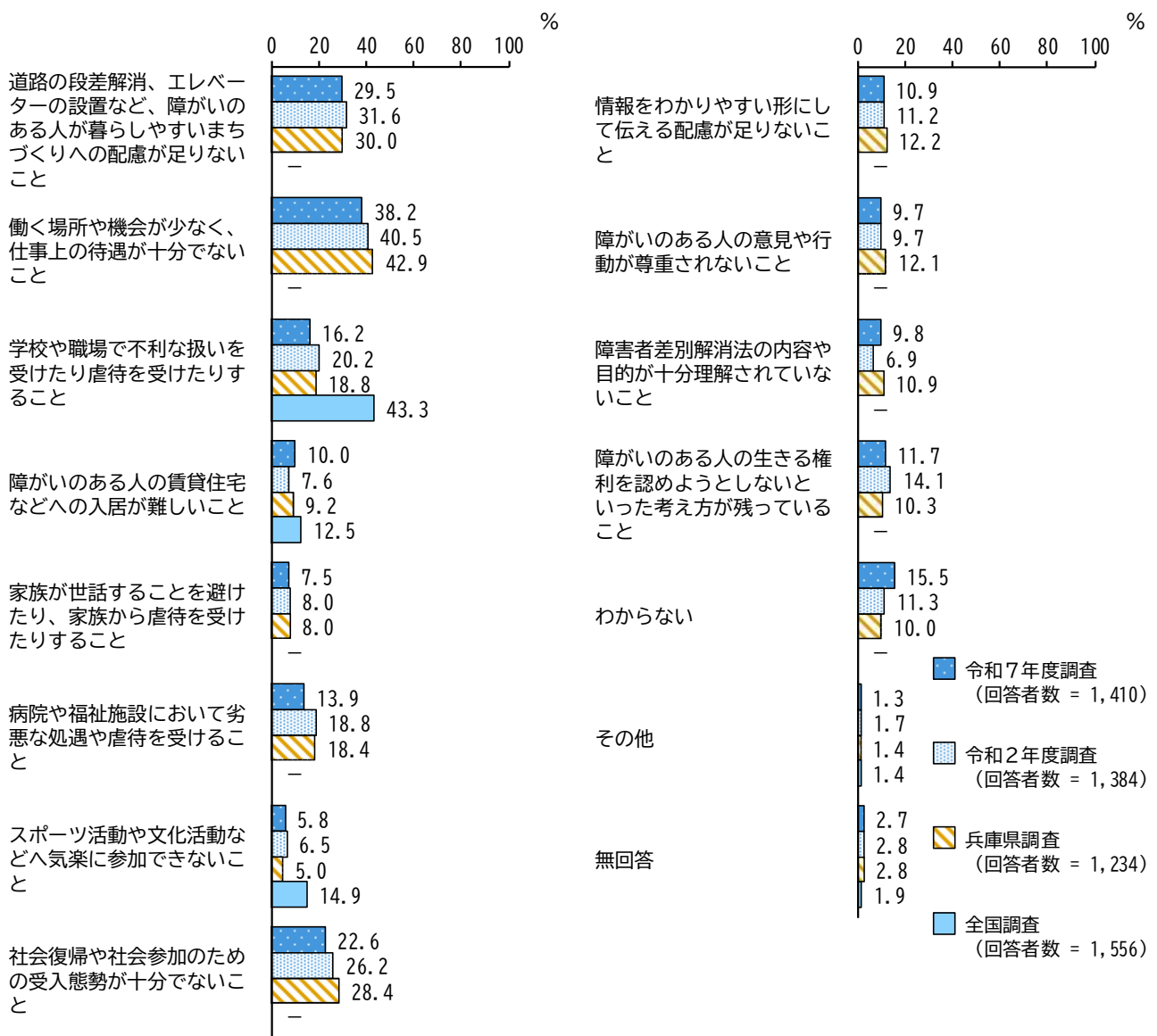
問9 障がいのある人に関する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか（○は3つまで）

「働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分でないこと」の割合が38.2%と最も高く、次いで「道路の段差解消、エレベーターの設置など、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりへの配慮が足りないこと」の割合が29.5%、「社会復帰や社会参加のための受入態勢が十分でないこと」の割合が22.6%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

兵庫県調査と比較すると、「社会復帰や社会参加のための受入態勢が十分でないこと」の割合が5.8ポイント低くなっています。

全国調査では、「学校や職場で不利な扱いを受けたり虐待を受けたりすること」の割合が43.3%と最も高く、次いで「スポーツ活動や文化活動などへ気楽に参加できないこと」の割合が14.9%、「障がいのある人の賃貸住宅などへの入居が難しいこと」の割合が12.5%となっています。



※令和2年度調査では、「障がいのある人の生きる権利を認めようとしないといい考え方が残っていること」が「障がいのある人の生きる権利を認めようとしないといい優生思想のような考え方が残っていること」となっていました。
 ※平成27年度調査では、「障がいのある人に関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。
 ※全国調査には「学校や職場で不利な扱いを受けたり虐待を受けたりすること」「障がいのある人の賃貸住宅などへの入居が難しいこと」「スポーツ活動や文化活動などへ気楽に参加できないこと」以外の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分でないこと」「スポーツ活動や文化活動などへ気楽に参加できないこと」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「学校や職場で不利な扱いを受けたり虐待を受けたりすること」の割合が高く、20歳代から60歳代まで年齢が上がるほど「道路の段差解消、エレベーターの設置など、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりへの配慮が足りないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		回答者数(件)	道路の段差解消、エレベーターの設置など、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりへの配慮が足りないこと	働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分でないこと	学校や職場で不利な扱いを受けたり虐待を受けたりすること	障がいのある人の賃貸住宅などへの入居が難しいこと	家族が世話を焼くことを避けたり、家族から虐待を受けたこと	病院や福祉施設において劣悪な処遇や虐待を受けていること	スポーツ活動や文化活動などへ気楽に参加できないこと
性別	男性	537	30.7	41.5	16.8	11.9	8.2	11.7	8.6
	女性	808	28.8	36.3	16.5	8.3	6.9	15.5	3.6
	その他(または答えたくない)	14	14.3	28.6	14.3	21.4	7.1	7.1	0.0
年齢別	10歳代	53	20.8	41.5	37.7	3.8	5.7	5.7	5.7
	20歳代	71	14.1	29.6	25.4	5.6	12.7	14.1	1.4
	30歳代	114	21.9	44.7	29.8	6.1	9.6	12.3	7.9
	40歳代	181	25.4	37.0	16.6	11.0	8.3	14.4	7.2
	50歳代	267	29.6	40.4	15.7	12.0	7.9	16.9	4.9
	60歳代	236	36.9	44.5	14.0	10.2	7.2	16.1	3.8
	70歳以上	436	32.6	33.9	10.8	10.6	5.7	12.6	6.2

区分		社会復帰や社会参加のため受入態勢が十分でないこと	情報をわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと	障がいのある人の意見や行動が尊重されないこと	障がい者差別解消法の内容や目的が十分理解されていないこと	障がいのある人の生きる権利を認めようとしていないこと	わからない	その他	無回答
性別	男性	24.8	10.8	11.2	10.1	10.4	13.2	1.9	2.4
	女性	21.4	11.3	8.4	9.8	12.7	17.5	0.7	2.1
	その他(または答えたくない)	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3	7.1	14.3	7.1
年齢別	10歳代	13.2	5.7	13.2	11.3	1.9	15.1	3.8	1.9
	20歳代	26.8	11.3	11.3	8.5	12.7	14.1	1.4	2.8
	30歳代	25.4	11.4	11.4	8.8	8.8	14.0	1.8	0.9
	40歳代	21.5	8.3	9.9	11.0	10.5	18.2	2.8	0.6
	50歳代	24.7	10.5	11.2	9.4	15.0	13.1	1.1	1.5
	60歳代	28.0	9.7	8.1	8.1	14.0	12.3	1.3	2.5
	70歳以上	19.3	13.5	8.0	11.0	11.0	18.8	0.5	3.2

問10 部落差別（同和問題）について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか（○は3つまで）

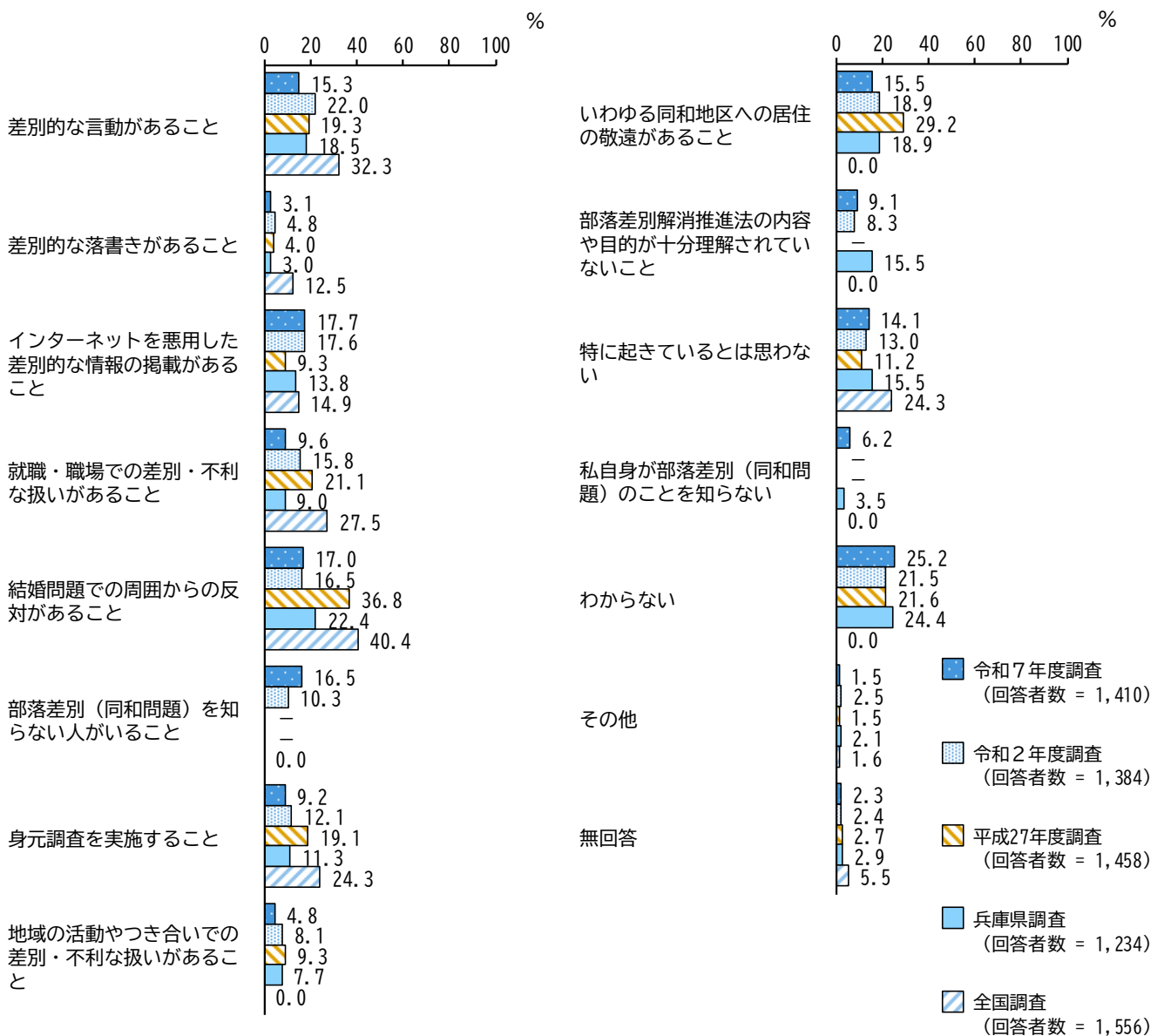
「わからない」の割合が25.2%と最も高く、次いで「インターネットを悪用した差別的な情報の掲載があること」の割合が17.7%、「結婚問題での周囲からの反対があること」の割合が17.0%となっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降「インターネットを悪用した差別的な情報の掲載があること」の割合が増加しています。一方、「就職・職場での差別・不利な扱いがあること」「身元調査を実施すること」「いわゆる同和地区への居住の敬遠があること」の割合が減少しています。

また、令和2年度調査に比べ、令和7年度では「部落差別（同和問題）を知らない人がいること」の割合が6.2ポイント増加しています。一方、「差別的な言動があること」の割合が6.7ポイント減少しています。

兵庫県調査と比較すると、「結婚問題での周囲からの反対があること」の割合が5.4ポイント、「部落差別解消推進法の内容や目的が十分理解されていないこと」の割合が6.4ポイント低くなっています。

全国調査では、「結婚問題での周囲からの反対があること」の割合が40.4%と最も高く、次いで「差別的な言動があること」の割合が32.3%、「就職・職場での差別・不利な扱いがあること」の割合が27.5%となっています。



※令和2年度調査では、「部落差別（同和問題）を知らない人がいること」が「部落差別などの同和問題を知らない」、「特に起きているとは思わない」が「特にない」となっており、「私自身が部落差別（同和問題）のことを知らない」の選択肢はありません。

※平成27年度調査では、「部落差別（同和問題）を知らない人がいること」、「部落差別解消推進法の内容や目的が十分理解されていないこと」、「私自身が部落差別（同和問題）のことを知らない」の選択肢はありません。

※兵庫県調査では、「部落差別（同和問題）を知らない人がいること」の選択肢はありません。

※全国調査に「部落差別（同和問題）を知らない人がいること」「地域の活動やつき合いでの差別・不利な扱いがあること」「いわゆる同和地区への居住の敬遠があること」「部落差別解消推進法の内容や目的が十分理解されていないこと」「私自身が部落差別（同和問題）のことを知らない」「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「インターネットを悪用した差別的な情報の掲載があること」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「差別的な言動があること」の割合が高い傾向にあります。

単位：%

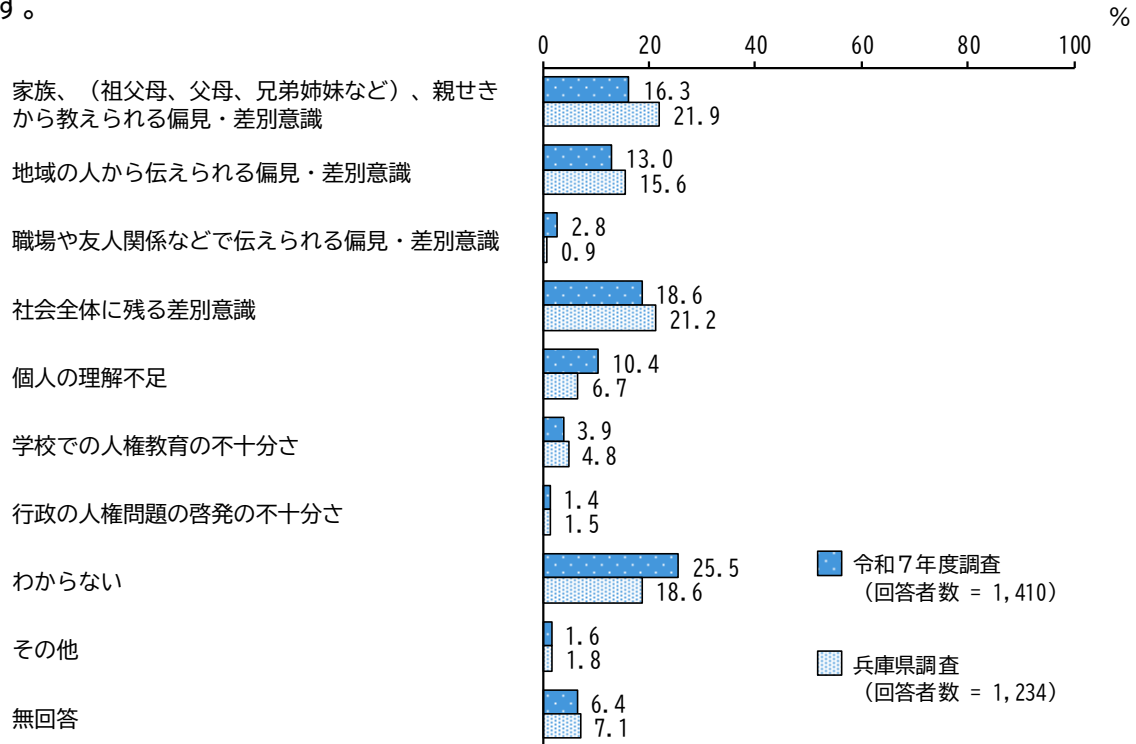
区分	回答者数（件）	差別的な言動があること	差別的な落書きがあること	インターネットを悪用した差別的な情報の掲載があること	就職・職場での差別・不利な扱いがあること	結婚問題での周囲からの反対があること	部落差別（同和問題）を知らない人がいること	身元調査を実施すること	
性別	男性	537	16.2	3.7	21.0	11.0	16.6	19.0	9.3
	女性	808	15.2	2.6	15.5	8.8	17.2	14.9	8.9
	その他（または答えたくない）	14	0.0	0.0	21.4	7.1	14.3	21.4	7.1
年齢別	10歳代	53	22.6	7.5	15.1	7.5	17.0	13.2	0.0
	20歳代	71	18.3	4.2	19.7	9.9	8.5	14.1	5.6
	30歳代	114	22.8	3.5	21.1	10.5	17.5	21.1	11.4
	40歳代	181	17.1	5.5	23.2	13.3	14.4	16.6	5.5
	50歳代	267	15.7	3.0	21.0	9.4	19.1	20.2	15.0
	60歳代	236	16.1	3.0	17.4	12.3	21.2	13.1	10.6
	70歳以上	436	10.8	1.1	13.1	7.3	15.8	16.3	6.9

区分	地域での活動やつき合いでの差別・不利な扱いがあること	いわゆる同和地区への居住の敬遠があること	部落差別解消推進法の内容や目的が十分理解されていないこと	特に起きているとは思わない	私自身が部落差別（同和問題）のことを知らない	わからない	その他	無回答	
性別	男性	5.6	16.2	10.2	16.9	5.8	20.7	2.0	2.0
	女性	4.6	15.1	8.5	12.4	6.4	28.5	1.1	1.7
	その他（または答えたくない）	0.0	7.1	0.0	7.1	21.4	21.4	7.1	7.1
年齢別	10歳代	7.5	1.9	7.5	11.3	11.3	34.0	1.9	0.0
	20歳代	2.8	5.6	5.6	16.9	14.1	21.1	2.8	1.4
	30歳代	7.9	17.5	5.3	10.5	8.8	23.7	0.0	0.9
	40歳代	6.1	21.0	6.1	14.9	5.5	19.9	1.7	0.0
	50歳代	3.4	13.1	10.1	12.7	3.4	22.1	2.2	1.1
	60歳代	7.2	20.8	7.2	11.9	4.7	27.1	1.7	1.7
	70歳以上	3.4	14.7	12.4	16.7	6.9	28.4	1.1	3.4

問10-1 部落差別（同和問題）が生じる原因や背景として、特に思い当たるのはどれですか
（○は1つまで）

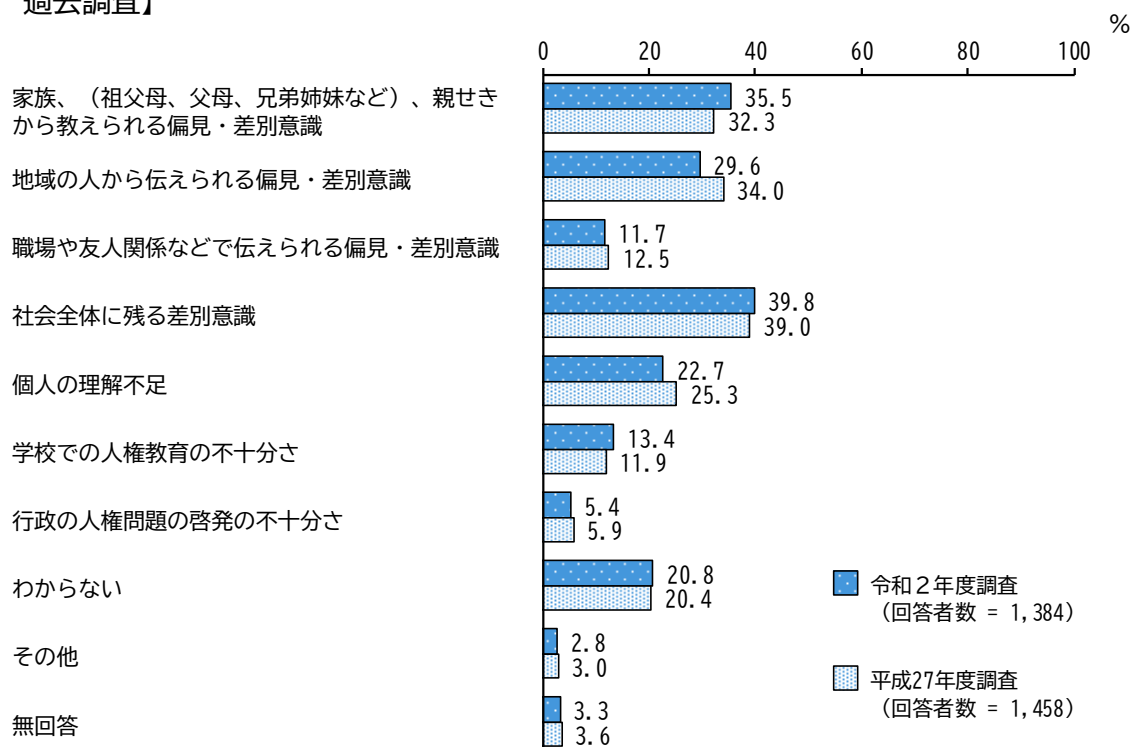
「わからない」の割合が25.5%と最も高く、次いで「社会全体に残る差別意識」の割合が18.6%、「家族、（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、親せきから教えられる偏見・差別意識」の割合が16.3%となっています。

兵庫県調査と比較すると、「わからない」の割合が6.9ポイント高くなっています。一方、「家族、（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、親せきから教えられる偏見・差別意識」の割合が5.6ポイント低くなっています。



※令和2年度調査、平成27年度調査とは回答の上限数が異なるため、比較できません。参考として掲載します。

【参考 過去調査】



【性別・年齢別】

性別にみると、大きな差はみられません。

年齢別にみると、40歳代で「家族、(祖父母、父母、兄弟姉妹など)、親せきから教えられる偏見・差別意識」「地域の人から伝えられる偏見・差別意識」、10歳代で「社会全体に残る差別意識」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		回答者数(件)	家族(祖父母、父母、兄弟姉妹など)、親せきから教えられる偏見・差別意識	地域の人から伝えられる偏見・差別意識	職場や友人関係などで伝えられる偏見・差別意識	社会全体に残る差別意識	個人の理解不足	学校での人権教育の不十分さ	行政の人権問題の啓発の不十分さ	わからない	その他	無回答
性別	男性	537	14.9	14.5	3.0	16.6	11.9	5.0	1.9	23.5	3.4	5.4
	女性	808	17.3	12.9	2.8	19.7	9.4	3.2	1.1	26.9	0.4	6.3
	その他(または答えたくない)	14	21.4	0.0	0.0	14.3	7.1	0.0	0.0	35.7	14.3	7.1
年齢別	10歳代	53	13.2	7.5	3.8	24.5	7.5	3.8	1.9	35.8	0.0	1.9
	20歳代	71	16.9	12.7	1.4	18.3	8.5	0.0	1.4	36.6	0.0	4.2
	30歳代	114	14.9	15.8	6.1	15.8	9.6	6.1	0.9	28.9	0.9	0.9
	40歳代	181	21.5	19.3	2.8	13.8	10.5	0.6	0.6	18.8	5.5	6.6
	50歳代	267	16.1	15.7	2.2	18.7	12.7	5.6	1.5	21.0	2.6	3.7
	60歳代	236	18.6	11.4	3.0	21.6	9.7	4.7	1.3	21.2	0.8	7.6
	70歳以上	436	13.8	10.8	2.5	18.3	10.3	3.9	2.1	29.8	0.7	7.8

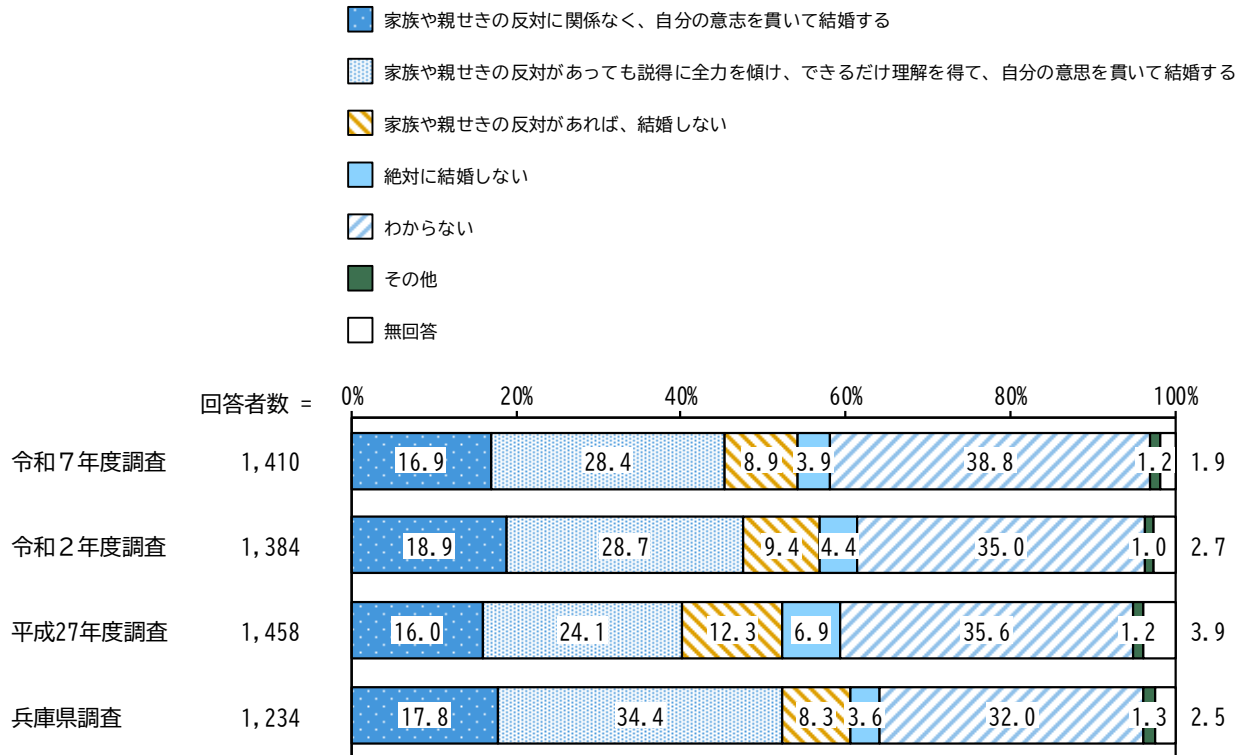
問10-2 結婚についてお聞きします。

(1) たとえばあなたが結婚しようとする相手が、いわゆる同和地区の人であるとわかった場合、あなたはどのようにされますか（○は1つ）

「わからない」の割合が38.8%と最も高く、次いで「家族や親せきの反対があっても説得に全力を傾け、できるだけ理解を得て、自分の意思を貫いて結婚する」の割合が28.4%、「家族や親せきの反対に関係なく、自分の意志を貫いて結婚する」の割合が16.9%となっています。

過去調査と比較すると、大きな変化はみられません。

兵庫県調査と比較すると、「わからない」の割合が6.8ポイント高くなっています。



※令和2年度調査では、「家族や親せきの反対に関係なく、自分の意志を貫いて結婚する」が「自分の意思を貫いて結婚する」となっていました。

【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「家族や親せきの反対に関係なく、自分の意志を貫いて結婚する」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、10歳代、40歳代で「家族や親せきの反対があっても説得に全力を傾け、できるだけ理解を得て、自分の意思を貫いて結婚する」の割合が高くなっています。

単位：%

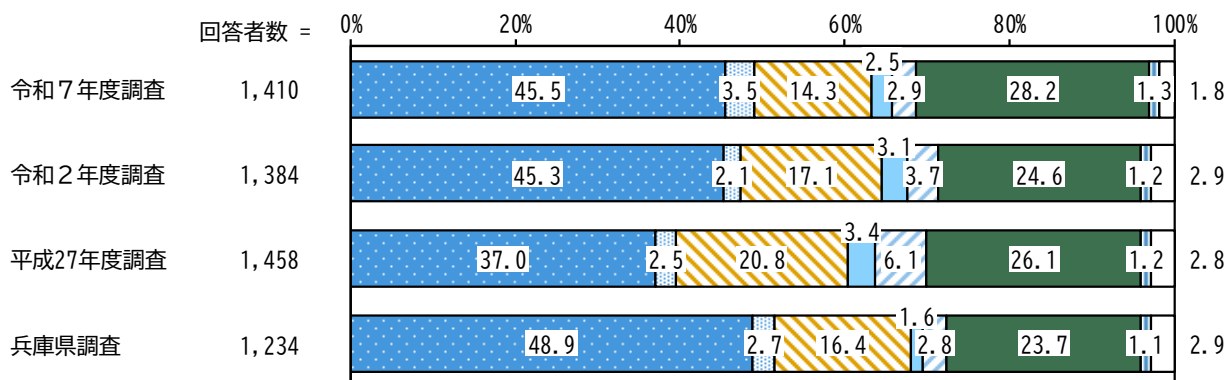
区分		回答者数 (件)	家族や親せきの反対に関係なく、自分の意志を貫いて結婚する	家族や親せきの反対があっても説得に全力を傾け、できるだけ理解を得て、自分の意思を貫いて結婚する	家族や親せきの反対があれば、結婚しない	絶対に結婚しない	わからない	その他	無回答
性別	男性	537	26.1	29.6	7.8	2.6	31.7	1.5	0.7
	女性	808	10.8	28.0	9.5	5.0	43.7	1.0	2.1
	その他（または答えたくない）	14	7.1	21.4	0.0	7.1	50.0	7.1	7.1
年齢別	10歳代	53	20.8	37.7	5.7	3.8	30.2	1.9	0.0
	20歳代	71	19.7	28.2	7.0	2.8	40.8	0.0	1.4
	30歳代	114	18.4	34.2	5.3	3.5	34.2	4.4	0.0
	40歳代	181	14.4	37.0	5.5	5.0	36.5	1.7	0.0
	50歳代	267	18.4	32.6	8.2	4.1	35.2	0.7	0.7
	60歳代	236	17.4	26.3	9.7	4.7	40.7	0.8	0.4
	70歳以上	436	15.6	21.1	11.7	3.7	42.9	0.9	4.1

(2) たとえば、あなたのお子さんの結婚しようとする相手が、いわゆる同和地区の人であるとわかった場合、あなたはどのようにされますか（〇は1つ）

「子どもの意志を尊重する」の割合が45.5%と最も高く、次いで「わからない」の割合が28.2%、「親として反対するが、子どもの意志が強ければしかたない」の割合が14.3%となっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降「子どもの意志を尊重する」の割合が増加しています。一方、「親として反対するが、子どもの意志が強ければしかたない」の割合が減少しています。

兵庫県調査と比較すると、大きな差はみられません。



【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「子どもの意志を尊重する」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「親として反対するが、子どもの意志が強ければしかたない」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、20歳代から70歳以上まで年齢が上がるほど「親として反対するが、子どもの意志が強ければしかたない」の割合が高い傾向にあります。

単位：%

区分	回答者数 (件)	子どもの意志を尊重する	ためらっていたら勇気づける	親として反対するが、子どもの意志が強ければしかたない	家族や親せきの反対があれば、結婚を認めない	絶対に結婚を認めない	わからない	その他	無回答
性別	男性	53.6	4.3	11.5	2.8	2.2	22.7	1.9	0.9
	女性	39.9	3.2	16.8	2.4	3.2	31.7	1.0	1.9
	その他 (または答えたくない)	21.4	0.0	7.1	0.0	7.1	50.0	7.1	7.1
年齢別	10歳代	41.5	5.7	9.4	3.8	0.0	34.0	1.9	3.8
	20歳代	40.8	8.5	4.2	1.4	2.8	39.4	1.4	1.4
	30歳代	45.6	12.3	8.8	0.9	4.4	24.6	3.5	0.0
	40歳代	44.2	3.3	9.4	2.8	4.4	32.6	2.8	0.6
	50歳代	49.8	2.6	13.9	1.9	3.0	26.6	1.5	0.7
	60歳代	46.2	0.4	18.6	3.0	3.0	28.4	0.0	0.4
	70歳以上	43.3	2.8	18.6	3.0	2.3	25.9	0.9	3.2

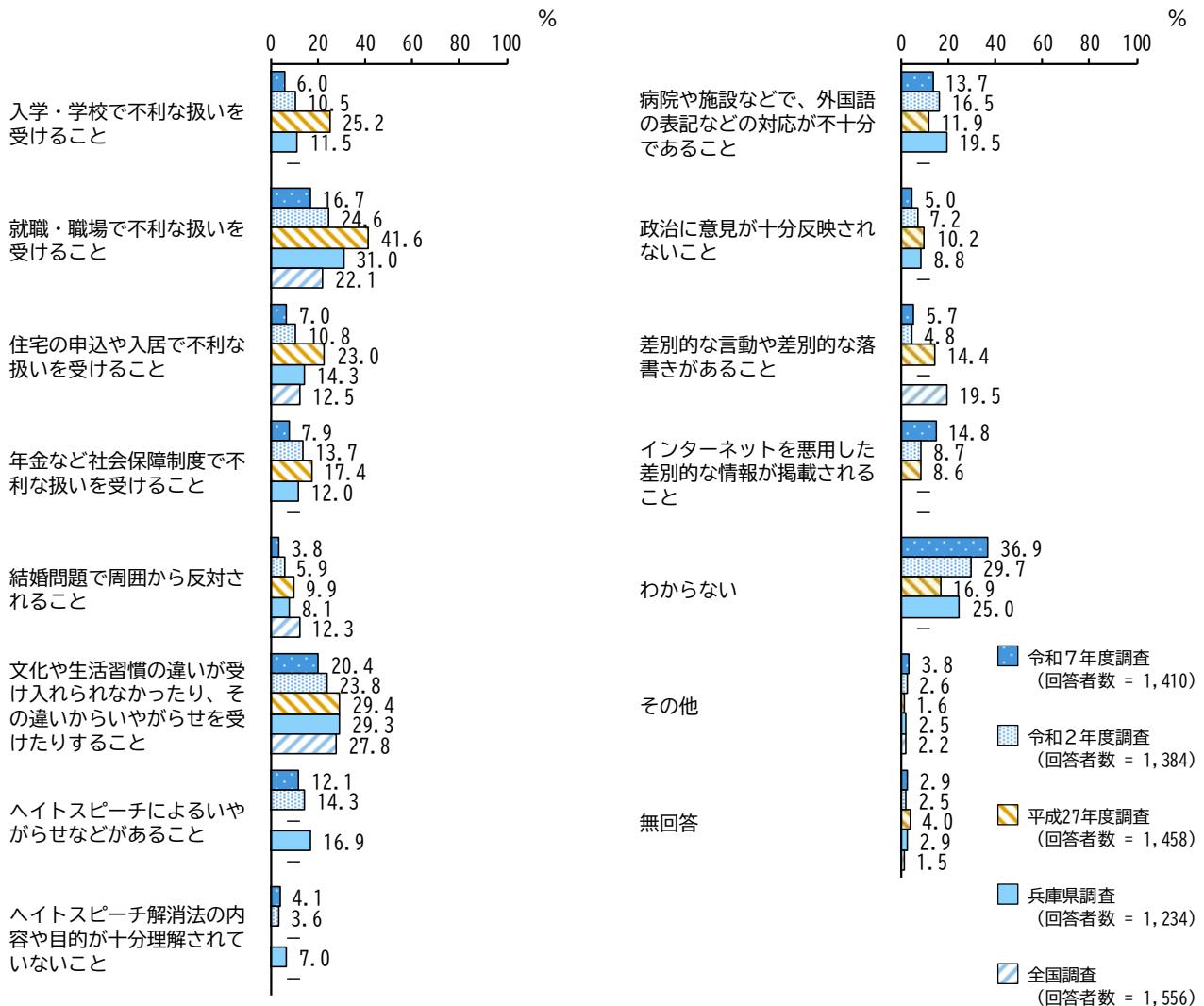
問11 日本に居住している外国人に関する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか（○は3つまで）

「わからない」の割合が36.9%と最も高く、次いで「文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けたりすること」の割合が20.4%、「就職・職場で不利な扱いを受けること」の割合が16.7%となっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降「インターネットを悪用した差別的な情報が掲載されること」「わからない」の割合が増加しています。一方、「入学・学校で不利な扱いを受けること」「就職・職場で不利な扱いを受けること」「住宅の申込や入居で不利な扱いを受けること」「年金など社会保障制度で不利な扱いを受けること」「結婚問題で周囲から反対されること」「文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けたりすること」「政治に意見が十分反映されないこと」の割合が減少しています。

兵庫県調査と比較すると、「わからない」の割合が11.9ポイント高くなっています。一方、「入学・学校で不利な扱いを受けること」の割合が5.5ポイント、「就職・職場で不利な扱いを受けること」の割合が14.3ポイント、「住宅の申込や入居で不利な扱いを受けること」の割合が7.3ポイント、「文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けたりすること」「病院や施設などで、外国語の表記などの対応が不十分であること」の割合が5.8ポイント低くなっています。

全国調査では、「文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けたりすること」の割合が27.8%と最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」の割合が22.1%、「差別的な言動や差別的な落書きがあること」の割合が19.5%となっています。



※令和2年度調査では、「病院や施設などで、外国語の表記などの対応が不十分であること」が「外国語の表記にするなど、情報をわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」となっていました。

※平成27年度調査では、「ハイトスピーチによるいやがらせなどがあること」、「ハイトスピーチ解消法の内容や目的が十分理解されていないこと」の選択肢はありません。

※兵庫県調査に「差別的な言動や差別的な落書きがあること」「インターネットを悪用した差別的な情報が掲載されること」の選択肢はありません。

※全国調査に「入学・学校で不利な扱いを受けること」「年金などの社会保障制度で不利な扱いを受けること」「ハイトスピーチによるいやがらせなどがあること」「ハイトスピーチ解消法の内容や目的が十分理解されていないこと」「病院や施設などで、外国語の表記などの対応が不十分であること」「政治に意見が十分反映されないこと」「インターネットを悪用した差別的な情報が掲載されること」「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「就職・職場で不利な扱いを受けること」「インターネットを悪用した差別的な情報が掲載されること」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、30歳代から70歳以上まで年齢が上がるほど「病院や施設などで、外国語の表記などの対応が不十分であること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	入学・学校で不利な扱いを受けること	就職・職場で不利な扱いを受けること	住宅の申込や入居で不利な扱いを受けること	年金など社会保障制度で不利な扱いを受けること	結婚問題で周囲から反対されること	文化や生活習慣の違いを受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けたりすること	ハイトスピーチによるいやがらせなどがあること	
性別	男性	537	7.6	20.3	8.2	8.9	3.2	21.8	13.4
	女性	808	5.2	14.6	5.9	7.2	4.3	19.6	11.4
	その他(または答えたくない)	14	7.1	7.1	7.1	7.1	0.0	7.1	0.0
年齢別	10歳代	53	7.5	17.0	3.8	5.7	3.8	30.2	11.3
	20歳代	71	5.6	11.3	2.8	4.2	0.0	25.4	9.9
	30歳代	114	6.1	16.7	6.1	5.3	4.4	21.9	14.9
	40歳代	181	7.7	17.1	8.8	7.2	4.4	16.6	11.0
	50歳代	267	5.2	19.1	6.0	7.1	3.0	18.7	17.2
	60歳代	236	7.2	19.1	7.2	8.9	3.8	22.9	16.9
	70歳以上	436	5.3	14.9	7.8	9.9	4.4	18.8	6.9

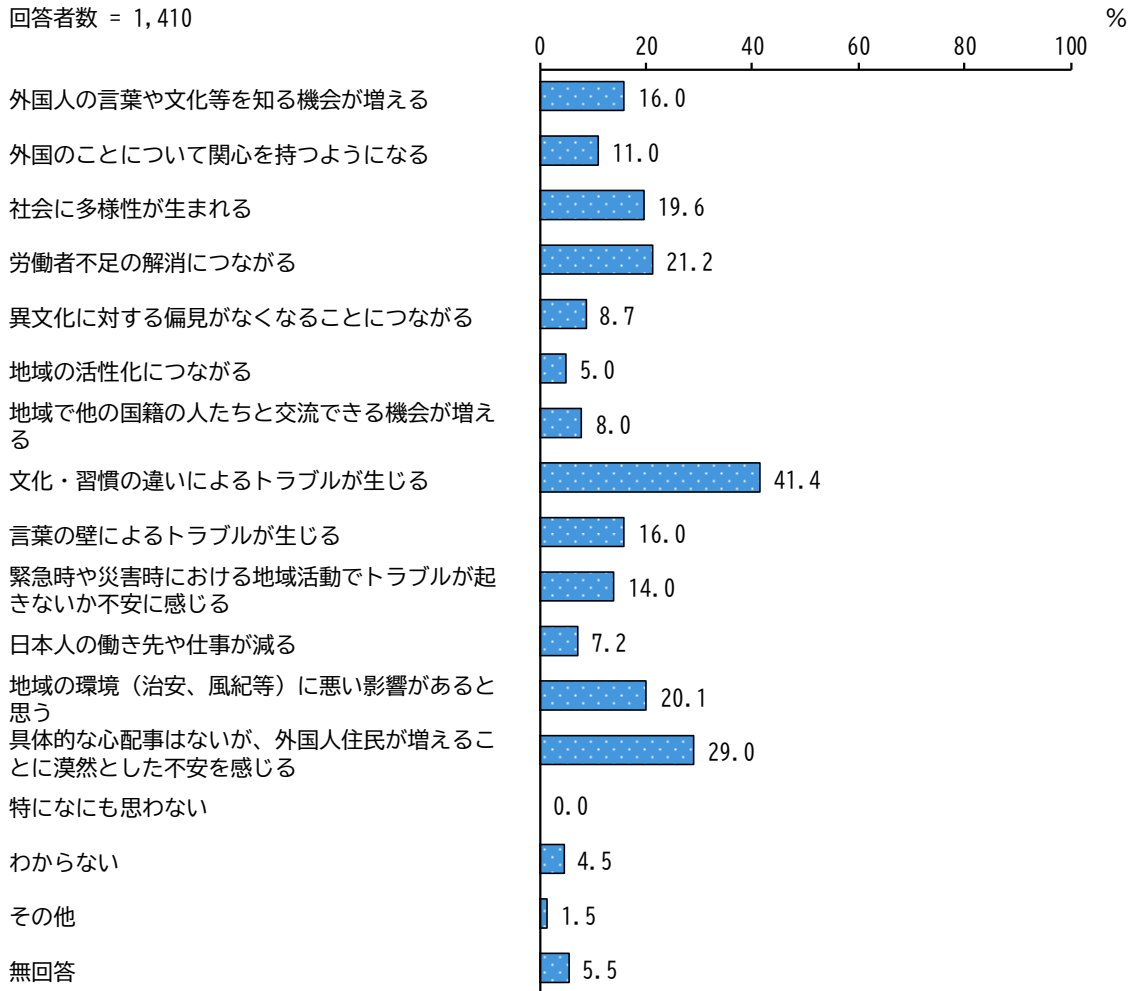
区分	回答者数(件)	病院や施設などで、外国語の表記などの対応が不十分であること	政治に意見が十分反映されないこと	差別的な言動や差別的な落書きがあること	インターネットを悪用した差別的な情報が掲載されること	わからない	その他	無回答	
性別	男性	5.6	13.6	5.2	6.1	18.6	32.4	4.8	1.7
	女性	3.2	13.9	4.7	5.6	12.9	39.9	3.5	2.8
	その他(または答えたくない)	0.0	14.3	7.1	7.1	14.3	42.9	0.0	7.1
年齢別	10歳代	1.9	7.5	7.5	13.2	20.8	24.5	5.7	0.0
	20歳代	0.0	16.9	5.6	5.6	15.5	36.6	11.3	2.8
	30歳代	3.5	7.9	1.8	16.7	17.5	32.5	7.9	0.9
	40歳代	3.3	9.9	2.2	7.2	14.4	36.5	6.6	0.6
	50歳代	4.9	13.5	6.0	4.1	17.2	34.8	4.9	1.9
	60歳代	6.8	14.8	5.5	4.7	16.1	34.3	2.1	1.3
	70歳以上	3.4	16.7	5.5	3.2	12.4	42.4	0.9	4.6



問12 今後、地域に住む外国人が増えることをあなたはどのように思いますか。(〇は3つまで)

「文化・習慣の違いによるトラブルが生じる」の割合が41.4%と最も高く、次いで「具体的な心配事はないが、外国人住民が増えることに漠然とした不安を感じる」の割合が29.0%、「労働者不足の解消につながる」の割合が21.2%となっています。

回答者数 = 1,410



※新規設問のため、過去調査との比較はできません。

【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「労働者不足の解消につながる」「文化・習慣の違いによるトラブルが生じる」「地域の環境（治安、風紀等）に悪い影響があると思う」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「具体的な心配事はないが、外国人住民が増えることに漠然とした不安を感じる」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、70歳以上から20歳代まで年齢が下がるほど「日本人の働き先や仕事が減る」「地域の環境（治安、風紀等）に悪い影響があると思う」の割合が高い傾向にあり、「具体的な心配事はないが、外国人住民が増えることに漠然とした不安を感じる」の割合が低く、70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「文化・習慣の違いによるトラブルが生じる」の割合が高くなっています。また、10歳代で「外国人の言葉や文化等を知る機会が増える」「社会に多様性が生まれる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		回答者数 (件)	外国人の言葉や文化等を知る機会が増える	外国人のことに興味を持つようになる	社会に多様性が生まれる	労働者不足の解消につながる	異文化に対する偏見がなくなるにつ	地域の活性化につながる	地域で他の国籍の人たちと交流できる機会が増える	文化・習慣の違いによるトラブルが生じる
性別	男性	537	14.5	11.4	19.6	26.3	7.8	5.8	9.1	46.7
	女性	808	17.1	10.4	19.4	17.8	9.2	4.3	7.7	38.9
	その他（または答えたくない）	14	7.1	0.0	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0	28.6
年齢別	10歳代	53	26.4	3.8	32.1	17.0	7.5	5.7	1.9	34.0
	20歳代	71	15.5	5.6	12.7	14.1	5.6	2.8	11.3	39.4
	30歳代	114	17.5	10.5	17.5	7.0	8.8	3.5	3.5	56.1
	40歳代	181	18.2	9.4	20.4	17.1	5.5	3.3	6.1	50.8
	50歳代	267	13.1	8.2	21.0	22.1	4.5	5.6	6.7	47.2
	60歳代	236	16.1	10.6	19.5	28.0	8.9	4.2	8.1	46.6
	70歳以上	436	15.1	14.2	18.1	23.6	13.1	6.2	11.5	30.0

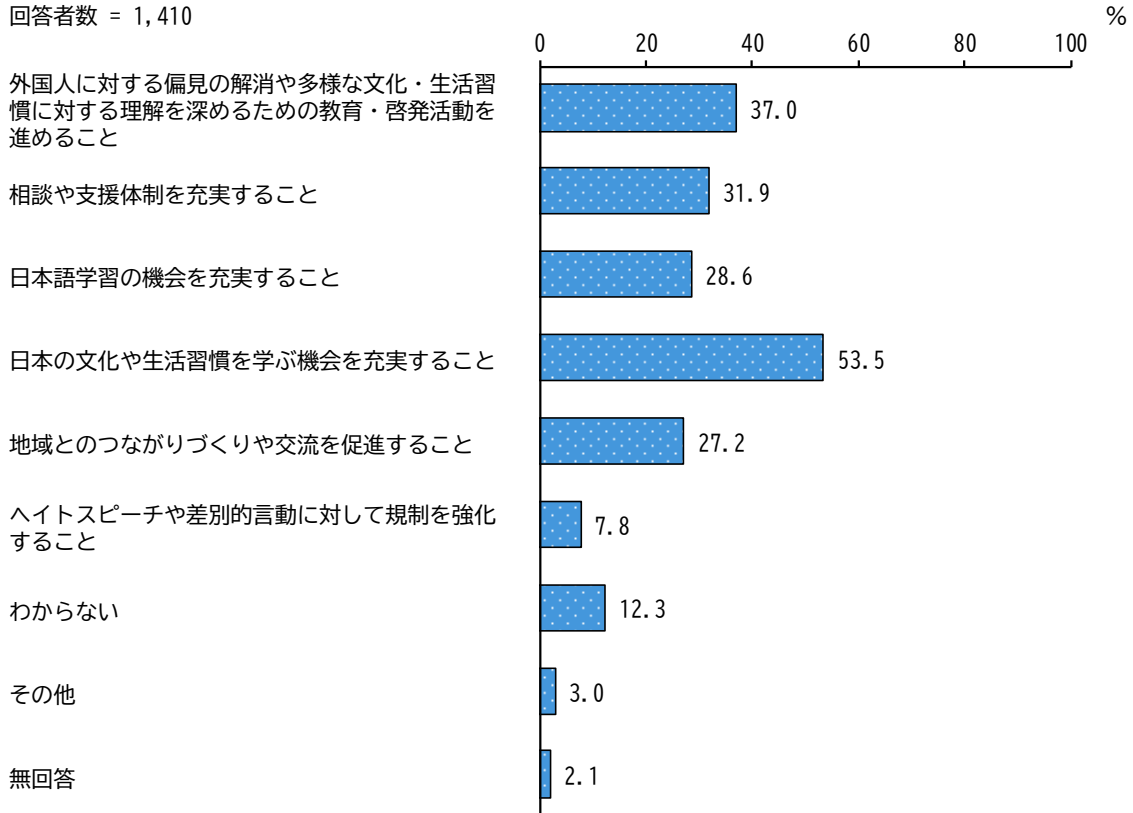
区分		言葉の壁によるトラブルが生じる	緊急時や災害時に地域の活動で不安を感じる	日本人の働き先や仕事が減る	地域の環境（治安、風紀等）に悪い影響があると思う	具体的な心配事はないが、外国人住民が増えることに漠然とした不安を感じる	特になにも思わない	わからない	その他	無回答
性別	男性	17.5	14.9	7.1	24.0	22.3	0.0	3.4	1.9	5.0
	女性	15.2	13.6	7.3	18.1	33.5	0.0	5.0	1.4	5.2
	その他（または答えたくない）	28.6	14.3	14.3	21.4	28.6	0.0	14.3	0.0	14.3
年齢別	10歳代	17.0	17.0	7.5	28.3	17.0	0.0	3.8	0.0	3.8
	20歳代	18.3	22.5	18.3	35.2	15.5	0.0	2.8	1.4	9.9
	30歳代	17.5	14.9	11.4	34.2	24.6	0.0	3.5	0.9	6.1
	40歳代	18.2	14.9	11.6	27.1	24.9	0.0	1.7	4.4	2.8
	50歳代	19.1	13.5	8.2	22.5	28.8	0.0	3.0	1.9	4.9
	60歳代	19.1	12.3	4.7	18.6	29.7	0.0	5.5	1.3	2.5
	70歳以上	11.5	13.1	3.4	10.8	35.6	0.0	6.4	0.7	6.7



問13 外国人の人権問題が解決し、多文化共生のまちを実現するためには、どのようなことが必要だと思われますか（〇は3つまで）

「日本の文化や生活習慣を学ぶ機会を充実すること」の割合が53.5%と最も高く、次いで「外国人に対する偏見の解消や多様な文化・生活習慣に対する理解を深めるための教育・啓発活動を進めること」の割合が37.0%、「相談や支援体制を充実すること」の割合が31.9%となっています。

回答者数 = 1,410



※新規設問のため、過去調査との比較はできません。

【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「日本語学習の機会を充実すること」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、10歳代から60歳代まで年齢が上がるほど「日本の文化や生活習慣を学ぶ機会を充実すること」の割合が高い傾向にあり、30歳代から70歳以上まで年齢が上がるほど「外国人に対する偏見の解消や多様な文化・生活習慣に対する理解を深めるための教育・啓発活動を進めること」の割合が高い傾向にあります。

単位：％

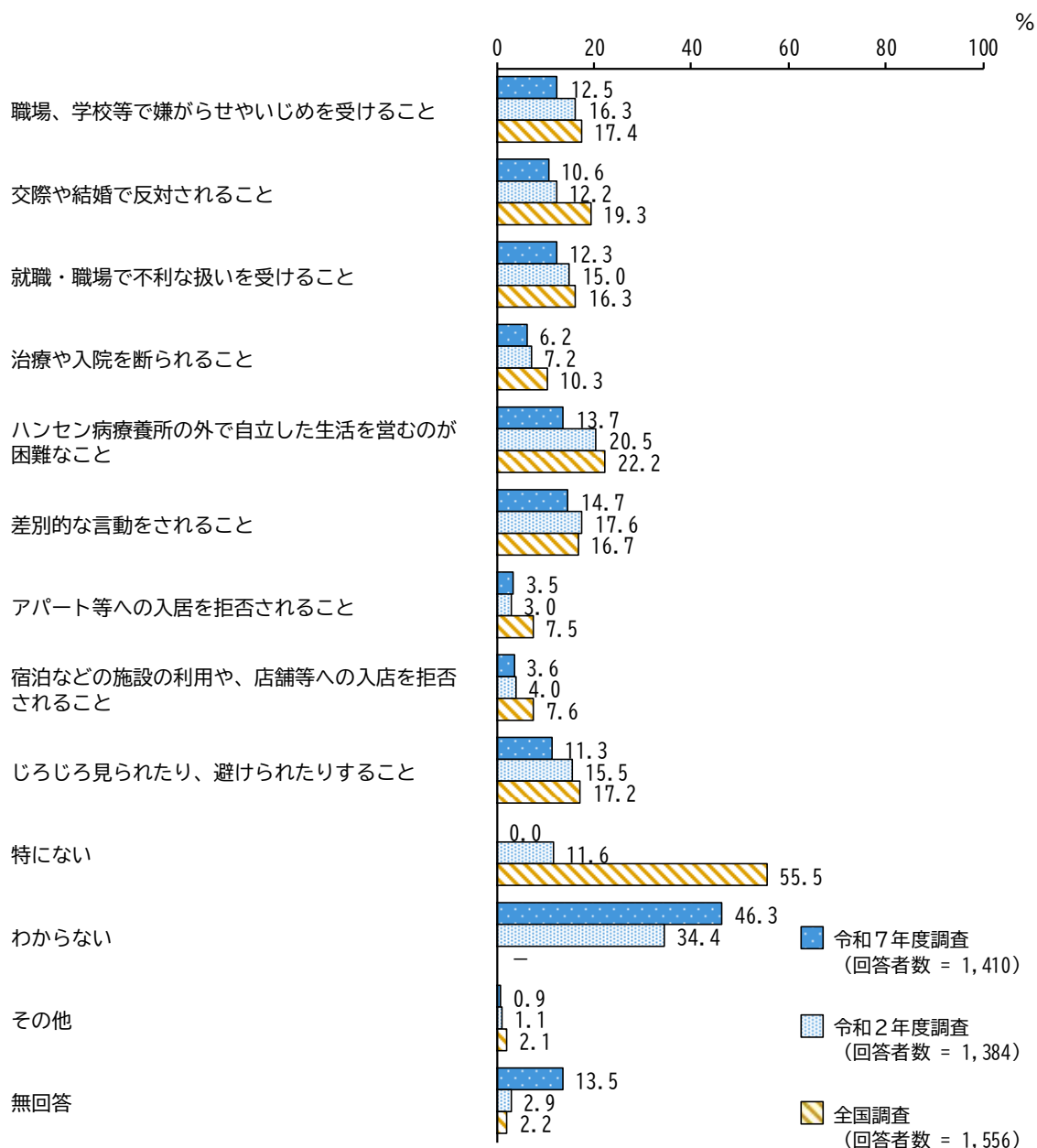
区分		回答者数(件)	外国人に対する偏見の解消や多様な文化・生活習慣に対する理解を深めるための教育・啓発活動を進めること	相談や支援体制を充実すること	日本語学習の機会を充実すること	日本の文化や生活習慣を学ぶ機会を充実すること	地域とのつながりづくりや交流を促進すること	ヘイトスピーチや差別的言動に対して規制を強化すること	わからない	その他	無回答
性別	男性	537	38.9	31.5	32.4	55.1	27.9	10.2	10.6	4.1	1.1
	女性	808	35.5	32.9	26.7	53.2	26.6	6.1	13.1	2.4	1.9
	その他(または答えたくない)	14	28.6	14.3	21.4	35.7	28.6	7.1	28.6	7.1	7.1
年齢別	10歳代	53	39.6	18.9	22.6	45.3	17.0	11.3	17.0	1.9	0.0
	20歳代	71	38.0	23.9	31.0	50.7	12.7	11.3	12.7	7.0	0.0
	30歳代	114	27.2	24.6	28.1	50.9	28.1	7.9	18.4	7.0	0.9
	40歳代	181	32.0	32.6	30.9	49.7	28.7	3.9	11.6	6.6	1.1
	50歳代	267	31.5	35.6	24.0	56.6	30.0	9.7	9.0	3.7	1.9
	60歳代	236	39.0	35.2	31.4	64.4	27.1	8.1	9.7	1.3	0.8
	70歳以上	436	43.3	33.0	30.5	50.0	28.4	7.1	13.8	0.7	2.5

問14 ハンセン病患者・回復者やその家族について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか（○は3つまで）

「わからない」の割合が46.3%と最も高く、次いで「差別的な言動をされること」の割合が14.7%、「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと」の割合が13.7%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「わからない」の割合が11.9ポイント増加しています。一方、「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと」の割合が6.8ポイント減少しています。

全国調査と比較すると、「交際や結婚で反対されること」の割合が8.7ポイント、「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと」の割合が8.5ポイント、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」の割合が5.9ポイント低くなっています。



※平成27年度調査では、「ハンセン病患者・回復者などに関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。

※全国調査に「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別にみると、大きな差はみられません。

年齢別にみると、20歳代から60歳代まで年齢が上がるほど「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと」の割合が高くなっています。また、10歳代で「じろじろ見られたり、避けられたりすること」の割合が高くなっています。

単位：%

区分		回答者数(件)	職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること	交際や結婚で反対されること	就職・職場で不利な扱いを受けること	治療や入院を断られること	ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと	差別的な言動をされること	アパート等への入居を拒否されること	宿泊などの施設の利用や、店舗等への入店を拒否されること	じろじろ見られたり、避けられたりすること	特になし	わからない	その他	無回答
性別	男性	537	12.7	11.2	15.1	4.8	12.5	13.8	3.5	4.1	11.5	0.0	43.2	1.1	15.8
	女性	808	11.8	10.3	10.5	7.1	14.7	15.6	3.2	3.2	11.6	0.0	48.9	0.9	11.3
	その他(または答えたくない)	14	14.3	7.1	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	64.3	0.0	7.1
年齢別	10歳代	53	18.9	11.3	7.5	5.7	7.5	22.6	0.0	1.9	24.5	0.0	37.7	0.0	13.2
	20歳代	71	12.7	5.6	2.8	11.3	2.8	14.1	0.0	0.0	7.0	0.0	54.9	0.0	15.5
	30歳代	114	17.5	7.0	8.8	6.1	7.9	14.9	4.4	3.5	13.2	0.0	48.2	2.6	14.0
	40歳代	181	12.2	8.3	12.7	6.1	11.0	12.2	1.7	3.3	11.6	0.0	51.9	2.2	8.3
	50歳代	267	8.6	13.1	15.7	6.7	15.7	17.2	3.0	3.0	8.2	0.0	47.2	0.4	10.9
	60歳代	236	13.1	12.3	12.7	4.2	20.3	16.5	3.4	3.8	13.1	0.0	47.5	0.4	8.9
	70歳以上	436	11.7	10.8	12.8	5.7	14.0	12.6	5.3	4.8	11.2	0.0	43.3	0.9	17.7

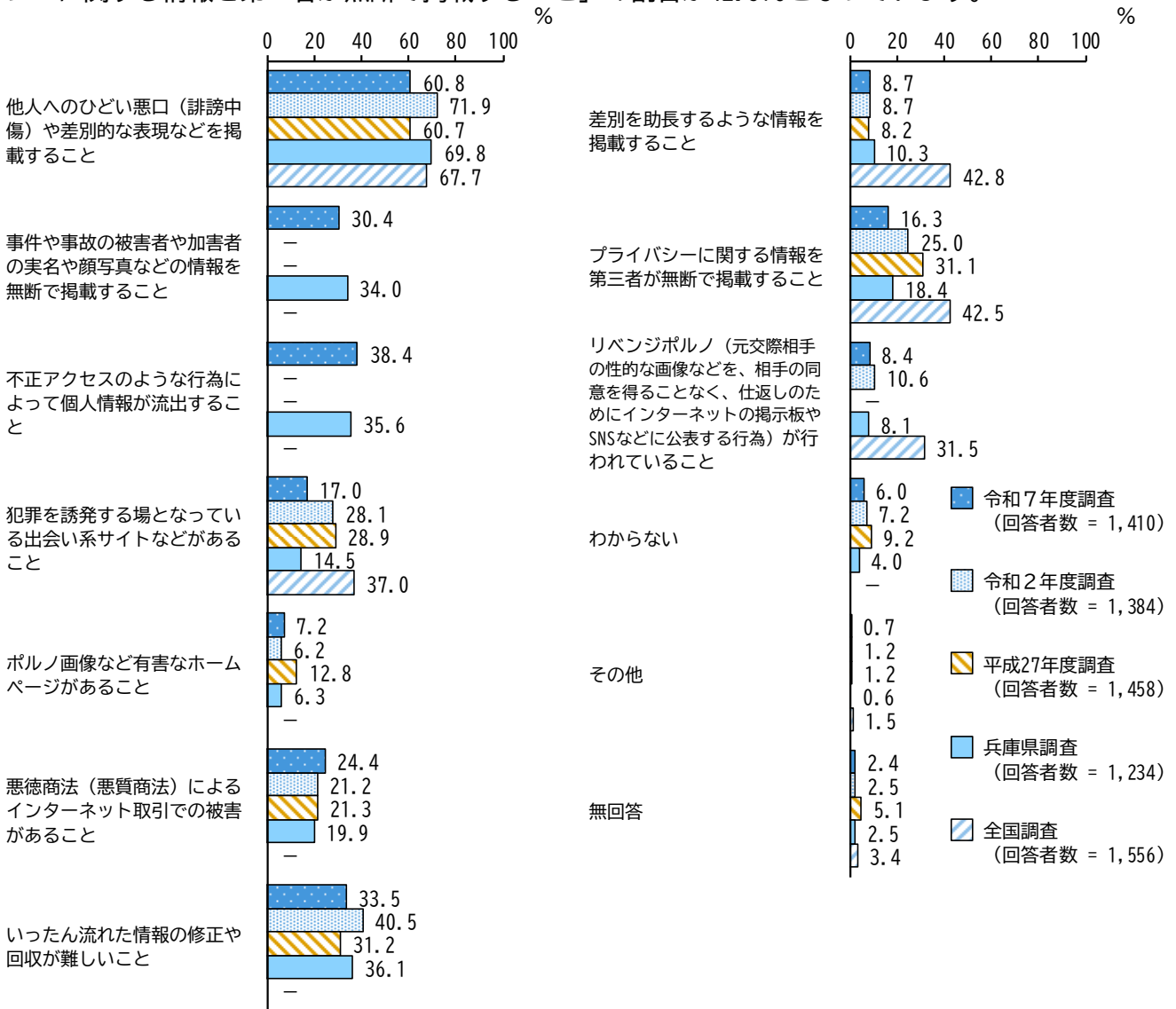
問15 インターネット（パソコン、スマートフォンなど）を悪用した人権侵害について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか（○は3つまで）

「他人へのひどい悪口（誹謗中傷）や差別的な表現などを掲載すること」の割合が60.8%と最も高く、次いで「不正アクセスのような行為によって個人情報が流出すること」の割合が38.4%、「いったん流れた情報の修正や回収が難しいこと」の割合が33.5%となっています。

新設した選択肢の回答割合が高くなっており、過去調査との単純な比較はできません。

兵庫県調査と比較すると、「他人へのひどい悪口（誹謗中傷）や差別的な表現などを掲載すること」の割合が9.0ポイント低くなっています。

全国調査では、「他人へのひどい悪口（誹謗中傷）や差別的な表現などを掲載すること」の割合が67.7%と最も高く、次いで「差別を助長するような情報を掲載すること」の割合が42.8%、「プライバシーに関する情報を第三者が無断で掲載すること」の割合が42.5%となっています。



※令和2年度調査では、「差別を助長するような情報を掲載すること」が「差別を助長するような情報を掲載・検索すること」、「プライバシーに関する情報を第三者が無断で掲載すること」が「他人のプライバシーに関する情報を掲載すること」となっており、「事件や事故の被害者や加害者の実名や顔写真などの情報を無断で掲載すること」、「不正アクセスのような行為によって個人情報が流出すること」の選択肢はありません。

※平成27年度調査では、「事件や事故の被害者や加害者の実名や顔写真などの情報を無断で掲載すること」、「不正アクセスのような行為によって個人情報が流出すること」、「リベンジポルノ（元交際相手の性的な画像などを、相手の同意を得ることなく、仕返しのためにインターネットの掲示板やSNSなどに公表する行為）が行われていること」の選択肢はありません。

※全国調査に「事件や事故の被害者や加害者の実名や顔写真などの情報を無断で掲載すること」「不正アクセスのような行為によって個人情報が流出すること」「ポルノ画像など有害なホームページがあること」「悪徳商法（悪質商法）によるインターネット取引での被害があること」「いったん流れた情報の修正や回収が難しいこと」「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「悪徳商法（悪質商法）によるインターネット取引での被害があること」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「不正アクセスのような行為によって個人情報流出すること」「ポルノ画像など有害なホームページがあること」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「事件や事故の被害者や加害者の実名や顔写真などの情報を無断で掲載すること」の割合が高い傾向にあり、60歳代から20歳代まで年齢が下がるほど「プライバシーに関する情報を第三者が無断で掲載すること」の割合が高い傾向にあります。

単位：%

区分	回答者数（件）	他人へのひどい悪口（誹謗中傷）や差別的な表現などを掲載すること	事件や事故の被害者や加害者の実名や顔写真などの情報を無断で掲載すること	不正アクセスのような行為によって個人情報流出すること	犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること	ポルノ画像など有害なホームページがあること	悪徳商法（悪質商法）によるインターネット取引での被害があること
性別	男性	537	59.6	30.7	35.0	16.8	30.7
	女性	808	62.5	31.2	41.5	17.3	20.2
	その他（または答えたくない）	14	50.0	21.4	14.3	14.3	28.6
年齢別	10歳代	53	67.9	41.5	35.8	11.3	5.7
	20歳代	71	66.2	29.6	33.8	11.3	16.9
	30歳代	114	59.6	35.1	36.8	12.3	15.8
	40歳代	181	61.3	32.6	37.6	17.7	14.4
	50歳代	267	66.3	34.1	44.2	19.1	24.7
	60歳代	236	63.1	29.2	43.6	13.6	32.2
	70歳以上	436	56.2	26.8	34.4	20.4	30.3

区分	いったん流れた情報の修正や回収が難しいこと	差別を助長するような情報を掲載すること	プライバシーに関する情報を第三者が無断で掲載すること	リベンジポルノ（元交際相手の性的な画像などを、相手の同意を得ることなく、仕返しのためにインターネットの掲示板やSNSなどに公表する行為）が行われていること	わからない	その他	無回答
性別	男性	33.0	11.2	16.4	8.2	6.0	1.3
	女性	34.2	7.1	16.3	8.5	5.8	2.4
	その他（または答えたくない）	28.6	0.0	28.6	14.3	7.1	7.1
年齢別	10歳代	17.0	17.0	17.0	15.1	7.5	0.0
	20歳代	33.8	11.3	26.8	11.3	2.8	0.0
	30歳代	33.3	8.8	18.4	8.8	4.4	2.6
	40歳代	40.3	8.8	19.3	9.9	5.0	0.0
	50歳代	35.6	10.1	15.4	6.7	2.2	1.1
	60歳代	36.4	8.5	14.0	7.6	6.4	0.4
	70歳以上	30.7	6.4	14.9	8.0	8.9	4.1

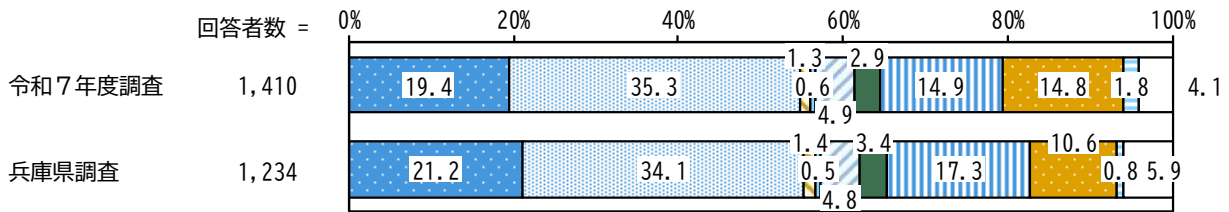


問16 インターネット上で他人を誹謗中傷するなど、人権侵害と思われるような投稿やWEBページを見たとき、あなたはどのようにされますか（○は1つ）

「そのような投稿・WEBページは、見ずに無視する」の割合が35.3%と最も高く、次いで「自分とかわかりがないので、特に何もしない」の割合が19.4%、「誹謗中傷するWEBページ、投稿は見たことがない」の割合が14.9%となっています。

兵庫県調査と比較すると、大きな差はみられません。

- 自分とかわかりがないので、特に何もしない
- そのような投稿・WEBページは、見ずに無視する
- 自分にかわりがあれば、反対意見を書き込む
- 自分にかわりがなくても、反対意見を書き込む
- 自分にかわりがあれば、プロバイダまたは関係機関に知らせる
- 自分にかわりがなくても、プロバイダまたは関係機関に知らせる
- 誹謗中傷するWEBページ、投稿は見たことがない
- わからない
- その他
- 無回答



※新規設問のため、過去調査との比較はできません。

【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「自分とかかわりがないので、特に何もしない」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、10歳代から60歳代まで年齢が上がるほど「誹謗中傷するWEBページ、投稿は見たことがない」の割合が高くなっています。また、10歳代で「自分とかかわりがないので、特に何もしない」、30歳代、50歳代で「そのような投稿・WEBページは、見ずに無視する」の割合が高くなっています。

単位：%

区分		回答者数(件)	自分とかかわりがないので、特に何もしない	そのような投稿・WEBページは、見ずに無視する	そのような投稿・WEBページは、見ずに無視する	自分とかかわりがないので、特に何もしない	自分とかかわりがないので、特に何もしない	自分とかかわりがないので、特に何もしない	自分とかかわりがないので、特に何もしない	自分とかかわりがないので、特に何もしない	自分とかかわりがないので、特に何もしない	自分とかかわりがないので、特に何もしない	自分とかかわりがないので、特に何もしない
性別	男性	537	23.8	34.1	2.2	0.6	4.7	3.0	14.2	12.8	1.5	3.2	
	女性	808	16.8	37.4	0.7	0.7	5.2	2.7	15.8	14.7	2.0	3.8	
	その他(または答えたくない)	14	7.1	35.7	0.0	0.0	7.1	14.3	7.1	28.6	0.0	0.0	
年齢別	10歳代	53	49.1	35.8	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0	9.4	0.0	1.9	
	20歳代	71	38.0	36.6	4.2	1.4	2.8	4.2	1.4	8.5	0.0	2.8	
	30歳代	114	18.4	46.5	1.8	0.0	8.8	8.8	3.5	8.8	3.5	0.0	
	40歳代	181	24.9	38.7	2.2	0.6	8.3	3.9	7.7	11.0	0.6	2.2	
	50歳代	267	19.5	45.7	0.7	0.7	7.9	2.2	10.9	10.5	1.1	0.7	
	60歳代	236	14.4	41.1	0.4	0.8	3.8	0.8	24.6	11.0	1.3	1.7	
	70歳以上	436	13.5	23.9	1.4	0.7	2.5	2.1	22.9	22.0	3.2	7.8	

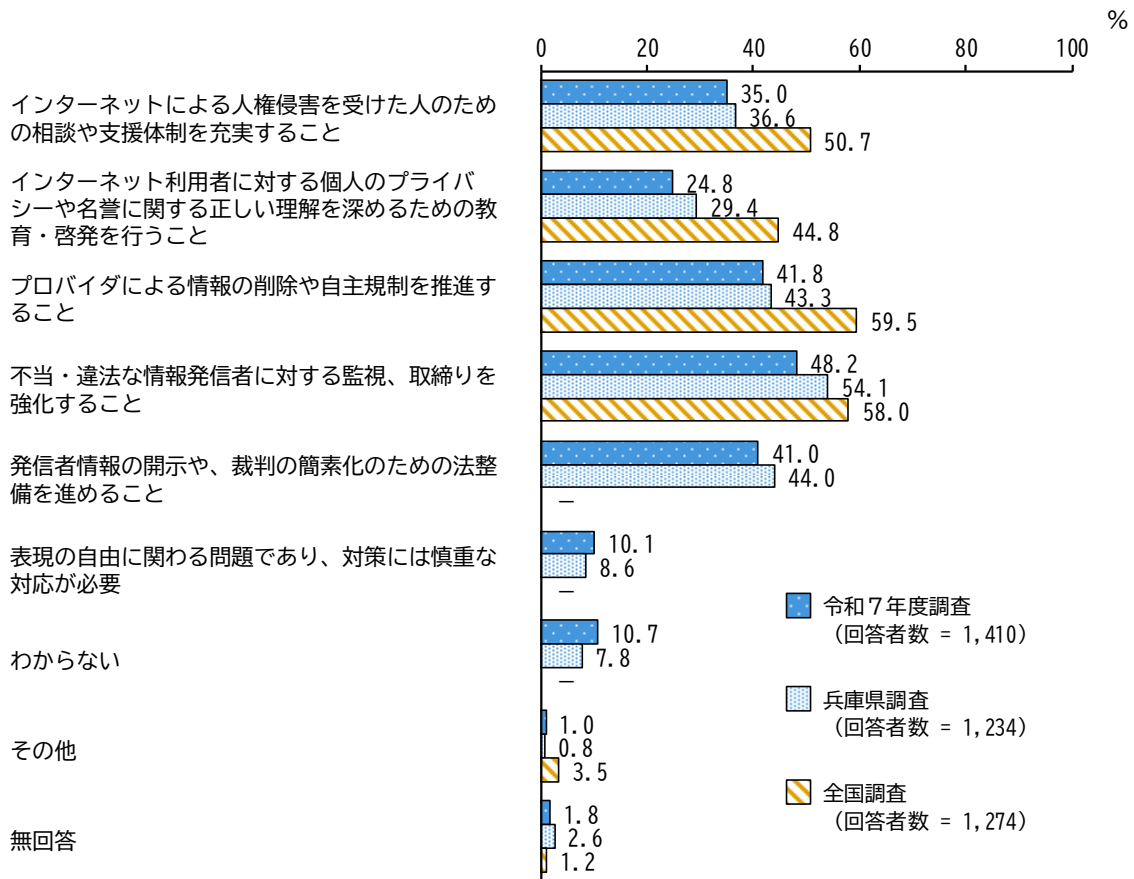


問17 インターネットによる人権問題を解決するためには、どのようなことが必要だと思いますか（○は3つまで）

「不当・違法な情報発信者に対する監視、取締りを強化すること」の割合が48.2%と最も高く、次いで「プロバイダによる情報の削除や自主規制を推進すること」の割合が41.8%、「発信者情報の開示や、裁判の簡素化のための法整備を進めること」の割合が41.0%となっています。

兵庫県調査と比較すると、「不当・違法な情報発信者に対する監視、取締りを強化すること」の割合が5.9ポイント低くなっています。

全国調査では、「プロバイダによる情報の削除や自主規制を推進すること」の割合が59.5%と最も高く、次いで「不当・違法な情報発信者に対する監視、取締りを強化すること」の割合が58.0%、「インターネットによる人権侵害を受けた人のための相談や支援体制を充実すること」の割合が50.7%となっています。



※新規設問のため、過去調査との比較はできません。

※全国調査に「発信者情報の開示や、裁判の簡素化のための法整備を進めること」「表現の自由に関わる問題であり、対策には慎重な対応が必要」「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別にみると、大きな差はみられません。

年齢別にみると、10歳代から60歳代まで年齢が上がるほど「インターネットによる人権侵害を受けた人のための相談や支援体制を充実すること」の割合が高い傾向にあります。また、10歳代で「インターネット利用者に対する個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための教育・啓発を行うこと」、50歳代で「プロバイダによる情報の削除や自主規制を推進すること」の割合が高くなっています。

単位：％

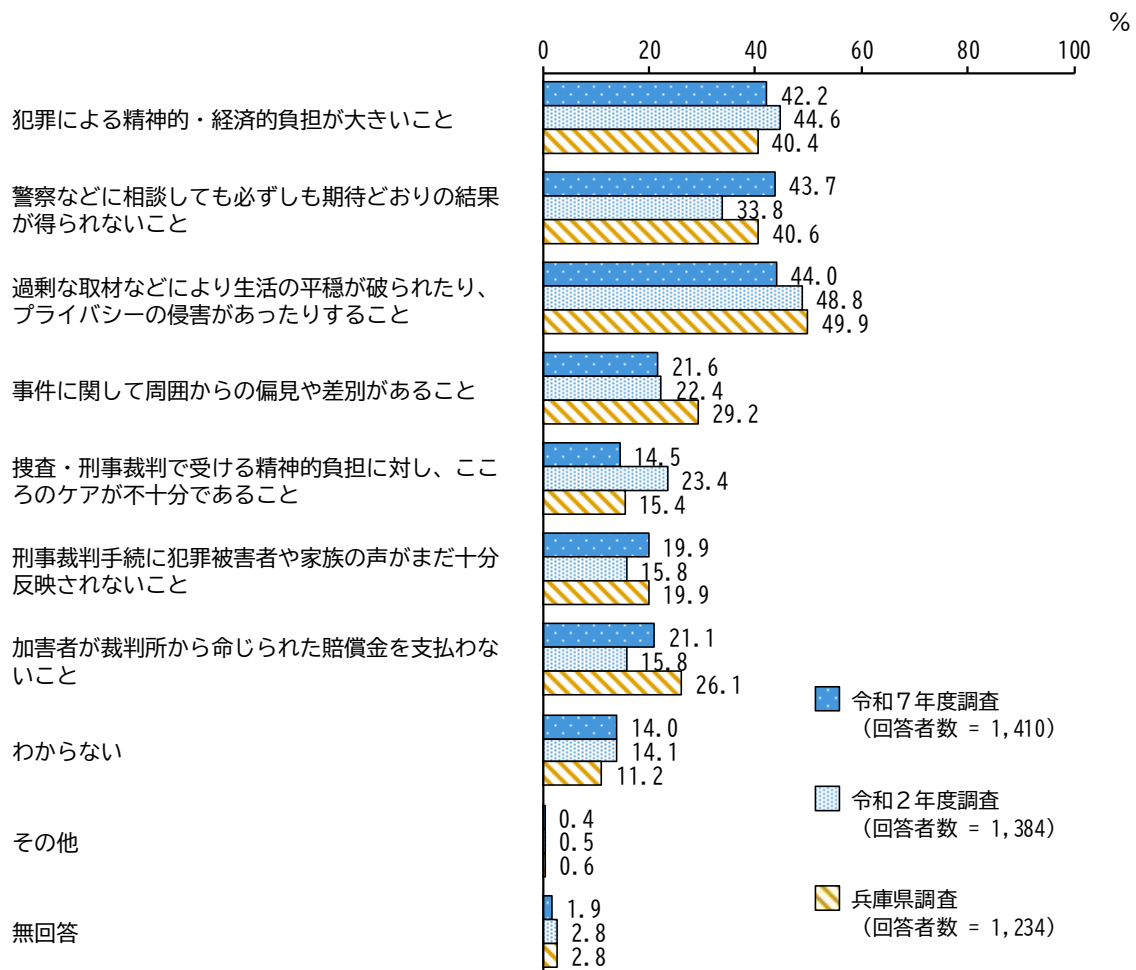
区分		回答者数(件)	インターネットによる人権侵害を受けた人のための相談や支援体制を充実すること	インターネット利用者に対する個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための教育・啓発を行うこと	プロバイダによる情報の削除や自主規制を推進すること	不当・違法な情報発信者に対する監視、取締りを強化すること	発信者情報の開示や、裁判の簡素化のための法整備を進めること	表現の自由に関わる問題であり、対策には慎重な対応が必要	わからない	その他	無回答
性別	男性	537	36.9	22.5	44.9	50.5	43.0	12.5	8.6	0.7	0.6
	女性	808	33.4	26.2	41.3	47.2	40.2	8.8	11.6	1.2	1.7
	その他(または答えたくない)	14	14.3	21.4	28.6	42.9	42.9	7.1	21.4	0.0	7.1
年齢別	10歳代	53	20.8	35.8	24.5	47.2	37.7	18.9	7.5	1.9	0.0
	20歳代	71	28.2	23.9	28.2	40.8	33.8	16.9	8.5	2.8	1.4
	30歳代	114	28.1	23.7	41.2	49.1	45.6	18.4	8.8	1.8	0.0
	40歳代	181	32.0	32.6	38.1	44.2	43.1	8.8	7.2	1.1	0.6
	50歳代	267	32.6	27.0	53.2	52.4	49.8	9.0	5.2	1.1	0.7
	60歳代	236	41.5	21.6	51.3	54.2	48.3	5.1	9.3	0.0	0.0
	70歳以上	436	37.8	21.3	37.6	46.1	32.6	10.1	17.0	0.9	3.0

問18 犯罪被害者の方やその家族について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか（〇は3つまで）

「過剰な取材などにより生活の平穏が破られたり、プライバシーの侵害があったりすること」の割合が44.0%と最も高く、次いで「警察などに相談しても必ずしも期待どおりの結果が得られないこと」の割合が43.7%、「犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと」の割合が42.2%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「警察などに相談しても必ずしも期待どおりの結果が得られないこと」の割合が9.9ポイント、「加害者が裁判所から命じられた賠償金を支払わないこと」の割合が5.3ポイント増加しています。一方、「捜査・刑事裁判で受ける精神的負担に対し、こころのケアが不十分であること」の割合が8.9ポイント減少しています。

兵庫県調査と比較すると、「過剰な取材などにより生活の平穏が破られたり、プライバシーの侵害があったりすること」の割合が5.9ポイント、「事件に関して周囲からの偏見や差別があること」の割合が7.6ポイント低くなっています。



※令和2年度調査では、「捜査・刑事裁判で受ける精神的負担に対し、こころのケアが不十分であること」が「捜査・刑事裁判で受ける精神的負担が大きいにも関わらず、こころのケアがされないこと」となっていました。

※平成27年度調査では、「犯罪被害者などに関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。

【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「警察などに相談しても必ずしも期待どおりの結果が得られないこと」「加害者が裁判所から命じられた賠償金を支払わないこと」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、40歳代、50歳代で「犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと」、30歳代、40歳代で「警察などに相談しても必ずしも期待どおりの結果が得られないこと」、30歳代、50歳代で「過剰な取材などにより生活の平穏が破られたり、プライバシーの侵害があったりすること」、30歳代で「事件に関して周囲からの偏見や差別があること」、50歳代で「刑事裁判手続に犯罪被害者や家族の声がまだ十分反映されないこと」「加害者が裁判所から命じられた賠償金を支払わないこと」の割合が高くなっています。

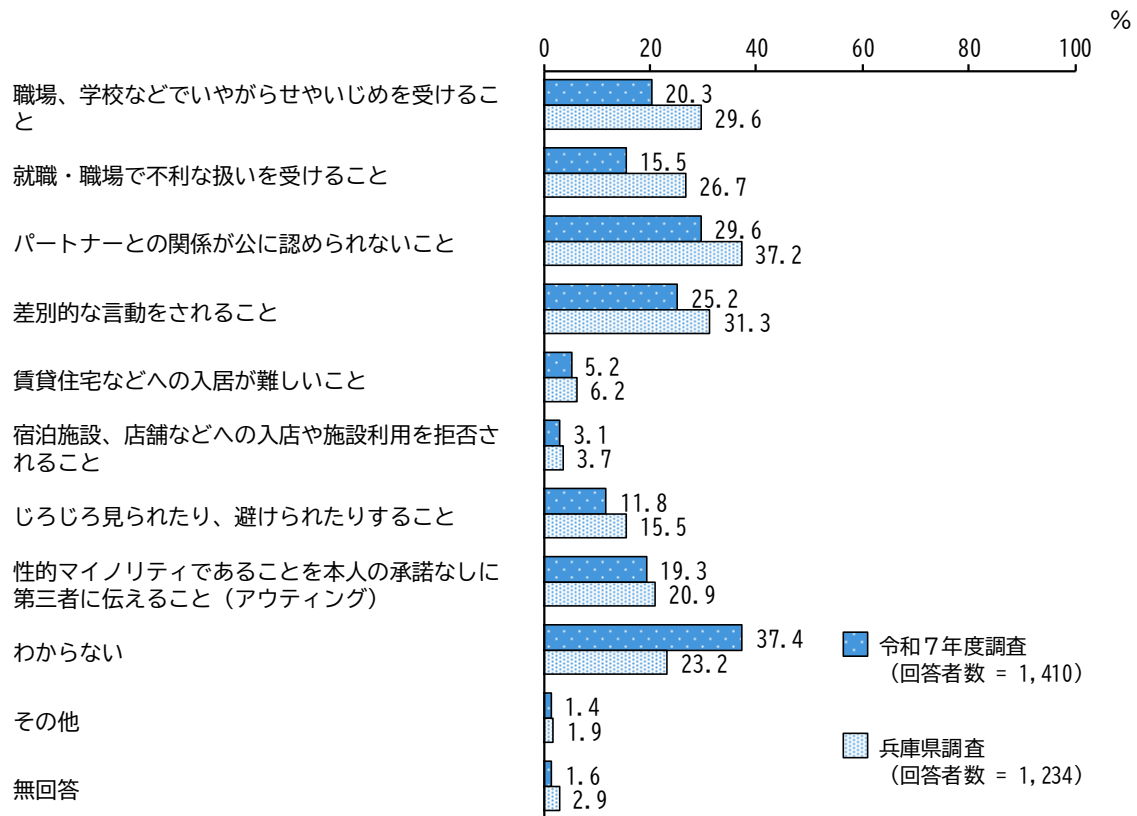
単位：％

区分		回答者数 (件)	犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと	警察などにも期待どおりの結果が得られないこと	過剰な取材などにより生活の平穏が破られたり、プライバシーの侵害があったりすること	事件に関して周囲からの偏見や差別があること	捜査・刑事裁判で受ける精神的負担に対し、こころのケアが不十分であること	刑事裁判手続に犯罪被害者や家族の声がまだ十分反映されないこと	加害者が裁判所から命じられた賠償金を支払わないこと	わからない	その他	無回答
性別	男性	537	43.9	47.9	43.0	19.6	13.8	20.3	25.5	10.8	0.7	1.5
	女性	808	41.7	42.1	45.3	22.9	15.3	20.3	18.7	15.1	0.1	1.5
	その他（または答えたくない）	14	28.6	42.9	42.9	21.4	7.1	14.3	14.3	35.7	0.0	0.0
年齢別	10歳代	53	39.6	47.2	37.7	24.5	7.5	15.1	15.1	18.9	0.0	0.0
	20歳代	71	35.2	47.9	46.5	23.9	12.7	18.3	25.4	8.5	0.0	0.0
	30歳代	114	44.7	52.6	50.9	28.1	17.5	16.7	24.6	7.0	0.0	1.8
	40歳代	181	53.0	51.4	45.9	19.9	16.6	16.0	19.9	8.8	1.1	1.7
	50歳代	267	51.7	47.2	51.7	24.0	12.0	26.6	26.2	6.7	0.7	0.0
	60歳代	236	43.2	48.3	46.2	21.2	16.1	18.6	21.6	14.0	0.0	1.3
	70歳以上	436	33.0	35.1	36.9	18.1	15.4	20.6	18.3	21.6	0.2	2.5

問19 LGBTQなどの性的マイノリティに関し、あなたは現在、特にどのような人権問題が起きていると思われますか（〇は3つまで）

「わからない」の割合が37.4%と最も高く、次いで「パートナーとの関係が公に認められないこと」の割合が29.6%、「差別的な言動をされること」の割合が25.2%となっています。

兵庫県調査と比較すると、「わからない」の割合が14.2ポイント高くなっています。一方、「職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること」の割合が9.3ポイント、「就職・職場で不利な扱いを受けること」の割合が11.2ポイント、「パートナーとの関係が公に認められないこと」の割合が7.6ポイント、「差別的な言動をされること」の割合が6.1ポイント低くなっています。



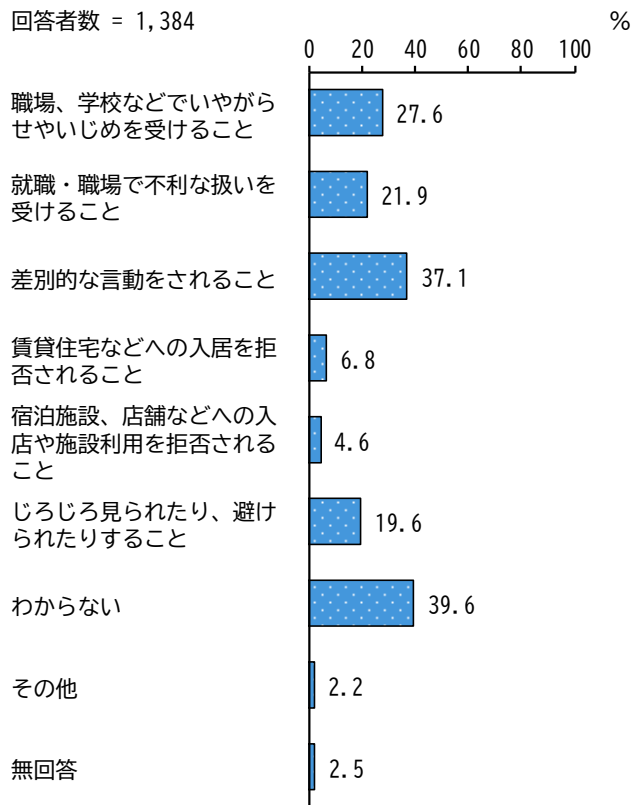
※令和2年度調査では、設問が分かれていたため参考として別に掲載します。

※平成27年度調査では、「性同一性障害（心と体の性が一致しない人）に関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。

【参考 令和2年度調査】

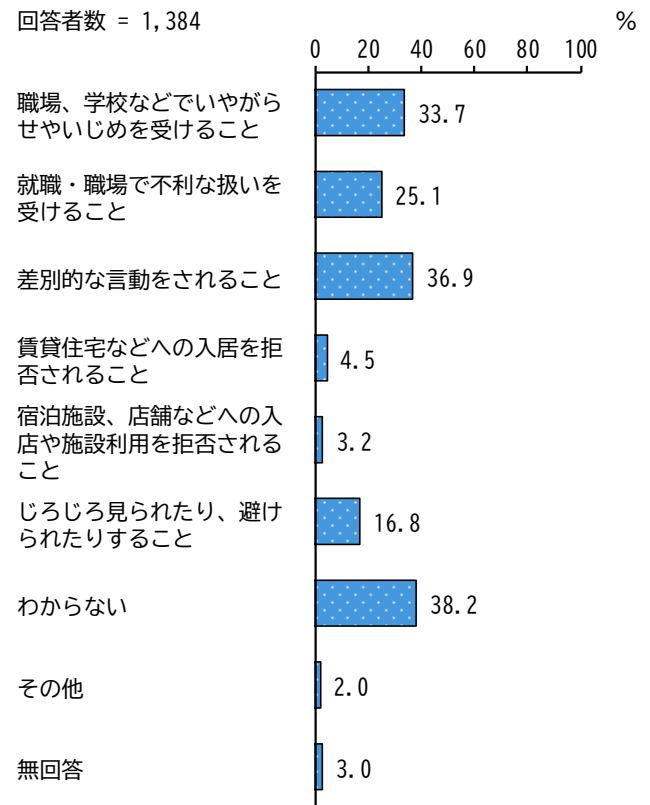
問 異性愛、同性愛などといった性的指向について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

回答者数 = 1,384



問 生物学的な性ところの性が一致しない性同一性障害者について、あなたが、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

回答者数 = 1,384



【性別・年齢別】

性別にみると、男性に比べ、女性で「パートナーとの関係が公に認められないこと」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、年齢が下がるほど「パートナーとの関係が公に認められないこと」の割合が高い傾向にあり、70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること」「性的マイノリティであることを本人の承諾なしに第三者に伝えること（アウティング）」の割合が高い傾向にあります。また、10歳代で「じろじろ見られたり、避けられたりすること」の割合が高くなっています。

単位：%

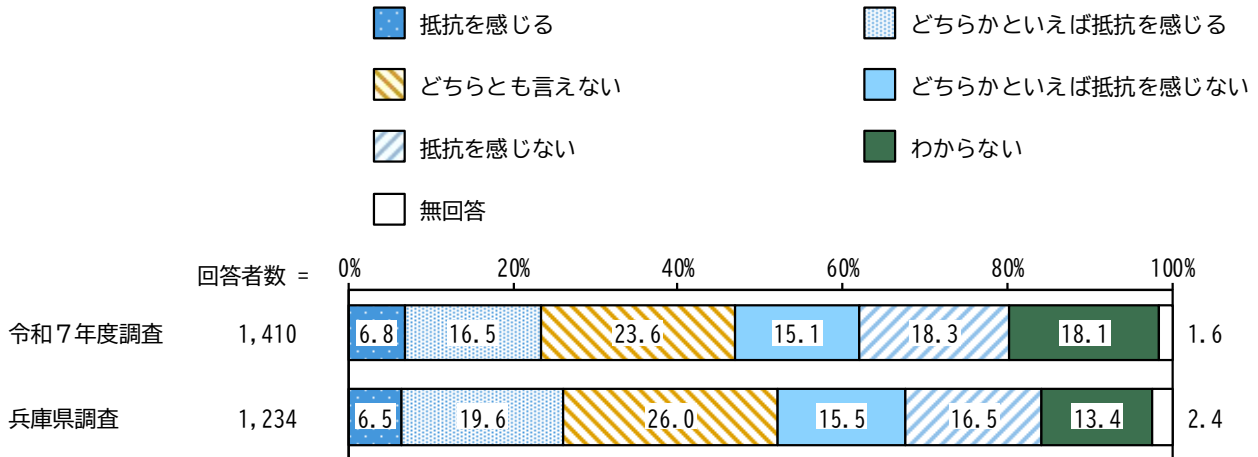
区分		回答者数(件)	職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること	就職・職場で不利な扱いを受けること	パートナーとの関係が公に認められないこと	差別的な言動をされること	賃貸住宅などへの入居が難しいこと	宿泊施設・店舗などへの入店や施設利用を拒否されること	じろじろ見られたり、避けられたりすること	性的マイノリティであることを本人の承諾なしに第三者に伝えること（アウティング）	わからない	その他	無回答
性別	男性	537	21.2	15.1	24.6	24.6	3.7	3.7	11.9	20.1	39.3	2.2	1.3
	女性	808	19.9	15.3	32.9	25.7	6.2	2.8	12.0	19.1	36.0	1.0	1.2
	その他（または答えたくない）	14	7.1	14.3	35.7	14.3	0.0	0.0	14.3	28.6	42.9	0.0	0.0
年齢別	10歳代	53	26.4	13.2	45.3	26.4	5.7	1.9	26.4	20.8	22.6	1.9	0.0
	20歳代	71	16.9	9.9	42.3	32.4	8.5	7.0	19.7	15.5	21.1	5.6	0.0
	30歳代	114	28.1	11.4	43.0	26.3	7.9	7.0	10.5	28.1	28.1	0.0	0.9
	40歳代	181	21.5	10.5	36.5	24.9	1.7	1.7	14.4	23.2	29.3	3.3	1.1
	50歳代	267	21.7	21.3	34.1	30.7	6.0	2.6	11.2	22.8	28.8	2.2	0.0
	60歳代	236	18.2	15.7	25.4	27.5	5.5	4.2	15.7	22.0	39.8	0.8	0.8
	70歳以上	436	17.7	15.1	18.8	19.5	4.6	1.8	7.3	12.8	51.8	0.2	2.8



問20 家族や親しい人から、LGBTQなどの性的マイノリティだと打ち明けられた場合、あなたはどのように感じますか（○は1つ）

「抵抗を感じる」「どちらかといえば抵抗を感じる」を合わせた“抵抗を感じる”の割合が23.3%、「どちらかといえば抵抗を感じない」「抵抗を感じない」を合わせた“抵抗を感じない”の割合が33.4%となっています。

兵庫県調査と比較すると、大きな差はみられません。



※新規設問のため、過去調査との比較はできません。

【性別・年齢別】

性別にみると、男性に比べ、女性で“抵抗を感じない”の割合が高くなっています。

年齢別にみると、20歳代から70歳以上まで年齢が上がるほど“抵抗を感じる”の割合が高い傾向にあります。また、20歳代で「抵抗を感じない」の割合が高く、「どちらかといえば抵抗を感じる」「どちらとも言えない」の割合が低くなっています。

単位：％

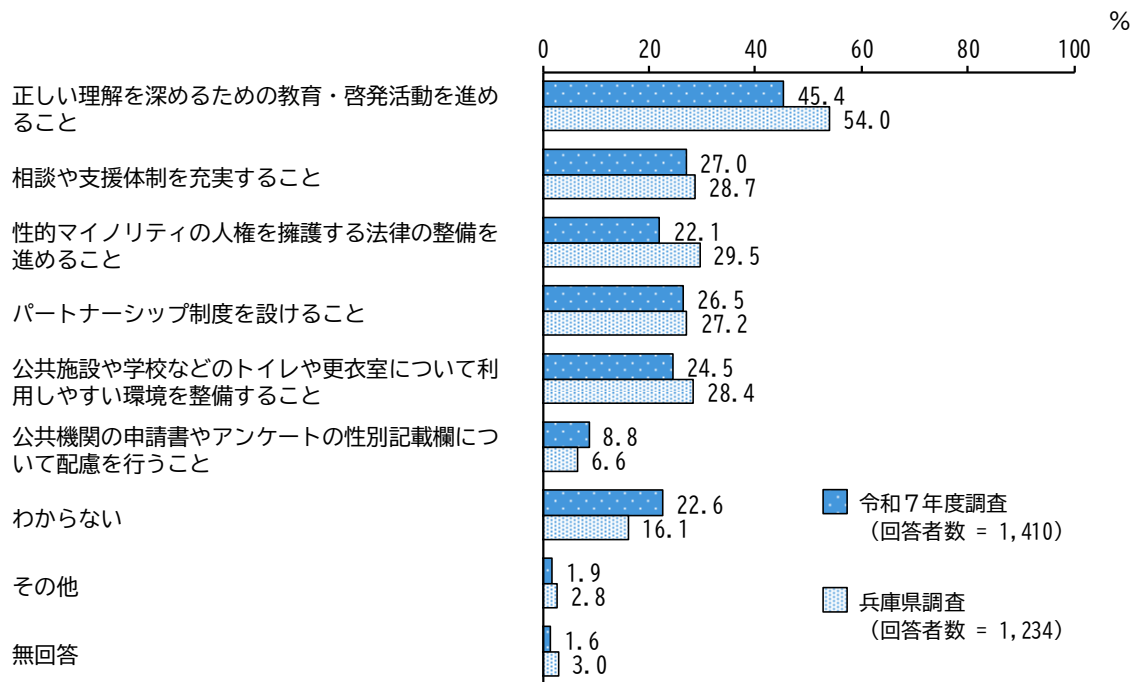
区分	回答者数(件)	抵抗を感じる	どちらかといえば抵抗を感じる	どちらとも言えない	どちらかといえば抵抗を感じない	抵抗を感じない	わからない	無回答
性別	男性	10.1	19.2	24.4	13.0	13.4	18.8	1.1
	女性	4.5	14.9	23.5	16.8	21.9	17.3	1.1
	その他(または答えたくない)	7.1	14.3	7.1	0.0	42.9	28.6	0.0
年齢別	10歳代	1.9	15.1	24.5	11.3	34.0	13.2	0.0
	20歳代	2.8	5.6	11.3	21.1	45.1	14.1	0.0
	30歳代	5.3	9.6	17.5	18.4	37.7	11.4	0.0
	40歳代	6.1	16.0	23.8	20.4	24.3	7.7	1.7
	50歳代	4.1	15.0	26.6	17.6	21.3	15.4	0.0
	60歳代	7.6	19.1	22.0	16.9	14.0	19.9	0.4
	70歳以上	10.1	20.2	25.9	9.4	6.0	25.9	2.5



問21 LGBTQなどの性的マイノリティの人権問題を解決するためには、どのようなことが必要だと思いますか（〇は3つまで）

「正しい理解を深めるための教育・啓発活動を進めること」の割合が45.4%と最も高く、次いで「相談や支援体制を充実すること」の割合が27.0%、「パートナーシップ制度を設けること」の割合が26.5%となっています。

兵庫県調査と比較すると、「わからない」の割合が6.5ポイント高くなっています。一方、「正しい理解を深めるための教育・啓発活動を進めること」の割合が8.6ポイント、「性的マイノリティの人権を擁護する法律の整備を進めること」の割合が7.4ポイント低くなっています。



※新規設問のため、過去調査との比較はできません。

【性別・年齢別】

性別にみると、男性に比べ、女性で「パートナーシップ制度を設けること」「公共施設や学校などのトイレや更衣室について利用しやすい環境を整備すること」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、10歳代から60歳代まで年齢が上がるほど「相談や支援体制を充実すること」の割合が高く、70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「パートナーシップ制度を設けること」の割合が高くなっています。

単位：％

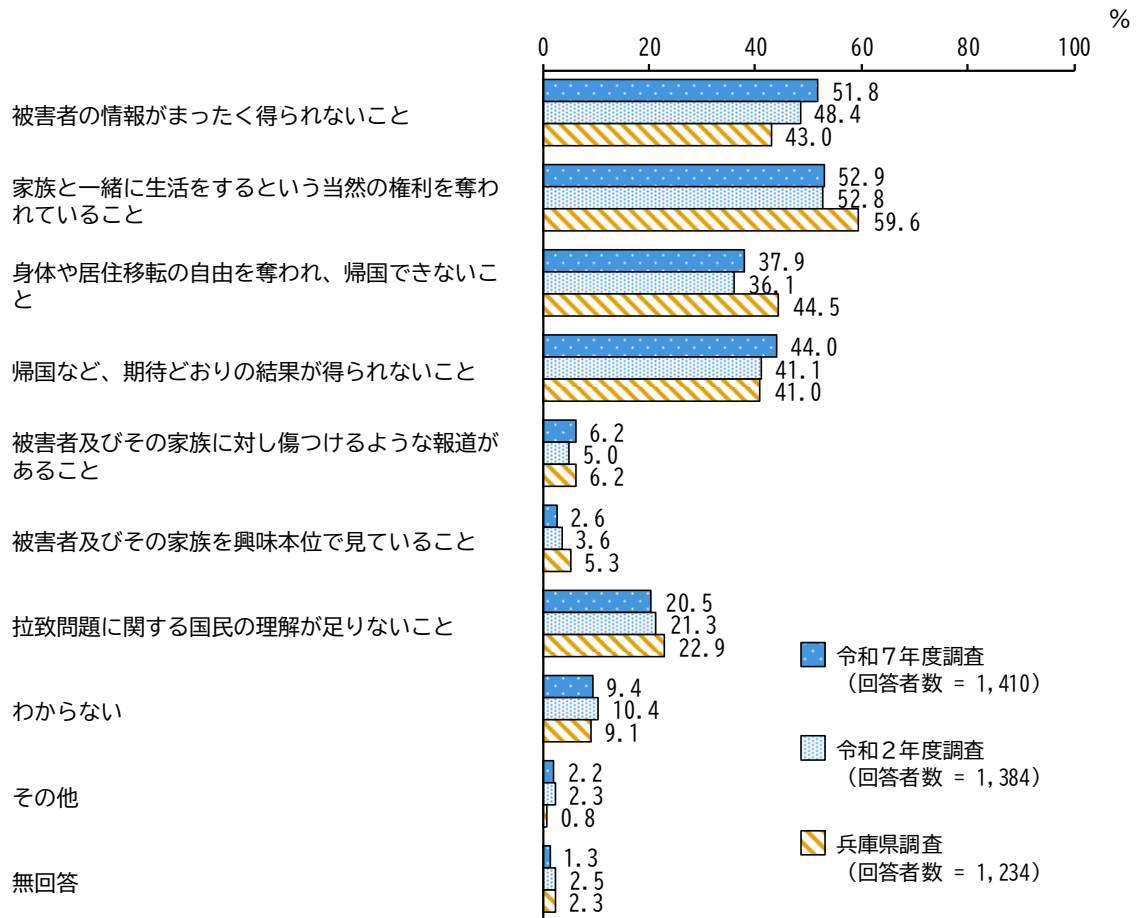
区分		回答者数(件)	正しい理解を深めるための教育・啓発活動を進めること	相談や支援体制を充実すること	性的マイノリティの人権を擁護する法律の整備を進めること	パートナーシップ制度を設けること	公共施設や学校などのトイレや更衣室について利用しやすい環境を整備すること	公共機関の申請書やアンケートの性別記載欄について配慮を行うこと	わからない	その他	無回答
性別	男性	537	44.5	29.8	25.1	22.7	19.0	9.3	24.0	2.8	0.9
	女性	808	46.0	25.7	20.3	29.7	28.2	8.0	21.4	1.5	1.4
	その他(または答えたくない)	14	28.6	14.3	14.3	28.6	21.4	14.3	35.7	0.0	0.0
年齢別	10歳代	53	47.2	18.9	20.8	30.2	15.1	9.4	20.8	1.9	0.0
	20歳代	71	43.7	21.1	14.1	32.4	22.5	8.5	18.3	5.6	0.0
	30歳代	114	49.1	22.8	17.5	40.4	29.8	4.4	21.9	1.8	0.9
	40歳代	181	53.6	24.3	17.1	35.9	26.0	5.5	14.4	3.9	1.1
	50歳代	267	46.4	29.6	25.1	32.2	25.8	8.2	18.0	3.0	0.0
	60歳代	236	42.4	31.4	27.1	25.8	20.3	8.9	22.9	1.7	0.8
	70歳以上	436	41.7	27.1	22.9	15.8	25.5	11.0	30.0	0.2	2.5

問22 北朝鮮当局によって拉致された被害者などについて、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか（〇は3つまで）

「家族と一緒に生活をするという当然の権利を奪われていること」の割合が52.9%と最も高く、次いで「被害者の情報がまったく得られないこと」の割合が51.8%、「帰国など、期待どおりの結果が得られないこと」の割合が44.0%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

兵庫県調査と比較すると、「被害者の情報がまったく得られないこと」の割合が8.8ポイント高くなっています。一方、「家族と一緒に生活をするという当然の権利を奪われていること」の割合が6.7ポイント、「身体や居住移転の自由を奪われ、帰国できないこと」の割合が6.6ポイント低くなっています。



※平成27年度調査では、「北朝鮮当局によって拉致された被害者に関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。

【性別・年齢別】

性別にみると、男性に比べ、女性で「家族と一緒に生活をするという当然の権利を奪われていること」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、20歳代から70歳以上まで年齢が上がるほど「被害者の情報がまったく得られないこと」の割合が高くなっています。

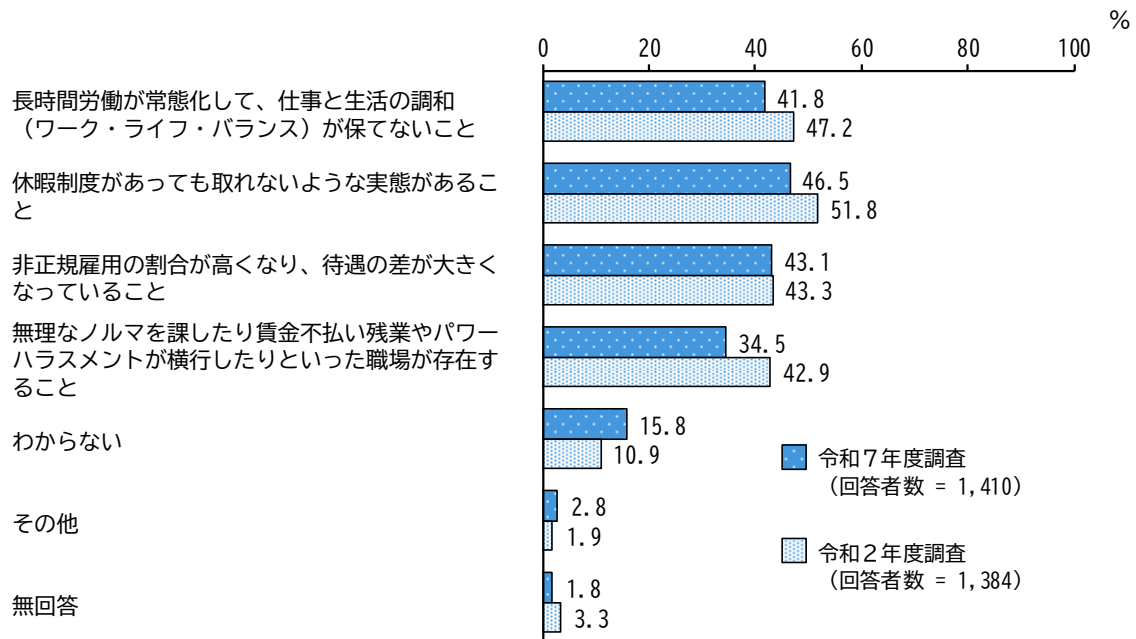
単位：％

区分		回答者数(件)	被害者の情報がまったく得られないこと	家族と一緒に生活をするという当然の権利を奪われていること	身体や居住移転の自由を奪われ、帰国できないこと	帰国など、期待とおりの結果が得られないこと	被害者及びその家族に道があること	被害者及びその家族に興味本位で見ていること	拉致問題に関する国民の理解が足りないこと	わからない	その他	無回答
性別	男性	537	51.8	50.5	37.6	46.6	5.6	3.2	20.7	8.6	3.7	1.5
	女性	808	51.4	55.6	38.4	43.4	6.7	2.2	20.3	9.4	1.4	0.7
	その他(または答えたくない)	14	21.4	42.9	42.9	21.4	0.0	0.0	7.1	50.0	0.0	0.0
年齢別	10歳代	53	35.8	49.1	37.7	20.8	5.7	0.0	11.3	26.4	3.8	0.0
	20歳代	71	35.2	40.8	29.6	35.2	4.2	1.4	14.1	23.9	4.2	0.0
	30歳代	114	42.1	51.8	42.1	27.2	8.8	6.1	18.4	19.3	1.8	0.9
	40歳代	181	49.2	56.4	33.1	44.2	8.8	5.5	13.8	8.8	2.2	1.1
	50歳代	267	51.7	53.9	42.7	44.2	10.9	2.2	21.0	6.0	2.2	0.0
	60歳代	236	55.5	55.1	41.1	53.4	5.1	0.8	19.9	5.5	3.0	0.4
	70歳以上	436	56.7	54.4	36.5	48.6	2.5	2.3	25.7	6.9	1.6	2.1

問23 働く人の人権について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか（○は3つまで）

「休暇制度があっても取れないような実態があること」の割合が46.5%と最も高く、次いで「非正規雇用の割合が高くなり、待遇の差が大きくなっていること」の割合が43.1%、「長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が保てないこと」の割合が41.8%となっています。

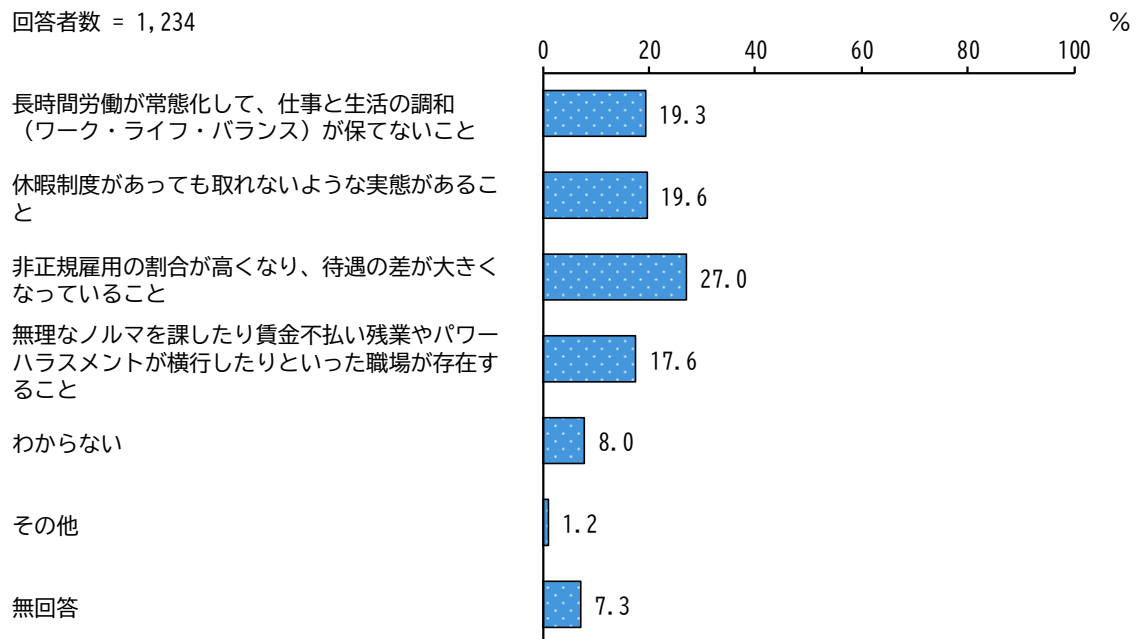
令和2年度調査と比較すると、「長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が保てないこと」の割合が5.4ポイント、「休暇制度があっても取れないような実態があること」の割合が5.3ポイント、「無理なノルマを課したり賃金不払い残業やパワーハラスメントが横行したりといった職場が存在すること」の割合が8.4ポイント減少しています。



※平成27年度調査では、「働く人の権利に関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。
 ※兵庫県調査では、単一回答のため参考として掲載します。

【県調査 参考】

回答者数 = 1,234



【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「非正規雇用の割合が高くなり、待遇の差が大きくなっていること」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、10歳代から60歳代まで年齢が上がるほど「非正規雇用の割合が高くなり、待遇の差が大きくなっていること」の割合が高く、70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が保てないこと」の割合が高くなっています。また、10歳代で「休暇制度があっても取れないような実態があること」の割合が高くなっています。

単位：%

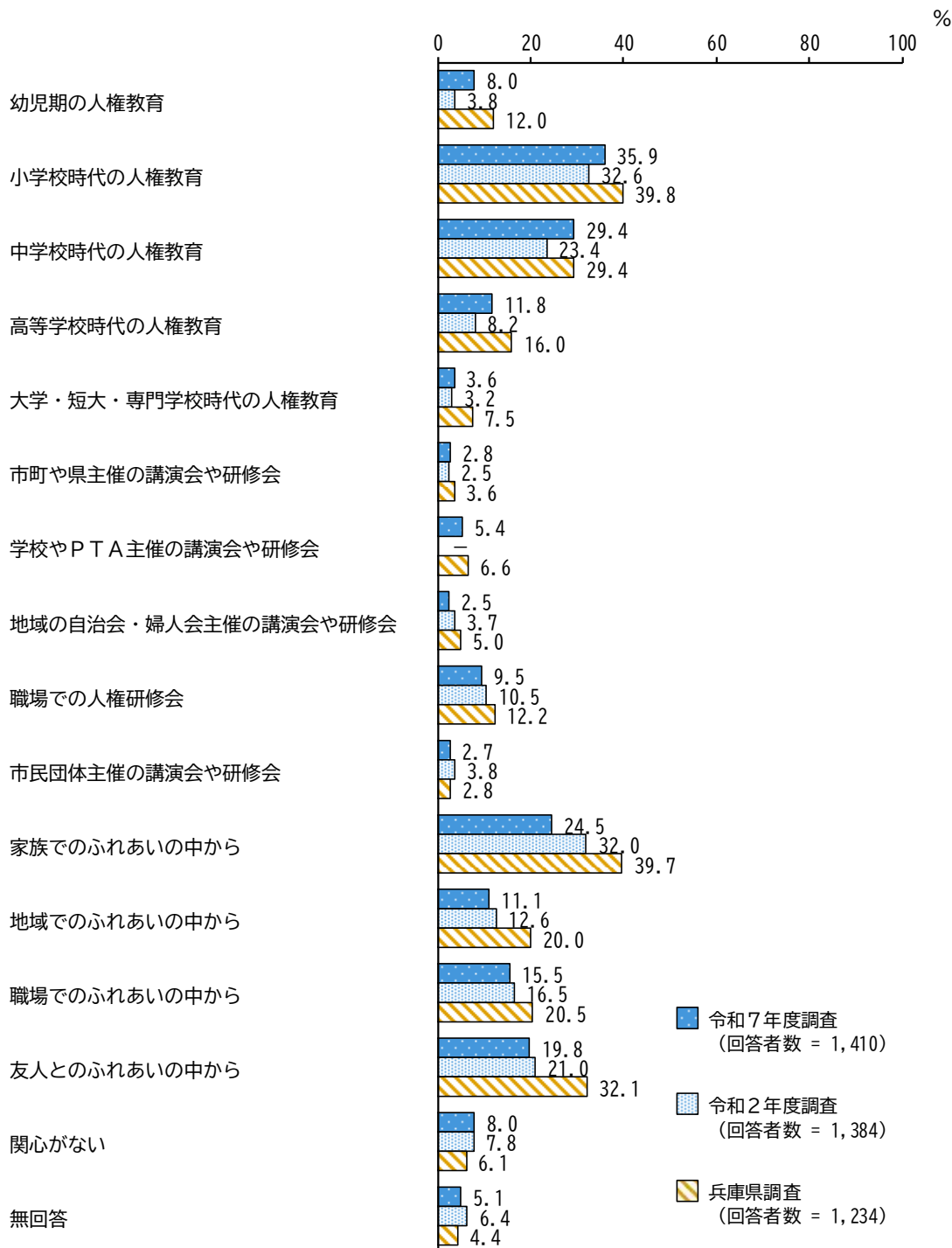
区分		回答者数 (件)	長時間労働が常態化して、 仕事と生活の調和（ワーク・ ライフ・バランス）が保てな いこと	休暇制度があっても取れな いような実態があること	非正規雇用の割合が高くな り、待遇の差が大きくなっ ていること	無理なノルマを課したり賃 金不払い残業やパワーハラ スメントが横行したりとい った職場が存在すること	わからない	その他	無回答
性別	男性	537	44.5	49.5	47.3	36.3	12.1	3.9	0.7
	女性	808	40.3	44.7	40.5	33.8	18.3	2.1	1.7
	その他（または 答えたくない）	14	42.9	35.7	42.9	35.7	14.3	7.1	0.0
年齢別	10歳代	53	50.9	56.6	22.6	41.5	13.2	3.8	0.0
	20歳代	71	59.2	52.1	26.8	32.4	14.1	1.4	0.0
	30歳代	114	67.5	53.5	33.3	43.9	8.8	3.5	0.0
	40歳代	181	53.6	48.1	39.8	29.8	8.3	8.3	1.1
	50歳代	267	43.4	52.8	47.6	35.6	10.1	3.0	0.7
	60歳代	236	34.7	42.8	50.0	38.6	15.7	1.7	1.3
	70歳以上	436	30.0	39.9	45.6	31.9	25.0	1.1	2.5

問24 あなたが、人権尊重の考えについて強く影響を受けたと思われるものは次のどれですか。当てはまるものを選んでください（○は3つまで）

「小学校時代の人権教育」の割合が35.9%と最も高く、次いで「中学校時代の人権教育」の割合が29.4%、「家族でのふれあいの中から」の割合が24.5%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「中学校時代の人権教育」の割合が6.0ポイント増加しています。一方、「家族でのふれあいの中から」の割合が7.5ポイント減少しています。

兵庫県調査と比較すると、「家族でのふれあいの中から」の割合が15.2ポイント、「地域でのふれあいの中から」の割合が8.9ポイント、「友人とのふれあいの中から」の割合が12.3ポイント低くなっています。



※令和2年度調査では、「学校やPTA主催の講演会や研修会」の選択肢はありません。
 ※平成27年度調査では、該当する設問がありませんでした。

【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「中学校時代の人権教育」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、年齢が上がるほど「地域でのふれあいの中から」の割合が高い傾向にあり、10歳代から60歳代まで年齢が上がるほど「職場での人権研修会」の割合が高くなっています。また、40歳代、50歳代で「小学校時代の人権教育」、10歳代で「中学校時代の人権教育」「高等学校時代の人権教育」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		回答者数 (件)	幼児期の人権教育	小学校時代の人権教育	中学校時代の人権教育	高等学校時代の人権教育	大学・短大・専門学校時代の人権教育	市町や県主催の講演会や研修会	学校やPTA主催の講演会や研修会	地域の自治会・婦人会主催の講演会や研修会
性別	男性	537	9.1	36.7	33.7	11.4	4.7	3.2	2.8	1.9
	女性	808	7.7	36.5	27.2	11.6	3.0	2.5	7.2	2.8
	その他（または答えたくない）	14	0.0	7.1	35.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢別	10歳代	53	3.8	41.5	50.9	30.2	1.9	0.0	1.9	0.0
	20歳代	71	7.0	39.4	40.8	12.7	4.2	0.0	2.8	0.0
	30歳代	114	12.3	43.9	31.6	14.9	7.9	0.0	0.9	0.0
	40歳代	181	9.9	54.1	35.9	14.4	4.4	0.0	5.0	0.0
	50歳代	267	7.9	53.9	29.2	9.7	2.2	1.5	6.7	1.9
	60歳代	236	9.3	33.5	31.8	11.9	2.5	3.8	4.2	2.1
	70歳以上	436	6.4	16.1	21.8	8.3	3.4	5.5	7.3	5.3

区分		職場での人権研修会	市民団体主催の講演会や研修会	家族でのふれあいの中から	地域でのふれあいの中から	職場でのふれあいの中から	友人とのふれあいの中から	関心がない	無回答
性別	男性	11.9	2.2	22.7	11.9	17.7	19.6	8.0	3.2
	女性	8.4	2.6	26.4	10.3	14.5	19.9	7.5	5.4
	その他（または答えたくない）	0.0	0.0	28.6	7.1	7.1	21.4	21.4	7.1
年齢別	10歳代	0.0	1.9	22.6	1.9	1.9	18.9	5.7	0.0
	20歳代	4.2	0.0	25.4	4.2	12.7	23.9	16.9	0.0
	30歳代	5.3	0.0	33.3	7.9	18.4	26.3	3.5	2.6
	40歳代	9.4	0.0	26.0	9.4	13.8	22.1	6.6	1.7
	50歳代	10.5	0.7	24.3	7.5	16.9	18.7	5.2	1.5
	60歳代	11.9	4.7	22.9	11.9	16.1	18.2	8.5	2.1
	70歳以上	11.2	4.4	24.3	16.3	17.2	18.6	9.6	10.8

【「人権」を身近に感じる程度別】

「人権」を身近に感じる程度別にみると、身近に感じる人ほど「地域でのふれあいの中から」「友人とのふれあいの中から」の割合が高く、『かなり身近に感じる』から『まったく身近に感じない』まで身近に感じる人ほど「高等学校時代の人権教育」「職場での人権研修会」「家族でのふれあいの中から」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	幼児期の人権教育	小学校時代の人権教育	中学校時代の人権教育	高等学校時代の人権教育	大学・短大・専門学校時代の人権教育	市町や県主催の講演会や研修会	学校やPTA主催の講演会や研修会	地域の自治会・婦人会主催の講演会や研修会
非常に身近に感じる	131	9.9	33.6	28.2	13.0	3.1	3.8	6.1	3.8
かなり身近に感じる	409	9.5	37.9	30.6	14.2	4.6	5.1	5.6	3.2
どちらとも言えない	402	6.5	39.6	33.8	13.9	3.2	1.5	6.2	2.5
あまり身近に感じない	352	7.4	32.7	26.4	8.8	3.4	1.7	4.8	1.4
まったく身近に感じない	44	11.4	27.3	15.9	2.3	2.3	0.0	2.3	2.3
わからない	60	6.7	28.3	21.7	5.0	0.0	1.7	3.3	1.7

区分	職場での人権研修会	市民団体主催の講演会や研修会	家族でのふれあいの中から	地域でのふれあいの中から	職場でのふれあいの中から	友人とのふれあいの中から	関心がない	無回答
非常に身近に感じる	9.2	6.9	28.2	16.0	17.6	22.9	3.1	5.3
かなり身近に感じる	15.2	4.2	29.1	11.7	16.6	22.0	2.9	5.1
どちらとも言えない	8.2	1.2	24.1	10.2	14.7	19.2	5.0	3.0
あまり身近に感じない	7.1	1.4	21.0	9.7	16.5	17.9	14.8	5.4
まったく身近に感じない	2.3	4.5	13.6	6.8	6.8	13.6	34.1	9.1
わからない	0.0	0.0	18.3	13.3	10.0	18.3	16.7	10.0

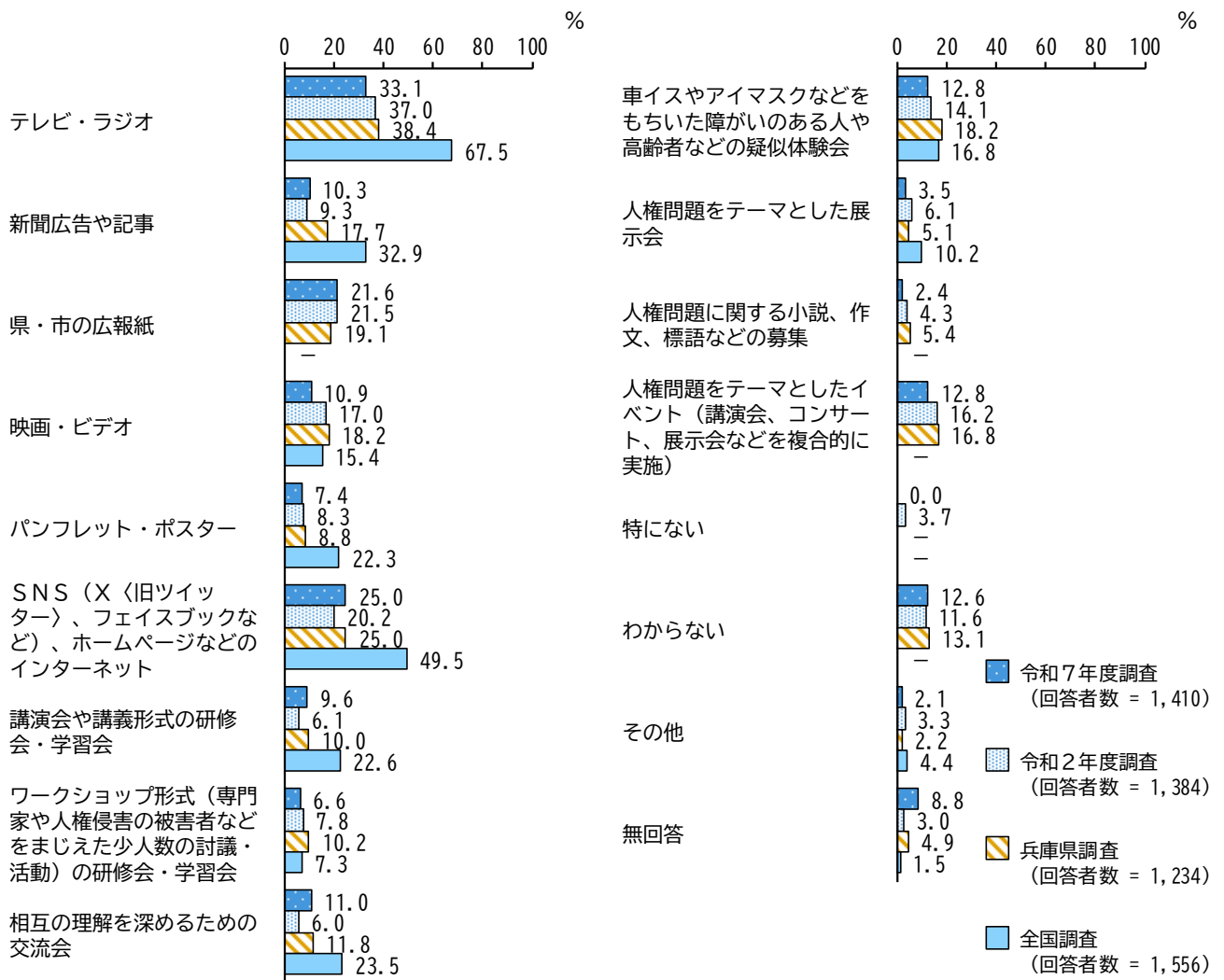
問25 人権啓発を進めるために、市民に対してどのような啓発活動が効果的と思われますか
(〇は3つまで)

「テレビ・ラジオ」の割合が33.1%と最も高く、次いで「SNS (X (旧ツイッター)、フェイスブックなど)、ホームページなどのインターネット」の割合が25.0%、「県・市の広報紙」の割合が21.6%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「映画・ビデオ」の割合が6.1ポイント減少しています。

兵庫県調査と比較すると、「テレビ・ラジオ」の割合が5.3ポイント、「新聞広告や記事」の割合が7.4ポイント、「映画・ビデオ」の割合が7.3ポイント、「車イスやアイマスクなどをもちいた障がいのある人や高齢者などの疑似体験会」の割合が5.4ポイント低くなっています。

全国調査では、「テレビ・ラジオ」の割合が67.5%と最も高く、次いで「SNS (X (旧ツイッター)、フェイスブックなど)、ホームページなどのインターネット」の割合が49.5%、「新聞広告や記事」の割合が32.9%となっています。



※令和2年度調査では、「SNS (X (旧ツイッター)、フェイスブックなど)、ホームページなどのインターネット」が「SNS (ツイッター、フェイスブックなど)、メールマガジン、ホームページなどのインターネット」となっていました。

※平成27年度調査では、該当する設問がありませんでした。

※兵庫県調査には、「特にない」の選択肢はありません。

※全国調査に「県・市の広報紙」「人権問題に関する小説、作文、標語などの募集」「人権問題をテーマとしたイベント (講演会、コンサート、展示会などを複合的に実施)」「特にない」「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「SNS（X〈旧ツイッター〉）、フェイスブックなど）、ホームページなどのインターネット」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、年齢が上がるほど「県・市の広報紙」の割合が高く、「SNS（X〈旧ツイッター〉）、フェイスブックなど）、ホームページなどのインターネット」の割合が低い傾向にあり、30歳代から70歳以上まで年齢が上がるほど「講演会や講義形式の研修会・学習会」の割合が高い傾向にあります。

単位：%

区分	回答者数(件)	テレビ・ラジオ	新聞広告や記事	県・市の広報紙	映画・ビデオ	パンフレット・ポスター	SNS(X〈旧ツイッター〉、フェイスブックなど)、ホームページなどのインターネット	講演会や講義形式の研修会・学習会	ワークショップ形式(専門家や人権侵害の被害者などをまじえた少人数の討議・活動)の研修会・学習会	
性別	男性	537	34.8	10.2	21.6	10.2	8.8	28.9	11.9	5.2
	女性	808	32.1	9.9	21.2	11.5	6.8	23.3	8.0	7.4
	その他(または答えたくない)	14	35.7	14.3	7.1	7.1	7.1	35.7	0.0	0.0
年齢別	10歳代	53	28.3	5.7	5.7	18.9	1.9	54.7	7.5	0.0
	20歳代	71	26.8	7.0	9.9	14.1	11.3	53.5	5.6	4.2
	30歳代	114	31.6	10.5	12.3	12.3	13.2	46.5	4.4	7.0
	40歳代	181	30.9	7.2	16.0	11.0	6.6	33.1	7.2	7.7
	50歳代	267	35.6	9.7	16.5	13.5	7.1	34.5	9.4	4.9
	60歳代	236	37.3	8.5	22.5	16.5	6.8	18.6	9.3	8.1
	70歳以上	436	33.0	13.1	31.2	4.8	7.3	6.9	12.8	7.3

区分	相互の理解を深めるための交流会	車イスやアイマスクなどをもちいた障がいのある人や高齢者などの疑似体験会	人権問題をテーマとした展示会	人権問題に関する小説、作文、標語などの募集	人権問題をテーマとしたイベント(講演会、コンサート、展示会などを複合的に実施)	特になし	わからない	その他	無回答	
性別	男性	11.0	9.7	4.7	2.8	11.7	0.0	12.1	2.4	8.8
	女性	10.4	14.6	2.6	2.4	13.6	0.0	13.1	1.9	8.2
	その他(または答えたくない)	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	21.4	7.1	7.1
年齢別	10歳代	7.5	11.3	5.7	9.4	1.9	0.0	9.4	5.7	3.8
	20歳代	9.9	5.6	2.8	4.2	9.9	0.0	7.0	2.8	12.7
	30歳代	7.0	14.9	1.8	0.0	5.3	0.0	11.4	4.4	10.5
	40歳代	10.5	12.7	2.2	2.2	13.3	0.0	10.5	3.9	9.4
	50歳代	10.5	13.5	2.6	3.0	11.2	0.0	14.2	1.5	4.5
	60歳代	9.7	13.1	2.1	2.5	16.5	0.0	13.1	1.3	5.9
	70歳以上	12.6	12.6	5.3	1.6	15.6	0.0	14.4	1.1	11.0

【人権意識が高まっていると思う程度別】

人権意識が高まっていると思う程度別にみると、そう思う人ほど「新聞広告や記事」の割合が高い傾向にあり、『どちらかといえばそう思う』から『そうは思わない』までそう思う人ほど「SNS（X〈旧ツイッター〉）、フェイスブックなど）、ホームページなどのインターネット」の割合が高くなっています。

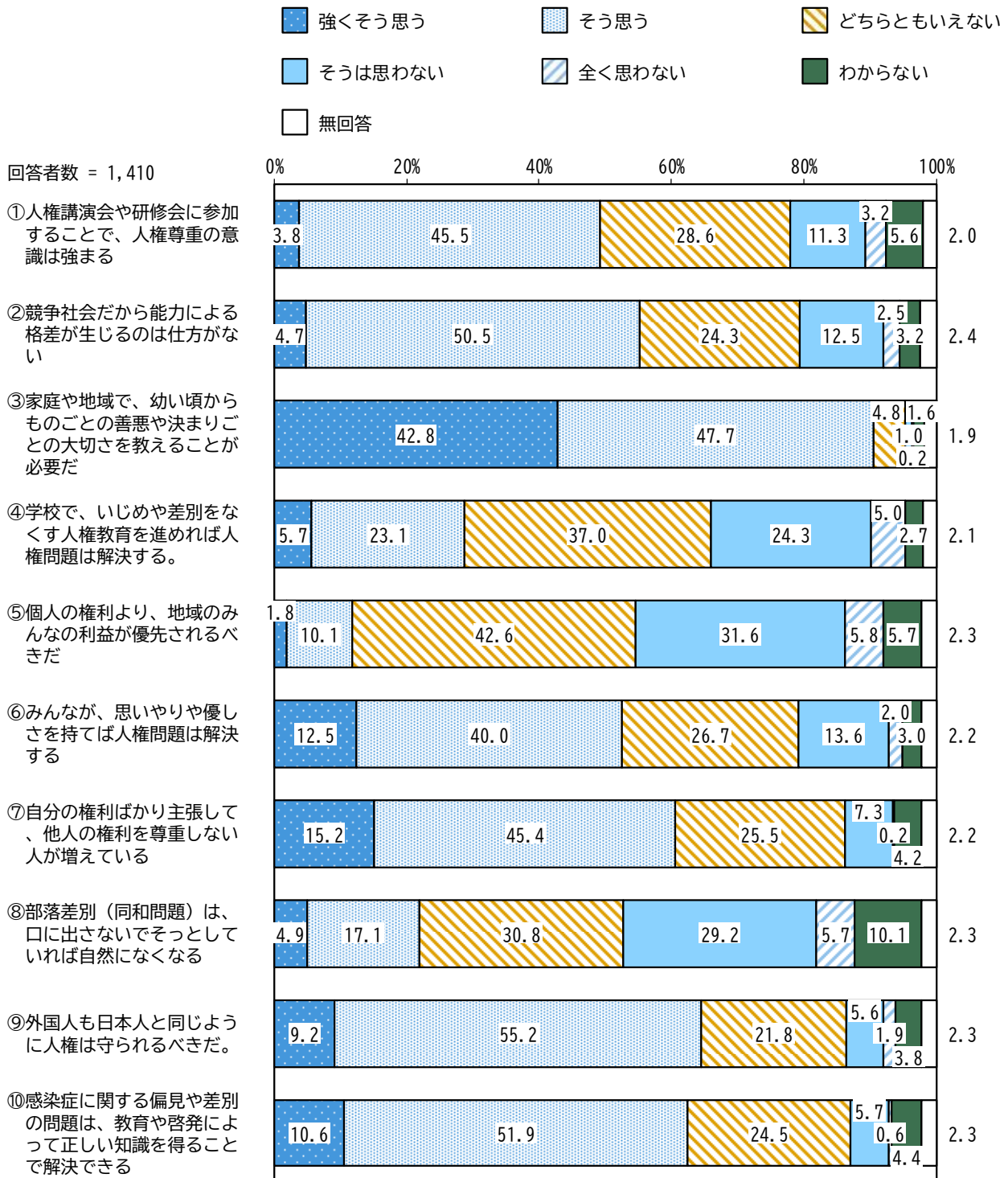
単位：％

区分	回答者数(件)	テレビ・ラジオ	新聞広告や記事	県・市の広報紙	映画・ビデオ	パンフレット・ポスター	インターネット	SNS(X〈旧ツイッター〉、フェイスブックなど)、ホームページなどのインターネット	講演会や講義形式の研修会・学習会	ワークショップ形式(専門家や人権侵害の被害者などをまじえた少人数の討議・活動)の研修会・学習会
そう思う	180	39.4	14.4	26.1	10.6	7.2	22.8	10.0	6.7	
どちらかといえばそう思う	481	34.5	10.8	21.6	12.3	7.7	27.4	11.2	6.4	
どちらとも言えない	532	30.1	9.4	21.2	8.1	7.9	25.2	8.1	7.0	
どちらかといえばそう思わない	110	30.9	10.0	18.2	18.2	6.4	20.9	10.0	7.3	
そうは思わない	96	36.5	6.3	19.8	12.5	6.3	19.8	9.4	5.2	

区分	相互の理解を深めるための交流会	車イスやアイマスクなどをもちいた障がいのある人や高齢者などの疑似体験会	人権問題をテーマとした展示会	人権問題に関する小説、作文、標語などの募集	人権問題をテーマとしたイベント(講演会、コンサート、展示会などを複合的に実施)	特になし	わからない	その他	無回答
そう思う	12.2	13.3	5.6	2.2	13.3	0.0	7.2	2.2	9.4
どちらかといえばそう思う	12.1	12.1	2.9	3.3	12.3	0.0	12.3	0.8	7.9
どちらとも言えない	10.0	14.3	3.6	1.5	13.7	0.0	15.4	2.1	7.3
どちらかといえばそう思わない	11.8	13.6	3.6	3.6	13.6	0.0	13.6	4.5	10.0
そうは思わない	8.3	8.3	3.1	2.1	9.4	0.0	8.3	5.2	14.6

問26 次の①から⑩にあげる考え方について、あなたはどのように思われますか。直観で○をつけてください。

『③家庭や地域で、幼い頃からものごとの善悪や決まりごとの大切さを教えることが必要だ』で「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた“そう思う”が高くなっています。一方、『⑤個人の権利より、地域のみみんなの利益が優先されるべきだ』で「そうは思わない」と「全く思わない」を合わせた“思わない”が高くなっています。



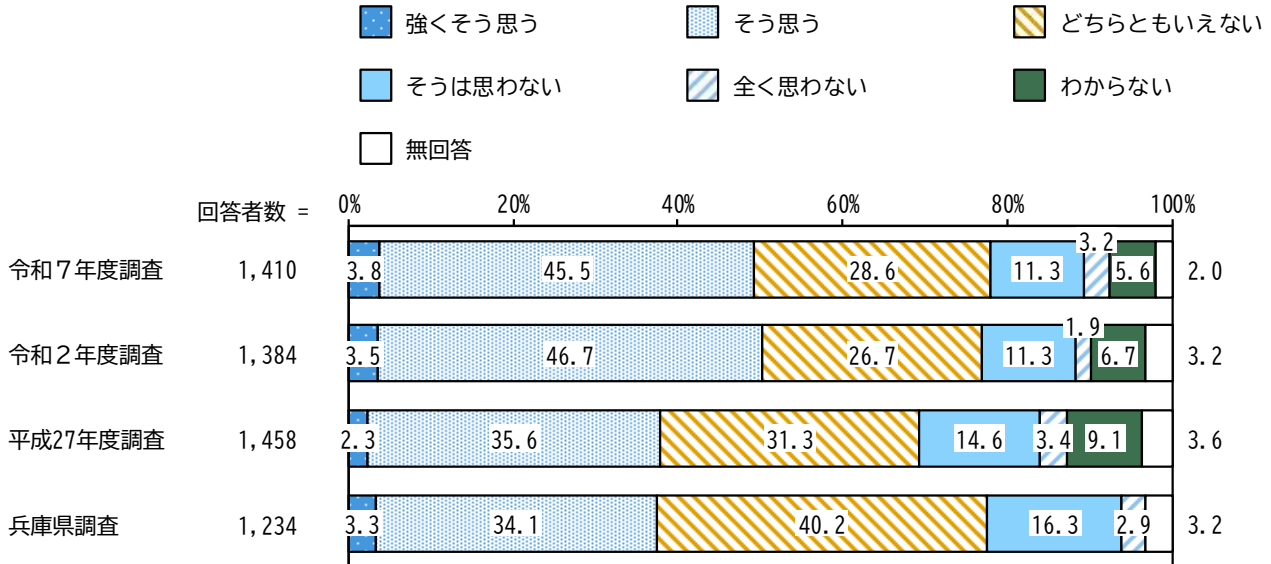
①人権講演会や研修会に参加することで、人権尊重の意識は強まる

【経年比較】

「強くそう思う」「そう思う」を合わせた“そう思う”の割合が49.3%、「そうは思わない」「全く思わない」を合わせた“思わない”の割合が14.5%となっています。

過去調査と比較すると、大きな変化はみられません。

兵庫県調査と比較すると、“そう思う”の割合が11.9ポイント高くなっています。



※兵庫県調査には、「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別にみると、大きな差はみられません。

年齢別にみると、20歳代から60歳代まで年齢が上がるほど「そう思う」の割合が高い傾向にあります。また、10歳代で「どちらともいえない」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	全く思わない	わからない	無回答	
性別	男性	537	4.7	44.5	27.9	12.8	4.3	5.2	0.6
	女性	808	3.3	46.2	29.3	10.6	2.4	5.8	2.4
	その他(または答えたくない)	14	0.0	14.3	42.9	7.1	14.3	21.4	0.0
年齢別	10歳代	53	9.4	45.3	13.2	15.1	5.7	11.3	0.0
	20歳代	71	0.0	38.0	35.2	16.9	7.0	2.8	0.0
	30歳代	114	3.5	38.6	27.2	19.3	6.1	5.3	0.0
	40歳代	181	6.6	44.8	27.6	10.5	6.1	3.3	1.1
	50歳代	267	3.0	44.6	33.7	12.0	0.7	5.2	0.7
	60歳代	236	1.7	51.3	34.3	5.9	2.1	4.2	0.4
	70歳以上	436	4.4	45.6	24.3	11.5	2.5	7.8	3.9

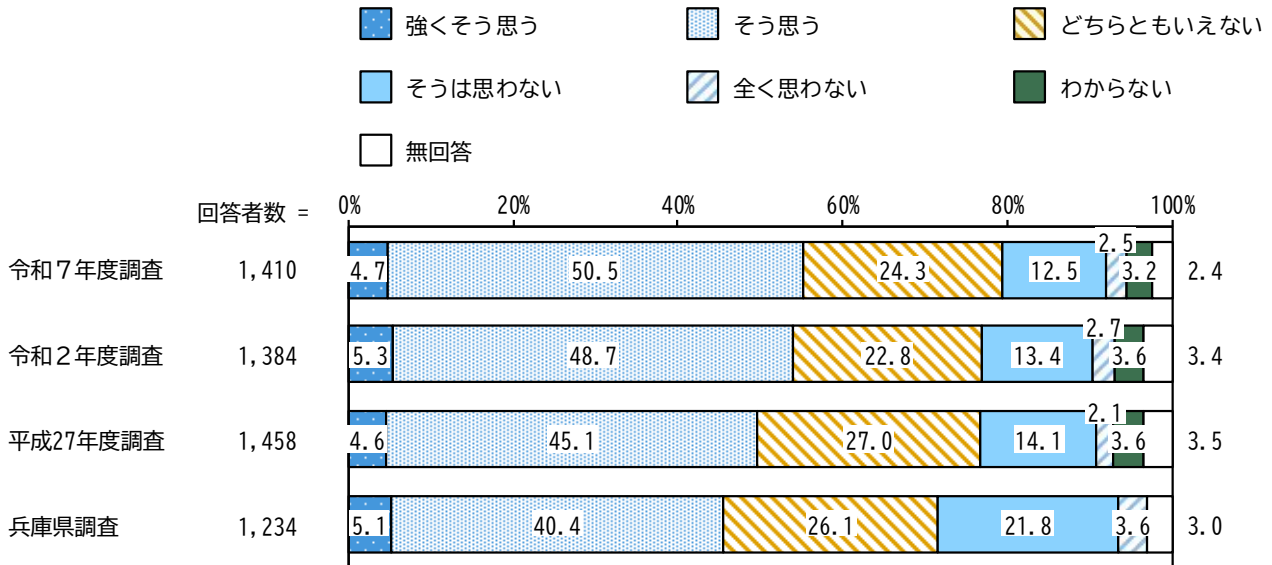
②競争社会だから能力による格差が生じるのは仕方がない

【経年比較】

「強くそう思う」「そう思う」を合わせた“そう思う”の割合が55.2%、「そうは思わない」「全く思わない」を合わせた“思わない”の割合が15.0%となっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降“そう思う”の割合が増加しています。

兵庫県調査と比較すると、“そう思う”の割合が9.7ポイント高くなっています。一方、“思わない”の割合が10.4ポイント低くなっています。



※兵庫県調査には、「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で“そう思う”の割合が高くなっています。

年齢別にみると、20歳代で“そう思う”の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	全く思わない	わからない	無回答	
性別	男性	537	6.7	55.1	22.2	10.1	2.0	2.8	1.1
	女性	808	3.3	47.9	26.2	14.0	2.7	3.5	2.4
	その他(または答えたくない)	14	14.3	21.4	21.4	14.3	7.1	14.3	7.1
年齢別	10歳代	53	11.3	45.3	24.5	11.3	1.9	5.7	0.0
	20歳代	71	9.9	57.7	12.7	12.7	4.2	2.8	0.0
	30歳代	114	4.4	53.5	28.1	7.9	4.4	1.8	0.0
	40歳代	181	8.8	55.2	22.1	8.3	2.2	2.2	1.1
	50歳代	267	4.9	51.7	25.1	13.9	1.1	2.2	1.1
	60歳代	236	3.4	53.8	23.3	12.3	3.8	3.0	0.4
	70歳以上	436	2.3	44.5	26.6	14.9	2.1	4.8	4.8

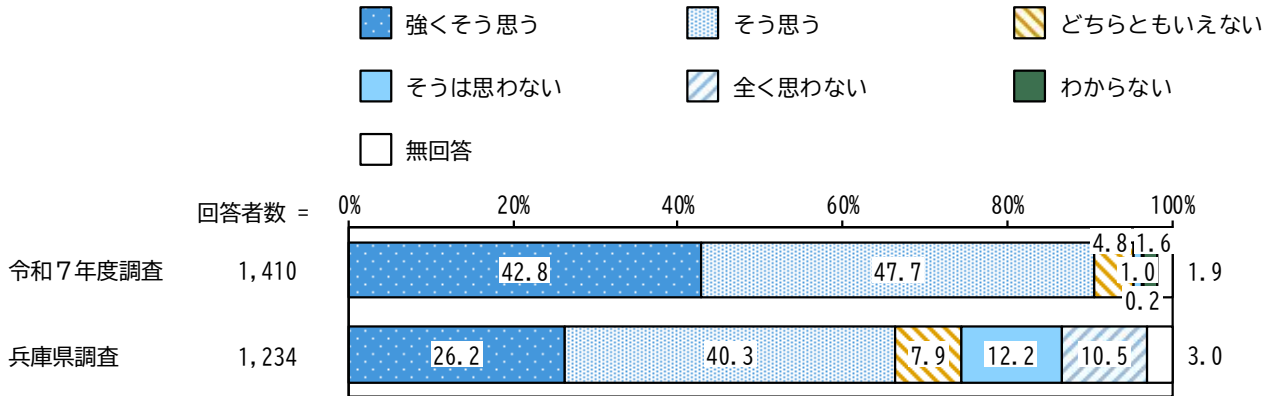


③家庭や地域で、幼い頃からものごとの善悪や決まりごとの大切さを教えることが必要だ

【経年比較】

「強くそう思う」「そう思う」を合わせた“そう思う”の割合が90.5%、「そうは思わない」「全く思わない」を合わせた“思わない”の割合が1.2%となっています。

兵庫県調査と比較すると、“そう思う”の割合が24.0ポイント高くなっています。一方、“思わない”の割合が21.5ポイント低くなっています。



※新規設問のため、過去調査との比較はできません。
 ※兵庫県調査には、「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別にみると、大きな差はみられません。

年齢別にみると、10歳代で“そう思う”の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	全く思わない	わからない	無回答	
性別	男性	537	43.2	47.9	5.4	0.7	0.2	2.2	0.4
	女性	808	43.9	47.4	4.2	1.1	0.1	1.1	2.1
	その他(または答えたくない)	14	0.0	71.4	14.3	0.0	7.1	7.1	0.0
年齢別	10歳代	53	49.1	34.0	9.4	1.9	0.0	5.7	0.0
	20歳代	71	43.7	50.7	2.8	1.4	1.4	0.0	0.0
	30歳代	114	43.0	46.5	7.9	0.9	0.9	0.9	0.0
	40歳代	181	55.2	36.5	4.4	0.6	0.0	2.2	1.1
	50歳代	267	44.6	49.1	5.2	0.0	0.0	0.4	0.7
	60歳代	236	37.3	55.9	3.8	1.7	0.0	0.8	0.4
	70歳以上	436	39.2	49.8	3.7	1.1	0.2	2.5	3.4

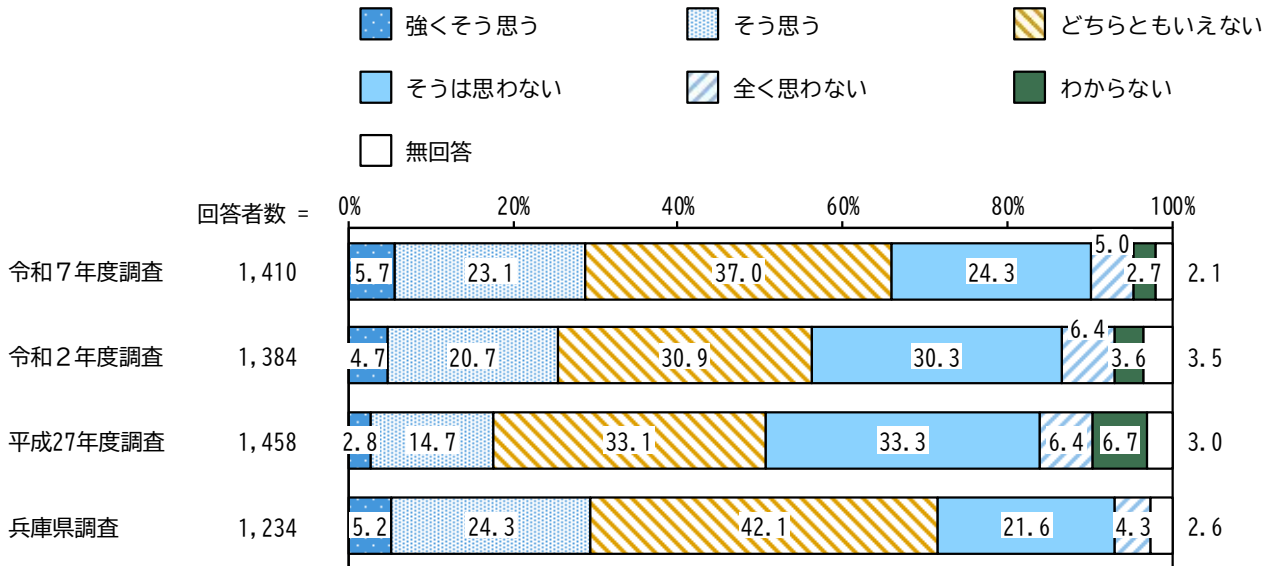
④学校で、いじめや差別をなくす人権教育を進めれば人権問題は解決する。

【経年比較】

「強くそう思う」「そう思う」を合わせた“そう思う”の割合が28.8%、「そうは思わない」「全く思わない」を合わせた“思わない”の割合が29.3%となっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降“そう思う”の割合が増加しています。

兵庫県調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が5.1ポイント低くなっています。



※兵庫県調査には、「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別にみると、大きな差はみられません。

年齢別にみると、20歳代から70歳以上まで年齢が上がるほど“そう思う”の割合が高い傾向にあります。また、20歳代で「そうは思わない」の割合が高く、10歳代で「そう思う」、20歳代で「どちらともいえない」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	全く思わない	わからない	無回答	
性別	男性	537	5.4	25.7	35.9	23.8	5.8	3.0	0.4
	女性	808	6.3	21.8	37.6	25.0	4.6	2.5	2.2
	その他(または答えたくない)	14	0.0	7.1	35.7	35.7	14.3	7.1	0.0
年齢別	10歳代	53	11.3	7.5	26.4	37.7	11.3	5.7	0.0
	20歳代	71	4.2	11.3	22.5	43.7	16.9	1.4	0.0
	30歳代	114	4.4	18.4	32.5	38.6	6.1	0.0	0.0
	40歳代	181	4.4	16.6	36.5	27.6	10.5	2.8	1.7
	50歳代	267	5.2	22.5	39.0	25.5	6.0	1.5	0.4
	60歳代	236	4.7	28.0	42.8	19.1	1.7	3.4	0.4
	70歳以上	436	7.8	28.7	37.6	17.4	1.4	3.7	3.4

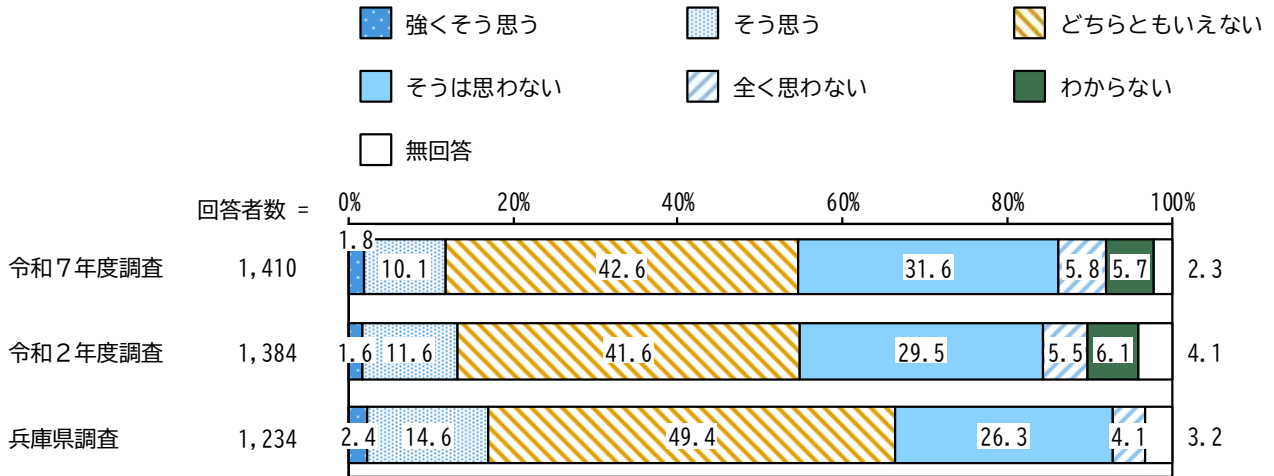
⑤個人の権利より、地域のみんなの利益が優先されるべきだ

【経年比較】

「強くそう思う」「そう思う」を合わせた“そう思う”の割合が11.9%、「そうは思わない」「全く思わない」を合わせた“思わない”の割合が37.4%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

兵庫県調査と比較すると、“思わない”の割合が7.0ポイント高くなっています。一方、“そう思う”の割合が5.1ポイント低くなっています。



※平成27年度調査では、該当する設問がありませんでした。
 ※兵庫県調査には、「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別にみると、男性に比べ、女性で“思わない”の割合が高くなっています。

年齢別にみると、60歳代で“思わない”の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	全く思わない	わからない	無回答	
性別	男性	537	3.0	11.4	47.7	28.3	5.8	3.4	0.6
	女性	808	1.1	9.0	41.1	33.0	6.1	7.2	2.5
	その他(または答えたくない)	14	0.0	0.0	21.4	42.9	14.3	21.4	0.0
年齢別	10歳代	53	5.7	9.4	47.2	24.5	3.8	9.4	0.0
	20歳代	71	1.4	12.7	36.6	31.0	11.3	7.0	0.0
	30歳代	114	1.8	8.8	48.2	29.8	7.0	4.4	0.0
	40歳代	181	1.1	6.6	51.9	26.5	8.3	4.4	1.1
	50歳代	267	1.9	7.9	47.9	33.3	4.1	4.5	0.4
	60歳代	236	1.3	7.2	43.6	36.4	6.8	4.2	0.4
	70歳以上	436	2.1	14.0	35.8	31.0	5.0	7.8	4.4

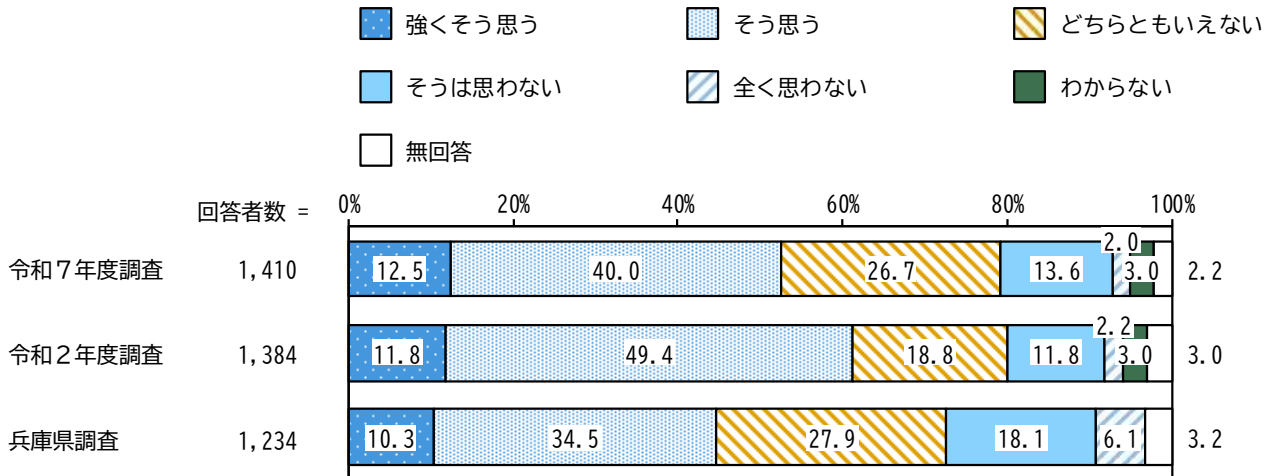
⑥みんなが、思いやりや優しさを持てば人権問題は解決する

【経年比較】

「強くそう思う」「そう思う」を合わせた“そう思う”の割合が52.5%、「そうは思わない」「全く思わない」を合わせた“思わない”の割合が15.6%となっています。

令和2年度調査と比較すると、“そう思う”の割合が8.7ポイント減少しています。

兵庫県調査と比較すると、“そう思う”の割合が7.7ポイント高くなっています。一方、“思わない”の割合が8.6ポイント低くなっています。



※平成27年度調査では、該当する設問がありませんでした。
 ※兵庫県調査には、「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別にみると、大きな差はみられません。

年齢別にみると、50歳代から10歳代まで年齢が下がるほど“思わない”の割合が高い傾向にあります。また、10歳代で「そう思う」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	全く思わない	わからない	無回答	
性別	男性	537	13.4	41.9	25.3	14.3	2.8	1.7	0.6
	女性	808	12.4	38.2	28.3	13.5	1.2	3.8	2.5
	その他(または答えたくない)	14	0.0	35.7	35.7	14.3	7.1	7.1	0.0
年齢別	10歳代	53	18.9	24.5	24.5	17.0	7.5	7.5	0.0
	20歳代	71	8.5	43.7	26.8	16.9	4.2	0.0	0.0
	30歳代	114	18.4	34.2	27.2	16.7	3.5	0.0	0.0
	40歳代	181	12.7	33.7	30.4	17.1	3.3	1.7	1.1
	50歳代	267	12.4	41.2	28.1	13.1	0.7	4.1	0.4
	60歳代	236	10.2	40.7	30.5	13.6	0.4	3.8	0.8
	70歳以上	436	12.8	44.0	23.2	11.2	1.4	3.2	4.1

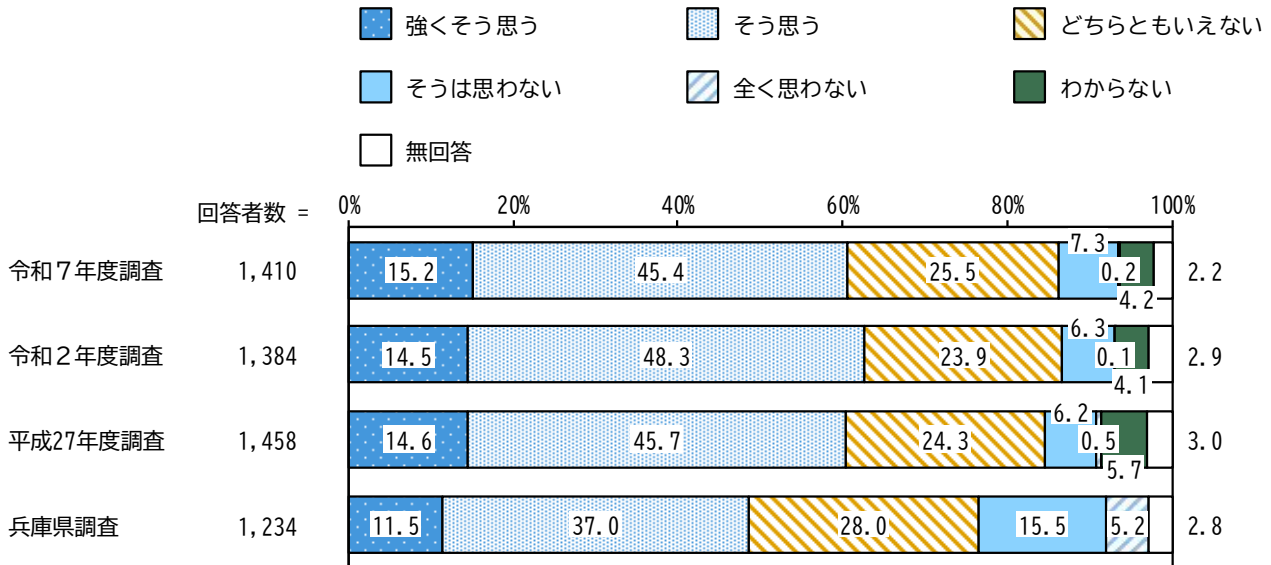
⑦自分の権利ばかり主張して、他人の権利を尊重しない人が増えている

【経年比較】

「強くそう思う」「そう思う」を合わせた“そう思う”の割合が60.6%、「そうは思わない」「全く思わない」を合わせた“思わない”の割合が7.5%となっています。

過去調査と比較すると、大きな変化はみられません。

兵庫県調査と比較すると、“そう思う”の割合が12.1ポイント高くなっています。一方、“思わない”の割合が13.2ポイント低くなっています。



※兵庫県調査には、「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で“そう思う”の割合が高くなっています。

年齢別にみると、70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「強くそう思う」の割合が高い傾向にあります。また、10歳代で「そう思う」の割合が低くなっています。

単位：%

区分		回答者数(件)	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	全く思わない	わからない	無回答
性別	男性	537	18.6	46.7	22.9	7.3	0.2	3.9	0.4
	女性	808	12.9	45.2	27.8	7.2	0.2	4.2	2.5
	その他(または答えたくない)	14	28.6	35.7	14.3	7.1	0.0	14.3	0.0
年齢別	10歳代	53	15.1	32.1	28.3	13.2	0.0	11.3	0.0
	20歳代	71	21.1	46.5	16.9	14.1	0.0	1.4	0.0
	30歳代	114	23.7	40.4	27.2	6.1	0.0	2.6	0.0
	40歳代	181	21.5	41.4	27.1	6.6	0.0	2.2	1.1
	50歳代	267	13.9	52.4	24.7	5.6	0.4	2.6	0.4
	60歳代	236	16.9	48.7	24.2	5.1	0.4	3.8	0.8
	70歳以上	436	9.6	44.5	27.3	8.0	0.2	6.2	4.1

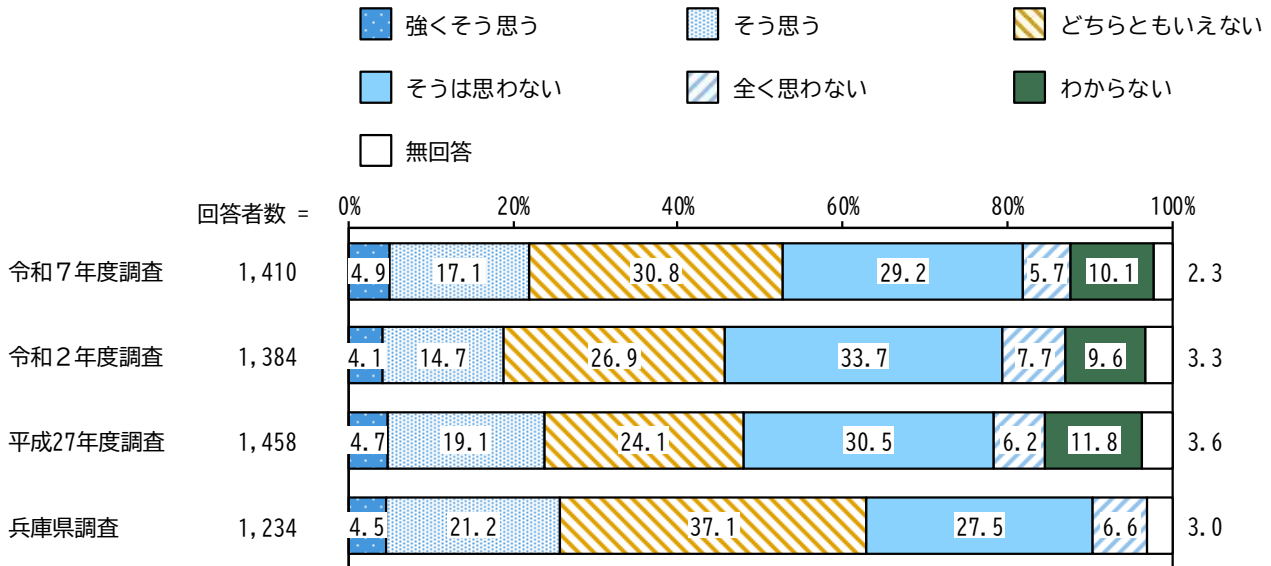
⑧部落差別（同和問題）は、口に出さないでそっとしていれば自然になくなる

【経年比較】

「強くそう思う」「そう思う」を合わせた“そう思う”の割合が22.0%、「そうは思わない」「全く思わない」を合わせた“思わない”の割合が34.9%となっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降“思わない”の割合が減少しています。

兵庫県調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が6.3ポイント低くなっています。



※兵庫県調査には、「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で“そう思う”の割合が高くなっています。

年齢別にみると、20歳代から60歳代まで年齢が上がるほど“思わない”の割合が高い傾向にあります。

単位：%

区分	回答者数(件)	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	全く思わない	わからない	無回答	
性別	男性	537	7.1	20.7	33.0	24.8	7.1	6.9	0.6
	女性	808	3.5	14.9	29.7	32.8	4.6	12.0	2.6
	その他(または答えたくない)	14	0.0	0.0	28.6	28.6	7.1	35.7	0.0
年齢別	10歳代	53	7.5	18.9	24.5	30.2	5.7	13.2	0.0
	20歳代	71	8.5	15.5	23.9	22.5	8.5	21.1	0.0
	30歳代	114	5.3	18.4	33.3	27.2	6.1	7.9	1.8
	40歳代	181	8.8	13.3	30.9	30.4	5.0	10.5	1.1
	50歳代	267	2.6	14.6	37.1	31.1	4.1	10.1	0.4
	60歳代	236	3.4	13.1	32.2	32.2	9.7	8.1	1.3
	70歳以上	436	4.6	22.0	27.5	28.4	3.9	9.9	3.7

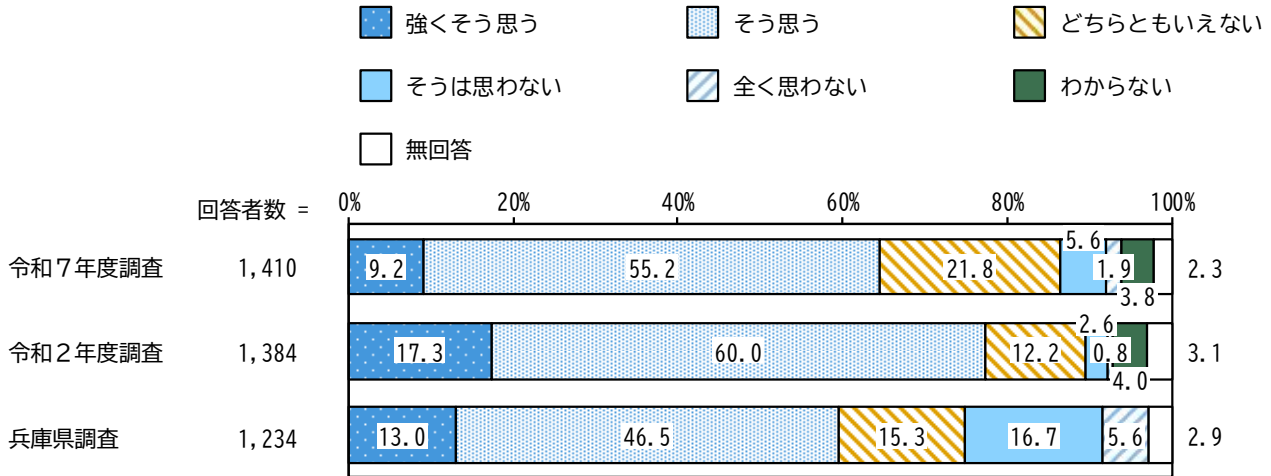
⑨外国人も日本人と同じように人権は守られるべきだ。

【経年比較】

「強くそう思う」「そう思う」を合わせた“そう思う”の割合が64.4%、「そうは思わない」「全く思わない」を合わせた“思わない”の割合が7.5%となっています。

令和2年度調査と比較すると、“そう思う”の割合が12.9ポイント減少しています。

兵庫県調査と比較すると、「そう思う」の割合が8.7ポイント、「どちらともいえない」の割合が6.5ポイント高くなっています。一方、“思わない”の割合が14.8ポイント低くなっています。



※平成27年度調査では、該当する設問がありませんでした。

※兵庫県調査には、「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「強くそう思う」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、70歳以上から20歳代まで年齢が下がるほど“思わない”の割合が高い傾向にあります。また、30歳代で「どちらともいえない」の割合が高く、20歳代、30歳代で「そう思う」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	全く思わない	わからない	無回答
性別	男性	12.5	53.8	20.5	7.1	2.0	3.2	0.9
	女性	7.4	55.6	23.4	4.8	2.0	4.3	2.5
	その他(または答えたくない)	0.0	71.4	14.3	7.1	0.0	7.1	0.0
年齢別	10歳代	13.2	49.1	22.6	5.7	3.8	5.7	0.0
	20歳代	7.0	45.1	29.6	9.9	5.6	2.8	0.0
	30歳代	7.9	42.1	33.3	9.6	3.5	2.6	0.9
	40歳代	8.8	49.2	24.9	9.9	3.3	2.8	1.1
	50歳代	7.1	57.7	22.5	5.6	2.2	4.5	0.4
	60歳代	9.7	60.2	19.9	5.1	1.7	2.5	0.8
	70歳以上	11.5	58.9	17.2	2.8	0.2	5.0	4.4

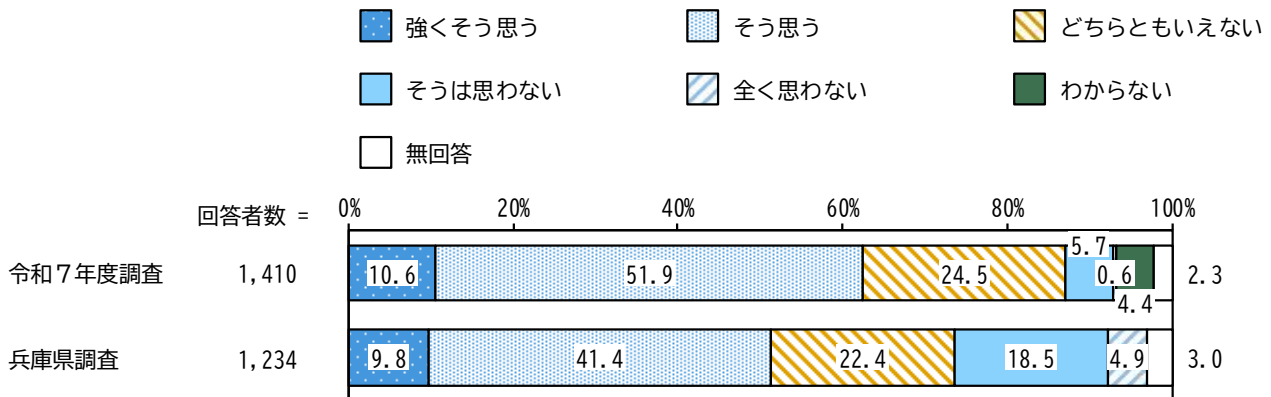


⑩感染症に関する偏見や差別の問題は、教育や啓発によって正しい知識を得ることで解決できる

【経年比較】

「強くそう思う」「そう思う」を合わせた“そう思う”の割合が62.5%、「そうは思わない」「全く思わない」を合わせた“思わない”の割合が6.3%となっています。

兵庫県調査と比較すると、“そう思う”の割合が11.3ポイント高くなっています。一方、“思わない”の割合が17.1ポイント低くなっています。



※新規設問のため、過去調査との比較はできません。
 ※兵庫県調査には、「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別にみると、大きな差はみられません。

年齢別にみると、10歳代から50歳代まで年齢が上がるほど「そう思う」の割合が高い傾向にあります。

単位：%

区分	回答者数(件)	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	全く思わない	わからない	無回答	
性別	男性	537	8.9	53.4	26.1	6.3	0.6	3.7	0.9
	女性	808	12.1	51.5	24.0	4.8	0.5	4.8	2.2
	その他(または答えたくない)	14	0.0	42.9	14.3	21.4	7.1	14.3	0.0
年齢別	10歳代	53	18.9	43.4	24.5	5.7	0.0	7.5	0.0
	20歳代	71	14.1	45.1	31.0	8.5	0.0	1.4	0.0
	30歳代	114	15.8	52.6	21.9	7.0	0.0	2.6	0.0
	40歳代	181	14.4	49.7	26.0	5.0	1.7	2.2	1.1
	50歳代	267	10.9	58.4	20.6	6.0	0.0	3.7	0.4
	60歳代	236	5.9	53.8	30.5	3.4	1.7	3.8	0.8
	70歳以上	436	8.9	50.9	22.7	6.0	0.2	6.9	4.4

(2) 男女共同参画について

問27 日常的な家事・仕事などの役割分担についておうかがいします。

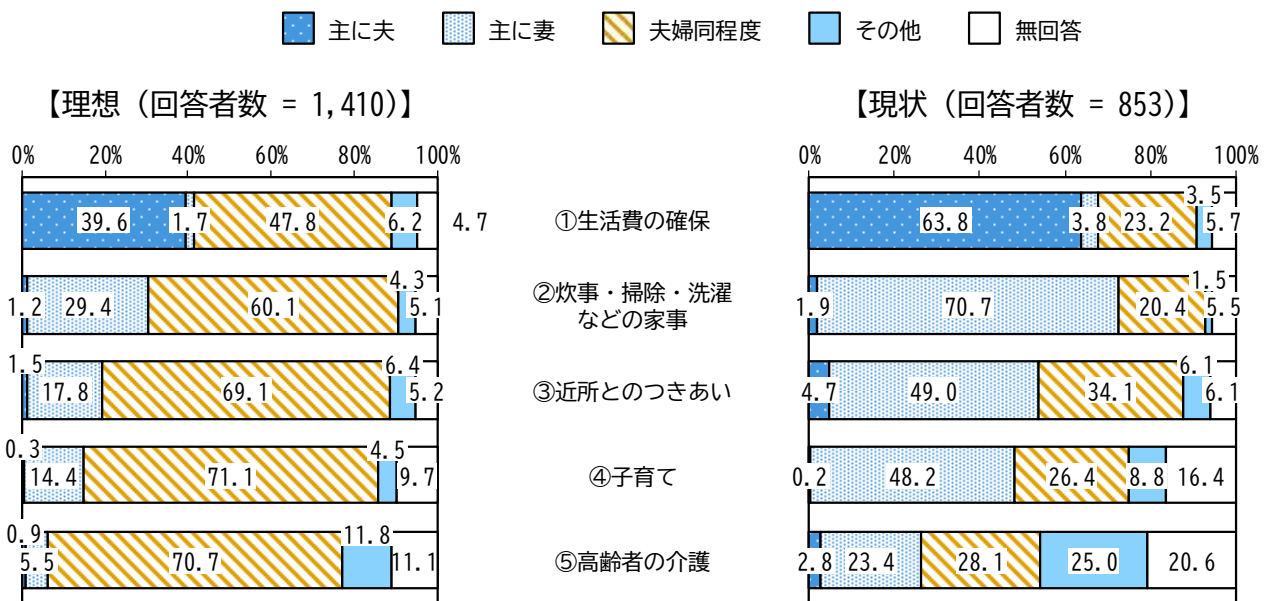
『①生活費の確保』では、理想に比べて現状で、「主に夫」の割合が高くなっています。

『②炊事・掃除・洗濯などの家事』、『③近所とのつきあい』、『④子育て』、『⑤高齢者の介護』では、理想に比べて現状で、「主に妻」の割合が高くなっており、令和2年度調査と同じ傾向が続いています。

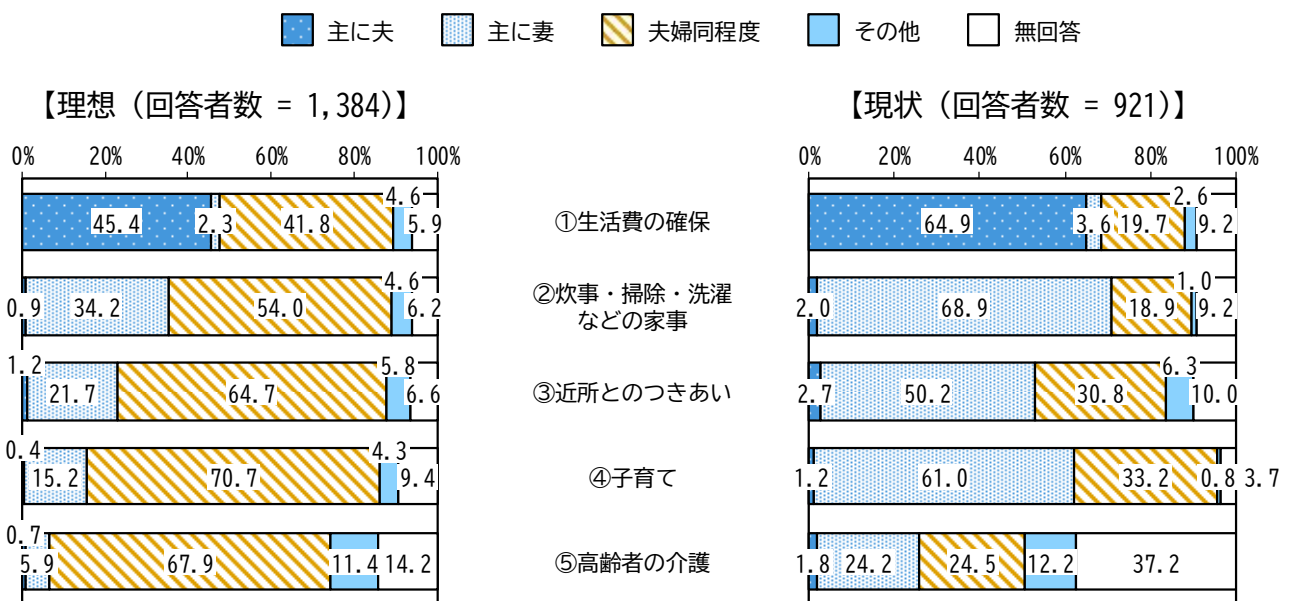
また、「夫婦同程度」についてみると、理想と現状の乖離は、『④子育て』、『⑤高齢者の介護』で大きく、40.0ポイント以上の差がみられます。

令和2年度調査と比較すると、理想では、概ね大きな変化はみられないものの、『①生活費の確保』での「主に夫」の割合が5.8ポイント減少し、「夫婦同程度」の割合が6.0ポイント増加しています。

【令和7年度調査】



【令和2年度調査】

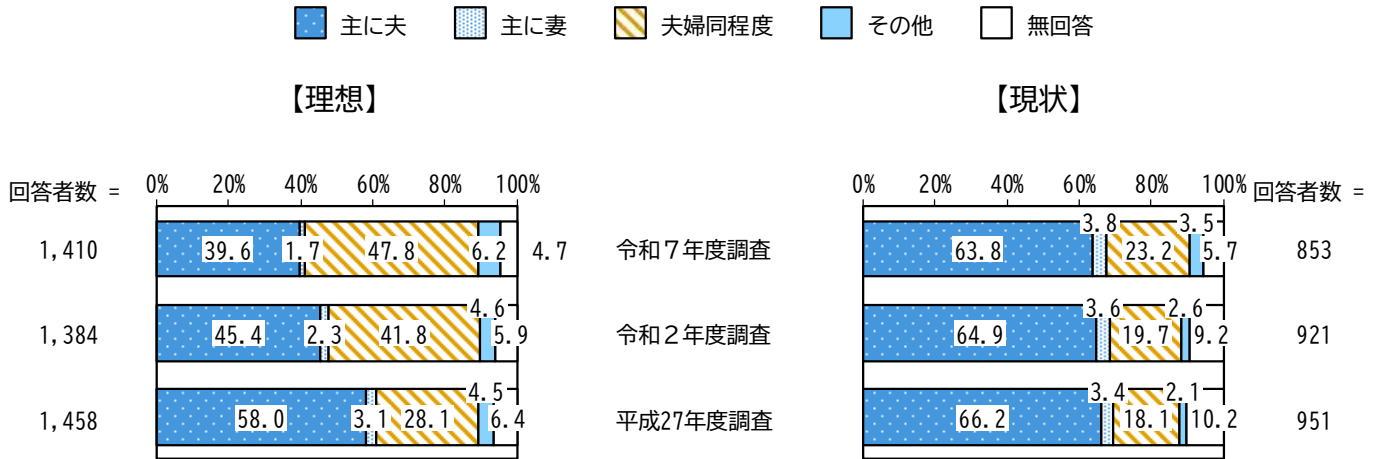


①生活費の確保

理想について過去調査と比較すると、平成27年度以降「夫婦同程度」の割合が増加しています。一方、「主に夫」の割合が減少しています。

現状について過去調査と比較すると、平成27年度以降「夫婦同程度」の割合が増加しています。

理想と現状で比較すると、平成27年度以降「主に夫」「夫婦同程度」で乖離が大きくなっており、令和7年度ではともに24.0ポイント以上の差があります。

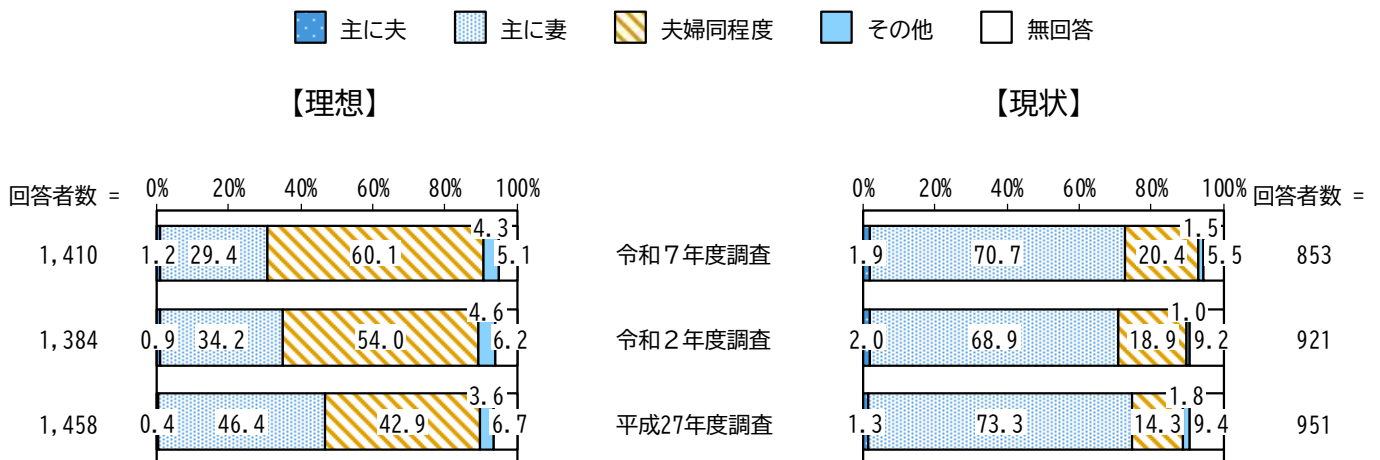


②炊事・掃除・洗濯などの家事

理想について過去調査と比較すると、平成27年度以降「夫婦同程度」の割合が増加しています。一方、「主に妻」の割合が減少しています。

現状について過去調査と比較すると、平成27年度以降「主に妻」「夫婦同程度」の割合が増加しています。

理想と現状で比較すると、平成27年度以降「主に妻」「夫婦同程度」で乖離が大きくなっており、令和7年度では「主に妻」で41.3ポイント、「夫婦同程度」で39.7ポイントの差があります。

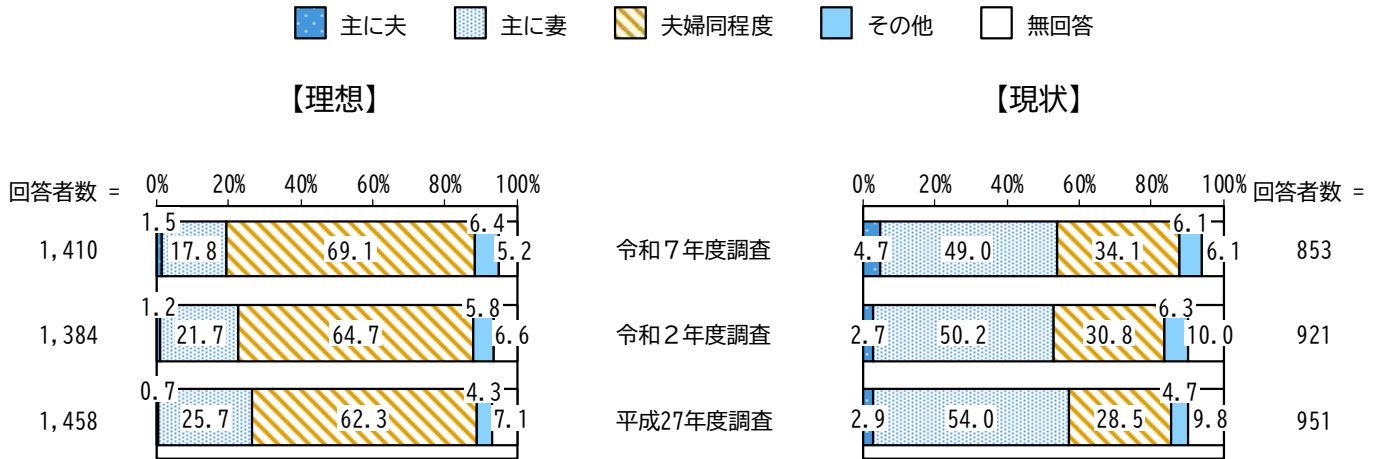


③近所とのつきあい

理想について過去調査と比較すると、平成27年度以降「夫婦同程度」の割合が増加しています。一方、「主に妻」の割合が減少しています。

現状について過去調査と比較すると、平成27年度以降「夫婦同程度」の割合が増加しています。

理想と現状で比較すると、平成27年度以降「主に妻」「夫婦同程度」で乖離が大きくなっており、令和7年度では「主に妻」で31.2ポイント、「夫婦同程度」で35.0ポイントの差があります。

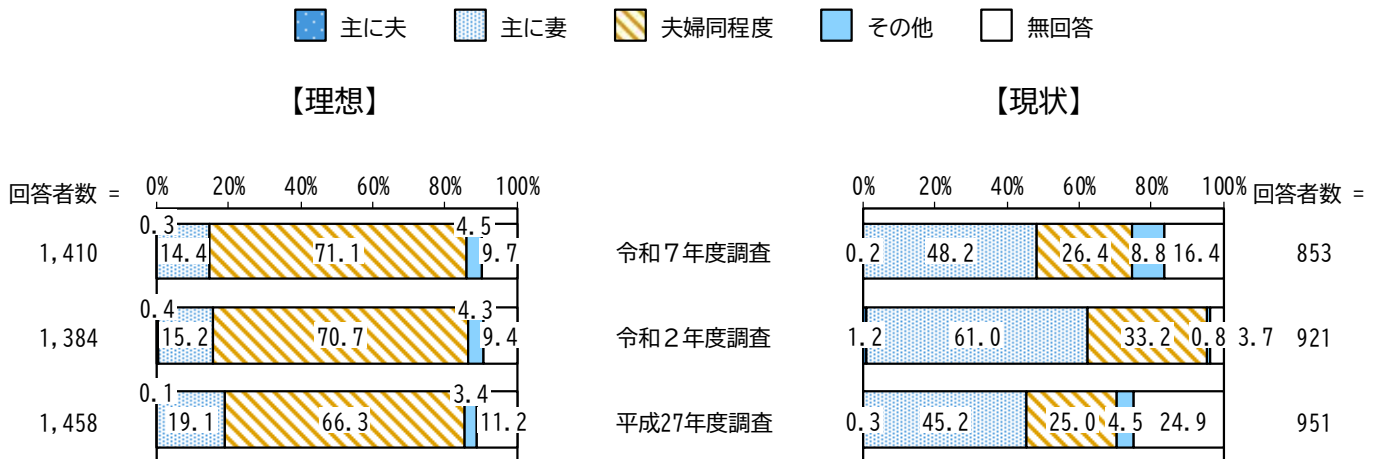


④子育て

【経年比較】

理想について過去調査と比較すると、大きな変化はみられません。

理想と現状で比較すると、すべての年度において「主に妻」「夫婦同程度」で乖離が大きく、令和7年度では「主に妻」で33.8ポイント、「夫婦同程度」で44.7ポイントの差があります。



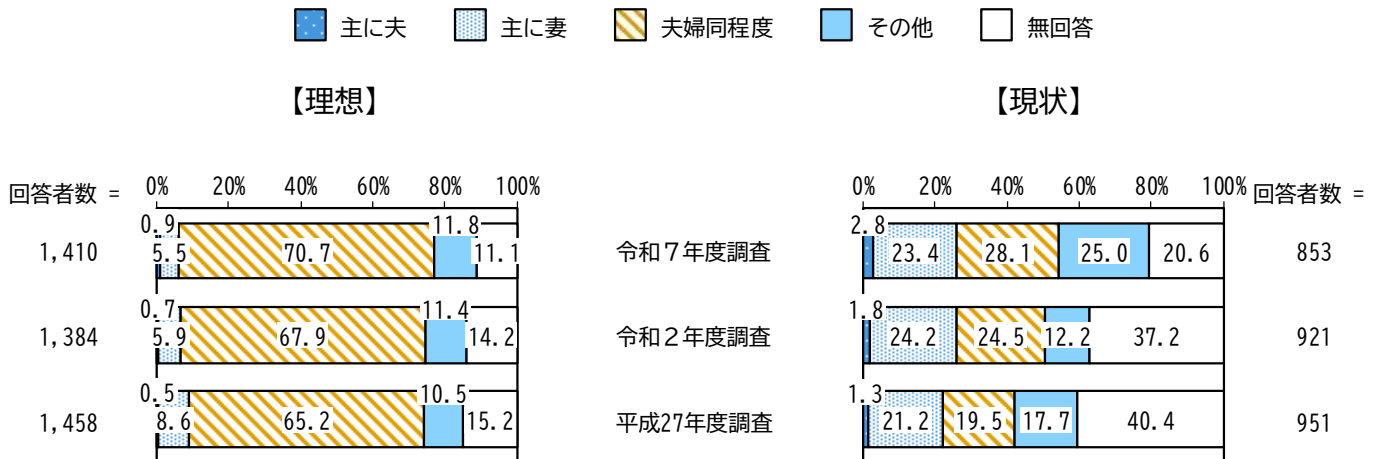
⑤高齢者の介護

【経年比較】

理想について過去調査と比較すると、平成27年度以降「夫婦同程度」の割合が増加しています。

現状について過去調査と比較すると、平成27年度以降「夫婦同程度」の割合が増加しています。

理想と現状で比較すると、すべての年度において「主に妻」「夫婦同程度」で乖離が大きく、令和7年度では「主に妻」で17.9ポイント、「夫婦同程度」で42.6ポイントの差があります。

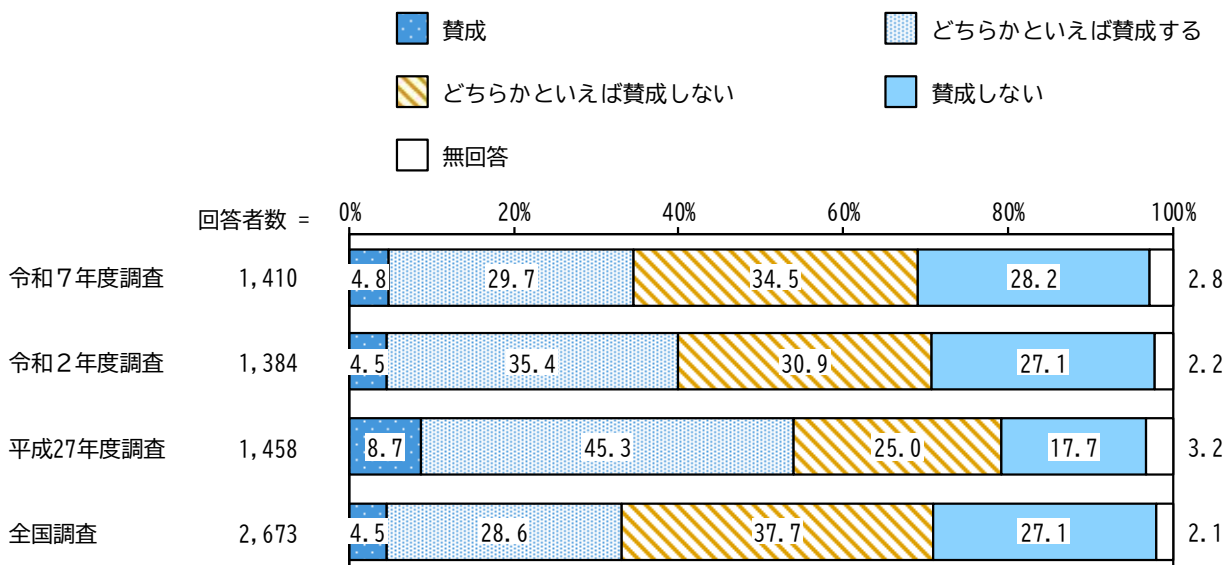


問28 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方がありますが、あなたは、この考え方に賛成しますか。(〇は1つ)

「賛成」「どちらかといえば賛成する」を合わせた“賛成”の割合が34.5%、「どちらかといえば賛成しない」「賛成しない」を合わせた“賛成しない”の割合が62.7%となっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降“賛成しない”の割合が増加しています。

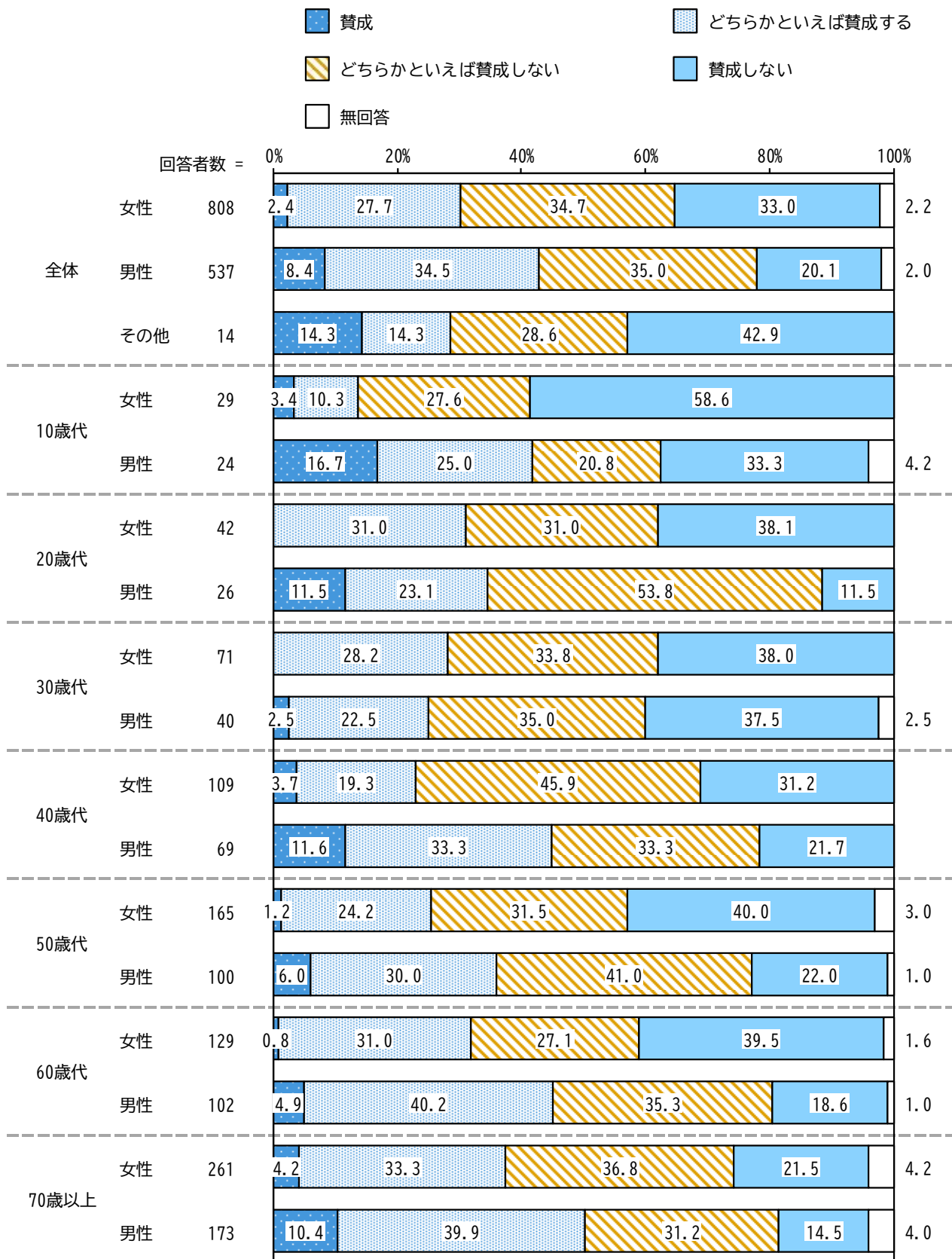
全国調査と比較すると、大きな差はみられません。



【性・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で“賛成”の割合が高くなっています。

性・年齢別にみると、男性40歳代、男性60歳代、男性70歳以上で“賛成”、女性10歳代、女性40歳代で“賛成しない”の割合が高くなっています。



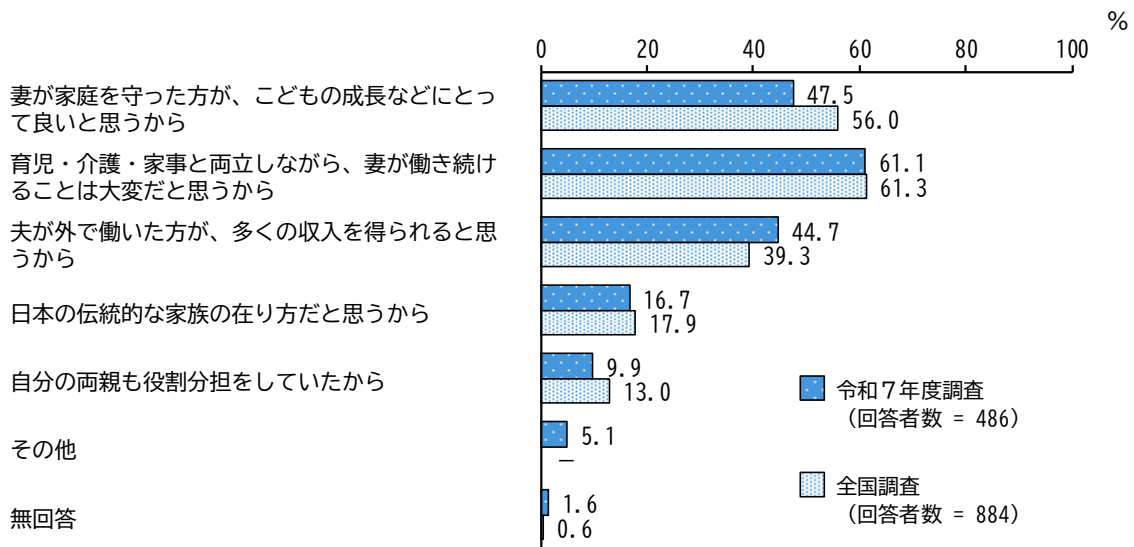


問28で「賛成」、「どちらかといえば賛成する」と答えた方におうかがいします。

問28-1 賛成と思うのはなぜですか。(〇はいくつでも)

「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」の割合が61.1%と最も高く、次いで「妻が家庭を守った方が、こどもの成長などにとって良いと思うから」の割合が47.5%、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」の割合が44.7%となっています。

全国調査と比較すると、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」の割合が5.4ポイント高くなっています。一方、「妻が家庭を守った方が、こどもの成長などにとって良いと思うから」の割合が8.5ポイント低くなっています。



※新規設問のため、過去調査との比較はできません。
 ※全国調査には、「その他」の選択肢はありません。

【性・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「妻が家庭を守った方が、こどもの成長などにとって良いと思うから」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」の割合が高くなっています。

性・年齢別にみると、30歳代から70歳以上まで年齢が上がるほど、男性では「妻が家庭を守った方が、こどもの成長などにとって良いと思うから」「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」の割合が高い傾向にあり、女性では「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」「自分の両親も役割分担をしていたから」の割合が高い傾向にあります。また、女性50歳代で「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」、女性70歳以上で「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	妻が家庭を守った方が、こどもの成長などにとって良いと思うから	育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	自分の両親も役割分担をしていたから	その他	無回答
男性	230	56.1	56.1	40.0	18.3	11.7	5.7	1.7
10歳代	10	40.0	50.0	10.0	30.0	20.0	10.0	0.0
20歳代	9	33.3	44.4	44.4	22.2	22.2	11.1	0.0
30歳代	10	30.0	50.0	40.0	0.0	20.0	10.0	0.0
40歳代	31	48.4	54.8	22.6	9.7	6.5	16.1	0.0
50歳代	36	50.0	52.8	50.0	13.9	5.6	2.8	5.6
60歳代	46	52.2	60.9	32.6	13.0	10.9	2.2	0.0
70歳以上	87	71.3	57.5	49.4	26.4	13.8	3.4	2.3
女性	243	39.1	65.8	49.0	15.2	7.8	4.9	1.2
10歳代	4	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
20歳代	13	7.7	61.5	38.5	7.7	7.7	7.7	0.0
30歳代	20	10.0	70.0	35.0	0.0	0.0	20.0	0.0
40歳代	25	32.0	60.0	52.0	8.0	4.0	12.0	0.0
50歳代	42	26.2	81.0	42.9	7.1	4.8	4.8	0.0
60歳代	41	46.3	68.3	51.2	14.6	9.8	2.4	0.0
70歳以上	98	54.1	60.2	56.1	25.5	11.2	0.0	3.1
その他	4	25.0	75.0	75.0	25.0	50.0	0.0	0.0

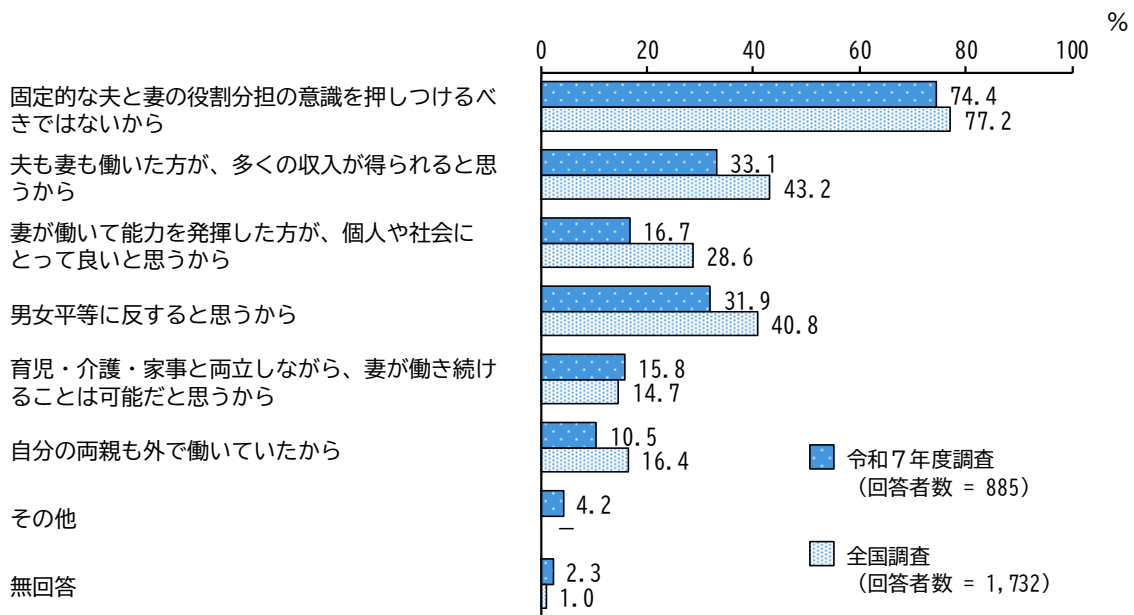


問28で「どちらかといえば賛成しない」、「賛成しない」と答えた方におうかがいします。

問28-2 賛成しないと思うのはなぜですか。(〇はいくつでも)

「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」の割合が74.4%と最も高く、次いで「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」の割合が33.1%、「男女平等に反すると思うから」の割合が31.9%となっています。

全国調査と比較すると、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」の割合が10.1ポイント、「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」の割合が11.9ポイント、「男女平等に反すると思うから」の割合が8.9ポイント、「自分の両親も外で働いていたから」の割合が5.9ポイント低くなっています。



※新規設問のため、過去調査との比較はできません。
 ※全国調査には、「その他」の選択肢はありません。

【性・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」の割合が高くなっています。

性・年齢別にみると、男性では70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」の割合が高い傾向にあり、女性では60歳代から20歳代まで年齢が下がるほど「男女平等に反すると思うから」「自分の両親も外で働いていたから」の割合が高い傾向にあります。また、男性70歳以上で「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」の割合が高くなっています。

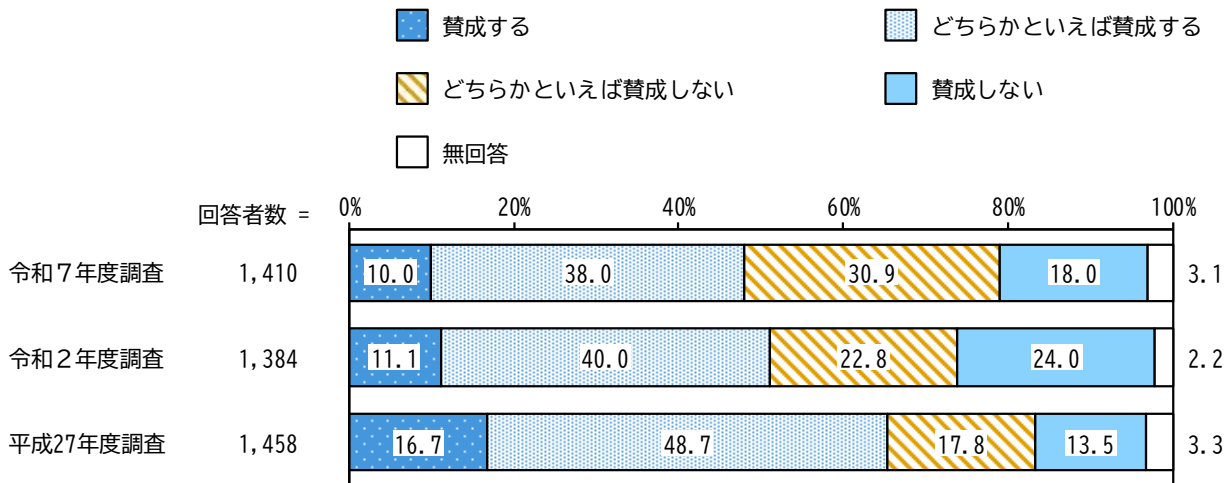
単位：％

区分	回答者数(件)	固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから	夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから	妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	男女平等に反すると思うから	育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思っから	自分の両親も外で働いていたから	その他	無回答
男性	296	71.3	36.5	22.6	33.4	14.9	10.8	2.7	2.7
10歳代	13	76.9	46.2	7.7	30.8	0.0	15.4	7.7	0.0
20歳代	17	52.9	47.1	29.4	11.8	5.9	29.4	5.9	0.0
30歳代	29	79.3	51.7	13.8	27.6	6.9	13.8	0.0	0.0
40歳代	38	52.6	39.5	15.8	39.5	18.4	2.6	7.9	0.0
50歳代	63	71.4	38.1	22.2	39.7	17.5	12.7	1.6	1.6
60歳代	55	80.0	29.1	16.4	27.3	16.4	10.9	1.8	5.5
70歳以上	79	73.4	29.1	35.4	36.7	17.7	7.6	1.3	5.1
女性	547	75.9	31.8	14.1	31.4	16.1	10.4	5.3	1.8
10歳代	25	84.0	16.0	8.0	36.0	12.0	20.0	4.0	0.0
20歳代	29	82.8	27.6	3.4	44.8	10.3	24.1	10.3	0.0
30歳代	51	76.5	39.2	13.7	43.1	15.7	13.7	7.8	2.0
40歳代	84	73.8	32.1	9.5	34.5	16.7	8.3	11.9	2.4
50歳代	118	72.9	33.9	12.7	28.0	11.0	9.3	3.4	1.7
60歳代	86	75.6	32.6	12.8	25.6	18.6	7.0	2.3	2.3
70歳以上	152	76.3	30.3	21.7	27.6	19.7	8.6	3.3	2.0
その他	10	90.0	30.0	10.0	40.0	10.0	10.0	0.0	0.0

問29 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という考え方がありますが、あなたは、この考え方に賛成しますか。(○は1つ)

「賛成する」「どちらかといえば賛成する」を合わせた“賛成する”の割合が48.0%、「どちらかといえば賛成しない」「賛成しない」を合わせた“賛成しない”の割合が48.9%となっています。

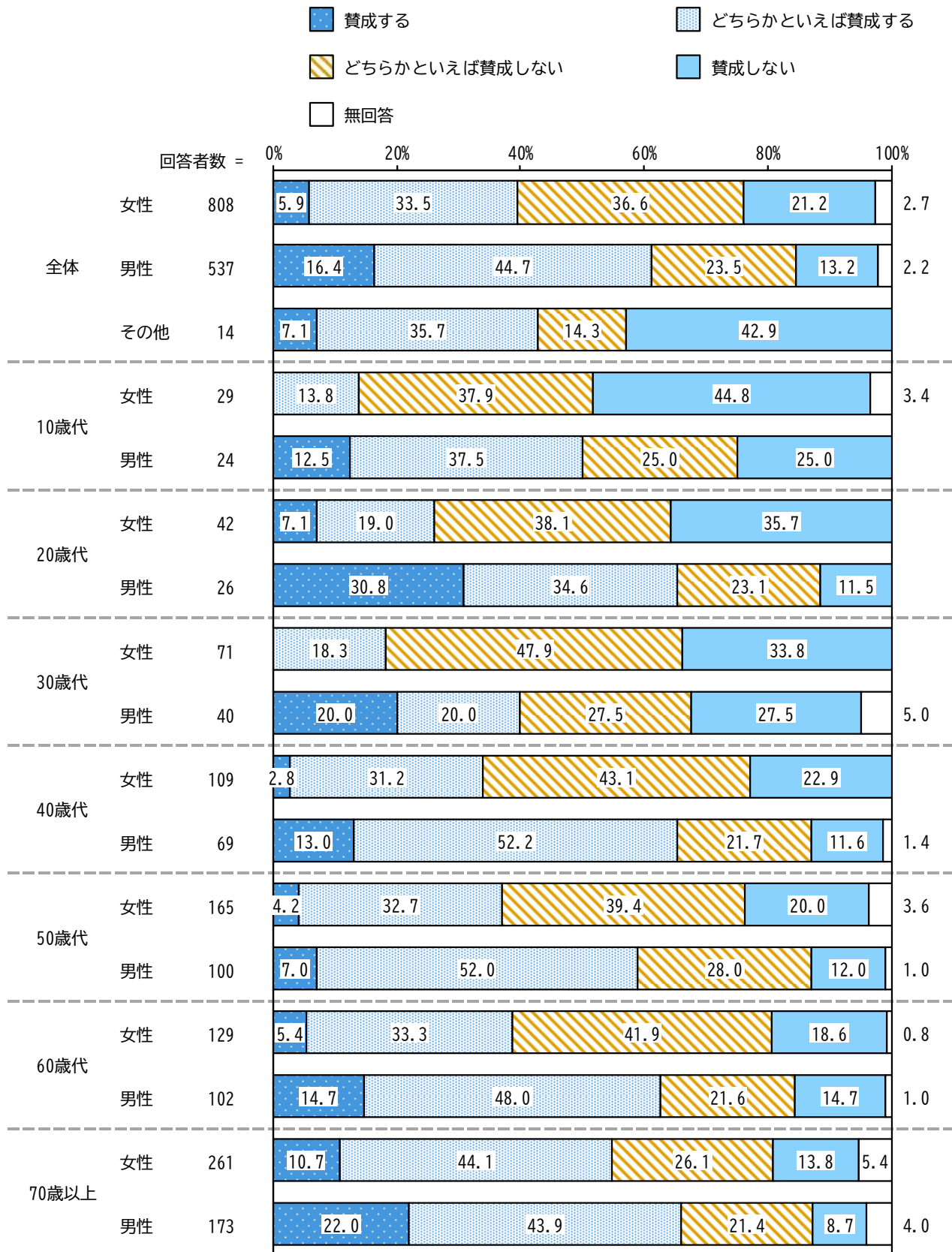
過去調査と比較すると、平成27年度以降“賛成しない”の割合が増加しています。



【性・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で“賛成する”の割合が高くなっています。

性・年齢別にみると、女性では30歳代から70歳以上まで年齢が上がるほど“賛成する”の割合が高くなっています。また、男性20歳代、男性40歳代から70歳以上で“賛成する”の割合が高くなっています。

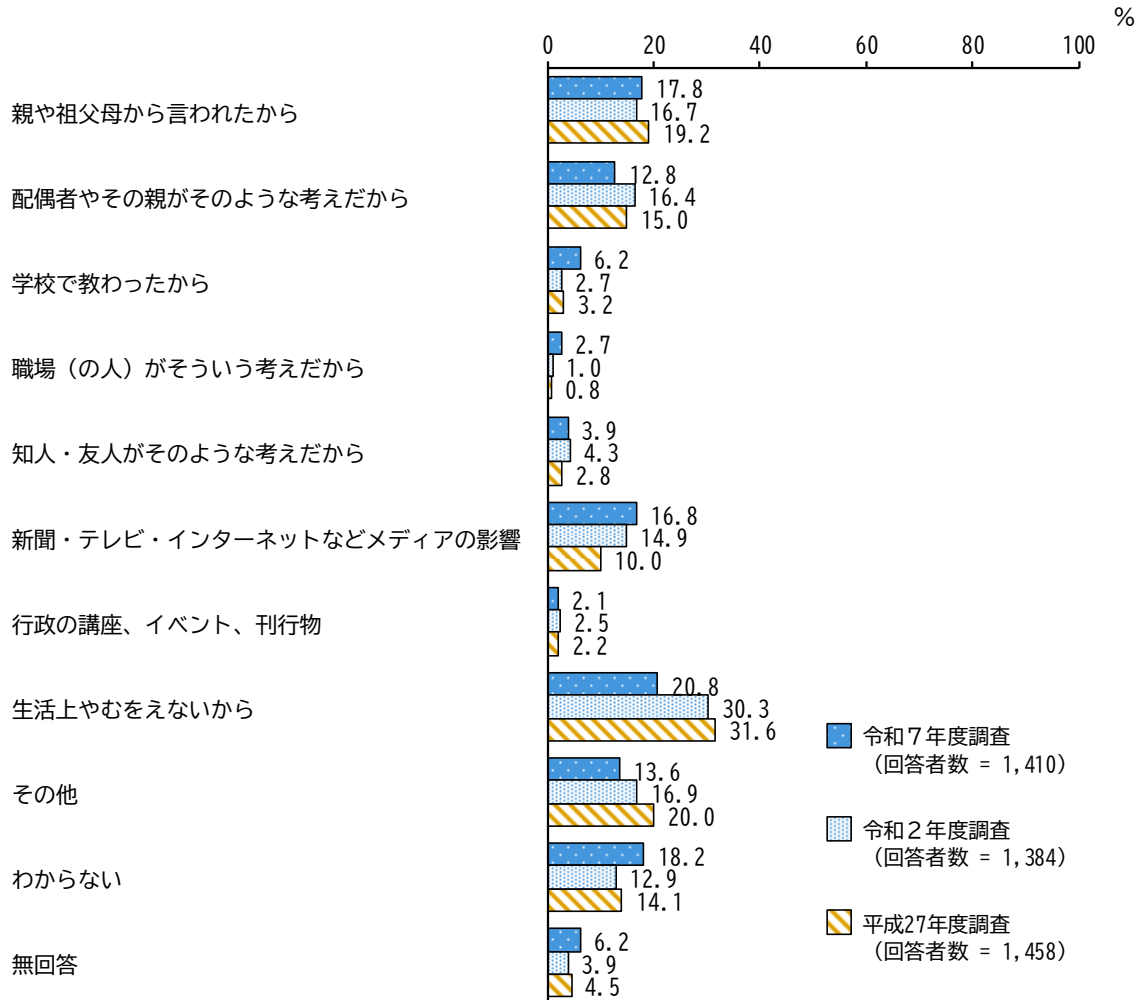


問30 あなたが問28と問29で回答したように考えるようになった理由について、あてはまるものをお答えください。(〇は2つまで)

「生活上やむをえないから」の割合が20.8%と最も高く、次いで「わからない」の割合が18.2%、「親や祖父母から言われたから」の割合が17.8%となっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降「新聞・テレビ・インターネットなどメディアの影響」の割合が増加しています。一方、「生活上やむをえないから」の割合が減少しています。

また、令和2年度調査に比べ、令和7年度では「わからない」の割合が5.3ポイント増加しています。



【性別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「親や祖父母から言われたから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	親や祖父母から言われたから	配偶者やその親がそのような考えだから	学校で教わったから	職場(の人)がそういう考えだから	知人・友人がそのような考えだから	新聞・テレビ・インターネットなどメディアの影響	行政の講座、イベント、刊行物	生活上やむをえないから	その他	わからない	無回答
男性	537	21.6	14.9	7.4	2.4	3.7	17.9	2.6	22.3	14.0	14.9	3.2
女性	808	15.5	11.5	5.8	3.0	3.8	16.0	1.9	19.4	14.1	20.5	7.4
その他(または答えたくない)	14	7.1	14.3	0.0	0.0	7.1	14.3	0.0	21.4	7.1	42.9	0.0

【「男は仕事、女は家事・育児」という考え方別】

「男は仕事、女は家事・育児」という考え方別にみると、『どちらかといえば賛成する』から『賛成しない』まで賛成している人ほど「配偶者やその親がそのような考えだから」の割合が高く、『どちらかといえば賛成しない』から『賛成』まで賛成していない人ほど「新聞・テレビ・インターネットなどメディアの影響」の割合が高く、「親や祖父母から言われたから」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	親や祖父母から言われたから	配偶者やその親がそのような考えだから	学校で教わったから	職場(の人)がそういう考えだから	知人・友人がそのような考えだから	新聞・テレビ・インターネットなどメディアの影響	行政の講座、イベント、刊行物	生活上やむをえないから	その他	わからない	無回答
賛成	67	35.8	16.4	7.5	1.5	3.0	6.0	0.0	23.9	6.0	16.4	6.0
どちらかといえば賛成する	419	23.6	19.8	3.3	1.4	1.9	7.6	0.7	29.6	12.2	16.7	6.7
どちらかといえば賛成しない	487	14.0	11.7	8.2	2.7	3.3	22.6	2.1	20.3	12.7	19.3	3.9
賛成しない	398	14.8	7.5	6.8	4.5	7.0	21.1	3.8	13.1	17.8	20.1	4.0

【「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という考え方別】

「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という考え方別にみると、『どちらかといえば賛成する』から『賛成しない』まで賛成している人ほど「配偶者やその親がそのような考えだから」の割合が高く、『どちらかといえば賛成しない』から『賛成する』まで賛成していない人ほど「新聞・テレビ・インターネットなどメディアの影響」の割合が高く、「親や祖父母から言われたから」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	親や祖父母から言われたから	配偶者やその親がそのような考えだから	学校で教わったから	職場(の人)がそういう考えだから	知人・友人がそのような考えだから	新聞・テレビ・インターネットなどメディアの影響	行政の講座、イベント、刊行物	生活上やむをえないから	その他	わからない	無回答
賛成する	141	36.2	17.0	5.7	1.4	2.1	5.0	0.7	19.9	10.6	14.2	8.5
どちらかといえば賛成する	536	23.5	18.7	5.6	1.3	1.7	11.9	0.9	26.3	10.1	17.5	5.2
どちらかといえば賛成しない	435	8.3	8.5	5.7	3.7	5.3	23.9	3.0	20.5	15.2	22.3	3.9
賛成しない	254	13.8	6.7	9.1	5.1	7.5	23.2	3.9	10.2	22.0	16.1	3.9

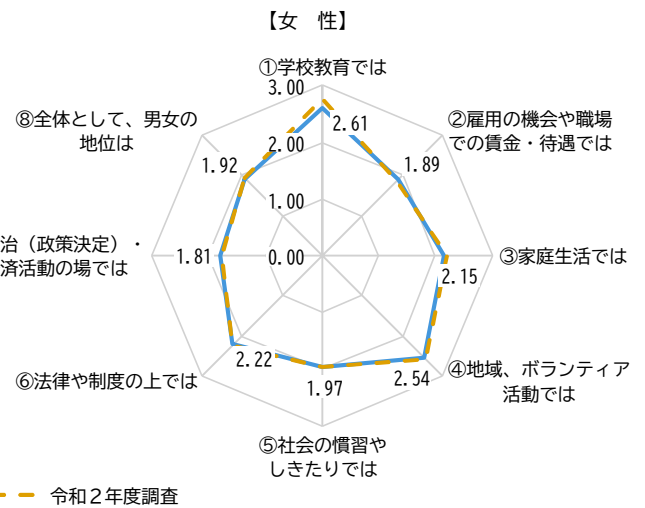
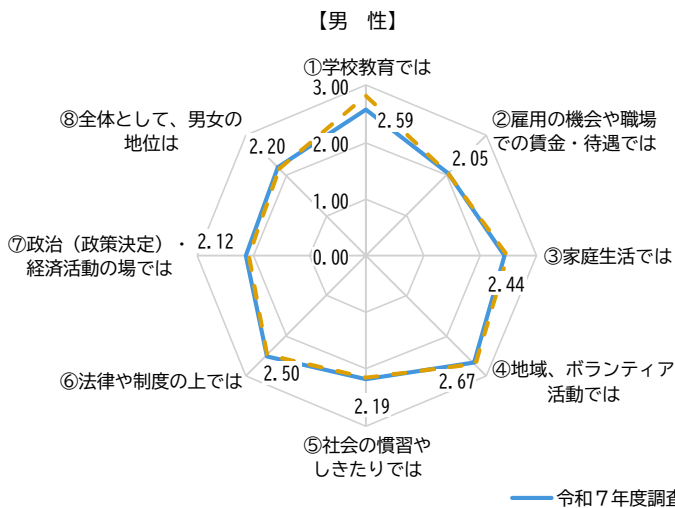
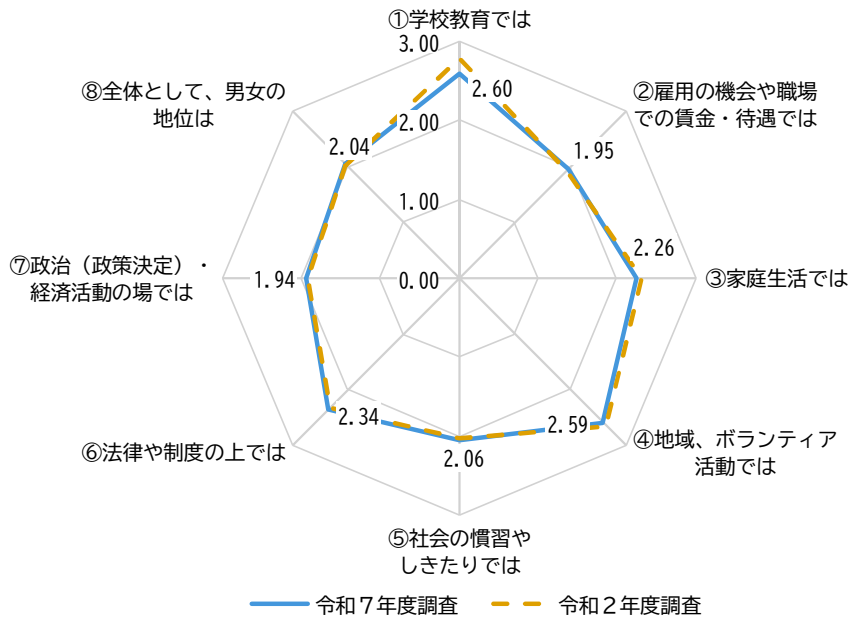
問31 あなたは、今の日本社会を見た場合、男性と女性の地位は平等になっていると思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

男性と女性の地位は平等になっていると思うかについて、『①学校教育では』で、平等感が高くなっています。一方、『②雇用の機会や職場の賃金・待遇では』、『⑦政治（政策決定）・経済活動の場では』では、平等感が低くなっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

性別でみると、『①学校教育では』を除く項目で、女性に比べて男性で平等感が高くなっています。

性別について令和2年度調査と比較すると、男女ともに大きな変化はみられません。



■平等感の得点化■

平等感	得点
男性の方が非常に優遇されている	→ 1点
どちらかといえば男性の方が優遇されている	→ 2点
平等である	→ 3点
どちらかといえば女性の方が優遇されている	→ 2点
女性の方が優遇されている	→ 1点
わからない	→ 計算対象外
無回答	→ 計算対象外

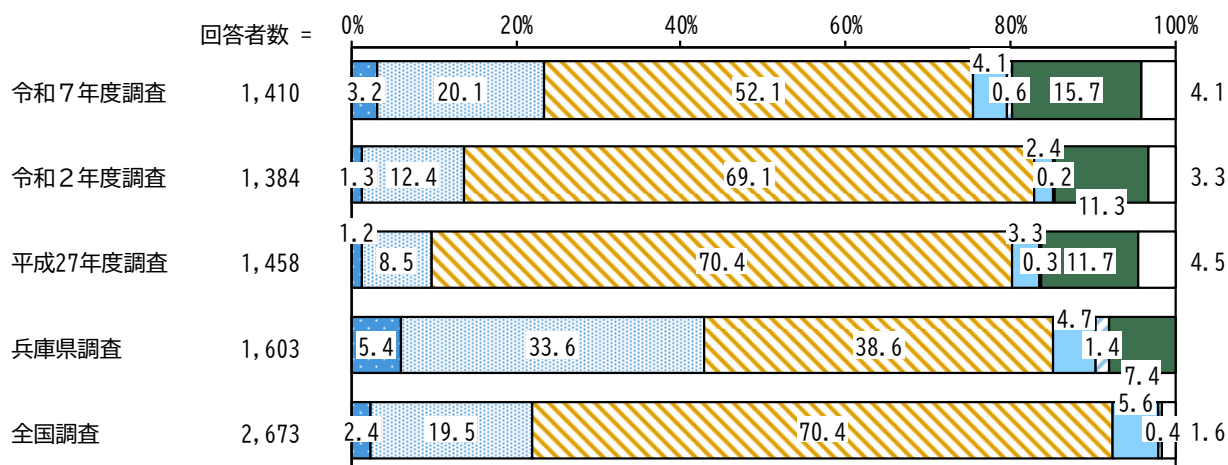
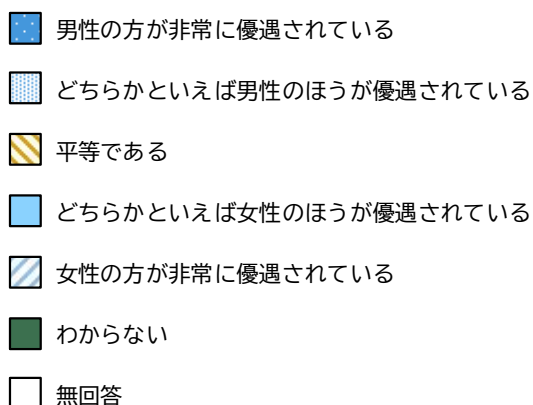
①学校教育では

【経年比較】

過去調査と比較すると、平成27年度以降「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性優遇”の割合が増加しています。

兵庫県調査と比較すると、「平等である」の割合が13.5ポイント、「わからない」の割合が8.3ポイント高くなっています。一方、“男性優遇”の割合が15.7ポイント低くなっています。

全国調査と比較すると、「平等である」の割合が18.3ポイント低くなっています。

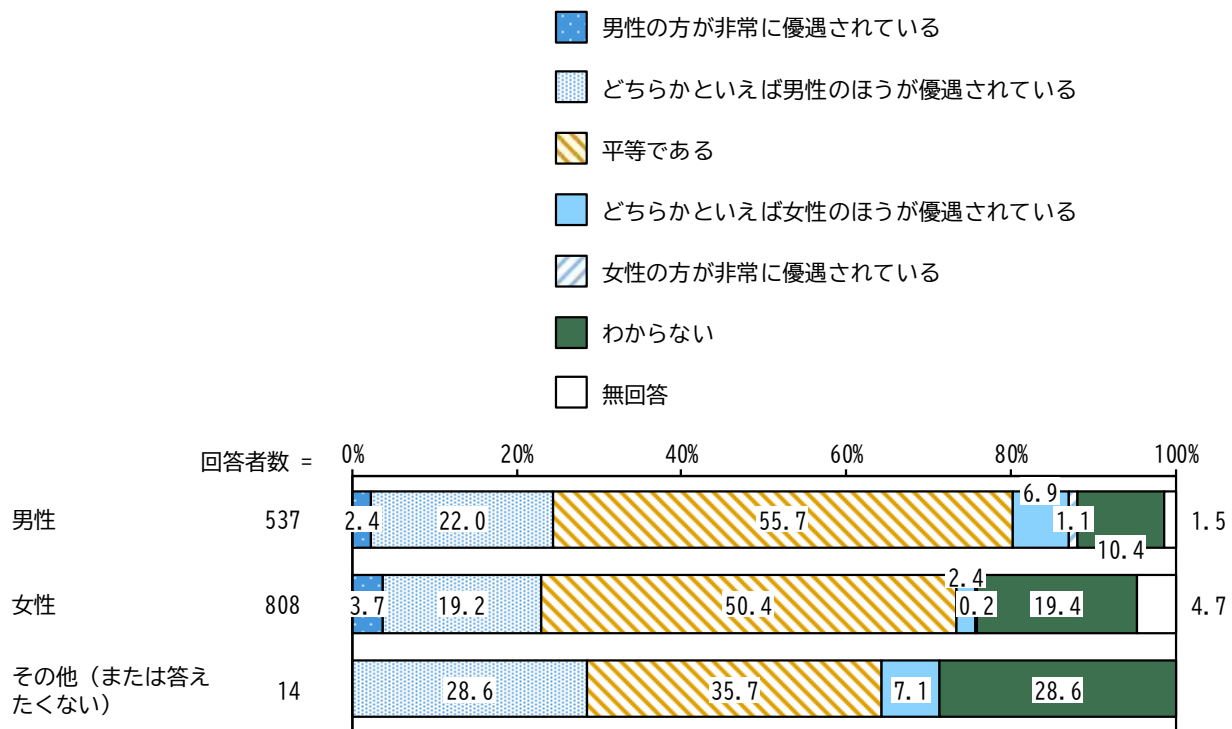


※兵庫県調査には、「無回答」の掲載はありません。

※全国調査には、「わからない」の選択肢はありません。

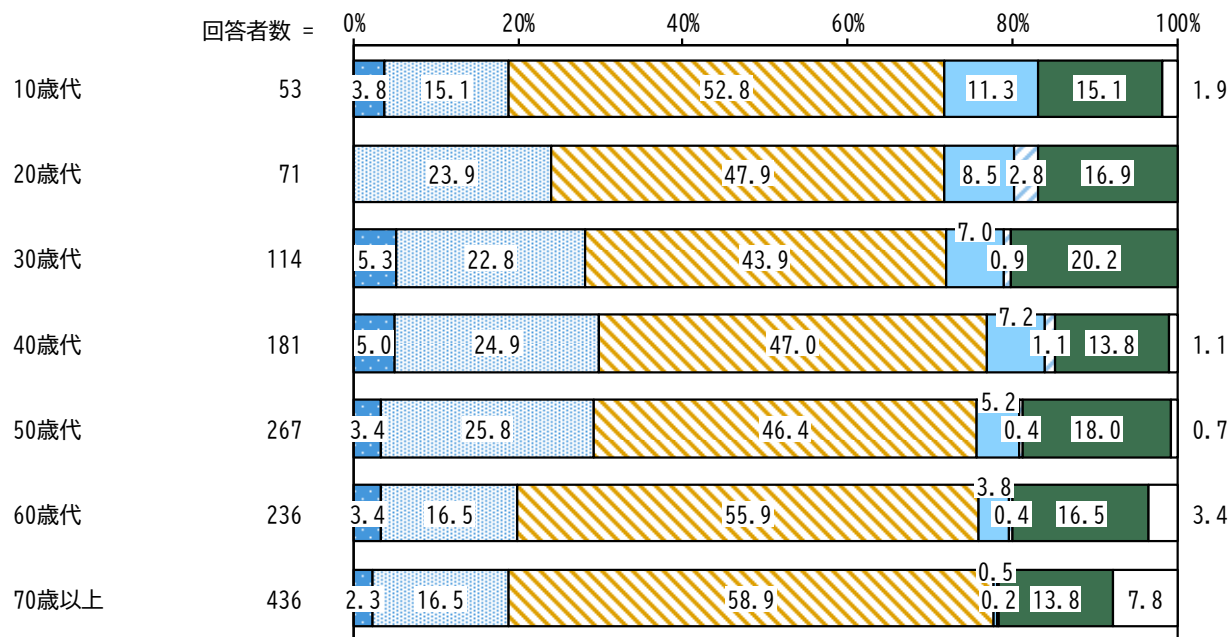
【性別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、どの年代においても「平等である」の割合が高くなっています。70歳以上から20歳代まで年齢が下がるほど“女性優遇”の割合が高い傾向にあります。



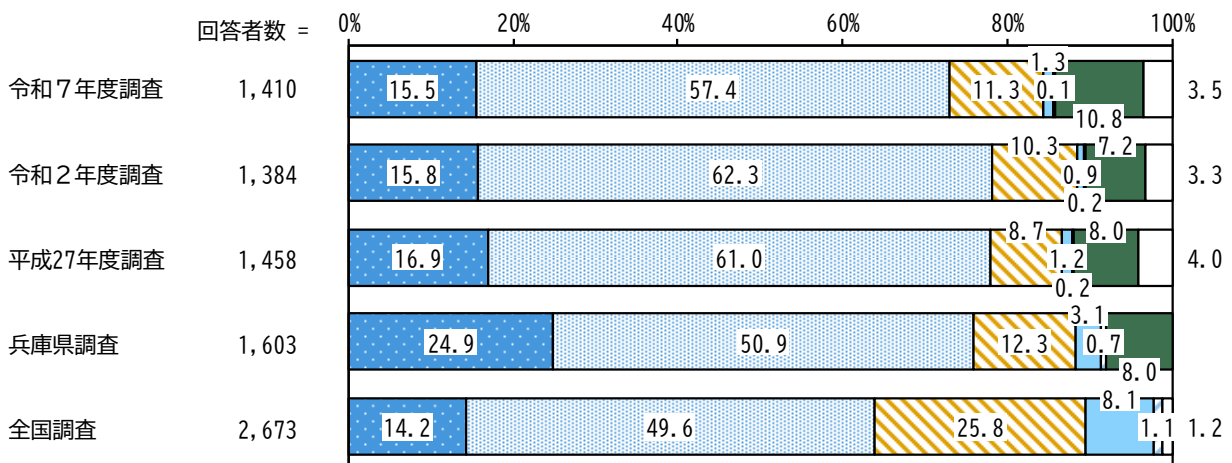
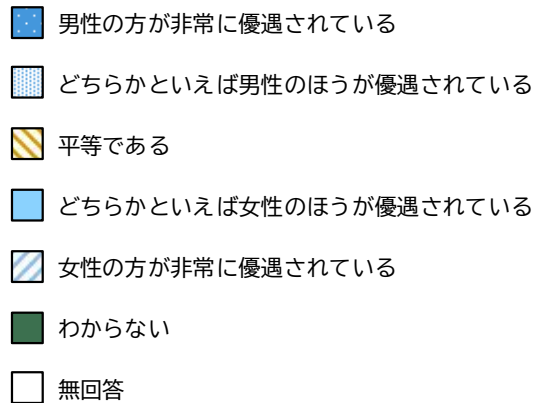
②雇用の機会や職場での賃金・待遇では

【経年比較】

過去調査と比較すると、平成27年度以降“男性優遇”の割合が減少しています。

兵庫県調査と比較すると、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が6.5ポイント高くなっています。一方、「男性の方が非常に優遇されている」の割合が9.4ポイント低くなっています。

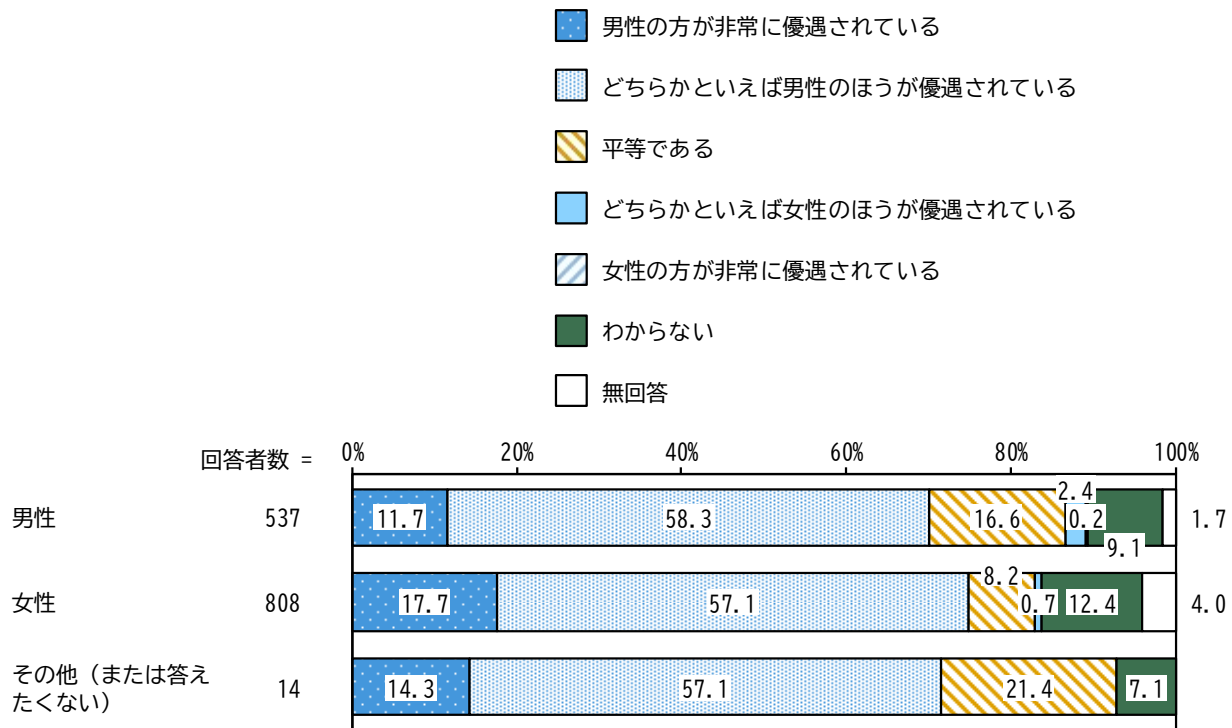
全国調査と比較すると、“男性優遇”の割合が9.1ポイント高くなっています。一方、「平等である」の割合が14.5ポイント、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」の割合が7.8ポイント低くなっています。



※兵庫県調査には、「無回答」の掲載はありません。
 ※全国調査には、「わからない」の選択肢はありません。

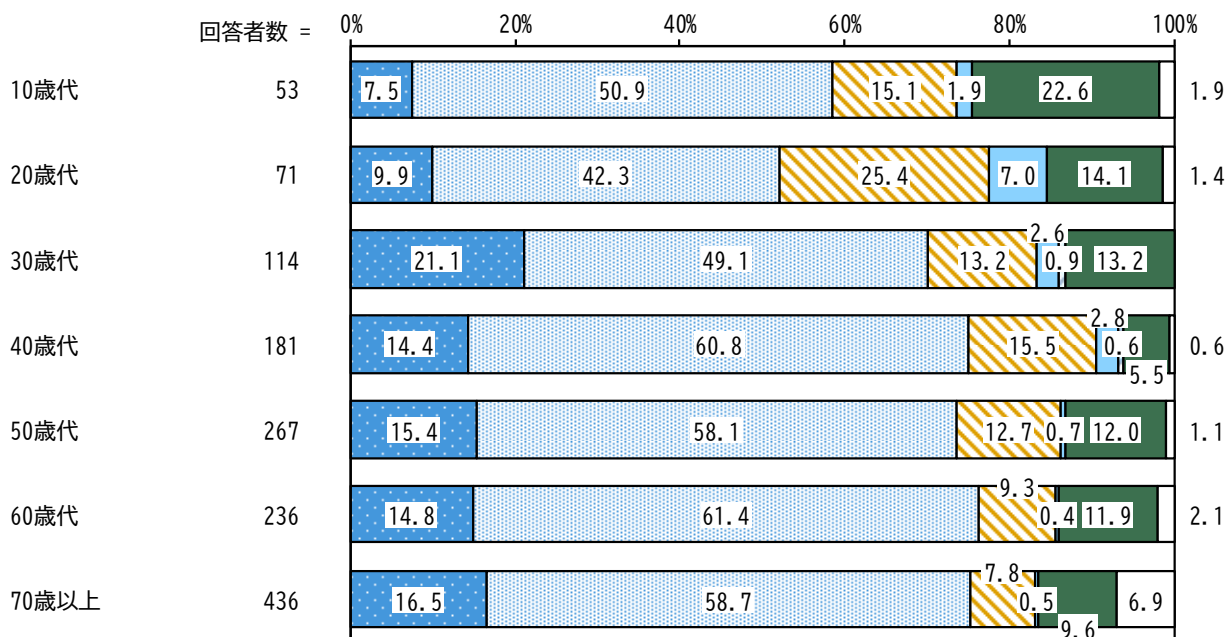
【性別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、70歳以上から20歳代まで年齢が下がるほど「平等である」の割合が高い傾向にあり、20歳代から60歳代まで年齢が上がるほど「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が高い傾向にあります。



③家庭生活では

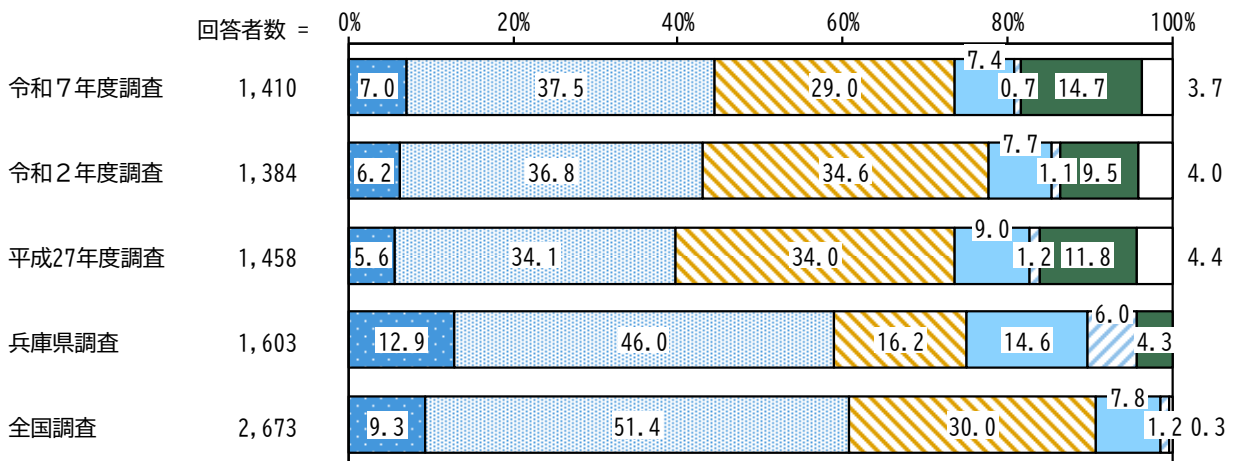
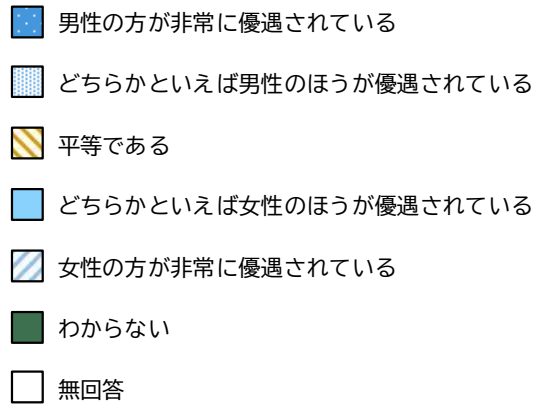
【経年比較】

過去調査と比較すると、平成27年度以降「平等である」の割合が減少しています。

また、令和2年度調査に比べ、令和7年度では「わからない」の割合が5.2ポイント増加しています。

兵庫県調査と比較すると、「平等である」の割合が12.8ポイント、「わからない」の割合が10.4ポイント高くなっています。一方、「男性優遇」の割合が14.4ポイント、「女性優遇」の割合が12.5ポイント低くなっています。

全国調査と比較すると、「男性優遇」の割合が16.2ポイント低くなっています。



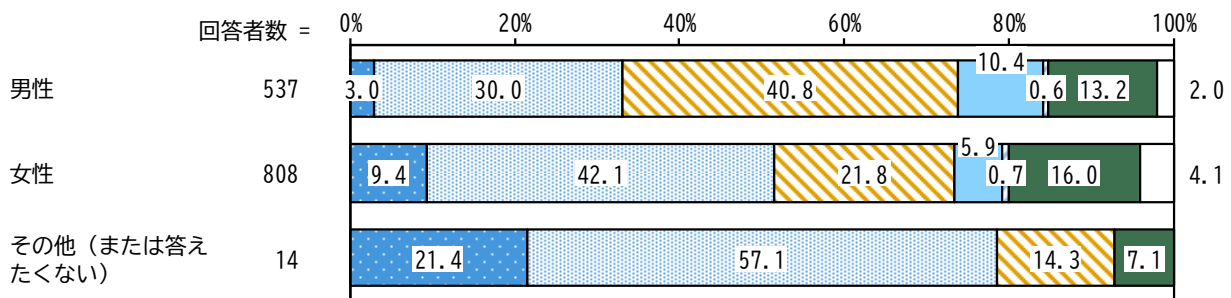
※兵庫県調査には、「無回答」の掲載はありません。

※全国調査には、「わからない」の選択肢はありません。

【性別】

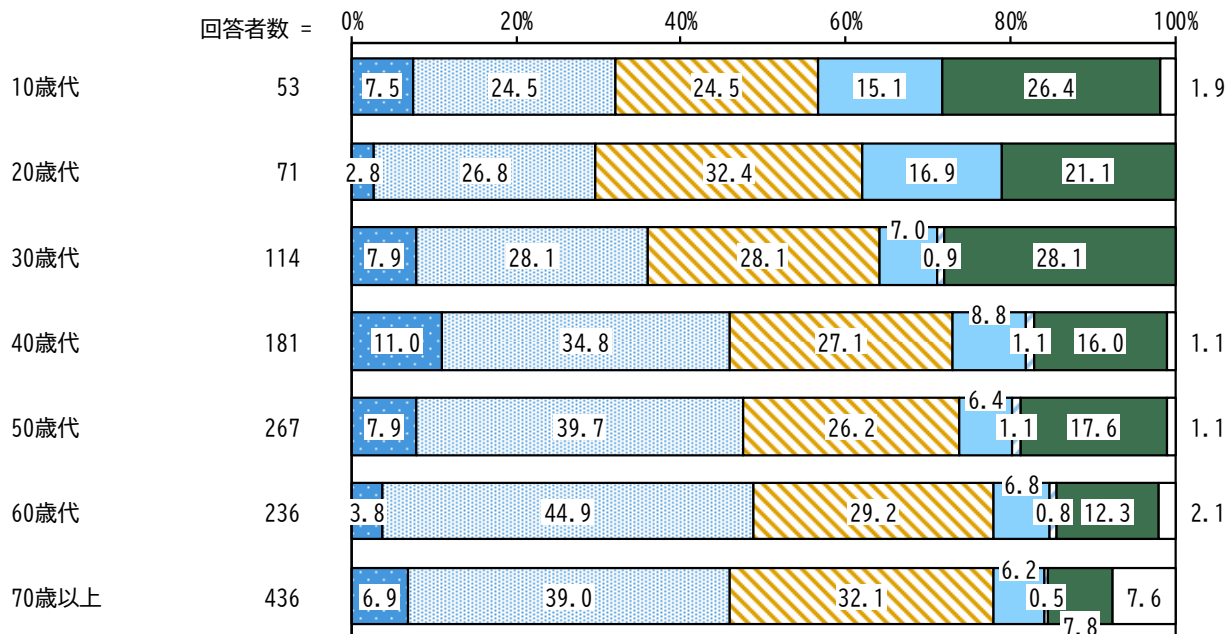
性別にみると、男性に比べ、女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代から60歳代まで年齢が上がるほど“男性優遇”の割合が高くなっています。



④地域、ボランティア活動では

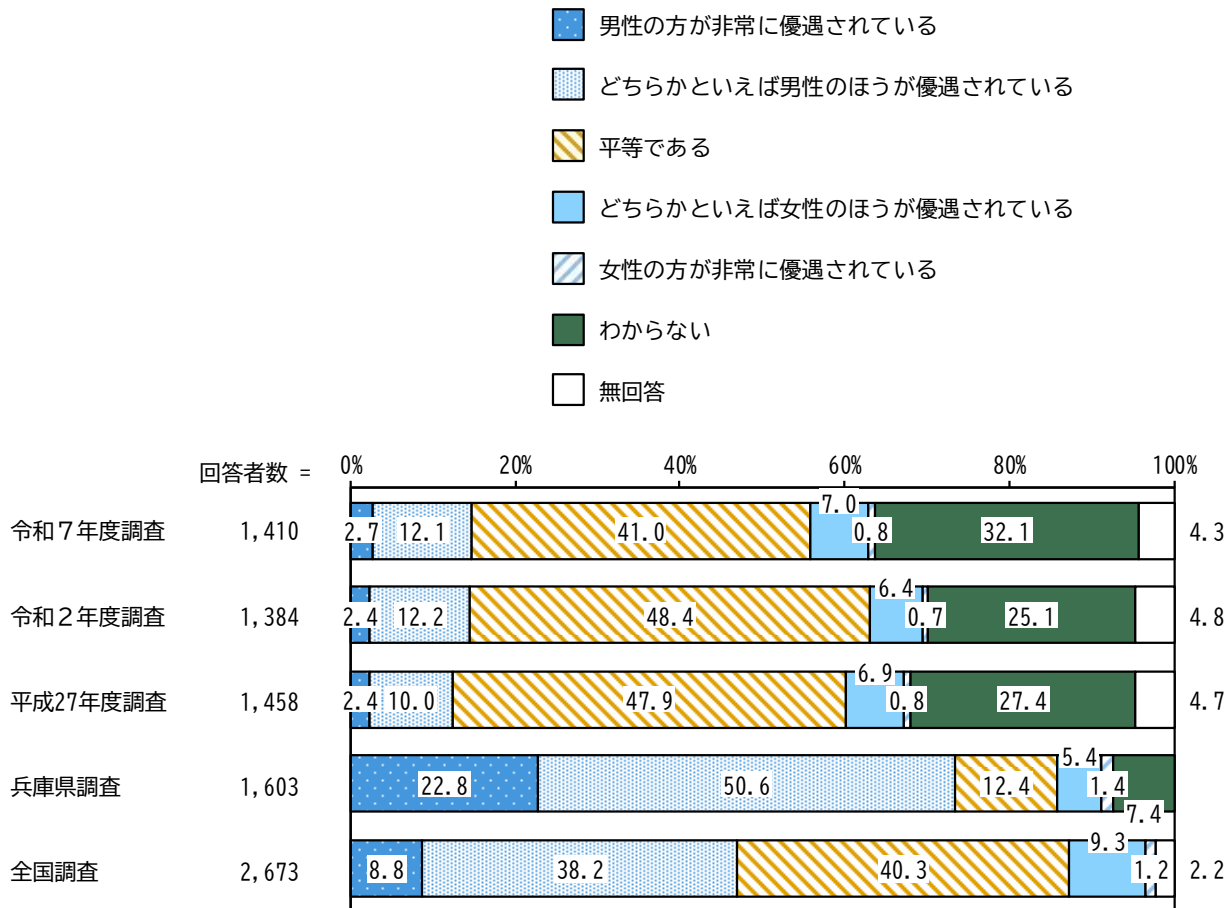
【経年比較】

過去調査と比較すると、平成27年度以降「平等である」の割合が減少しています。

また、令和2年度調査に比べ、令和7年度では「わからない」の割合が7.0ポイント増加しています。

兵庫県調査と比較すると、「平等である」の割合が28.6ポイント、「わからない」の割合が24.7ポイント高くなっています。一方、「男性優遇」の割合が58.6ポイント低くなっています。

全国調査と比較すると、「男性優遇」の割合が32.2ポイント低くなっています。



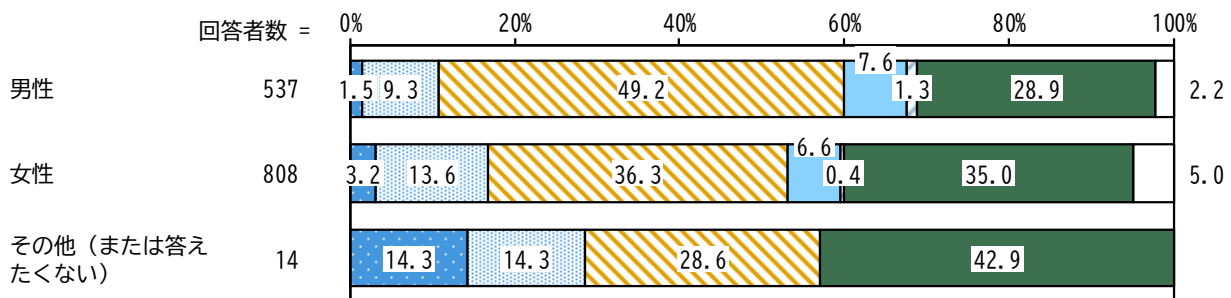
※兵庫県調査には、「無回答」の掲載はありません。

※全国調査には、「わからない」の選択肢はありません。

【性別】

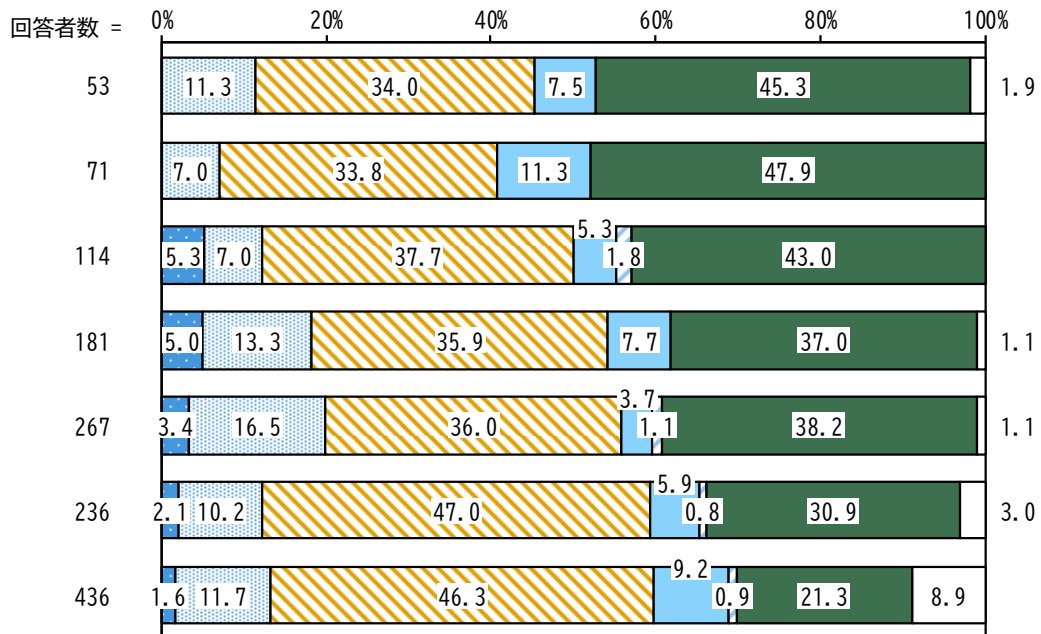
性別にみると、男性に比べ、女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【年齢別】

年齢別にみると、50歳代で“男性優遇”の割合が高くなっています。



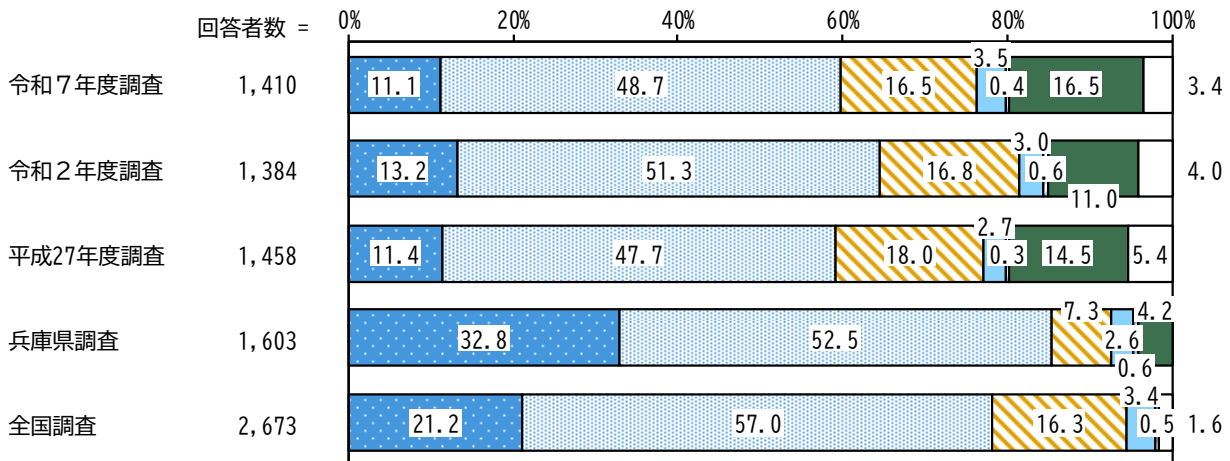
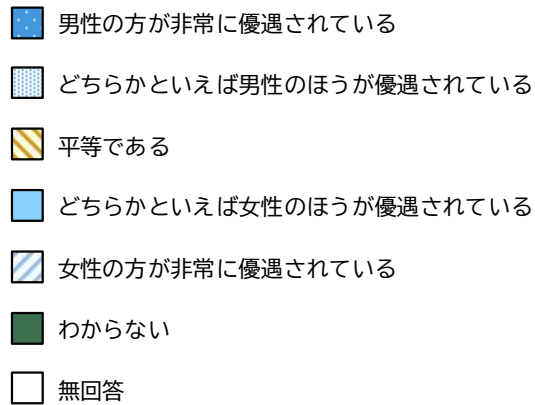
⑤社会の慣習やしきたりでは

【経年比較】

令和2年度調査に比べ、令和7年度では、「わからない」の割合が5.5ポイント増加しています。

兵庫県調査と比較すると、「平等である」の割合が9.2ポイント、「わからない」の割合が12.3ポイント高くなっています。一方、「男性優遇」の割合が25.5ポイント低くなっています。

全国調査と比較すると、「男性優遇」の割合が18.4ポイント低くなっています。

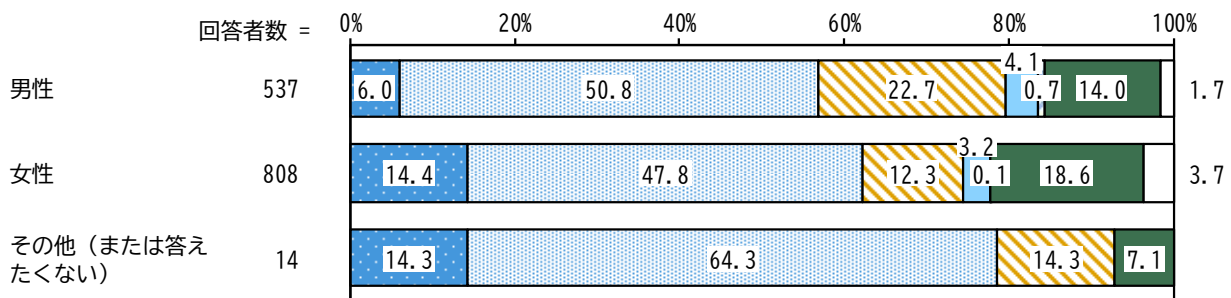
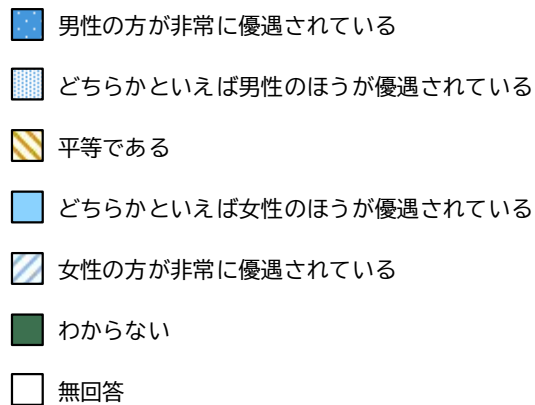


※兵庫県調査には、「無回答」の掲載はありません。

※全国調査には、「わからない」の選択肢はありません。

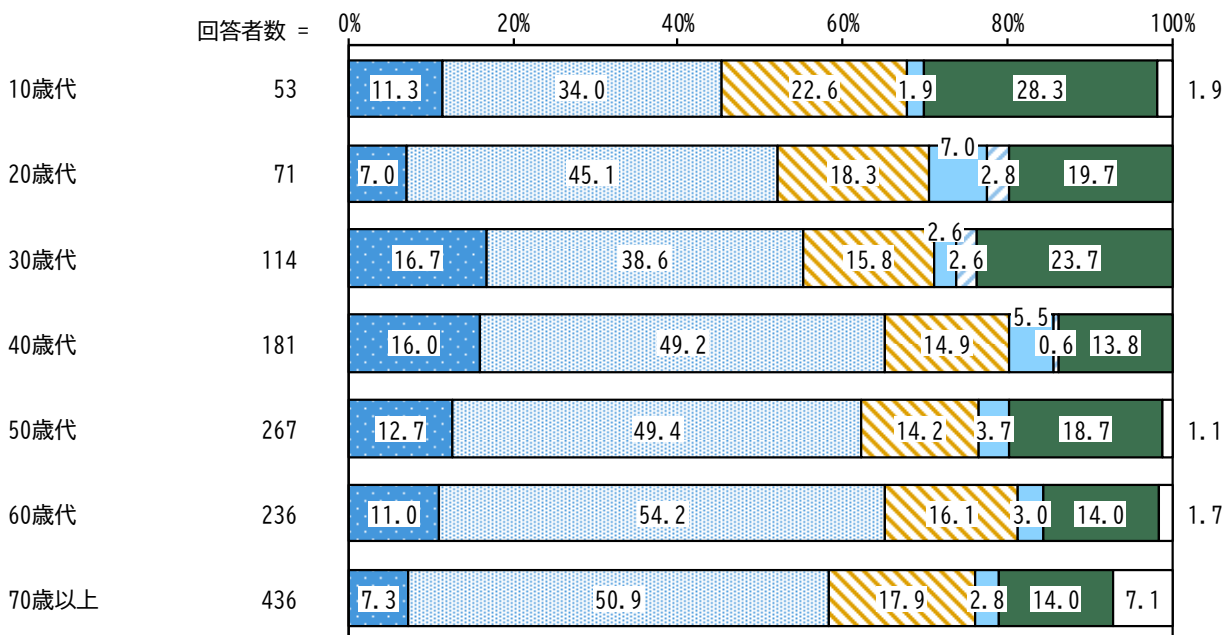
【性別】

性別にみると、男性に比べ、女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「男性の方が非常に優遇されている」の割合が高く、50歳代から10歳代まで年齢が下がるほど「平等である」の割合が高くなっています。また、10歳代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が低くなっています。



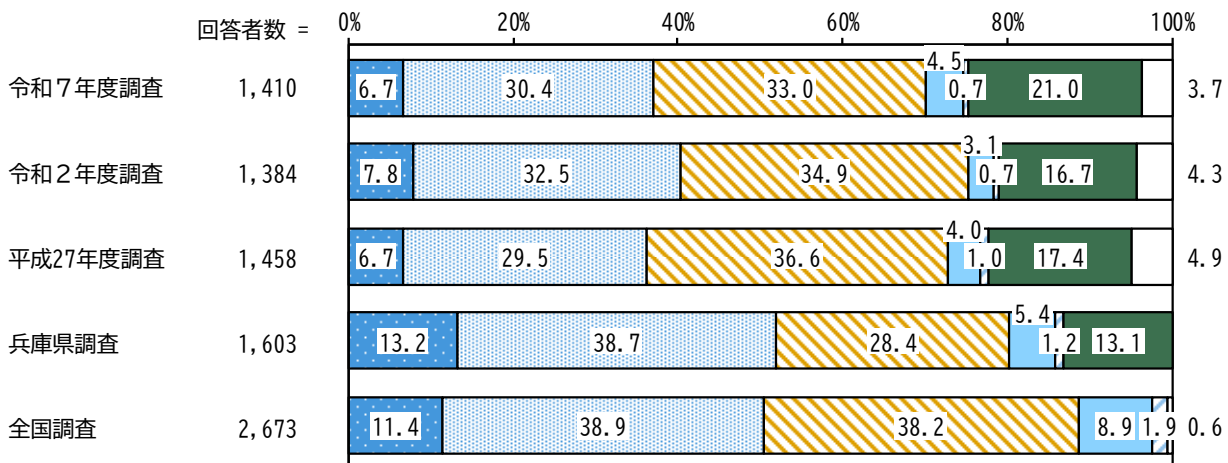
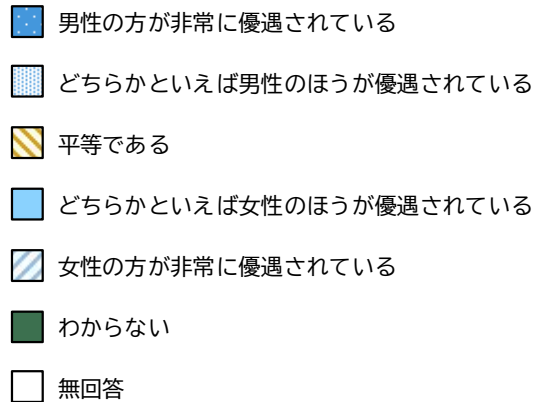
⑥法律や制度の上では

【経年比較】

過去調査と比較すると、大きな変化はみられません。

兵庫県調査と比較すると、「わからない」の割合が7.9ポイント高くなっています。一方、「男性優遇」の割合が14.8ポイント低くなっています。

全国調査と比較すると、「男性優遇」の割合が13.2ポイント、「平等である」の割合が5.2ポイント、「女性優遇」の割合が5.6ポイント低くなっています。



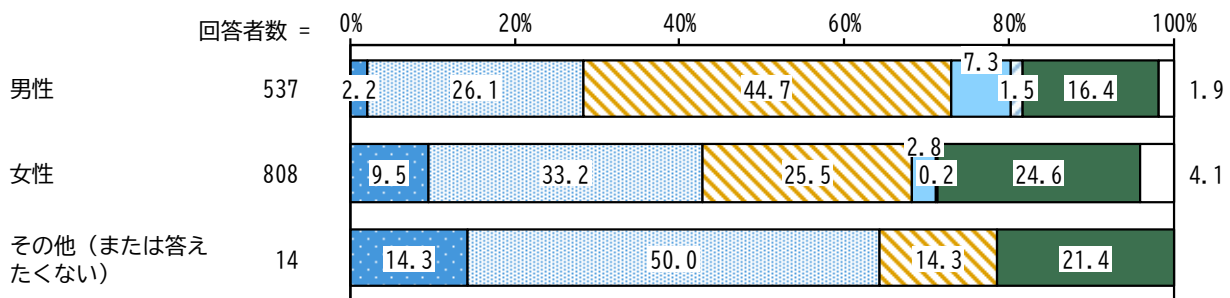
※兵庫県調査には、「無回答」の掲載はありません。

※全国調査には、「わからない」の選択肢はありません。

【性別】

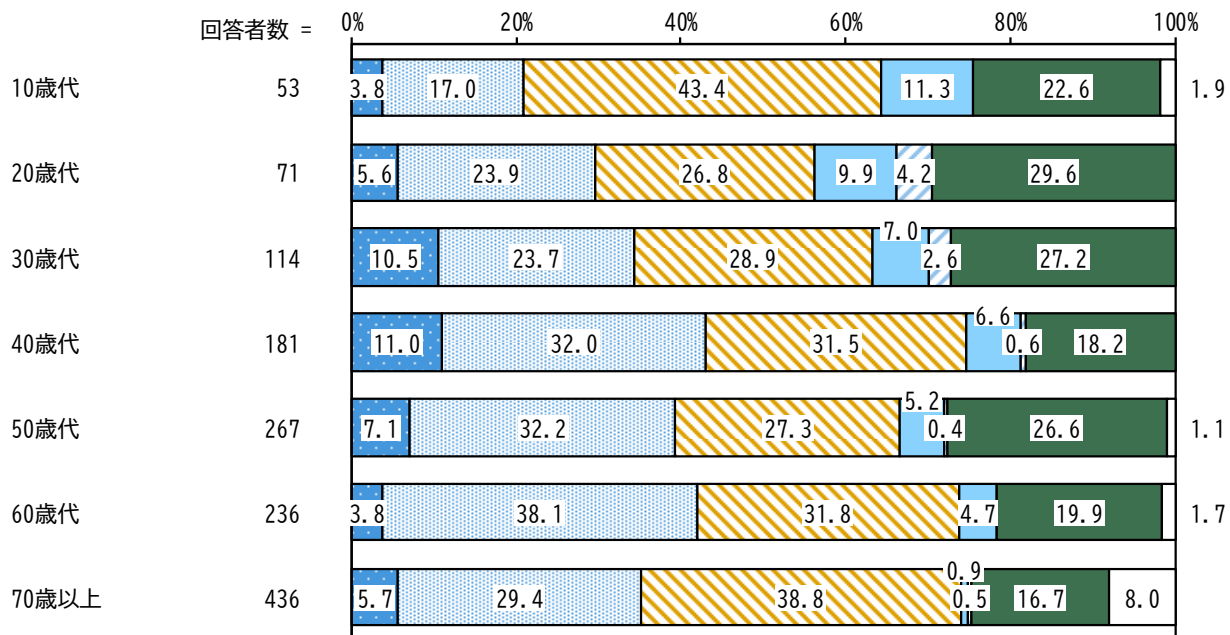
性別にみると、男性に比べ、女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【年齢別】

年齢別にみると、70歳以上から20歳代まで年齢が下がるほど“女性優遇”の割合が高くなっています。また、10歳代で「平等である」の割合が高く、“男性優遇”の割合が低くなっています。



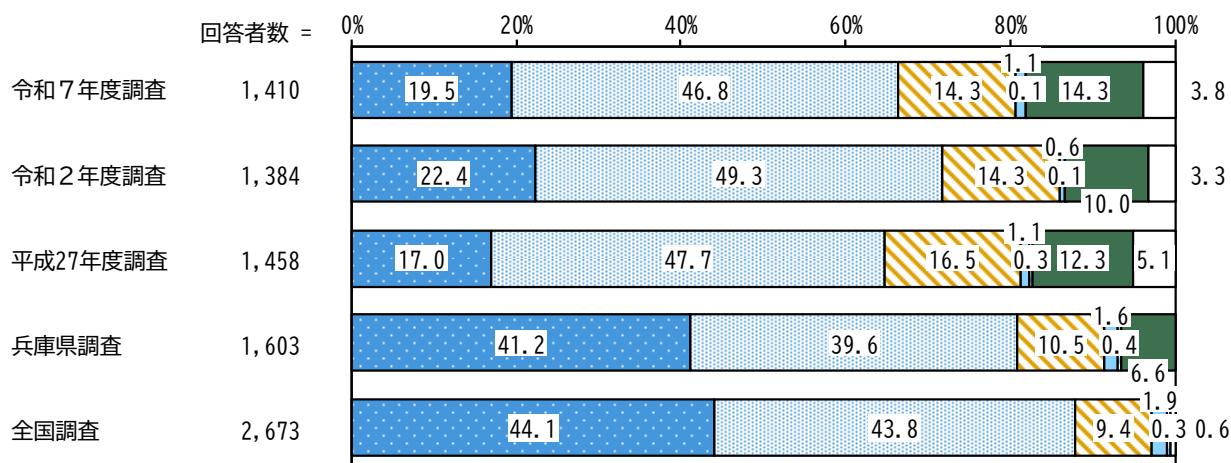
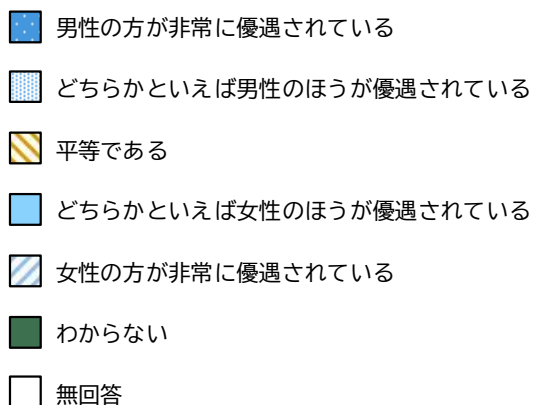
⑦政治（政策決定）・経済活動の場では

【経年比較】

過去調査と比較すると、大きな変化はみられません。

兵庫県調査と比較すると、「わからない」の割合が7.7ポイント高くなっています。一方、“男性優遇”の割合が14.5ポイント低くなっています。

全国調査と比較すると、“男性優遇”の割合が21.6ポイント低くなっています。



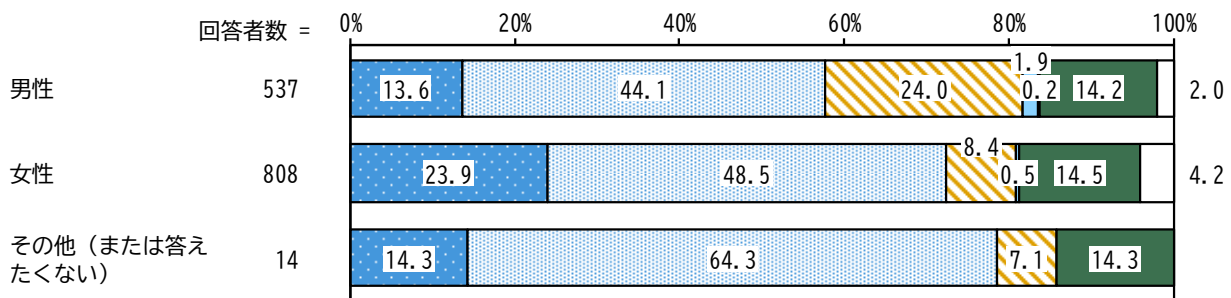
※兵庫県調査には、「無回答」の掲載はありません。

※全国調査には、「わからない」の選択肢はありません。

【性別】

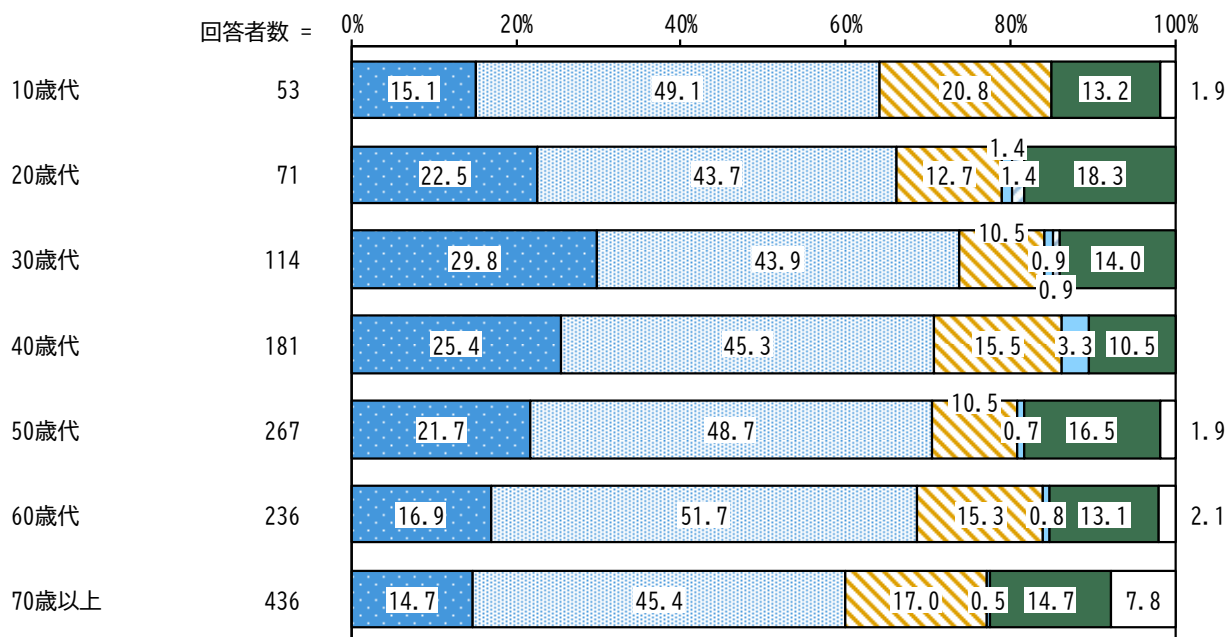
性別にみると、男性に比べ、女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【年齢別】

年齢別にみると、70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど“男性優遇”の割合が高くなっています。また、30歳代で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が高くなっています。



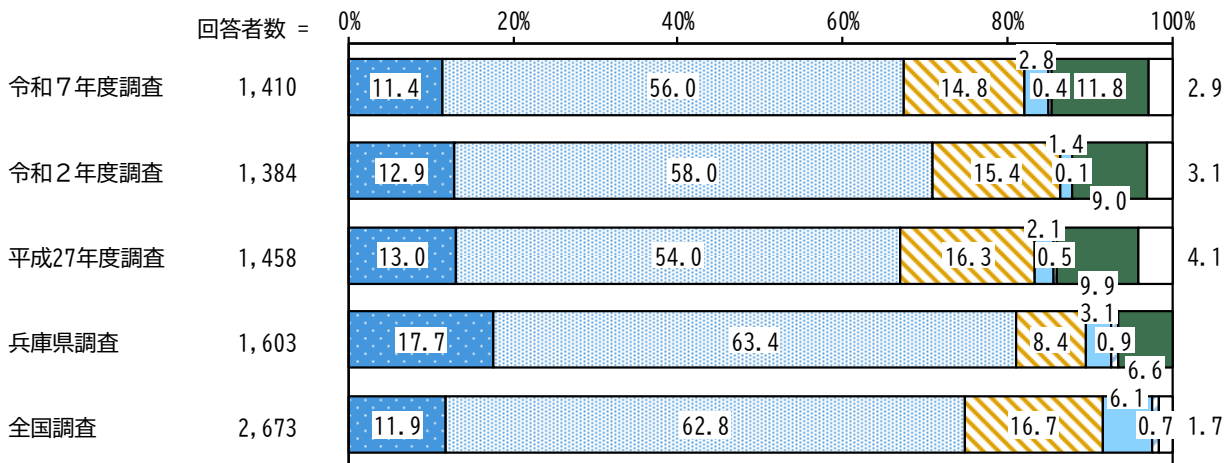
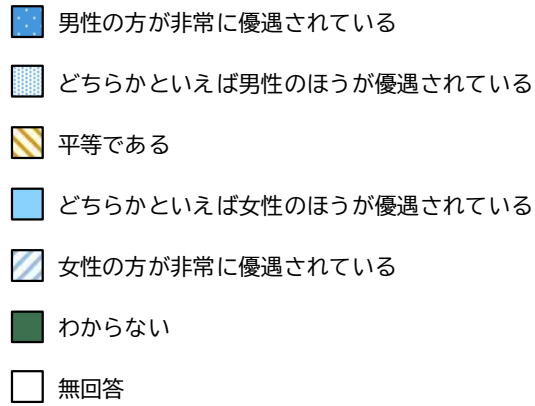
⑧全体として、男女の地位は

【経年比較】

過去調査と比較すると、大きな変化はみられません。

兵庫県調査と比較すると、「平等である」の割合が6.4ポイント、「わからない」の割合が5.2ポイント高くなっています。一方、「男性優遇」の割合が13.7ポイント低くなっています。

全国調査と比較すると、「男性優遇」の割合が7.3ポイント低くなっています。



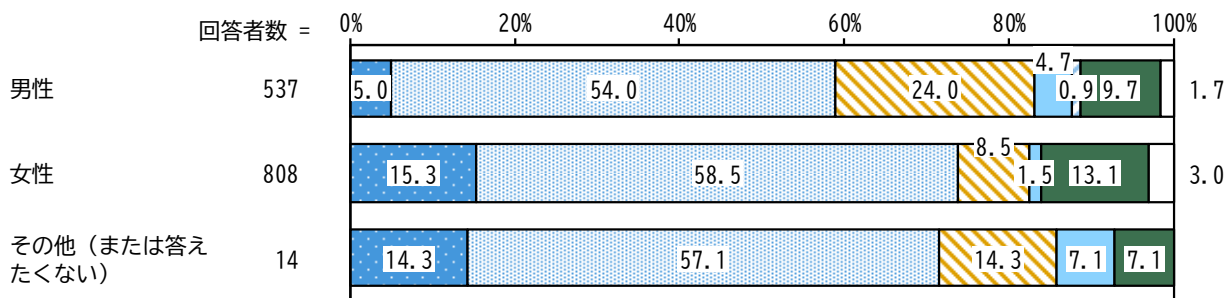
※兵庫県調査には、「無回答」の掲載はありません。

※全国調査には、「わからない」の選択肢はありません。

【性別】

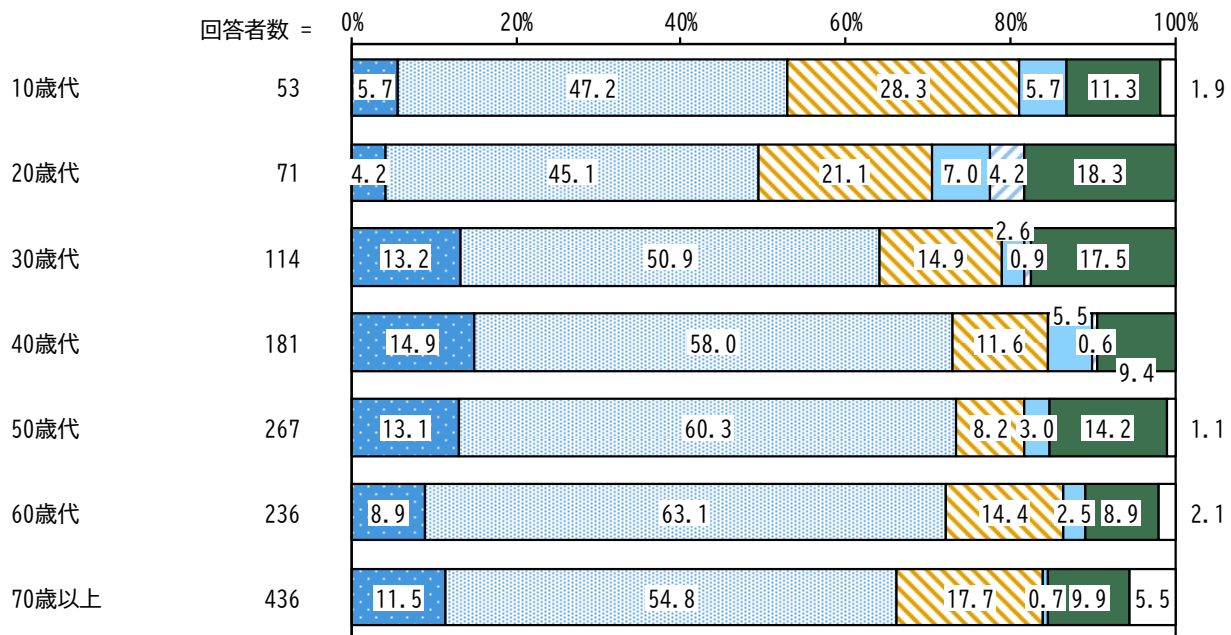
性別にみると、男性に比べ、女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【年齢別】

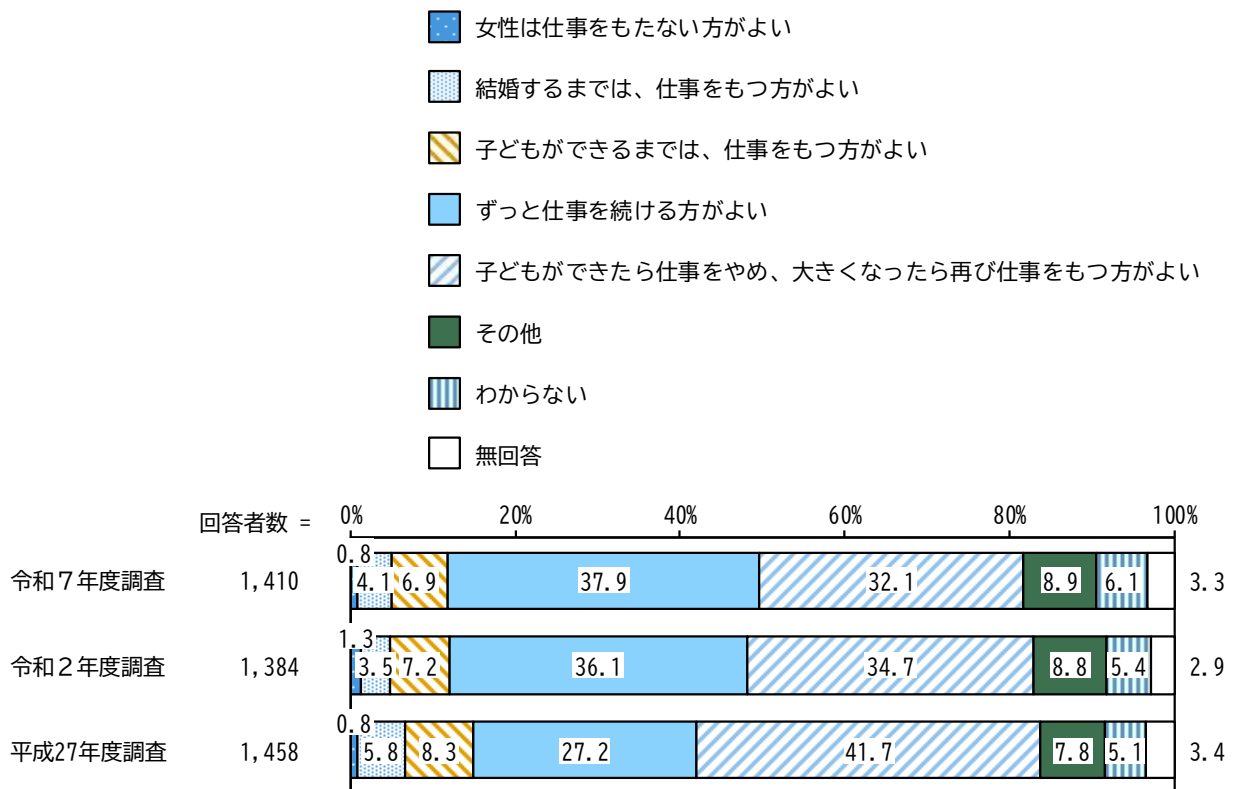
年齢別にみると、20歳代から50歳代まで年齢が上がるほど“男性優遇”の割合が高く、50歳代から10歳代まで年齢が下がるほど「平等である」の割合が高くなっています。



問32 あなたは、一般的に女性が仕事をもつことについて、どのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。(○は1つ)

「ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が37.9%と最も高く、次いで「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」の割合が32.1%となっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降「ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が増加しています。一方、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」の割合が減少しています。

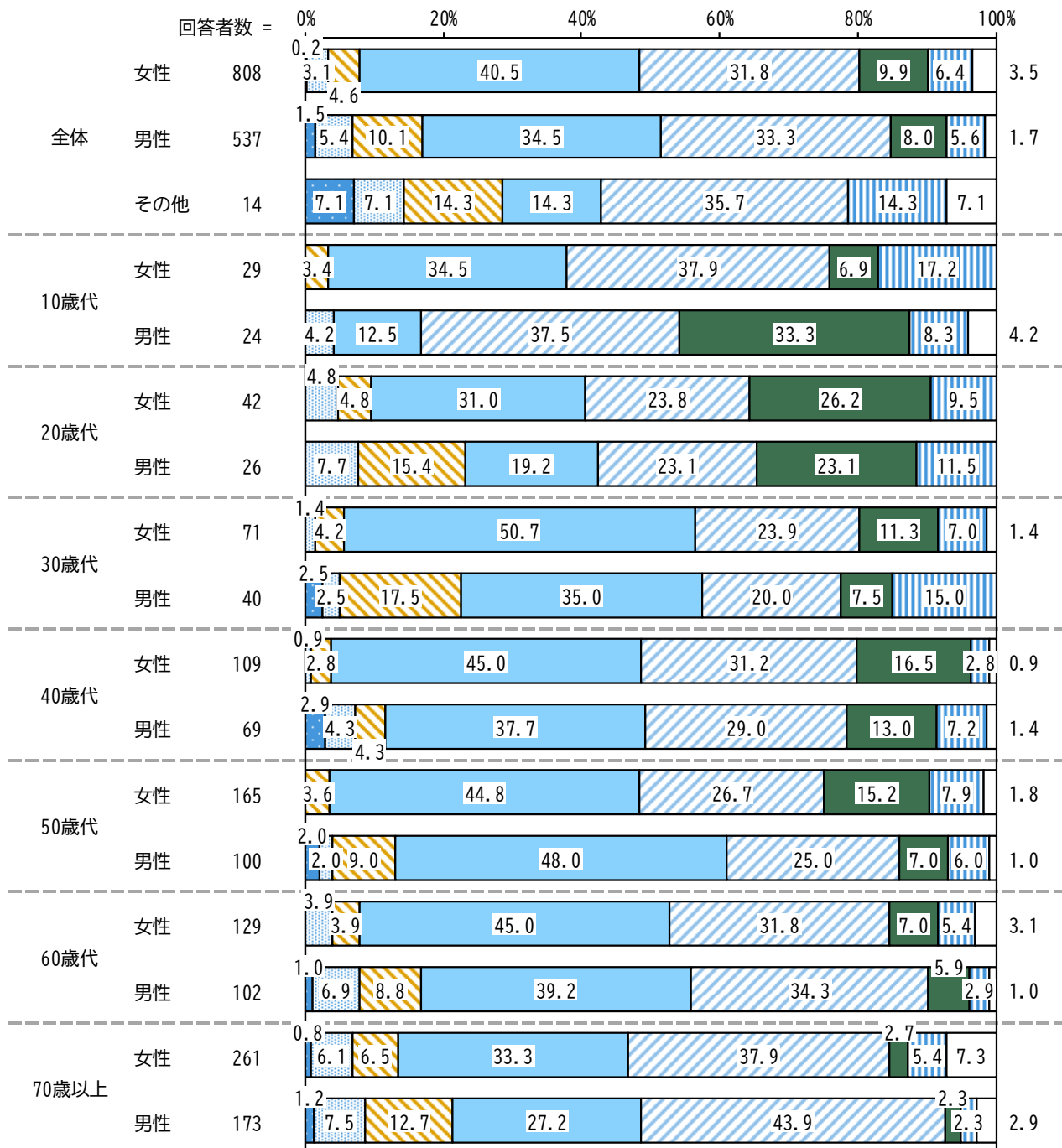


【性・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が高くなっています。

性・年齢別にみると、女性では70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が高い傾向にあります。また、男性70歳以上で「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」の割合が高くなっています。

- 女性は仕事をもたない方がよい
- 子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい
- 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい
- その他
- わからない
- 結婚するまでは、仕事をもつ方がよい
- ずっと仕事を続ける方がよい
- 無回答



問33 生活の中での「仕事」と「家庭生活や地域活動」の優先度について、あなたの理想と現状に最も近いものを、それぞれお答えください（○はそれぞれ1つ）。

A. 理想

『「仕事」を優先している』と『どちらかといえば「仕事」を優先している』を合わせた“「仕事」を優先している”の割合が13.4%、『「仕事」と『家庭生活や地域活動』のバランスをうまくとっている』の割合が45.9%、『どちらかといえば『家庭生活や地域活動』を優先している』と『家庭生活や地域活動』を優先している』を合わせた“「家庭生活や地域活動」を優先している”の割合が11.3%となっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降『「仕事」と『家庭生活や地域活動』のバランスをうまくとっている』の割合が増加しています。

B. 現状

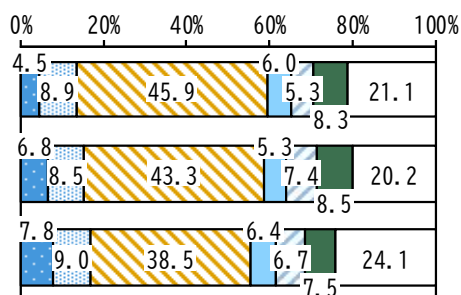
“「仕事」を優先している”の割合が33.9%、『「仕事」と『家庭生活や地域活動』のバランスをうまくとっている』の割合が14.7%、“「家庭生活や地域活動」を優先している”の割合が15.7%となっています。

過去調査と比較すると、大きな変化はみられません。

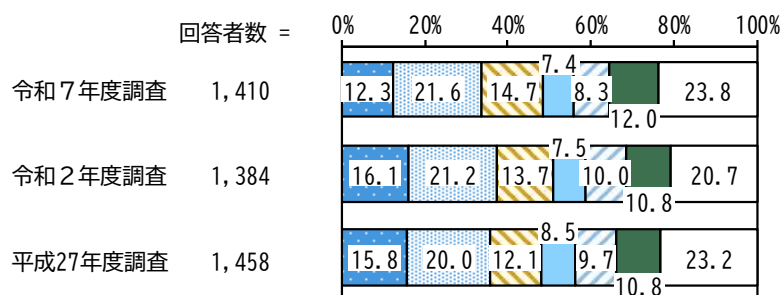
理想と現状で比較すると、『「仕事」と『家庭生活や地域活動』のバランスをうまくとっている』で乖離が大きくなっています。また、平成27年度から令和7年度にかけて乖離が大きくなっており、令和7年度では31.2ポイントの差があります。

- 「仕事」を優先している
- どちらかといえば「仕事」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活や地域活動」のバランスをうまくとっている
- どちらかといえば「家庭生活や地域活動」を優先している
- 「家庭生活や地域活動」を優先している
- わからない
- 無回答

【理想】



【現状】



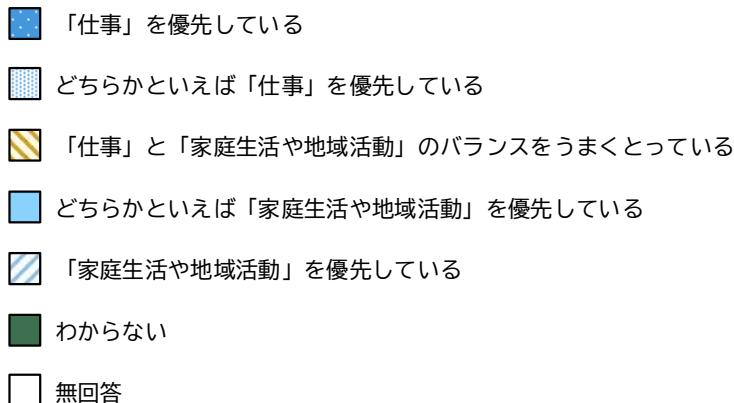
【性別・年齢別】

理想について、性別にみると、女性に比べ、男性で「仕事」を優先している”の割合が高くなっています。

年齢別にみると、10歳代で『仕事』と『家庭生活や地域活動』のバランスをうまくとっている”の割合が高くなっています。

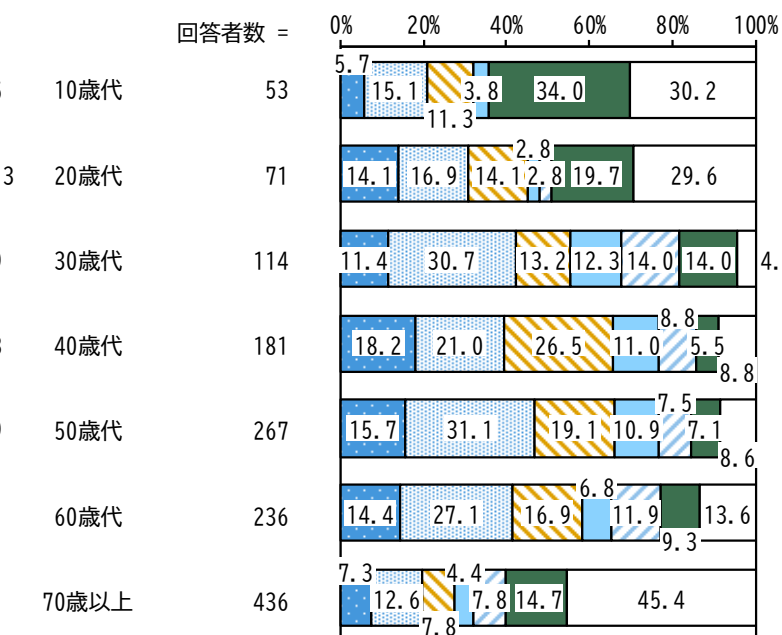
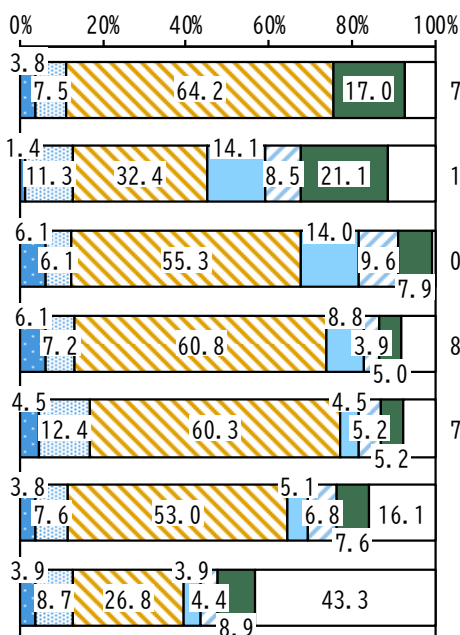
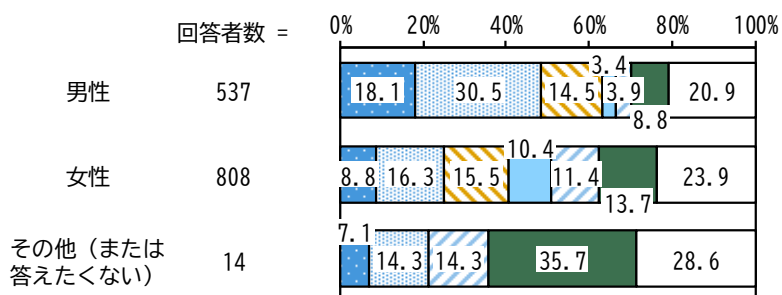
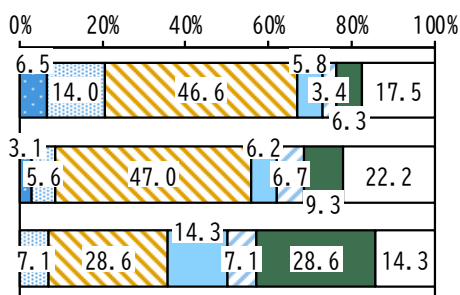
現状について、性別にみると、女性に比べ、男性で「仕事」を優先している”の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「家庭生活や地域活動」を優先している”の割合が高くなっています。

年齢別にみると、40歳代で『仕事』と『家庭生活や地域活動』のバランスをうまくとっている」、50歳代で「仕事」を優先している”の割合が高くなっています。



【理想】

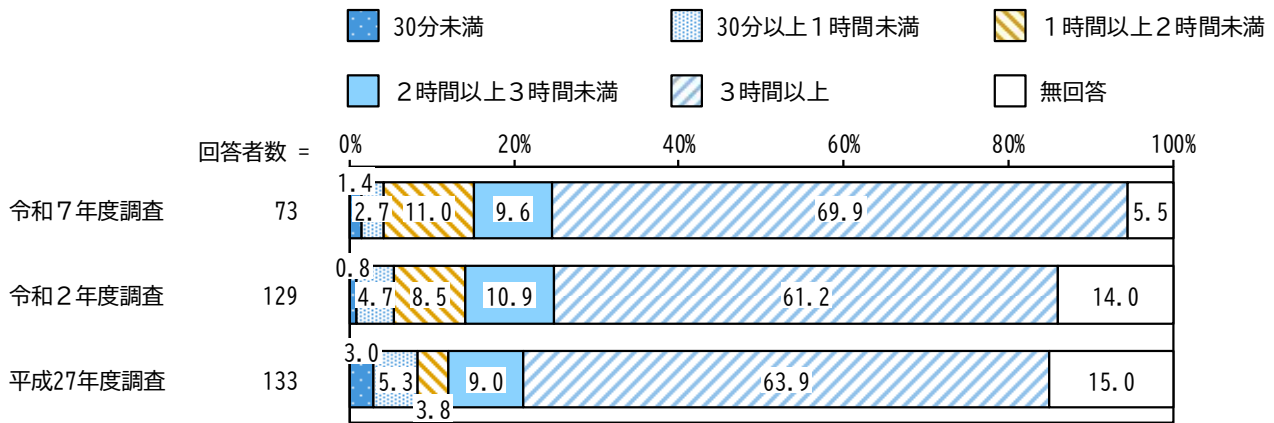
【現状】



問34 小学校入学前のお子さんがある方におうかがいします。育児に関わる時間は、週平均で1日どれくらいですか。(〇は1つ)

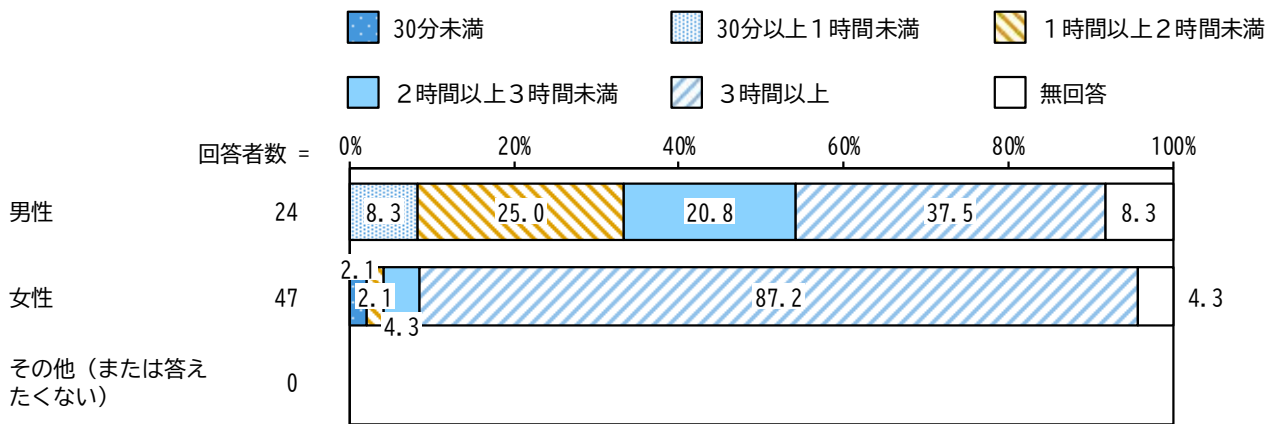
「3時間以上」の割合が69.9%と最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」の割合が11.0%となっています。

過去調査と比較すると、令和7年度では「3時間以上」の割合が増加しています。



【性別】

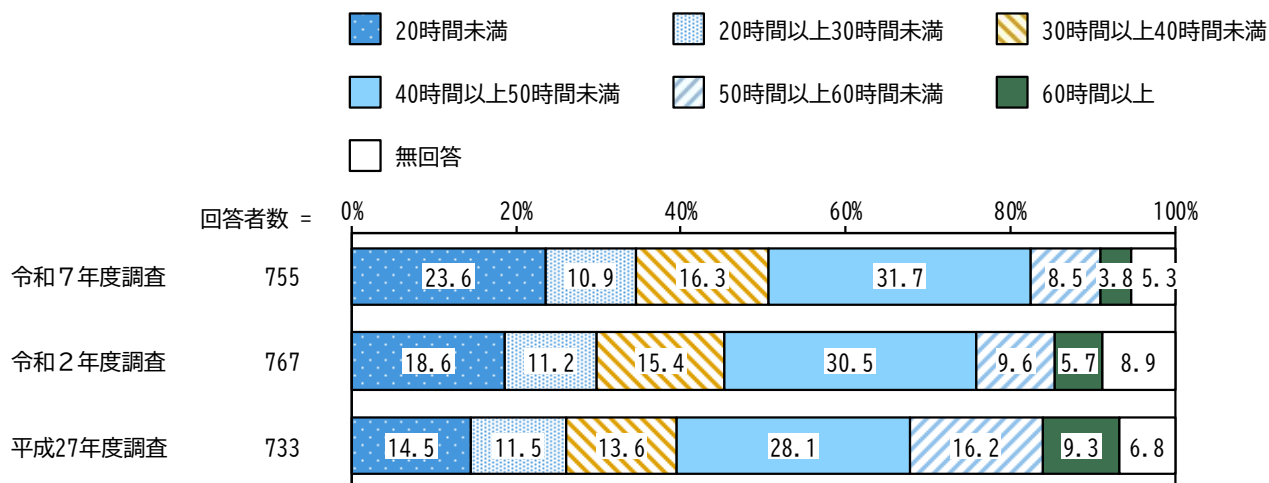
性別にみると、男性に比べ、女性で「3時間以上」の割合が高くなっています。



問35 現在、収入をとまなう仕事をしている方におうかがいします。現在残業も含めて週あたり何時間くらい仕事をしていますか。(〇は1つ)

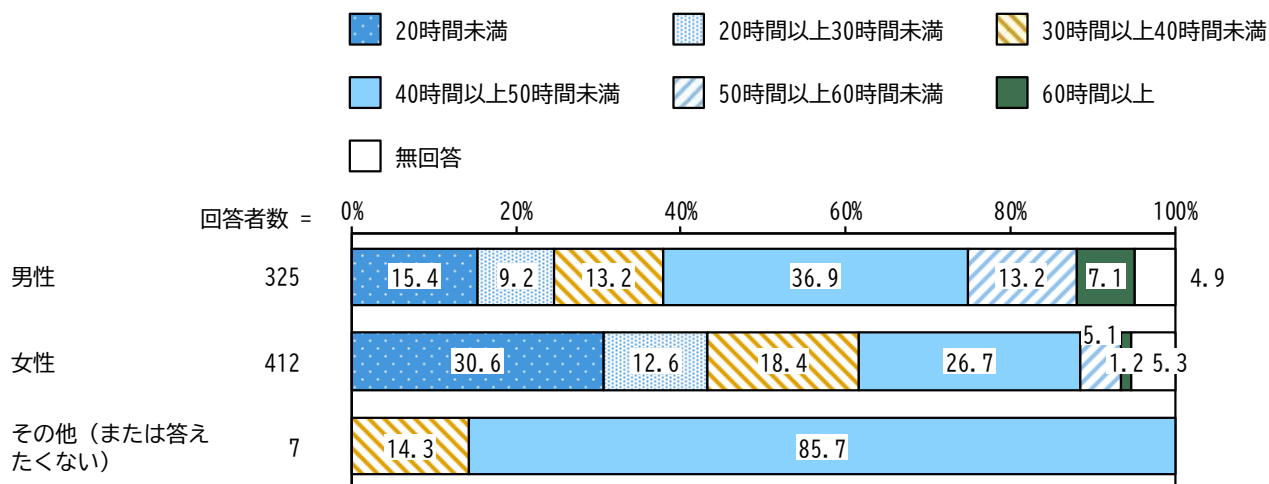
「40時間以上50時間未満」の割合が31.7%と最も高く、次いで「20時間未満」の割合が23.6%、「30時間以上40時間未満」の割合が16.3%となっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降「20時間未満」の割合が増加しています。一方、「50時間以上60時間未満」「60時間以上」の割合が減少しています。



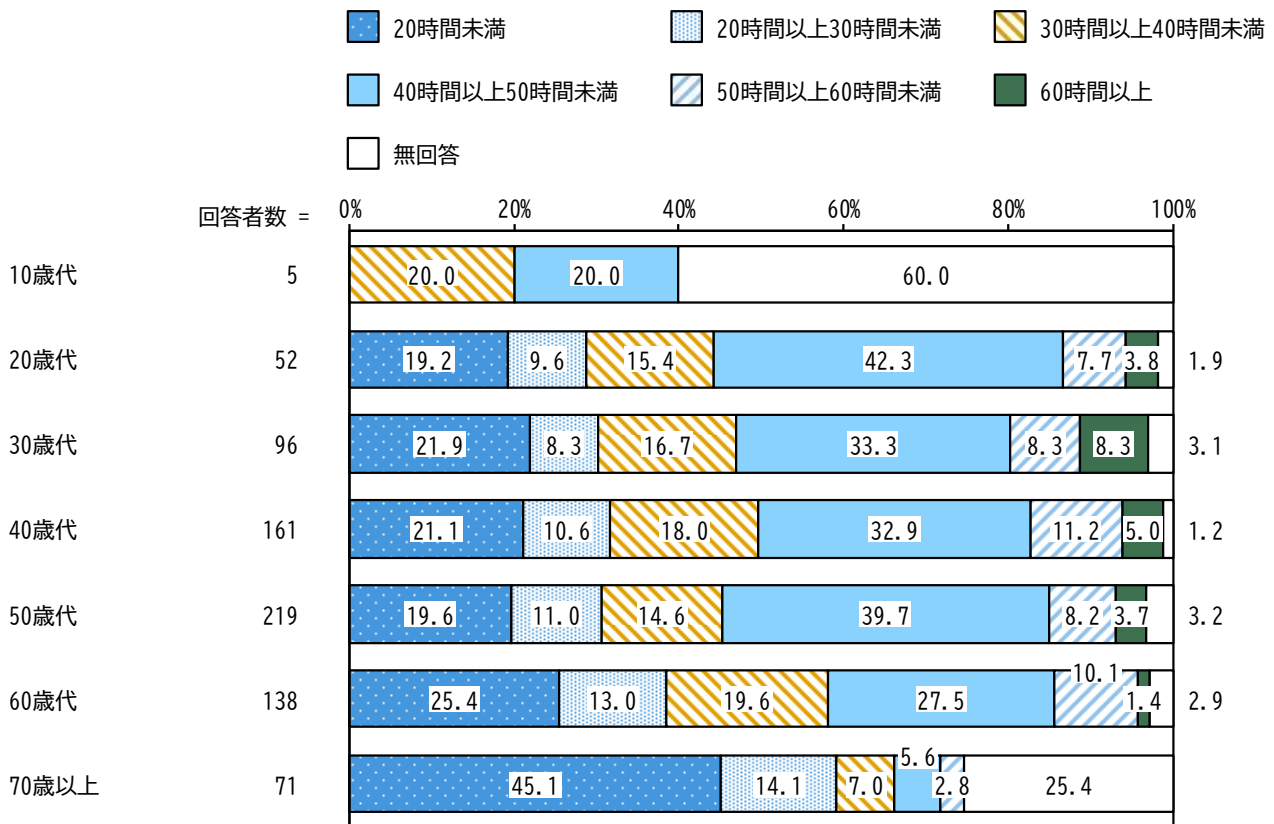
【性別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「40時間以上50時間未満」「50時間以上60時間未満」「60時間以上」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「20時間未満」「30時間以上40時間未満」の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「20時間以上30時間未満」の割合が高い傾向にあり、10歳代から40歳代まで年齢が上がるほど「50時間以上60時間未満」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「20時間未満」、20歳代で「40時間以上50時間未満」の割合が高くなっています。

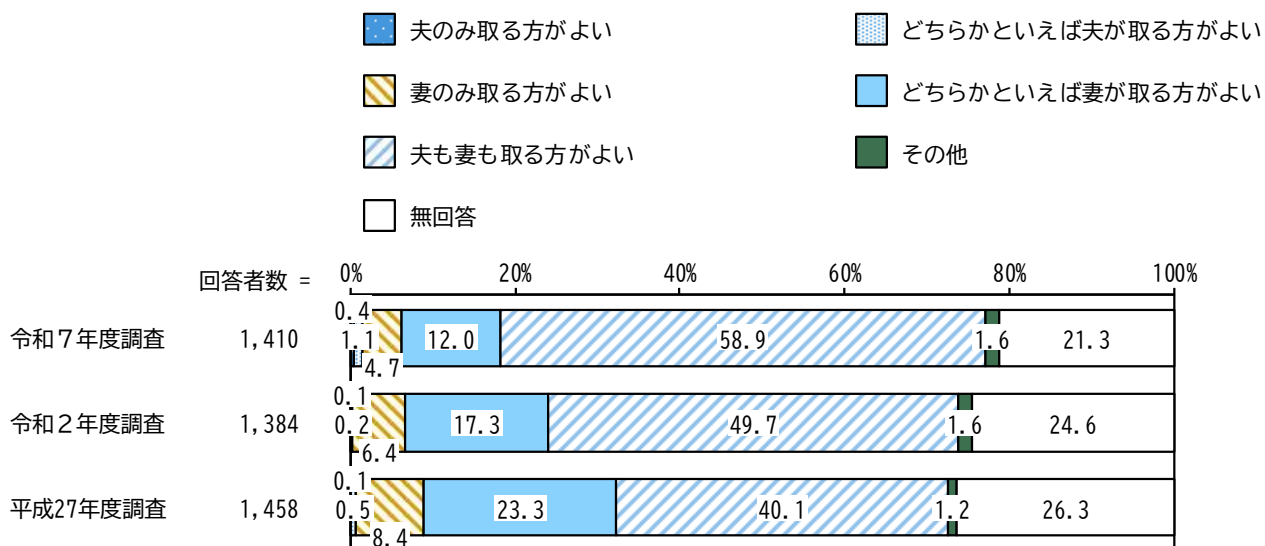


問36 育児休業・介護休業を取るとしたら、どうするのがよいと思いますか。あなたの考えに一番近いものをお答えください。(〇はそれぞれ1つ)

A. 育児休業

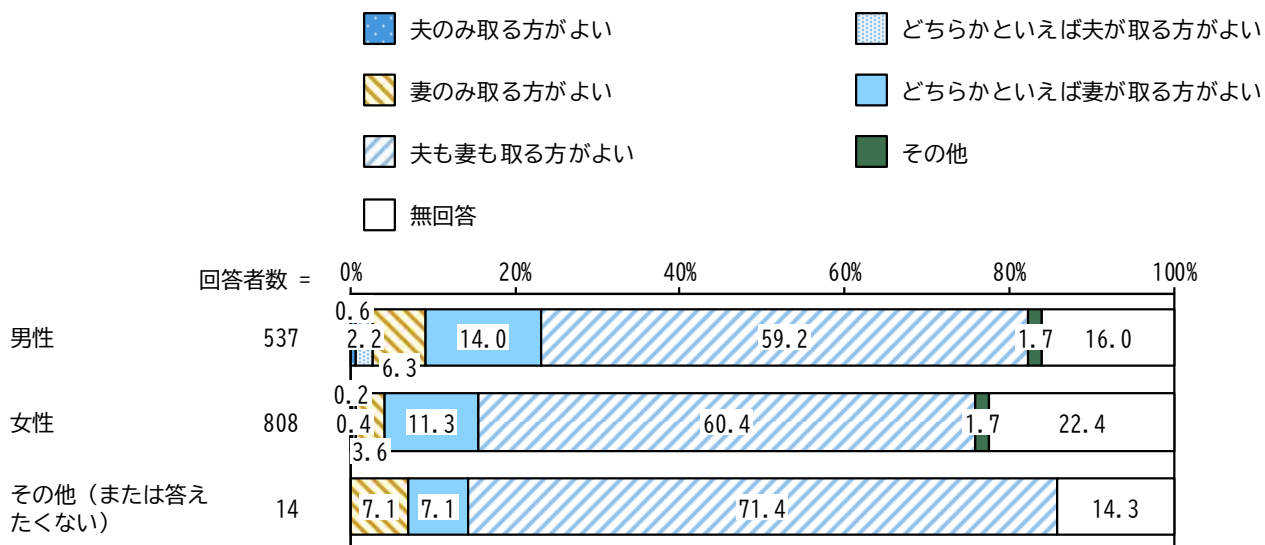
「夫も妻も取る方がよい」の割合が58.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば妻が取る方がよい」の割合が12.0%となっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降「夫も妻も取る方がよい」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば妻が取る方がよい」の割合が減少しています。



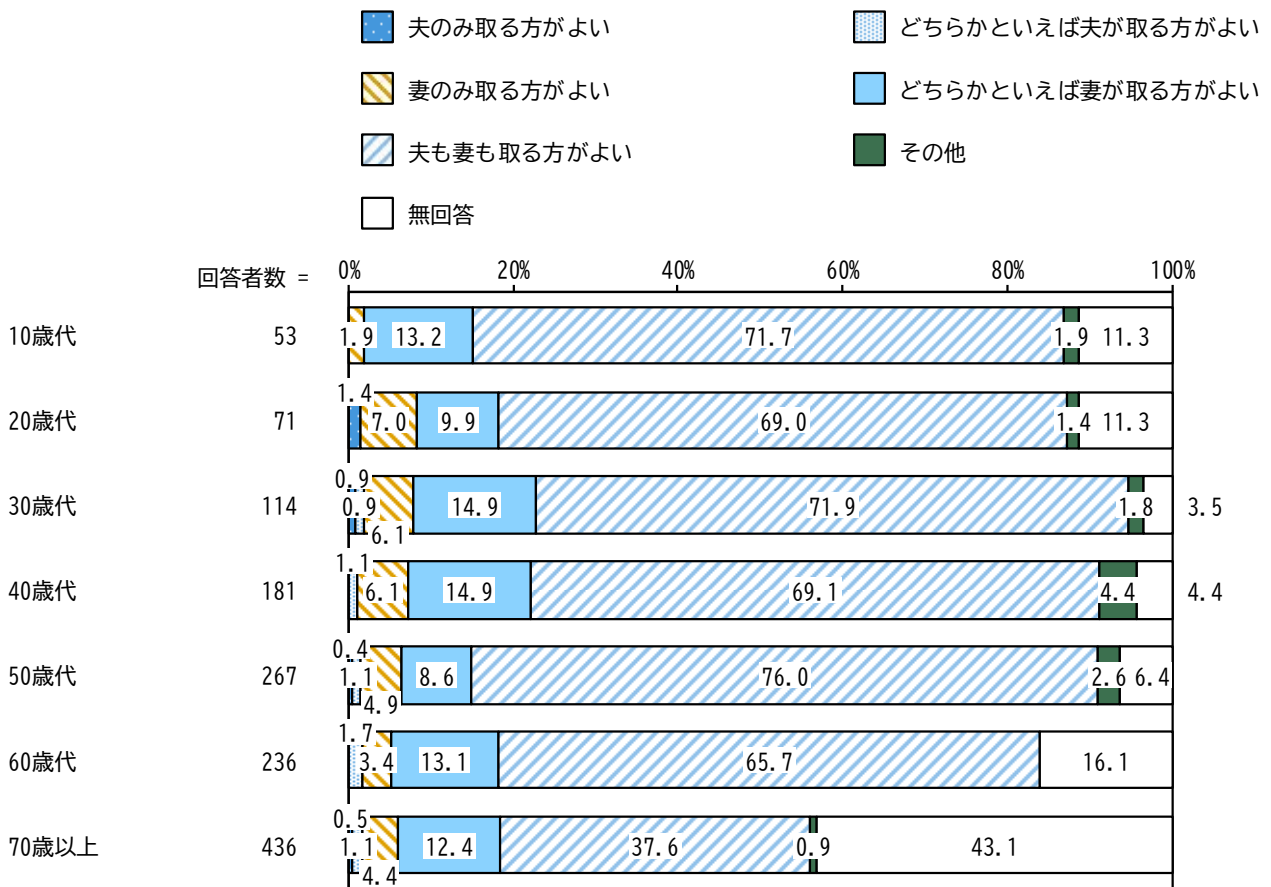
【性別】

性別にみると、男女で大きな差はみられません。



【年齢別】

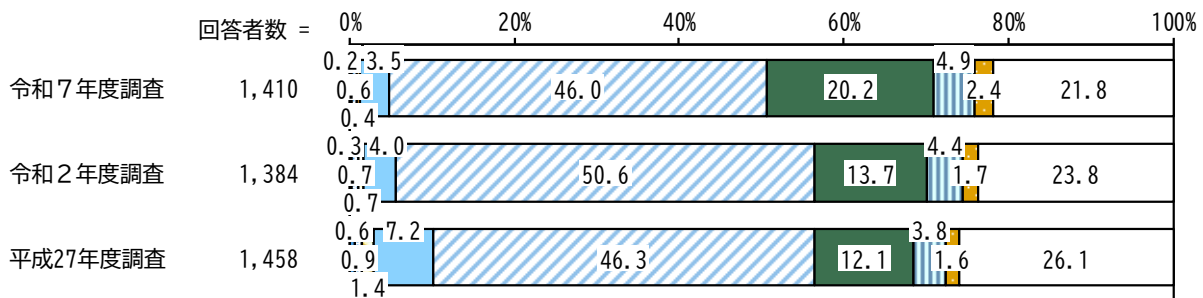
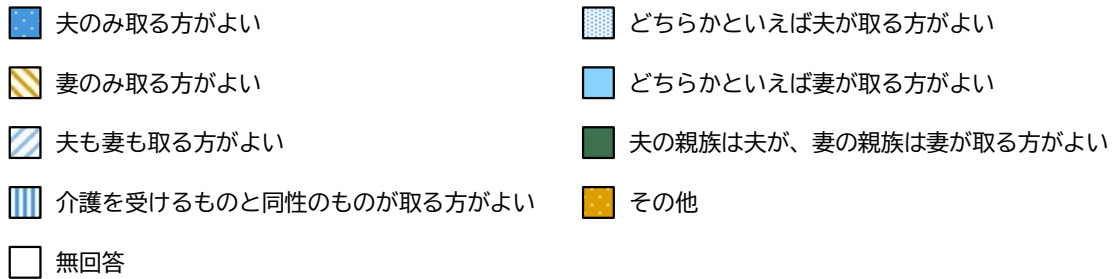
年齢別にみると、50歳代で「夫も妻も取る方がよい」の割合が高くなっています。



B. 介護休業

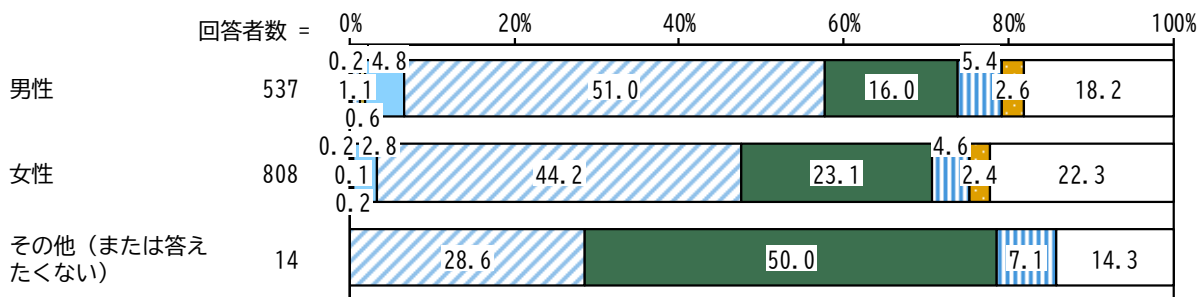
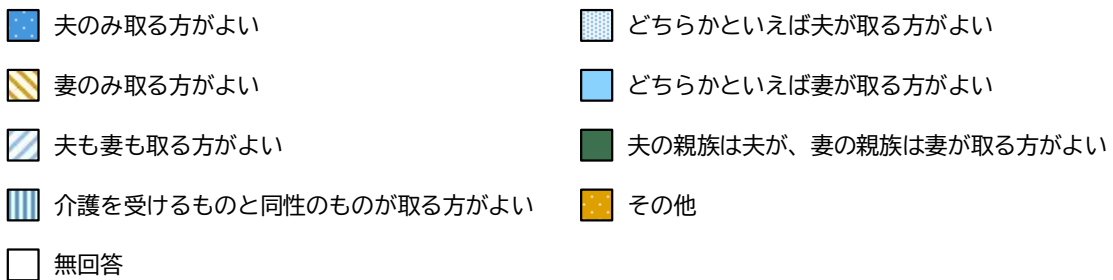
「夫も妻も取る方がよい」の割合が46.0%と最も高く、次いで「夫の親族は夫が、妻の親族は妻が取る方がよい」の割合が20.2%となっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降「夫の親族は夫が、妻の親族は妻が取る方がよい」の割合が増加しています。



【性別】

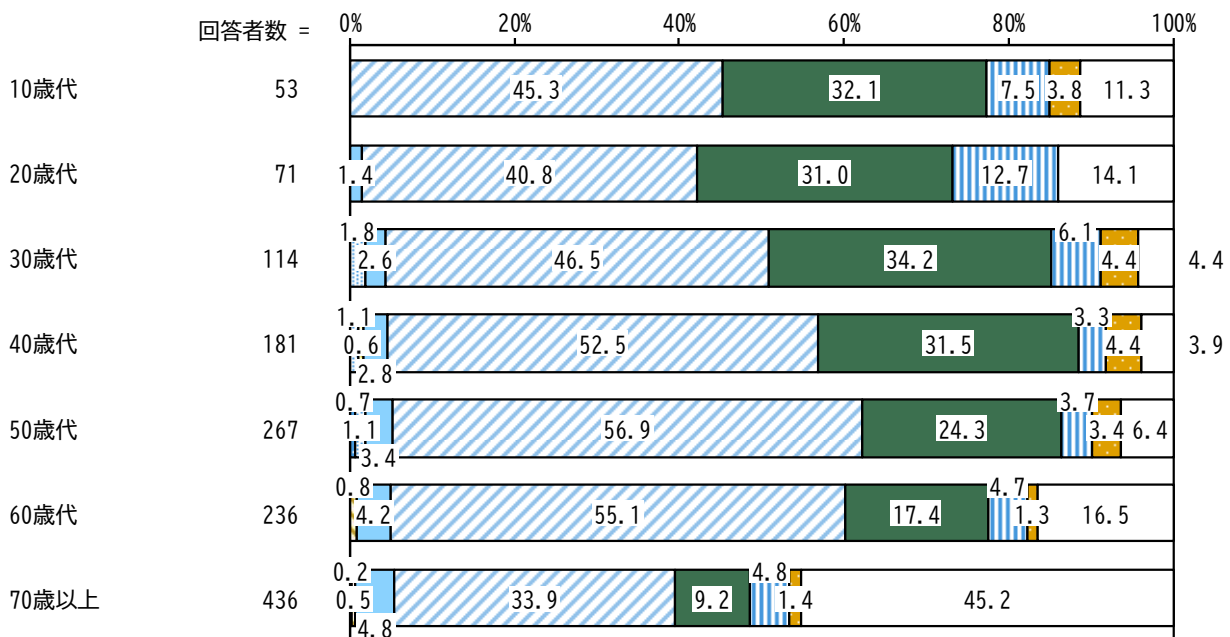
性別にみると、女性に比べ、男性で「夫も妻も取る方がよい」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「夫の親族は夫が、妻の親族は妻が取る方がよい」の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「夫の親族は夫が、妻の親族は妻が取る方がよい」の割合が高くなっています。また、50歳代で「夫も妻も取る方がよい」の割合が高くなっています。

- 夫のみ取る方がよい
- 妻のみ取る方がよい
- 夫も妻も取る方がよい
- 介護を受けるものと同性のものが取る方がよい
- 無回答
- どちらかといえば夫が取る方がよい
- どちらかといえば妻が取る方がよい
- 夫の親族は夫が、妻の親族は妻が取る方がよい
- その他

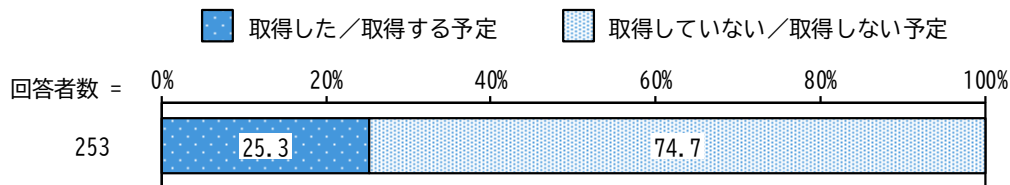


小学校入学前のお子さんがある方（本人またはパートナーが妊娠中の方も含む）、または、介護の必要な親族がいる方（いた方）におうかがいします。

問37 あなたは、育児休業・介護休業を取得されましたか。また、その予定はありますか。
 (○はそれぞれ1つ)

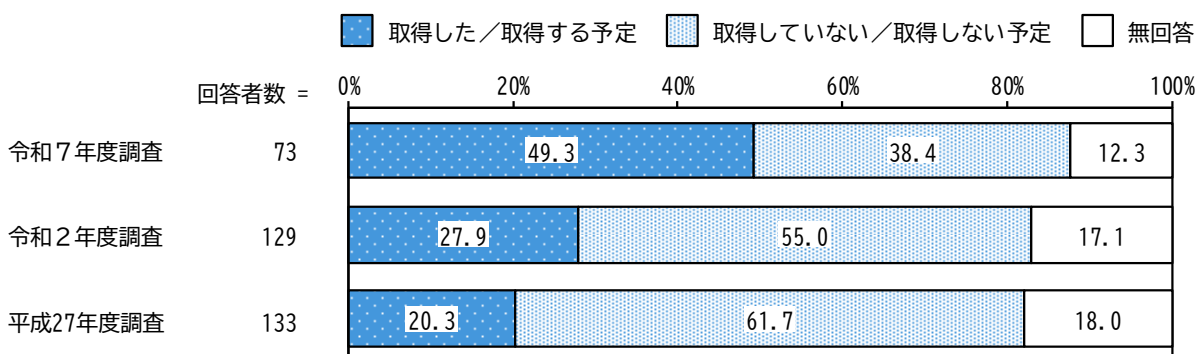
1. 育児休業

「取得した／取得する予定」の割合が25.3%、「取得していない／取得しない予定」の割合が74.7%となっています。



【経年比較】

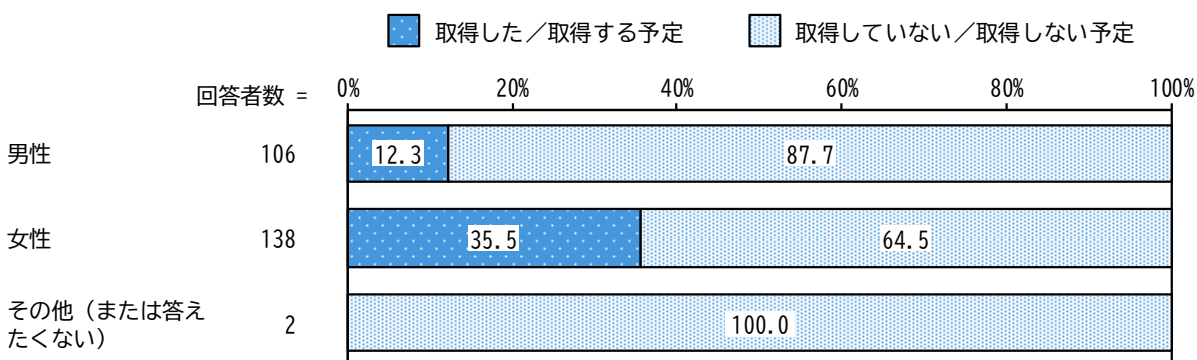
過去調査と比較すると、平成27年度以降「取得した／取得する予定」の割合が増加しています。



※経年比較は過去調査に合わせて、問55で「乳幼児（小学校入学前）」と答えた方に限定した集計で比較しています。

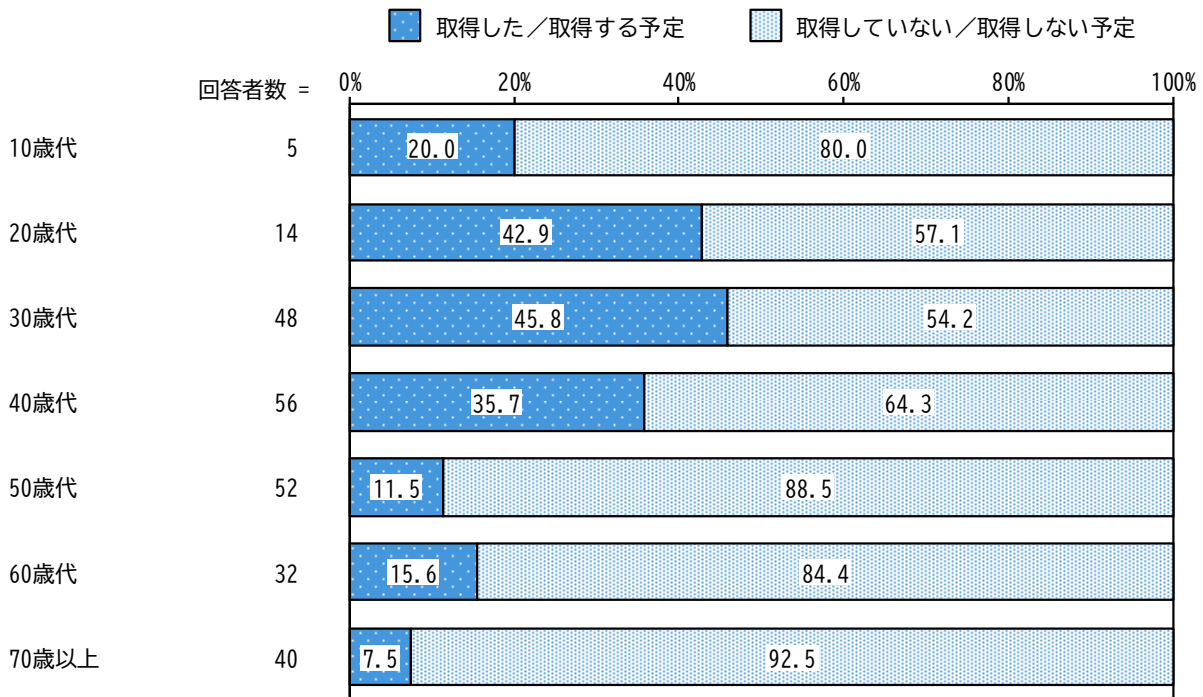
【性別】

性別にみると、男性に比べ、女性で「取得した／取得する予定」の割合が高くなっています。



【年齢別】

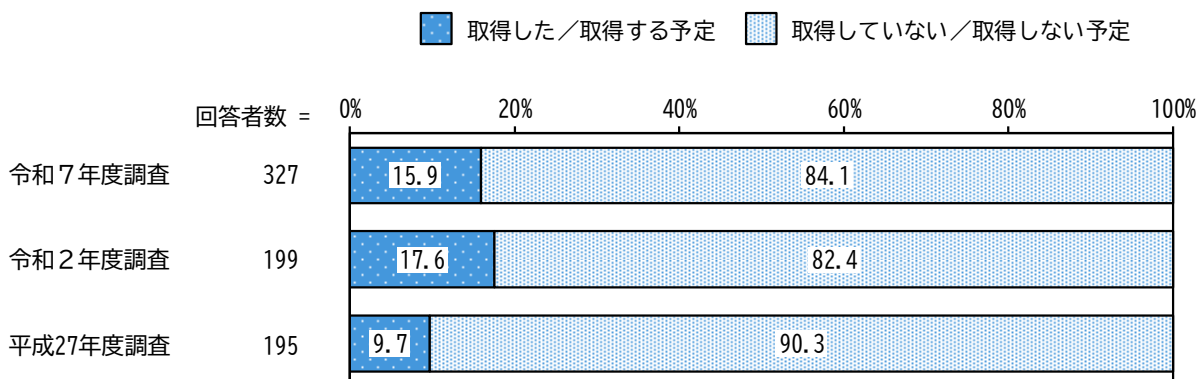
年齢別にみると、20歳代、30歳代で「取得した／取得する予定」、70歳以上で「取得していない／取得しない予定」の割合が高くなっています。



2. 介護休業

「取得した／取得する予定」の割合が15.9%、「取得していない／取得しない予定」の割合が84.1%となっています。

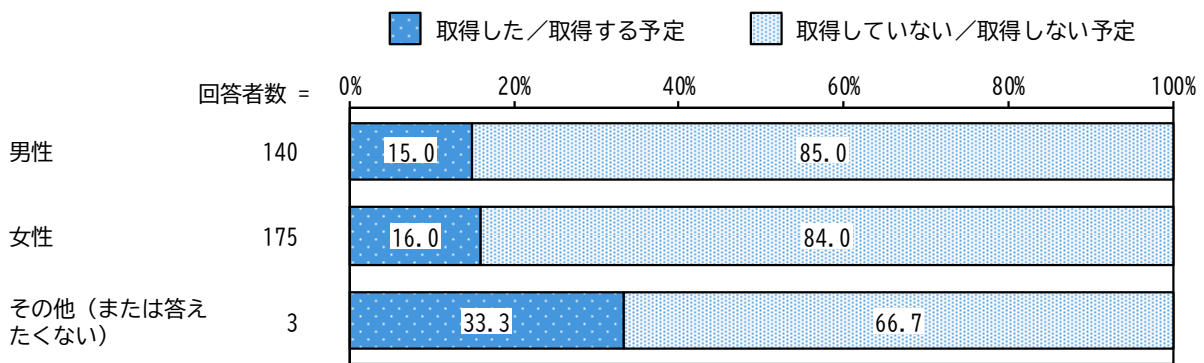
過去調査と比較すると、平成27年度以降「取得した／取得する予定」の割合が増加傾向にあります。



※経年比較は過去調査に合わせて、「無回答」を除いて集計しています。

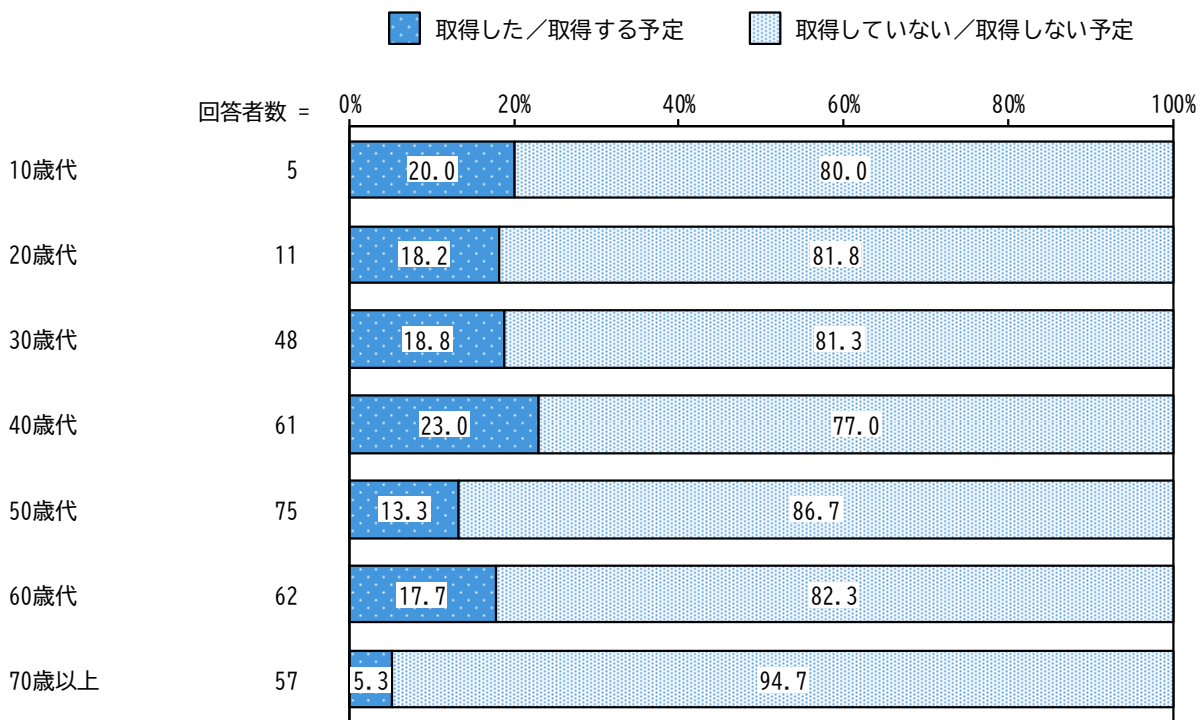
【性別】

性別にみると、男女で大きな差はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、すべての年齢で「取得していない/取得しない予定」の割合が7割を超えています。



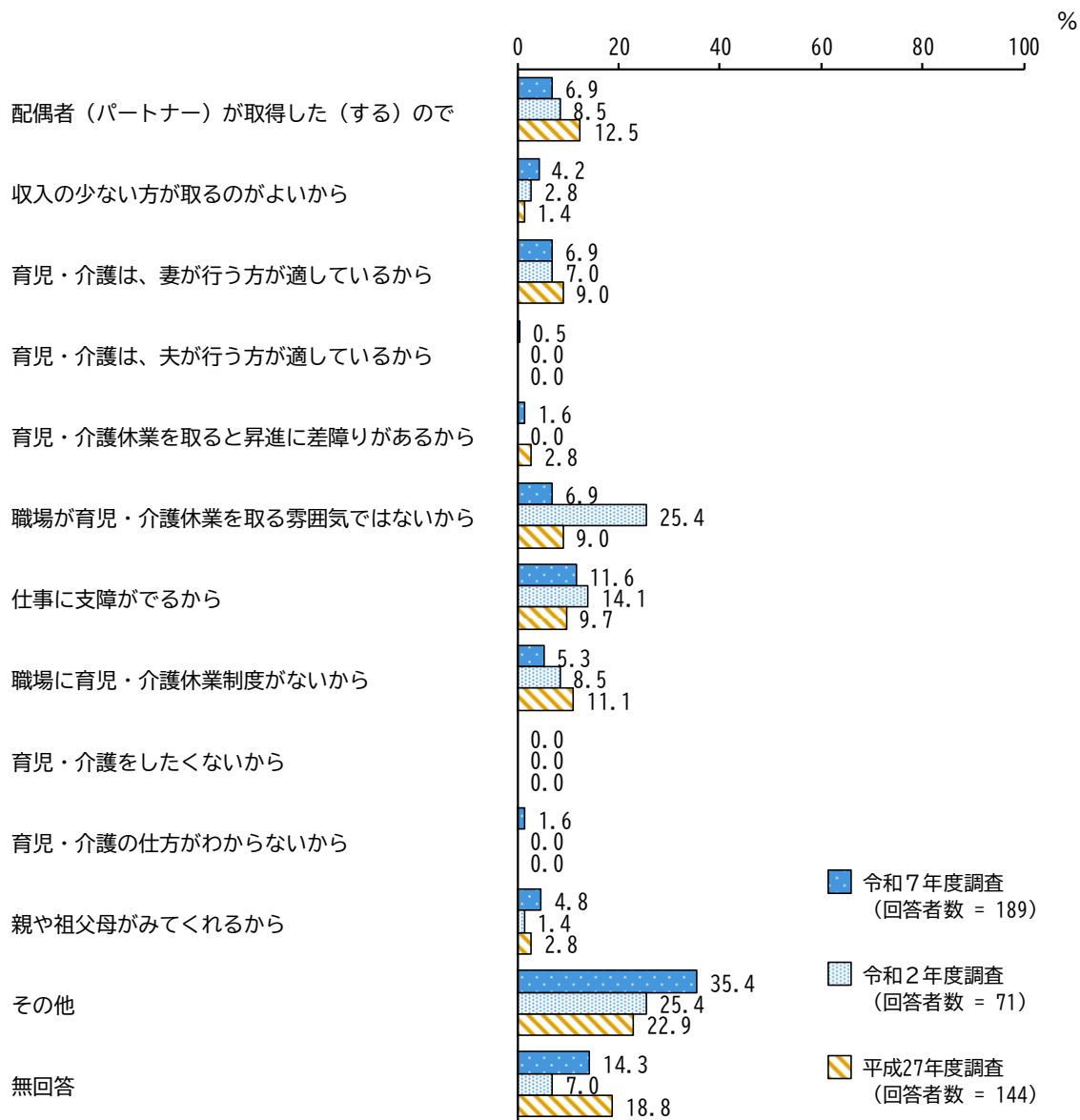
問37で「取得していない／取得しない予定」とお答えの方におうかがいします。

問37-1 取得しなかった理由について（○はそれぞれ1つ）

A. 育児休業

「仕事に支障がでるから」の割合が11.6%と最も高くなっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降「職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから」の割合が減少しています。



【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「配偶者（パートナー）が取得した（する）ので」「職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから」「仕事に支障がでるから」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、30歳代から60歳代まで年齢が上がるほど「職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから」の割合が高い傾向にあり、50歳代から30歳代まで年齢が下がるほど「配偶者（パートナー）が取得した（する）ので」の割合が高い傾向にあります。

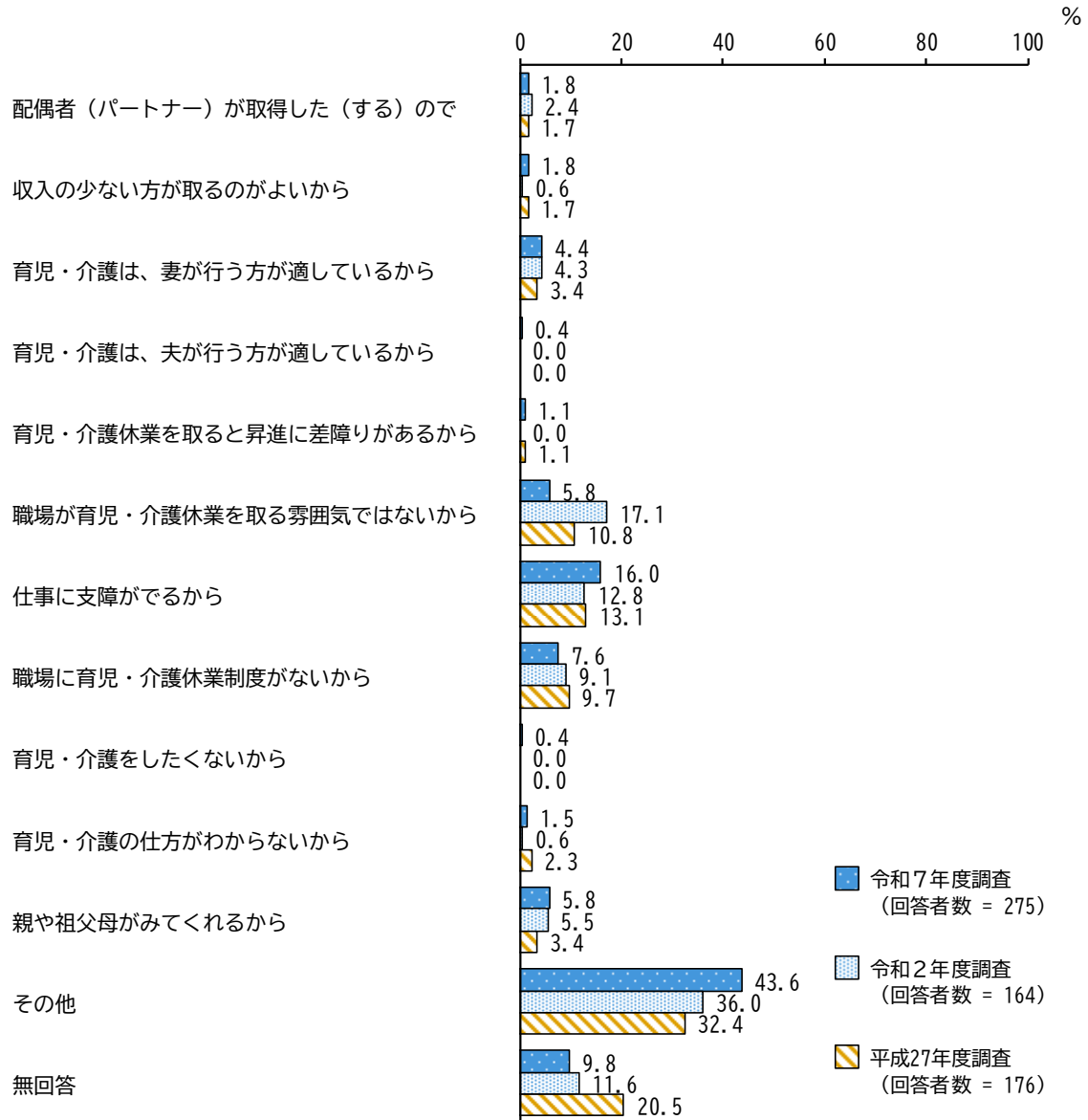
単位：％

区分		回答者数（件）	配偶者（パートナー）が取得した（する）ので	収入の少ない方が取るのがよいから	育児・介護は、妻が行う方が適しているから	育児・介護は、夫が行う方が適しているから	育児・介護休業を取ると昇進に差障りがあるから	職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから	仕事に支障がでるから	職場に育児・介護休業制度がないから	育児・介護をしたくないから	育児・介護の仕方がわからないから	親や祖父母がみてくれるから	その他	無回答
性別	男性	93	9.7	4.3	7.5	1.1	0.0	10.8	15.1	5.4	0.0	2.2	4.3	30.1	9.7
	女性	89	3.4	4.5	6.7	0.0	3.4	3.4	7.9	5.6	0.0	1.1	4.5	42.7	16.9
	その他（または答えたくない）	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
年齢別	10歳代	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0
	20歳代	8	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0
	30歳代	26	15.4	15.4	0.0	0.0	3.8	7.7	11.5	0.0	0.0	0.0	0.0	34.6	11.5
	40歳代	36	13.9	8.3	5.6	0.0	2.8	8.3	16.7	2.8	0.0	0.0	0.0	33.3	8.3
	50歳代	46	6.5	0.0	6.5	0.0	0.0	8.7	13.0	10.9	0.0	2.2	4.3	39.1	8.7
	60歳代	27	0.0	0.0	14.8	0.0	0.0	11.1	18.5	3.7	0.0	0.0	0.0	25.9	25.9
	70歳以上	37	0.0	0.0	10.8	2.7	2.7	2.7	2.7	5.4	0.0	0.0	13.5	43.2	16.2

B. 介護休業

「仕事に支障がでるから」の割合が16.0%と最も高くなっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降「職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから」の割合が減少しています。



【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「仕事に支障がでるから」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、60歳代から20歳代まで年齢が下がるほど「親や祖父母がみてくれるから」の割合が高い傾向にあります。

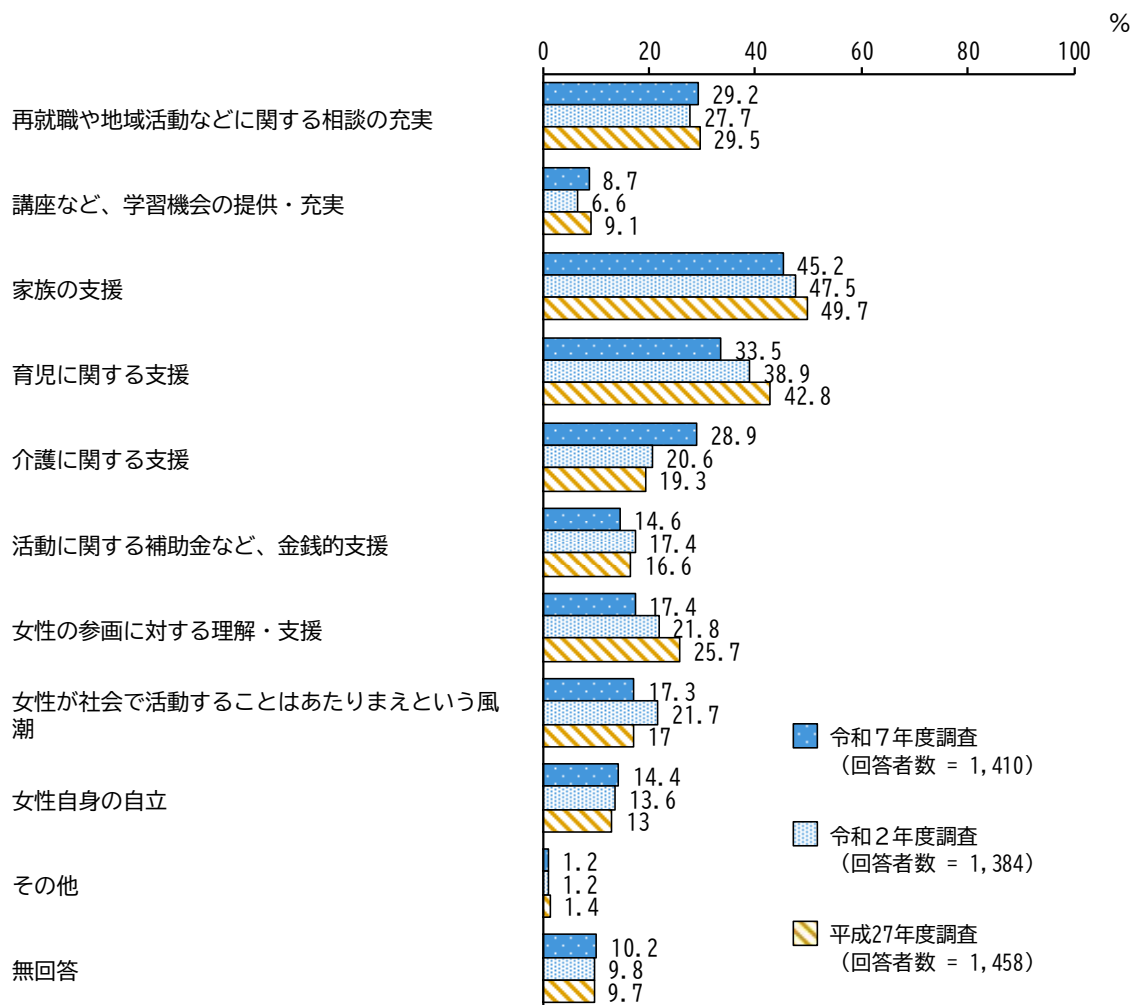
単位：％

区分		回答者数(件)	配偶者(パートナー)が取得した(する)ので	収入の少ない方が取るのがよいから	育児・介護は、妻が行う方が適しているから	育児・介護は、夫が行う方が適しているから	育児・介護休業を取ると昇進に差障りがあるから	職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから	仕事に支障がでるから	職場に育児・介護休業制度がないから	育児・介護をしたくないから	育児・介護の仕方がわからないから	親や祖父母がみてくれるから	その他	無回答
性別	男性	119	3.4	1.7	3.4	0.8	0.8	7.6	21.8	7.6	0.8	1.7	5.9	37.0	7.6
	女性	147	0.7	2.0	4.8	0.0	1.4	4.8	12.2	6.8	0.0	1.4	6.1	49.7	10.2
	その他(または答えたくない)	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
年齢別	10歳代	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0
	20歳代	9	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2	33.3	22.2
	30歳代	39	5.1	0.0	2.6	2.6	2.6	5.1	10.3	7.7	0.0	0.0	10.3	46.2	7.7
	40歳代	47	2.1	4.3	8.5	0.0	0.0	4.3	21.3	2.1	0.0	0.0	6.4	44.7	6.4
	50歳代	65	1.5	1.5	1.5	0.0	0.0	9.2	16.9	9.2	1.5	1.5	7.7	46.2	3.1
	60歳代	51	2.0	0.0	3.9	0.0	0.0	7.8	21.6	5.9	0.0	2.0	3.9	41.2	11.8
	70歳以上	54	0.0	1.9	5.6	0.0	1.9	1.9	13.0	13.0	0.0	0.0	0.0	46.3	16.7

問38 女性が再就職や起業、地域活動、地域貢献など様々な活動に参画するために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「家族の支援」の割合が45.2%と最も高く、次いで「育児に関する支援」の割合が33.5%、「再就職や地域活動などに関する相談の充実」の割合が29.2%となっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降「介護に関する支援」の割合が増加しています。一方、「育児に関する支援」の割合が減少しています。



【性別・年齢別】

性別にみると、男性に比べ、女性で「介護に関する支援」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「育児に関する支援」「活動に関する補助金など、金銭的支援」の割合が高い傾向にあり、60歳代から20歳代まで年齢が下がるほど「女性自身の自立」の割合が高くなっています。

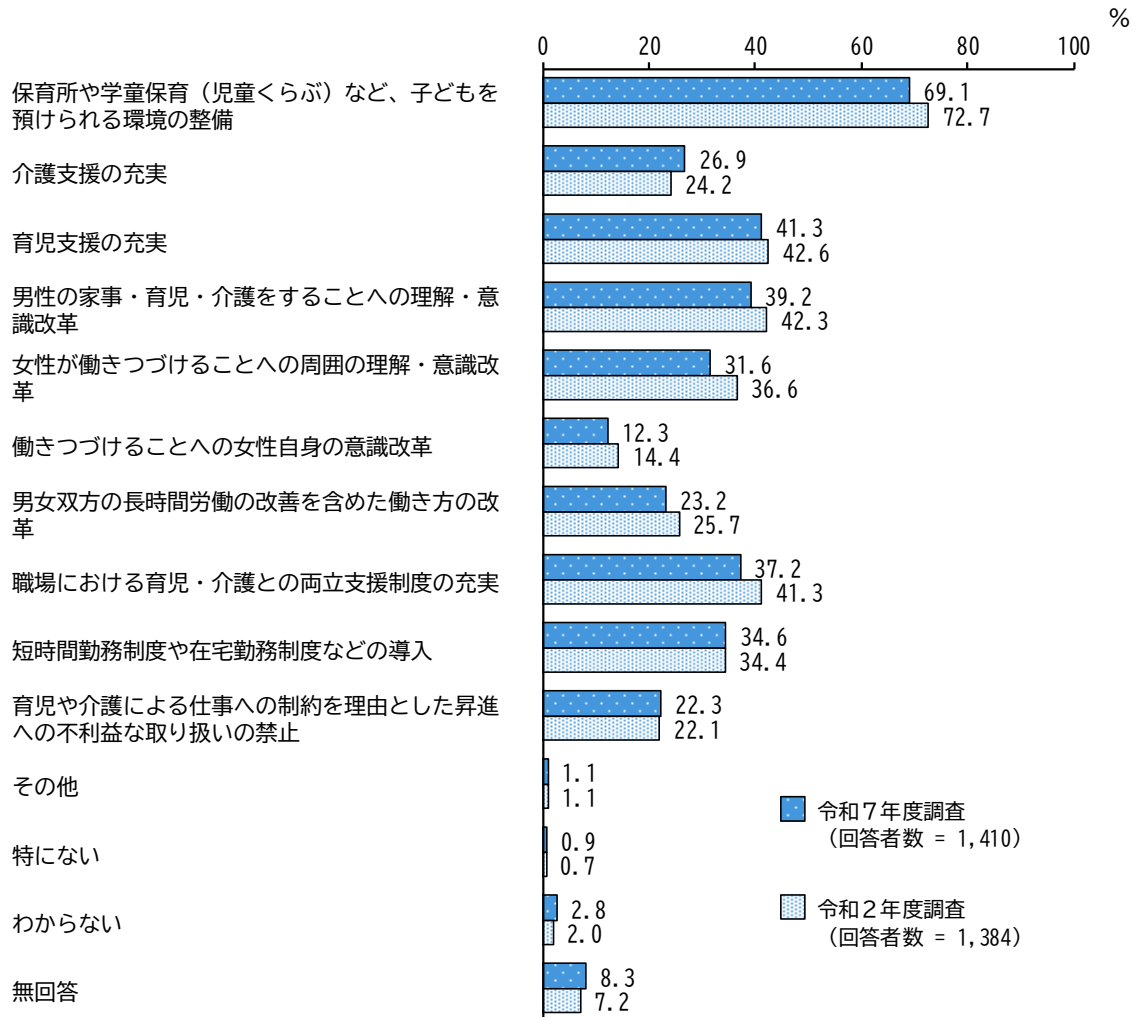
単位：%

区分	回答者数(件)	再就職や地域活動などに関する相談の充実	講座など、学習機会の提供・充実	家族の支援	育児に関する支援	介護に関する支援	活動に関する補助金など、金銭的支援	女性の参画に対する理解・支援	女性が社会で活動することはあたりまえという風潮	女性自身の自立	その他	無回答	
性別	男性	537	30.7	9.7	46.0	34.1	25.3	16.6	19.4	18.1	12.7	1.1	9.1
	女性	808	28.7	8.3	45.5	34.5	32.2	13.9	16.2	17.3	16.0	1.2	9.2
	その他(または答えたくない)	14	50.0	14.3	35.7	21.4	14.3	14.3	21.4	21.4	0.0	7.1	7.1
年齢別	10歳代	53	20.8	3.8	34.0	32.1	15.1	18.9	22.6	24.5	13.2	0.0	11.3
	20歳代	71	31.0	8.5	26.8	46.5	18.3	19.7	19.7	16.9	19.7	1.4	5.6
	30歳代	114	30.7	9.6	41.2	54.4	25.4	21.9	15.8	17.5	15.8	0.9	5.3
	40歳代	181	29.8	8.8	50.3	41.4	25.4	17.7	12.7	20.4	13.8	3.3	2.8
	50歳代	267	31.1	10.5	51.7	37.5	36.0	13.9	15.7	21.7	13.5	1.1	4.1
	60歳代	236	36.0	8.1	50.4	30.9	33.9	15.3	16.5	16.9	11.0	0.4	6.4
	70歳以上	436	26.1	8.7	43.1	23.6	28.7	11.2	20.6	13.8	16.3	1.1	17.7

問39 女性が出産などを理由に離職せず、同じ職場で働きつづけるために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「保育所や学童保育（児童クラブ）など、子どもを預けられる環境の整備」の割合が69.1%と最も高く、次いで「育児支援の充実」の割合が41.3%、「男性の家事・育児・介護をすることへの理解・意識改革」の割合が39.2%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「育児支援の充実」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「介護支援の充実」「男性の家事・育児・介護をすることへの理解・意識改革」「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「育児支援の充実」の割合が高く、10歳代から50歳代まで年齢が上がるほど「保育所や学童保育（児童クラブ）など、子どもを預けられる環境の整備」の割合が高い傾向にあります。また、30歳代で「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」の割合が高くなっています。

単位：％

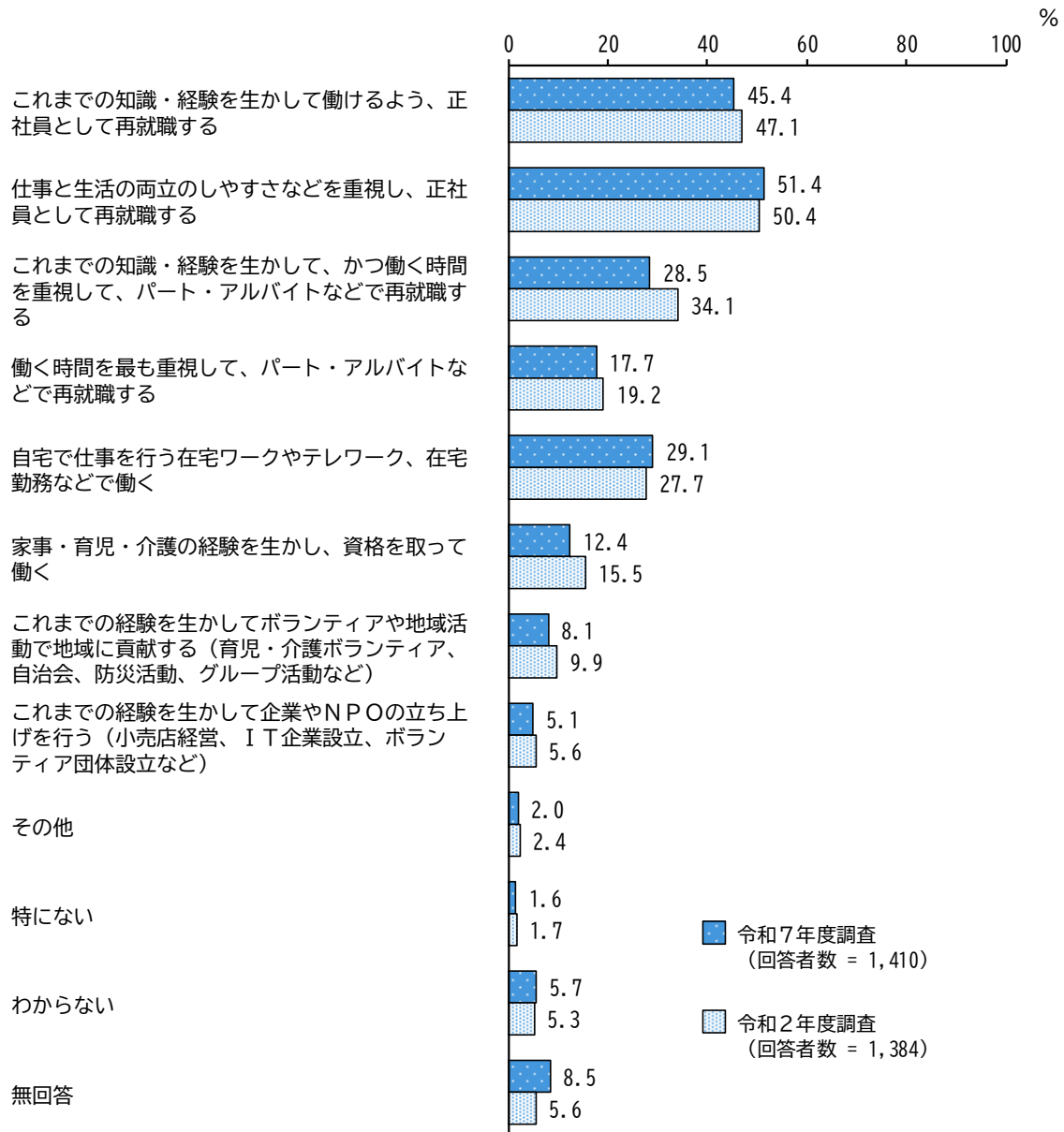
区分		回答者数（件）	保育所や学童保育（児童クラブ）など、子どもを預けられる環境の整備	介護支援の充実	育児支援の充実	男性の家事・育児・介護をすることへの理解・意識改革	女性が働きつづけることへの周囲の理解・意識改革	働きつづけることへの女性の意識改革	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方の改革
性別	男性	537	69.6	23.8	45.4	33.7	31.8	11.9	24.4
	女性	808	70.4	28.8	39.5	43.6	32.5	12.6	22.8
	その他（または答えたくない）	14	57.1	21.4	35.7	50.0	21.4	7.1	28.6
年齢別	10歳代	53	49.1	9.4	32.1	39.6	35.8	7.5	20.8
	20歳代	71	59.2	21.1	42.3	36.6	26.8	9.9	29.6
	30歳代	114	72.8	28.1	53.5	39.5	35.1	12.3	28.1
	40歳代	181	70.2	19.9	47.5	39.8	29.8	11.0	24.9
	50歳代	267	77.2	27.3	41.9	40.8	28.8	10.1	20.6
	60歳代	236	76.3	28.4	41.5	39.4	33.1	11.4	23.3
	70歳以上	436	65.6	30.7	36.9	39.2	33.9	15.4	22.5

区分		職場における育児・介護との両立支援制度の充実	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進への不利益な取り扱いの禁止	その他	特にない	わからない	無回答
性別	男性	37.1	29.4	22.0	1.1	1.1	3.2	7.4
	女性	38.1	39.2	22.9	1.2	0.7	2.5	7.4
	その他（または答えたくない）	28.6	28.6	21.4	0.0	7.1	7.1	0.0
年齢別	10歳代	30.2	26.4	20.8	0.0	7.5	0.0	11.3
	20歳代	32.4	36.6	14.1	1.4	4.2	2.8	2.8
	30歳代	48.2	58.8	29.8	0.9	0.0	0.9	2.6
	40歳代	33.1	37.6	22.1	2.8	0.6	3.9	2.2
	50歳代	39.7	34.5	21.3	1.5	0.7	1.9	3.4
	60歳代	39.4	35.6	23.3	0.4	0.0	3.0	4.2
	70歳以上	35.8	29.4	22.2	0.9	0.7	3.7	15.1

問40 出産などでいったん離職した女性が、再び社会で活躍する形として、あなたがよいと思うものをお答えください。(〇はいくつでも)

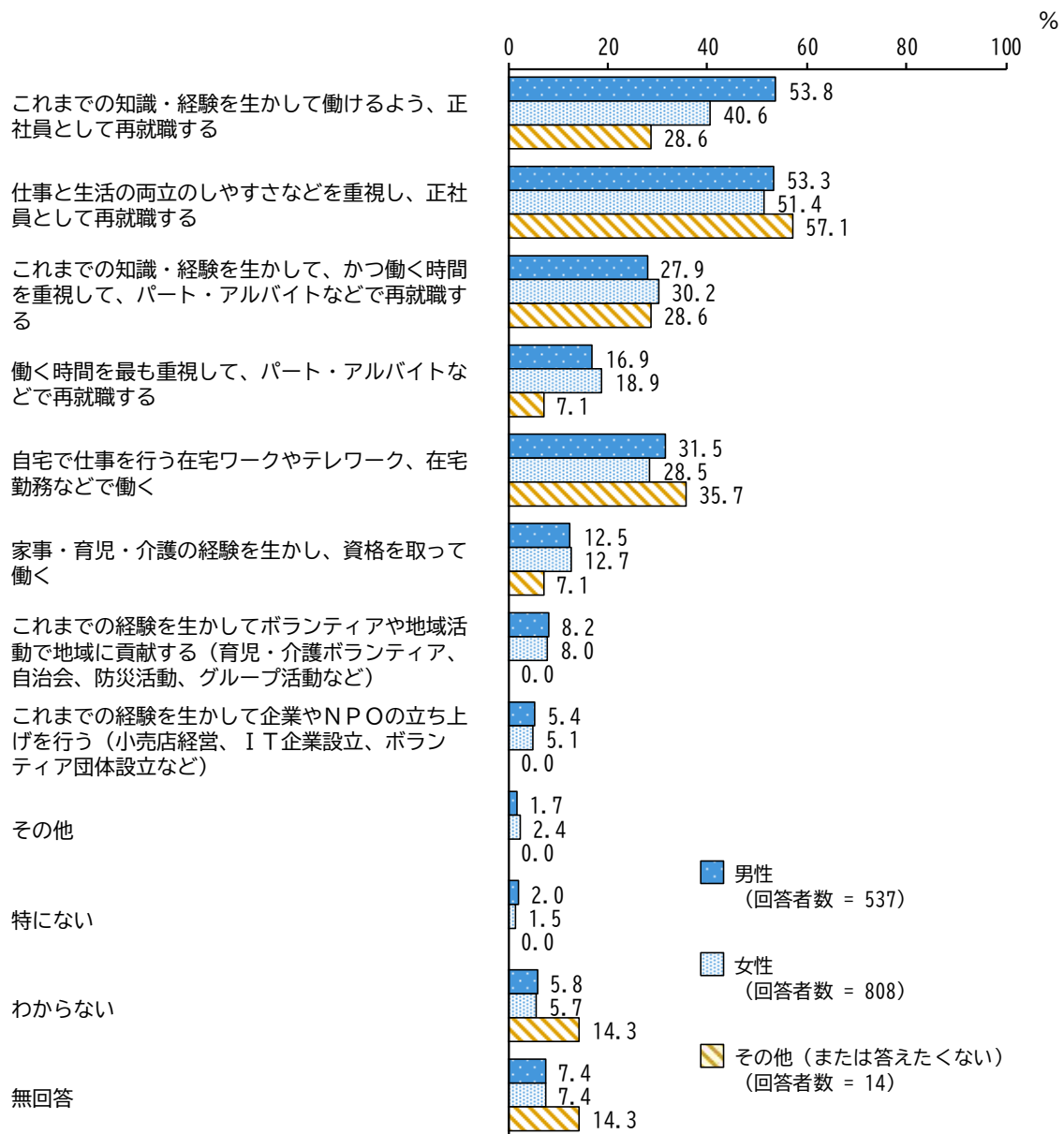
「仕事と生活の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職する」の割合が51.4%と最も高く、次いで「これまでの知識・経験を生かして働けるよう、正社員として再就職する」の割合が45.4%、「自宅で仕事を行う在宅ワークやテレワーク、在宅勤務などで働く」の割合が29.1%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「これまでの知識・経験を生かして、かつ働く時間を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」の割合が5.6ポイント減少しています。



【性別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「これまでの知識・経験を生かして働けるよう、正社員として再就職する」の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、60歳代から20歳代まで年齢が下がるほど「働く時間を最も重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」の割合が高い傾向にあります。また、30歳代で「仕事と生活の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職する」、20歳代で「自宅で仕事を行う在宅ワークやテレワーク、在宅勤務などで働く」の割合が高くなっています。

単位：%

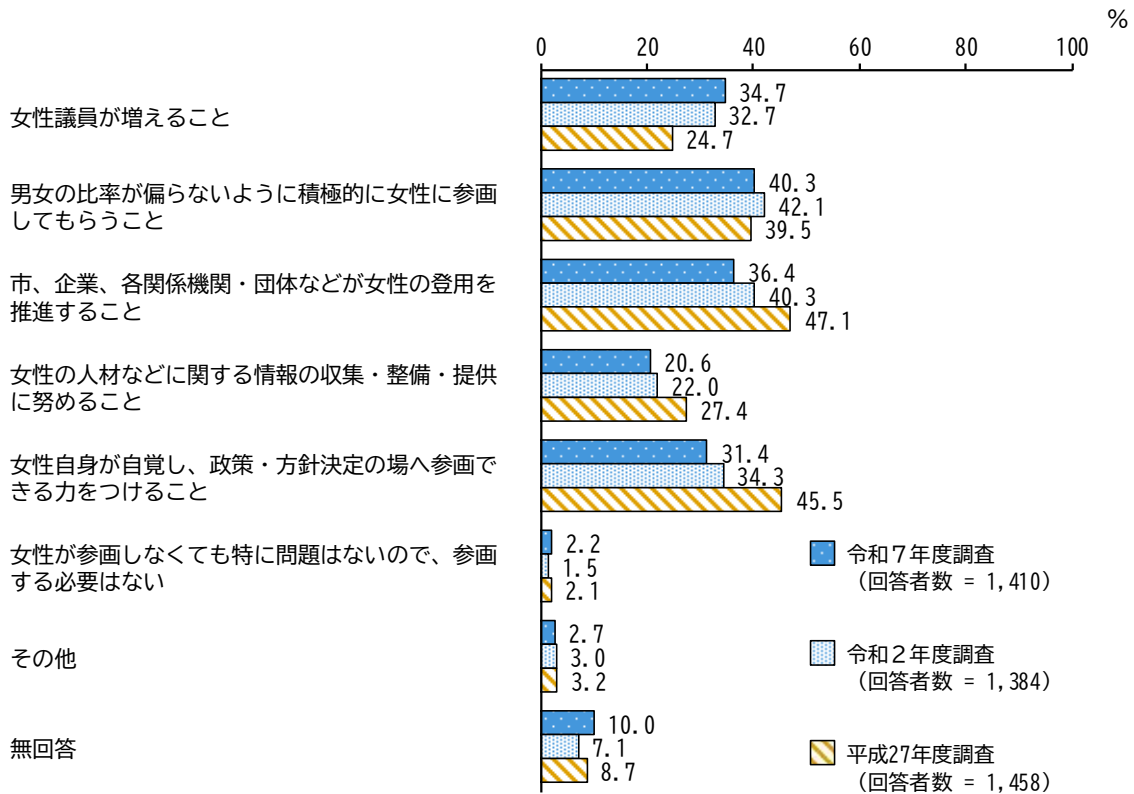
区分	回答者数(件)	これまでの知識・経験を生かして働けるよう、正社員として再就職する	仕事と生活の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職する	これまでの知識・経験を生かして、かつ働く時間を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する	働く時間を最も重視して、パート・アルバイトなどで再就職する	自宅で仕事を行う在宅ワークやテレワーク、在宅勤務などで働く	家事・育児・介護の経験を生かし、資格を取って働く
10歳代	53	45.3	45.3	22.6	9.4	22.6	5.7
20歳代	71	45.1	59.2	28.2	25.4	39.4	14.1
30歳代	114	51.8	61.4	36.0	23.7	36.0	18.4
40歳代	181	40.3	54.7	29.8	18.8	28.2	8.8
50歳代	267	50.9	54.7	35.2	19.1	33.0	10.9
60歳代	236	47.9	59.3	26.3	16.1	27.1	12.3
70歳以上	436	42.2	42.2	26.1	16.3	27.5	14.2

区分	これまでの経験を生かしてボランティアや地域活動で地域に貢献する(育児・介護ボランティア、自治会、防災活動、グループ活動など)	これまでの経験を生かして企業やNPOの立ち上げを行う(小売店経営、IT企業設立、ボランティア団体設立など)	その他	特になし	わからない	無回答
10歳代	3.8	3.8	0.0	7.5	1.9	11.3
20歳代	9.9	8.5	0.0	1.4	7.0	2.8
30歳代	7.9	8.8	4.4	0.9	7.9	1.8
40歳代	4.4	2.2	4.4	1.1	6.1	1.7
50歳代	4.1	6.0	3.4	1.9	3.7	3.4
60歳代	8.1	6.4	0.8	1.3	4.7	4.7
70歳以上	12.4	3.9	0.9	1.6	7.3	15.8

問41 あなたは政策や方針決定の場において女性の参画をすすめるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「男女の比率が偏らないように積極的に女性に参画してもらうこと」の割合が40.3%と最も高く、次いで「市、企業、各関係機関・団体などが女性の登用を推進すること」の割合が36.4%、「女性議員が増えること」の割合が34.7%となっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降「女性議員が増えること」の割合が増加しています。一方、「市、企業、各関係機関・団体などが女性の登用を推進すること」「女性の人材などに関する情報の収集・整備・提供に努めること」「女性自身が自覚し、政策・方針決定の場へ参画できる力をつけること」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、男女で大きな差はみられません。

単位：%

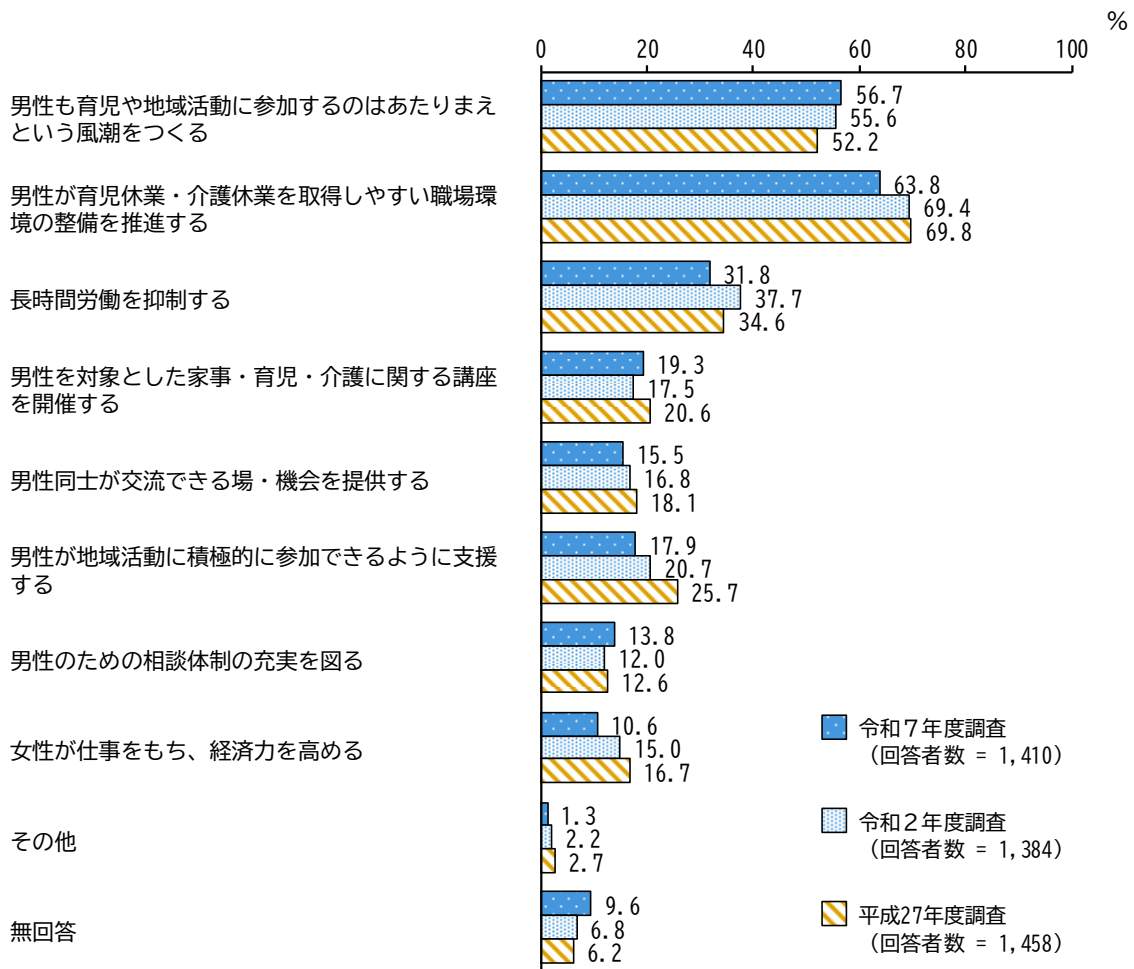
区分	回答者数 (件)	女性議員が増えること	男女の比率が偏らないように積極的に女性に参画してもらうこと	市、企業、各関係機関・団体などが女性の登用を推進すること	女性の人材などに関する情報の収集・整備・提供に努めること	女性自身が自覚し、政策・方針決定の場へ参画できる力をつけること	女性が参画しなくても特に問題はないので、参画する必要はない	その他	無回答
男性	537	34.6	40.8	38.5	21.4	32.2	3.0	2.4	8.9
女性	808	35.6	41.1	35.5	20.2	31.3	1.6	3.0	8.9
その他 (または答えたくない)	14	21.4	28.6	42.9	14.3	21.4	14.3	7.1	7.1

問42 男性が育児や介護、地域活動に参加していくためには、何が有効だと思いますか。あなたが有効だと思うものをすべてお答えください。(〇はいくつでも)

「男性が育児休業・介護休業を取得しやすい職場環境の整備を推進する」の割合が63.8%と最も高く、次いで「男性も育児や地域活動に参加するのはあたりまえという風潮をつくる」の割合が56.7%、「長時間労働を抑制する」の割合が31.8%となっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降「男性が育児休業・介護休業を取得しやすい職場環境の整備を推進する」「男性が地域活動に積極的に参加できるように支援する」「女性が仕事もち、経済力を高める」の割合が減少しています。

また、令和2年度調査に比べ、令和7年度では「長時間労働を抑制する」の割合が5.9ポイント減少しています。



【性別】

性別にみると、男性に比べ、女性で「男性も育児や地域活動に参加するのはあたりまえという風潮をつくる」の割合が高くなっています。

単位：%

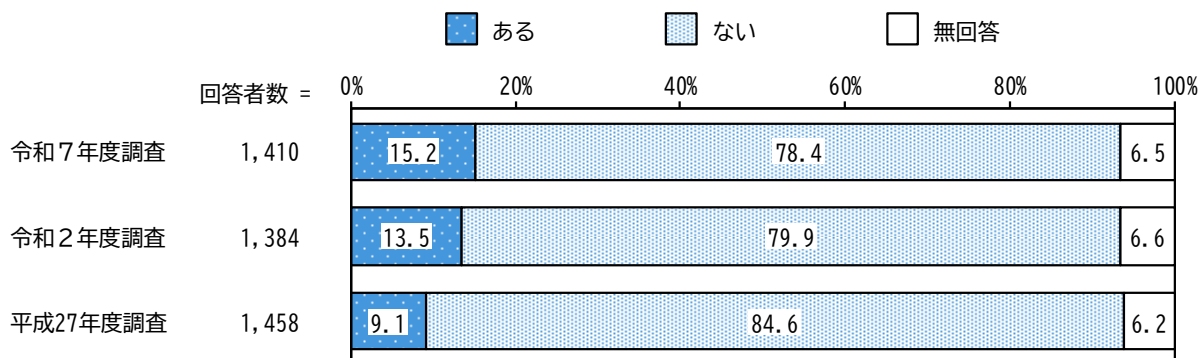
区分	回答者数（件）	男性も育児や地域活動に参加するのはあたりまえという風潮をつくる	男性が育児休業・介護休業を取得しやすい職場環境の整備を推進する	長時間労働を抑制する	男性を対象とした家事・育児・介護に関する講座を開催する	男性同士が交流できる場・機会を提供する	男性が地域活動に積極的に参加できるように支援する	男性のための相談体制の充実を図る	女性が仕事を持ち、経済力を高める	その他	無回答
男性	537	52.1	63.3	35.0	17.7	13.0	18.6	15.3	13.2	1.3	8.9
女性	808	60.6	65.8	30.4	20.5	17.8	17.9	13.2	9.2	1.4	8.0
その他（または答えたくない）	14	71.4	50.0	35.7	14.3	28.6	7.1	21.4	14.3	7.1	7.1

(3) セクハラ・DVについて

問43 あなた自身や周りの方がセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたことはありますか。(○はそれぞれ1つ)

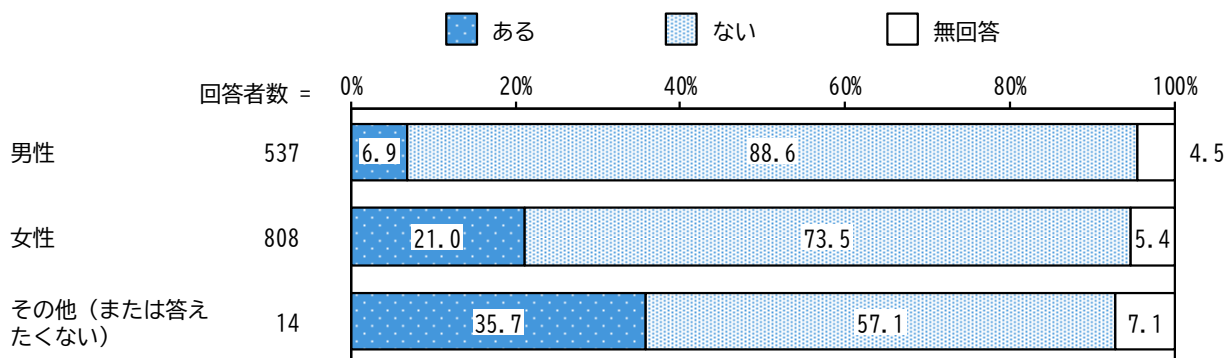
①自分自身

「ある」の割合が15.2%、「ない」の割合が78.4%となっています。
過去調査と比較すると、平成27年度以降「ある」の割合が増加しています。



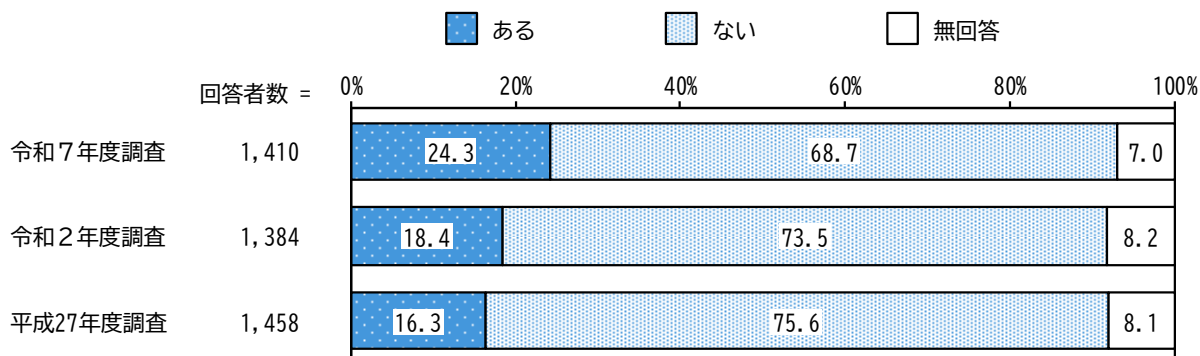
【性別】

性別にみると、男性に比べ、女性で「ある」の割合が高くなっています。



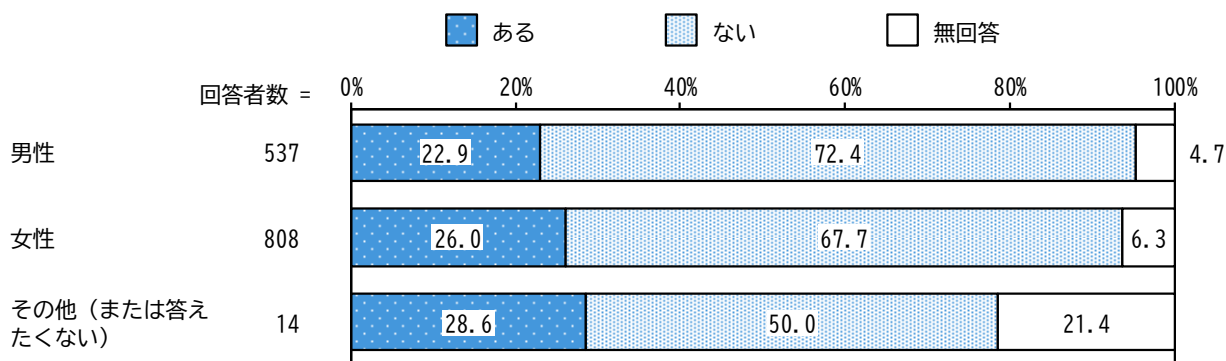
②友人や職場の仲間など、自分の周りの人

「ある」の割合が24.3%、「ない」の割合が68.7%となっています。
過去調査と比較すると、平成27年度以降「ある」の割合が増加しています。



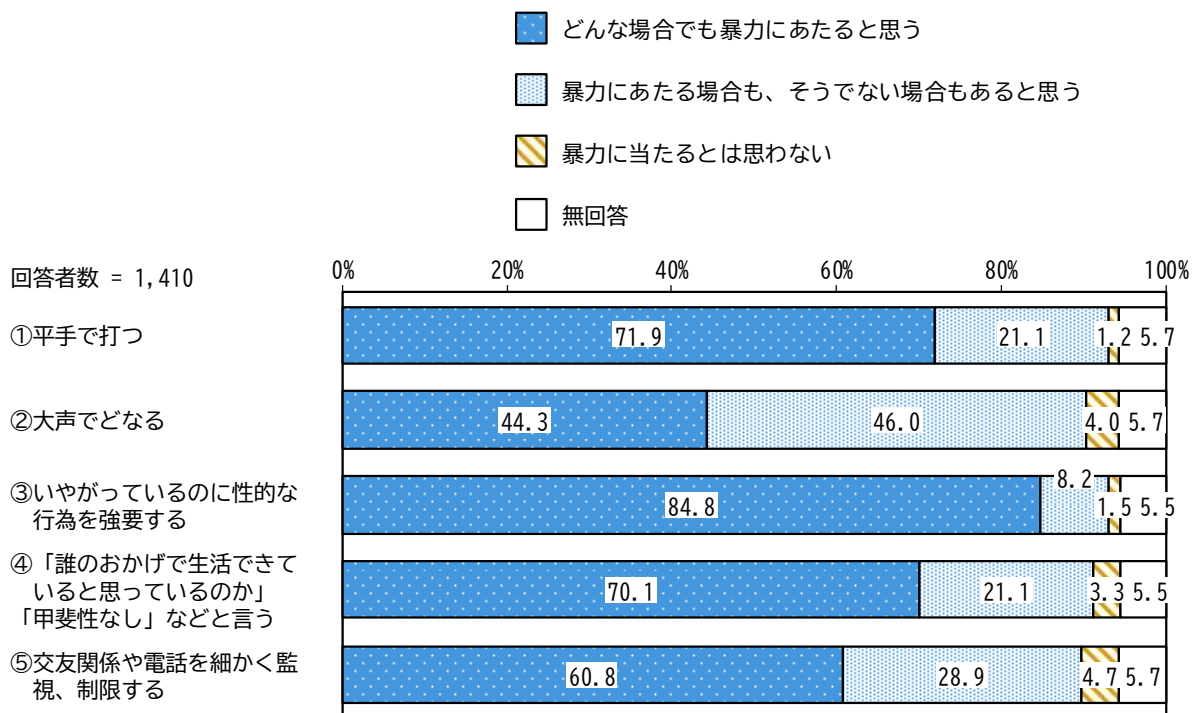
【性別】

性別にみると、男女で大きな差はみられません。



問44 あなたは、次のようなことが配偶者間や交際相手間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。(○はそれぞれ1つ)

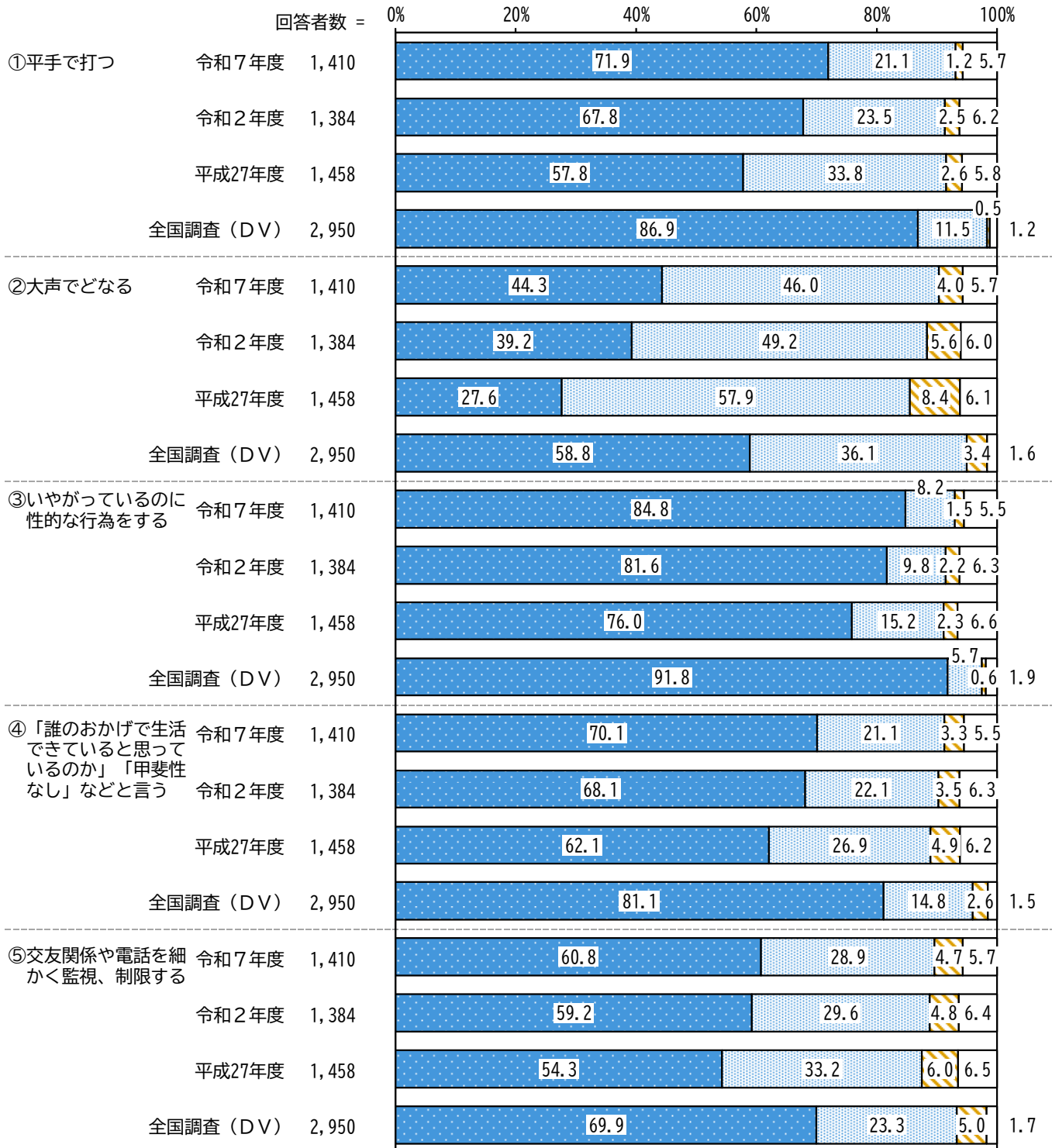
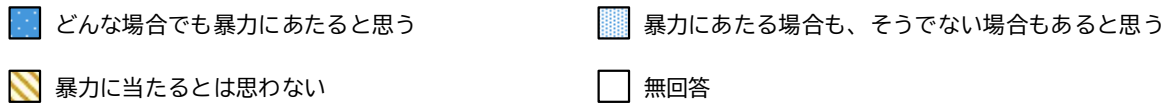
『③いやがっているのに性的な行為を強要する』で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が、『②大声でどなる』で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が、『⑤交友関係や電話を細かく監視、制限する』で「暴力に当たるとは思わない」が高くなっています。



【経年比較・国比較】

過去調査と比較すると、すべての項目で、平成27年度以降「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が増加しています。

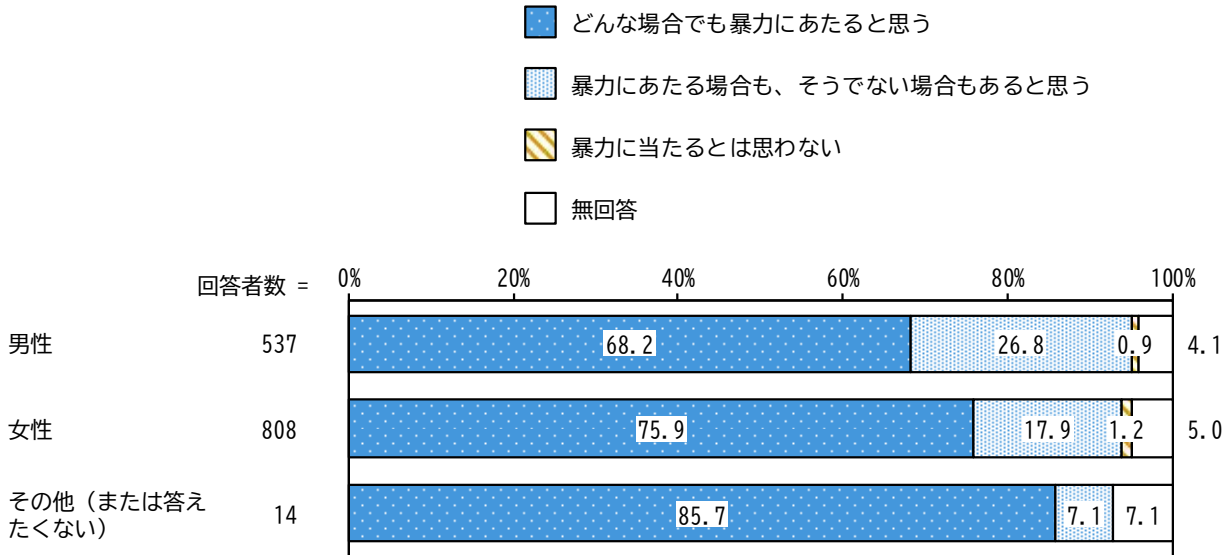
全国調査（DV）と比較すると、『③いやがっているのに性的な行為をする』以外の項目で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。一方、すべての項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低くなっています。



【性別】

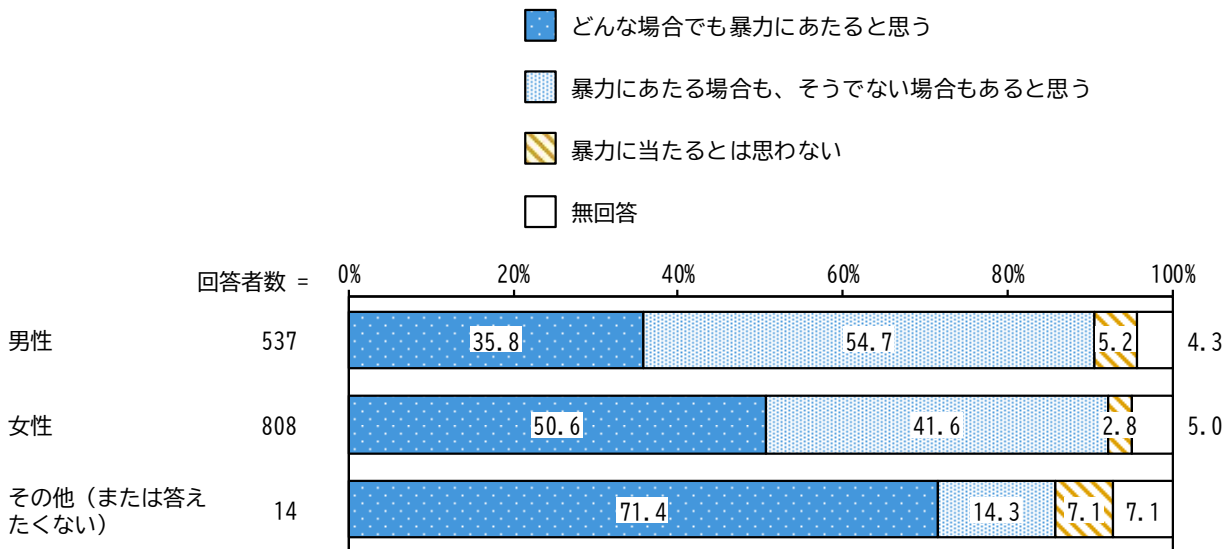
①平手で打つ

性別にみると、女性に比べ、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。



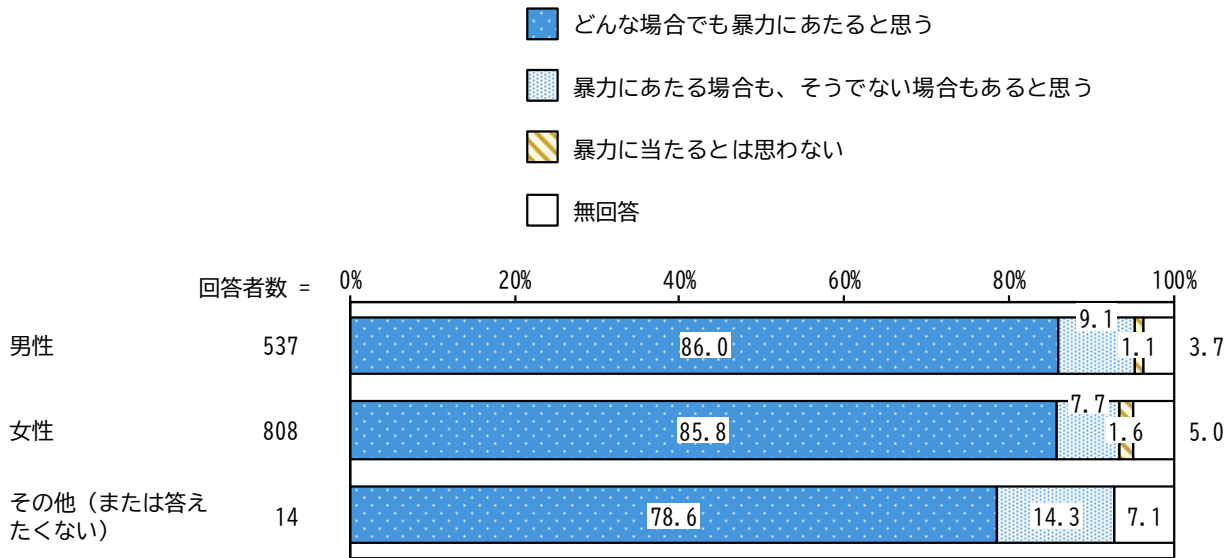
②大声でどなる

性別にみると、女性に比べ、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。



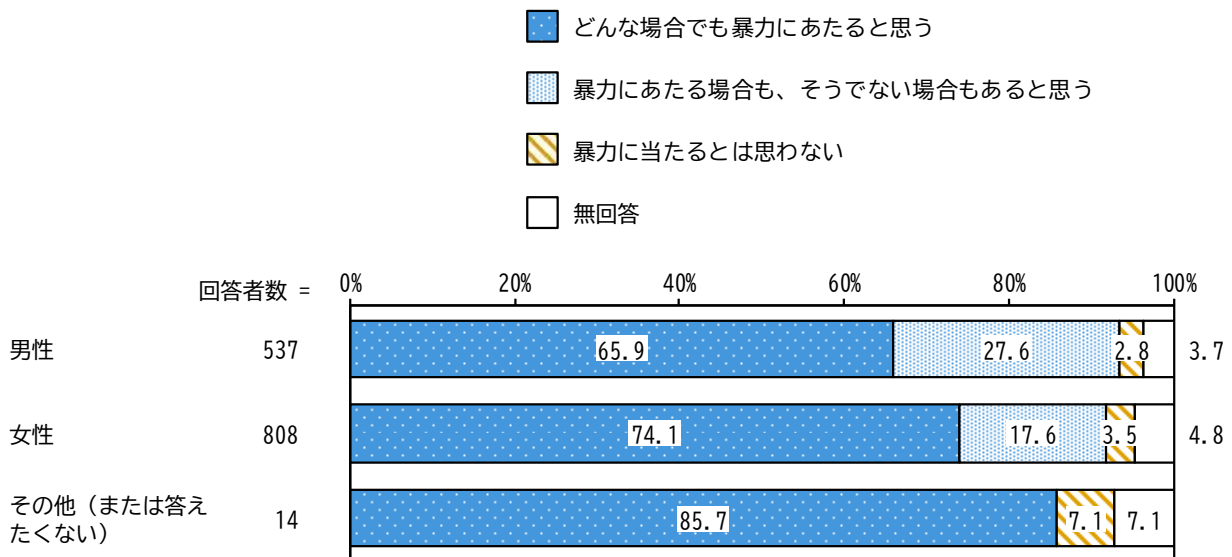
③いやがっているのに性的な行為を強要する

性別にみると、男女で大きな差はみられません。



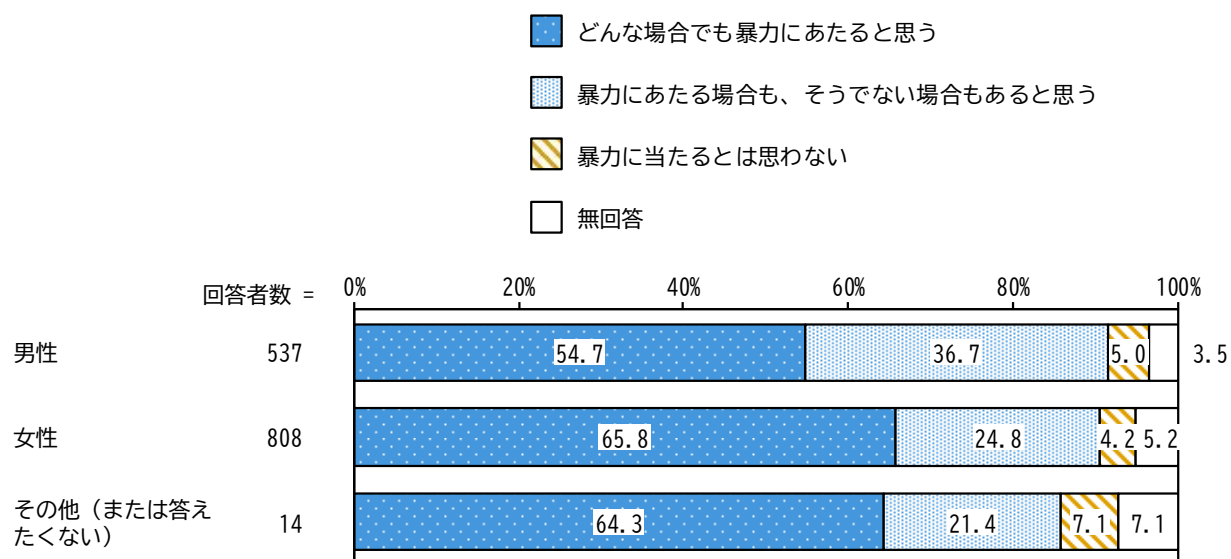
④「誰のおかげで生活できていると思っているのか」「甲斐性なし」などと言う

性別にみると、女性に比べ、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。



⑤交友関係や電話を細かく監視、制限する

性別にみると、女性に比べ、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。



問45 あなたは、配偶者や交際相手から次にあげるような暴力を1つでも受けたことがありますか。(○はそれぞれ1つ)

『②ののしる、おどすなどの言葉の暴力や、無視するなどの精神的暴力』で「何度もあった」と「1・2度あった」を合わせた“あった”が高くなっています。

『①なぐる、けるなどの身体的暴力』では“あった”の割合が11.0%、約10人に1人となっています。女性では約7人に1人、男性では約14人に1人となっています。

『②ののしる、おどすなどの言葉の暴力や、無視するなどの精神的暴力』では“あった”の割合が21.1%、約5人に1人となっています。

『③性行為の強要、避妊に協力しないなどの性的暴力』では、“あった”の割合が9.0%、約11人に1人となっています。

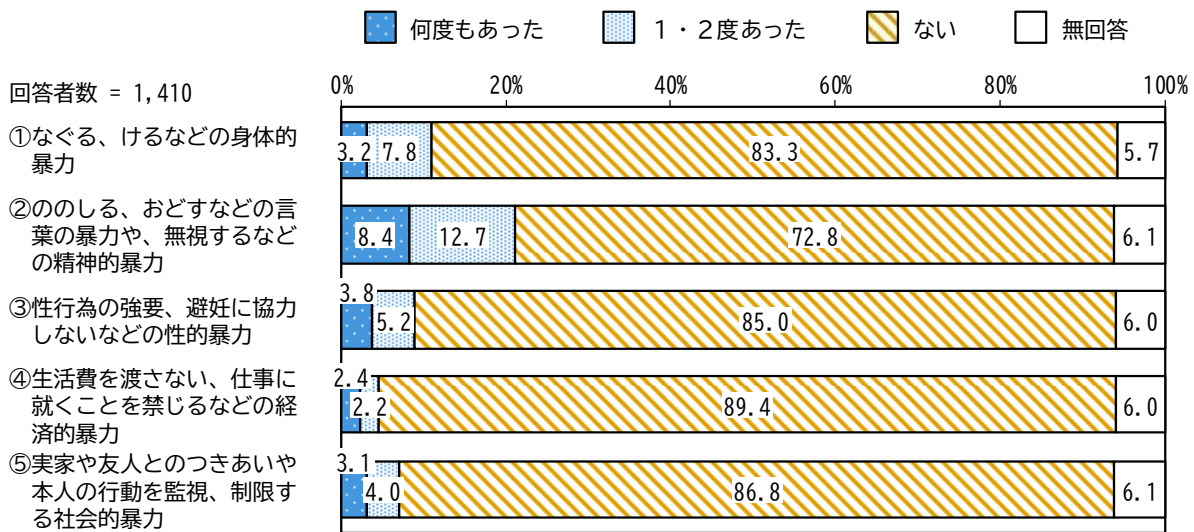
『④生活費を渡さない、仕事に就くことを禁じるなどの経済的暴力』では、“あった”の割合が4.6%、約22人に1人となっています。

『⑤実家や友人とのつきあいや本人の行動を監視、制限する社会的暴力』では、“あった”の割合が7.1%、約14人に1人となっています。

いずれの行為も、男性に比べ、女性の方が被害経験者の割合が高くなっています。

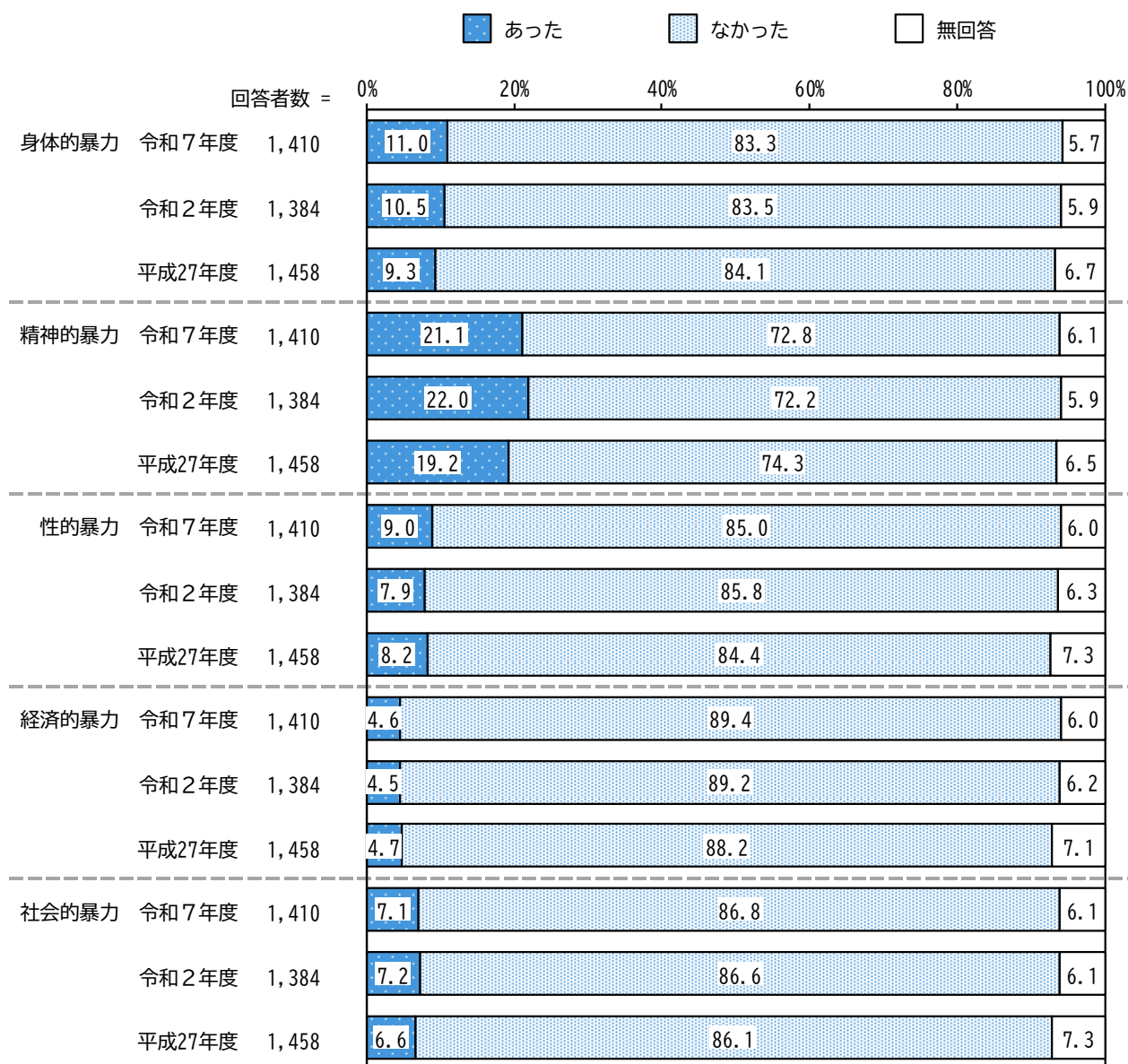
過去調査や全国調査（DV）と比較すると、大きな変化や差はみられません。

<配偶者や交際相手からのDV被害の割合>

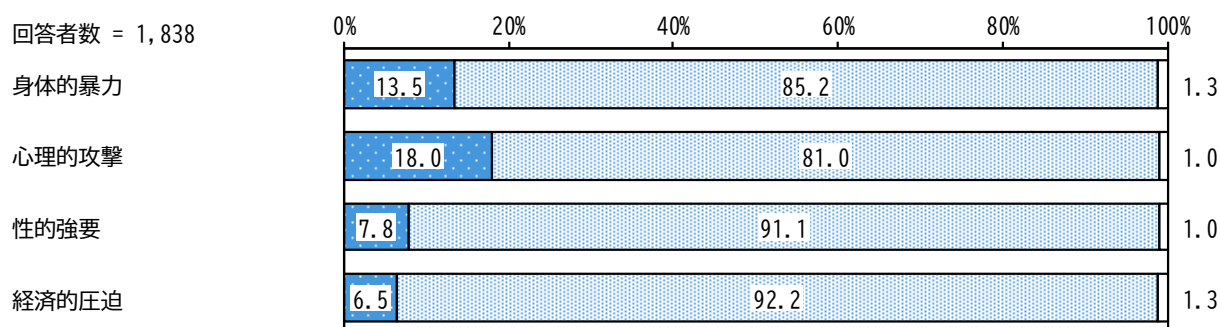


<配偶者や交際相手からのDV被害の割合 = 経年比較=>

※「何度もあった」と「1、2度あった」をあわせて“あった”と表記しています。



【全国調査（DV）より「配偶者からの被害経験」】



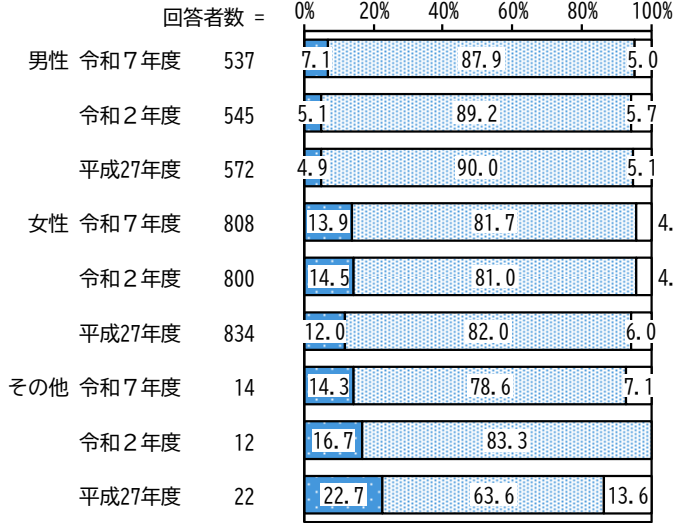
※「心理的攻撃」は本調査の「精神的暴力」「社会的暴力」に相当します。

<配偶者や交際相手からのDV被害の割合 =性別・経年比較=>

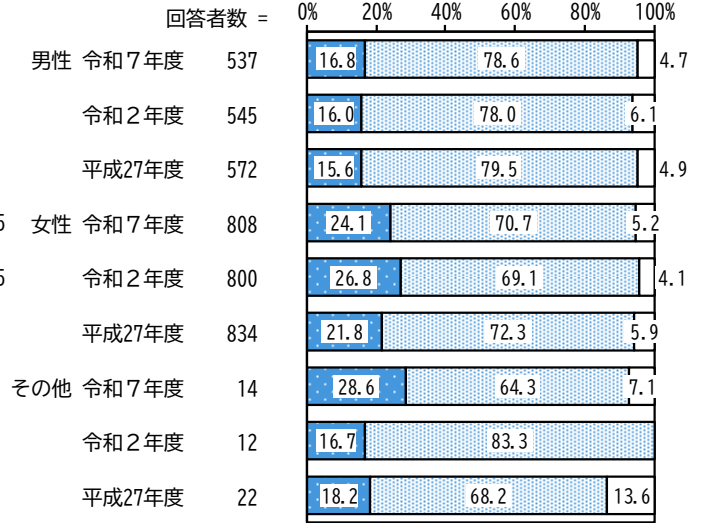
■ あった ■ なかった □ 無回答

■ あった ■ なかった □ 無回答

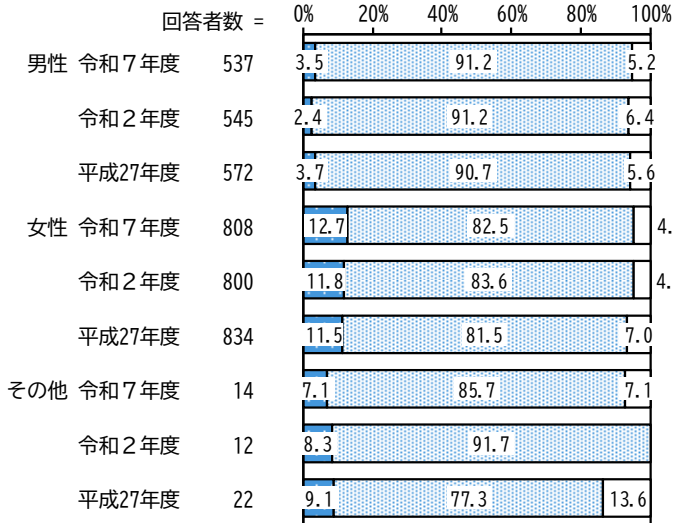
【身体的暴力】



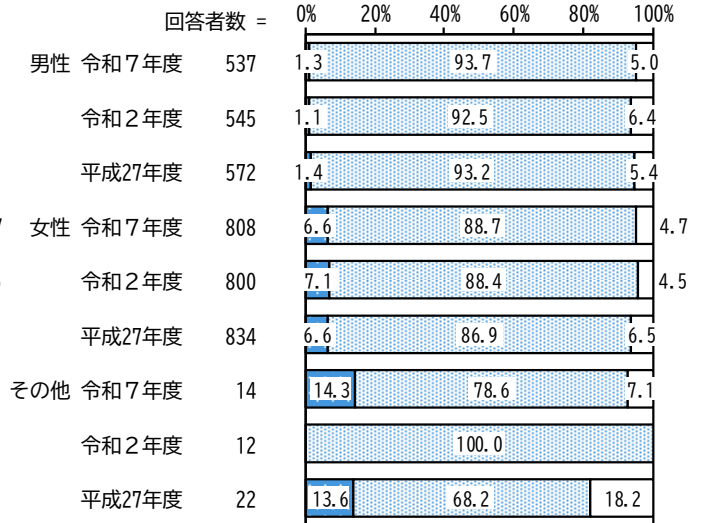
【精神的暴力】



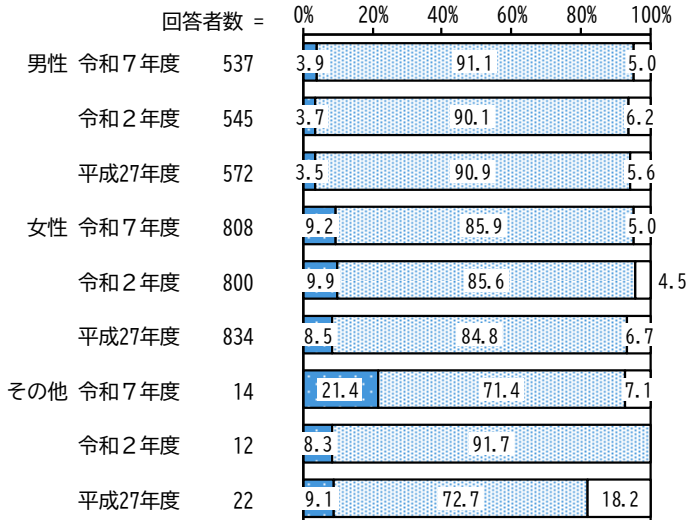
【性的暴力】



【経済的暴力】



【社会的暴力】



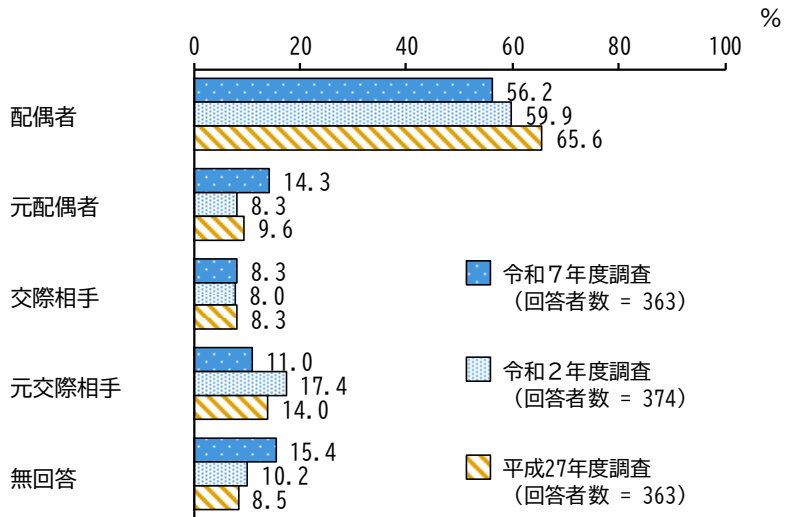
問45で「何度もあった」「1・2度あった」とお答えの方におうかがいします。

問45-1 暴力があった時点でのあなたと相手との関係をお答えください。
(〇はいくつでも)

「配偶者」の割合が56.2%と最も高く、次いで「元配偶者」の割合が14.3%、「元交際相手」の割合が11.0%となっています。

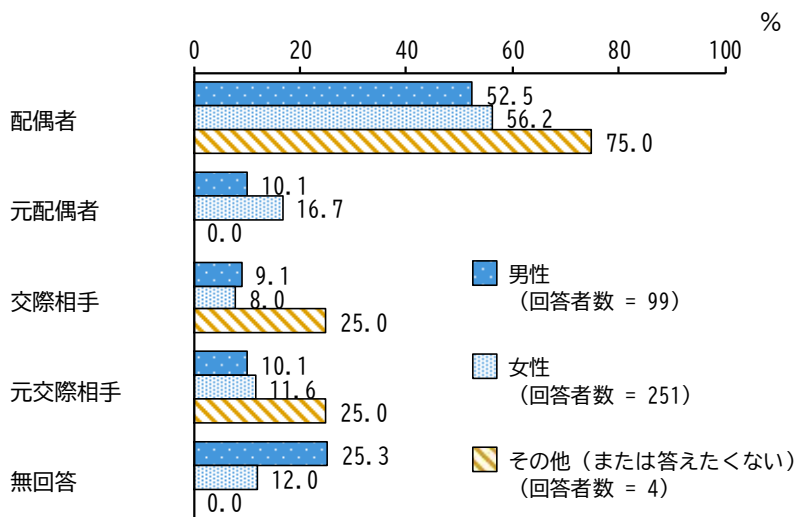
過去調査と比較すると、平成27年度以降「配偶者」の割合が減少しています。

また、令和2年度調査に比べ、令和7年度では「元配偶者」の割合が6.0ポイント増加しています。一方、「元交際相手」の割合が6.4ポイント減少しています。



【性別】

性別にみると、男性に比べ、女性で「元配偶者」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別にみると、男性では70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「交際相手」の割合が高い傾向にあり、女性では70歳以上から20歳代まで年齢が下がるほど「元交際相手」の割合が高い傾向にあります。また、男性70歳以上、女性70歳以上で「配偶者」、女性60歳代で「元配偶者」の割合が高くなっています。

単位：％

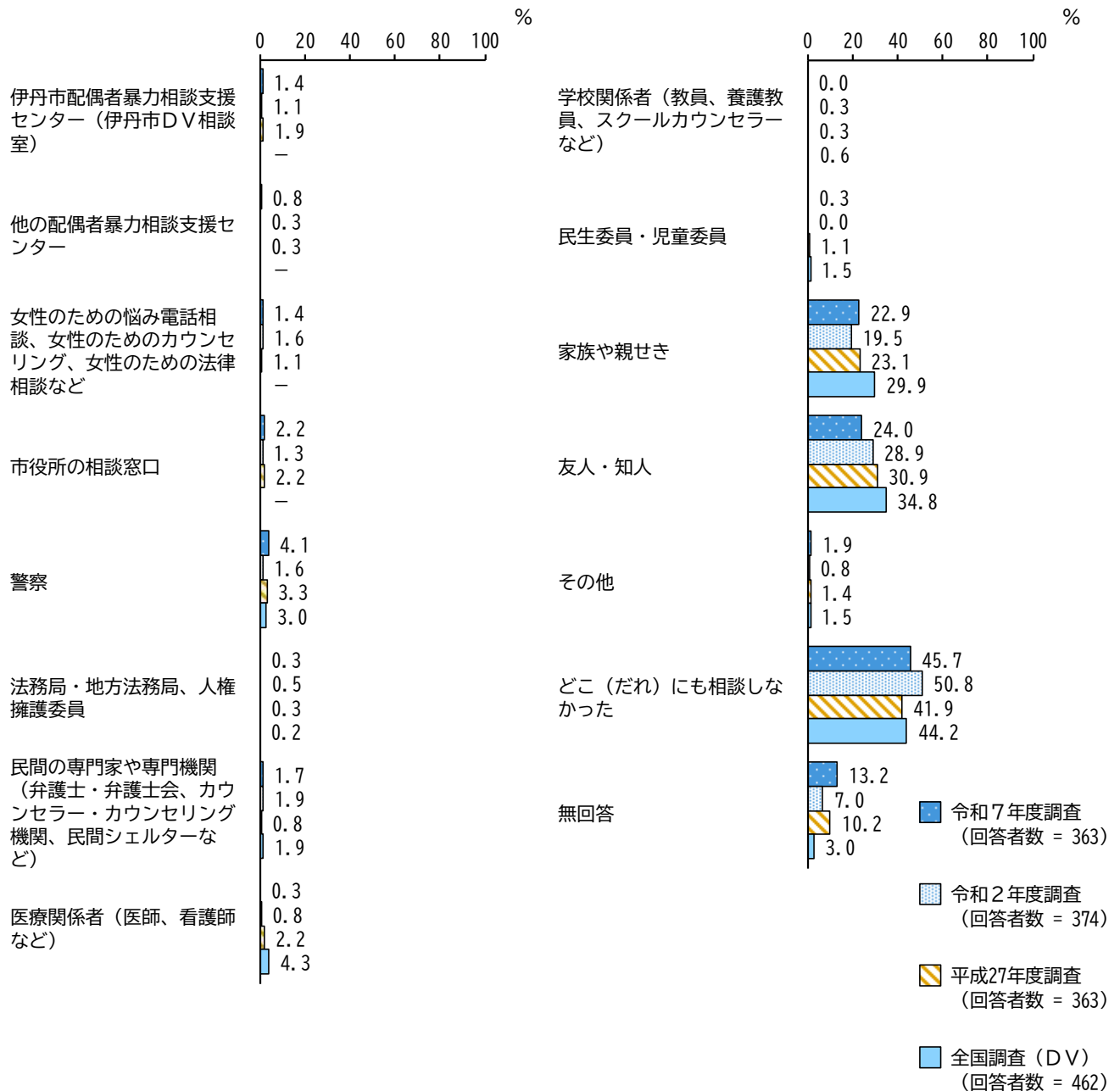
区分	回答者数 (件)	配偶者	元配偶者	交際相手	元交際相手	無回答
男性	99	52.5	10.1	9.1	10.1	25.3
10歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
30歳代	6	50.0	0.0	33.3	16.7	16.7
40歳代	15	53.3	6.7	13.3	6.7	26.7
50歳代	22	50.0	18.2	9.1	18.2	22.7
60歳代	31	41.9	12.9	9.7	3.2	35.5
70歳以上	23	69.6	4.3	0.0	8.7	17.4
女性	251	56.2	16.7	8.0	11.6	12.0
10歳代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	8	12.5	0.0	25.0	62.5	0.0
30歳代	24	29.2	8.3	16.7	33.3	16.7
40歳代	41	58.5	9.8	17.1	14.6	9.8
50歳代	70	57.1	22.9	5.7	8.6	11.4
60歳代	35	54.3	25.7	5.7	8.6	11.4
70歳以上	72	68.1	15.3	1.4	1.4	13.9
その他	4	75.0	0.0	25.0	25.0	0.0

問45-2 あなたは、暴力を受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

「どこ(だれ)にも相談しなかった」の割合が45.7%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が24.0%、「家族や親せき」の割合が22.9%となっています。

過去調査と比較すると、令和2年度調査に比べ、令和7年度では「どこ(だれ)にも相談しなかった」の割合が5.1ポイント減少しています。

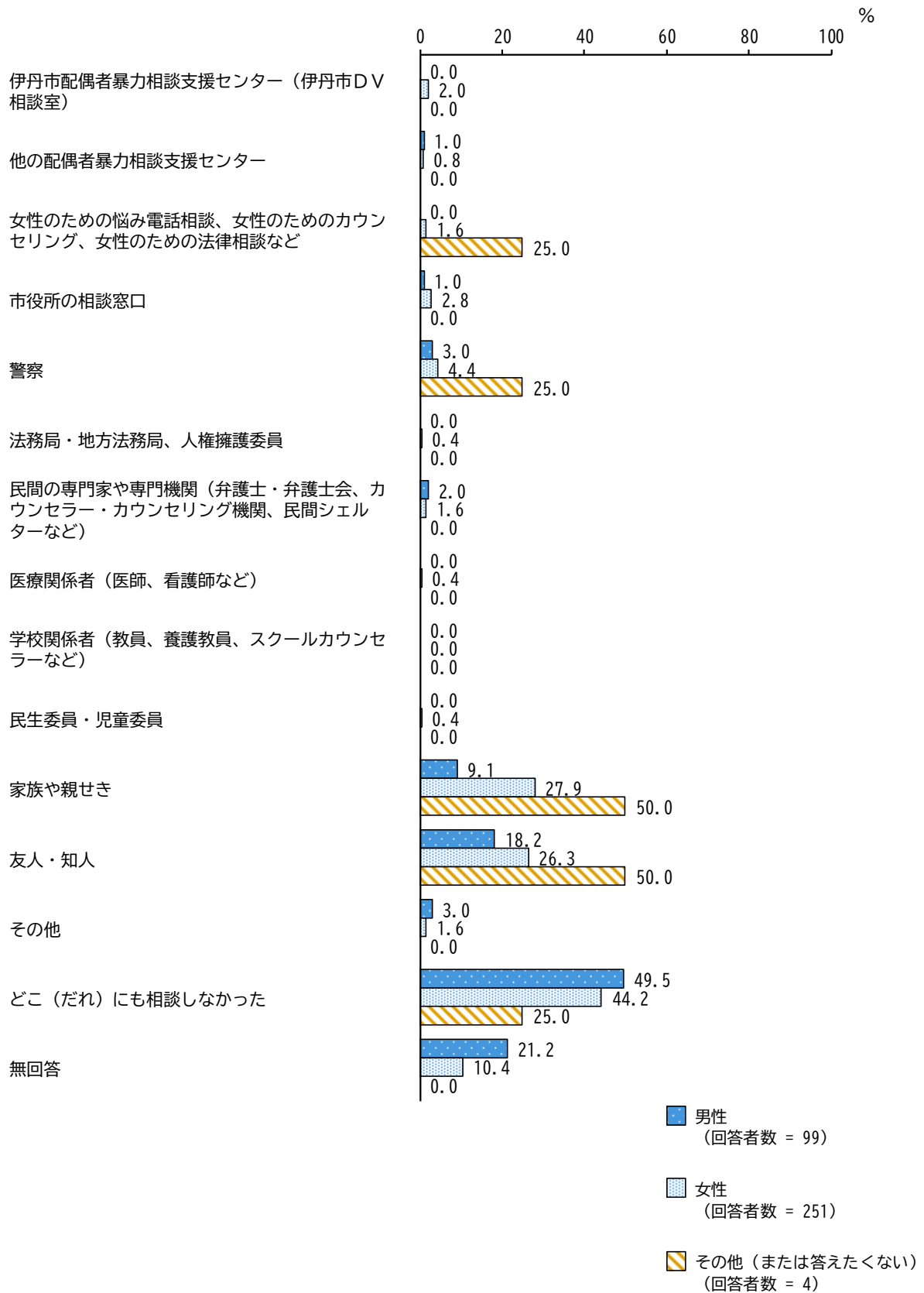
全国調査(DV)と比較すると、「家族や親せき」の割合が7.0ポイント、「友人・知人」の割合が10.8ポイント低くなっています。



※全国調査(DV)では、「伊丹市配偶者暴力相談支援センター(伊丹市DV相談室)」、「他の配偶者暴力相談支援センター」、「女性のための悩み電話相談、女性のためのカウンセリング、女性のための法律相談など」、「市役所の相談窓口」の項目はありませんでした。

【性別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「家族や親せき」「友人・知人」の割合が高くなっています。



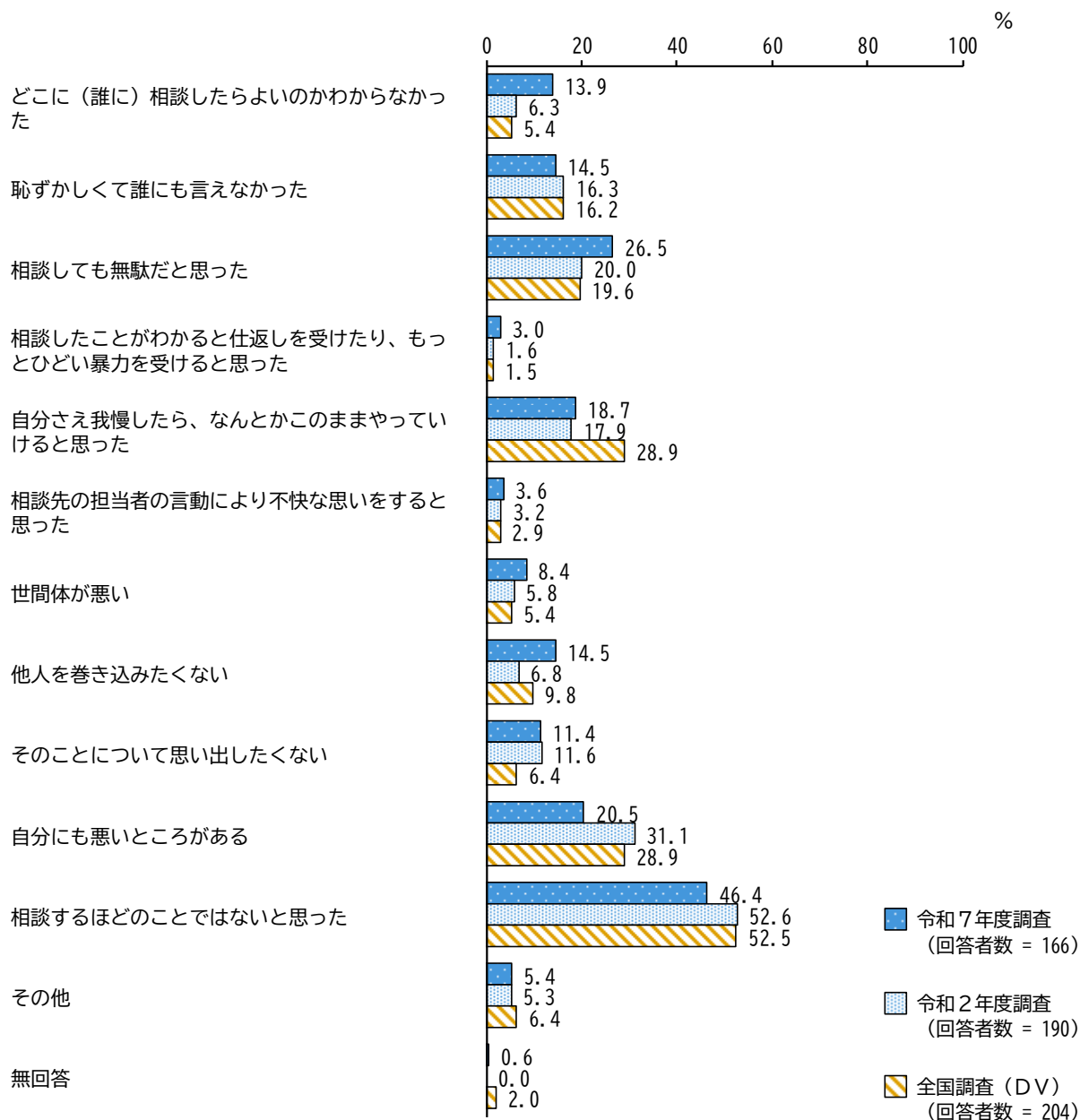
問45-2で「どこにも相談しなかった」とお答えの方におたずねします。

問45-3 あなたがどこにも相談しなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

「相談するほどのことではないと思った」の割合が46.4%と最も高く、次いで「相談しても無駄だと思った」の割合が26.5%、「自分にも悪いところがある」の割合が20.5%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「どこに(誰に)相談したらよいのかわからなかった」の割合が7.6ポイント、「相談しても無駄だと思った」の割合が6.5ポイント、「他人を巻き込みたくない」の割合が7.7ポイント増加しています。一方、「自分にも悪いところがある」の割合が10.6ポイント「相談するほどのことではないと思った」の割合が6.2ポイント減少しています。

全国調査(DV)と比較すると、「どこに(誰に)相談したらよいのかわからなかった」の割合が8.5ポイント、「相談しても無駄だと思った」の割合が6.9ポイント高くなっています。一方、「自分さえ我慢したら、なんとかこのままやっていけると思った」の割合が10.2ポイント、「自分にも悪いところがある」の割合が8.4ポイント、「相談するほどのことではないと思った」の割合が6.1ポイント低くなっています。



【性別・年齢別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「相談しても無駄だと思った」「世間体が悪い」「自分にも悪いところがある」「相談するほどのことではないと思った」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「そのことについて思い出したくない」の割合が高くなっています。

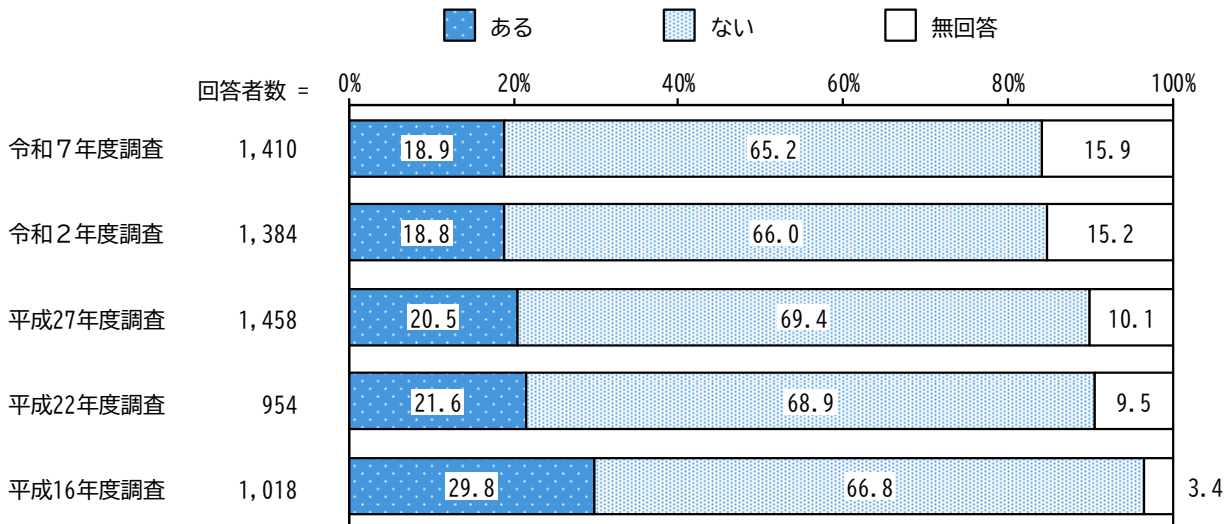
年齢別にみると、30歳代から70歳以上まで年齢が上がるほど「世間体が悪い」の割合が高く、30歳代から60歳代まで年齢が上がるほど「相談しても無駄だと思った」の割合が高くなっています。また、60歳代で「どこに（誰に）相談したらよいかわからなかった」、40歳代で「自分さえ我慢したら、なんとかこのままやっていけると思った」「そのことについて思い出したくない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分		回答者数（件）	どこに（誰に）相談したらよいかわからなかった	恥ずかしくて誰にも言えなかった	相談しても無駄だと思った	相談したことがわかると仕返しを受けたり、もつとひどい暴力を受けると思った	自分さえ我慢したら、なんとかこのままやっていけると思った	相談先の担当者の言動により不快な思いをすずと思った	世間体が悪い	他人を巻き込みたくない	そのことについて思い出したくない	自分にも悪いところがある	相談するほどのことではないと思った	その他	無回答
性別	男性	49	16.3	18.4	32.7	2.0	18.4	4.1	16.3	14.3	6.1	34.7	57.1	2.0	0.0
	女性	111	13.5	13.5	21.6	3.6	18.0	1.8	5.4	15.3	13.5	15.3	42.3	7.2	0.9
	その他（または答えたくない）	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
年齢別	10歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	6	16.7	50.0	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	33.3	16.7	50.0	33.3	16.7	0.0
	30歳代	10	20.0	10.0	10.0	0.0	30.0	10.0	0.0	30.0	10.0	20.0	40.0	10.0	0.0
	40歳代	27	3.7	14.8	14.8	3.7	29.6	0.0	3.7	14.8	22.2	29.6	51.9	11.1	0.0
	50歳代	35	14.3	17.1	22.9	2.9	25.7	0.0	5.7	8.6	11.4	17.1	51.4	8.6	0.0
	60歳代	35	25.7	14.3	37.1	2.9	2.9	0.0	11.4	14.3	5.7	22.9	31.4	0.0	0.0
	70歳以上	49	10.2	10.2	26.5	4.1	18.4	6.1	12.2	14.3	8.2	14.3	55.1	2.0	2.0

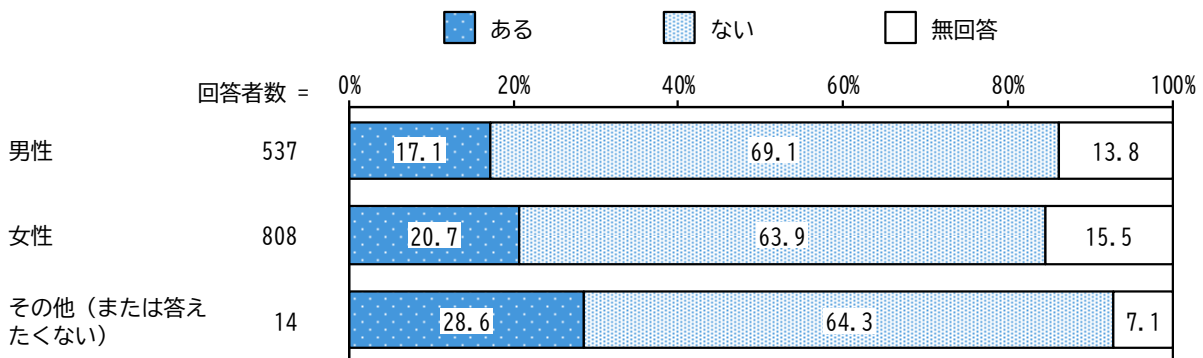
問46 あなたの周囲（知人、近隣、親せき）で、問45であげているような暴力が起こっているのを見たり、聞いたりしたことがありますか。（○は1つ）

「ある」の割合が18.9%、「ない」の割合が65.2%となっています。
過去調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別にみると、男性に比べ、女性で「ある」の割合が高くなっています。

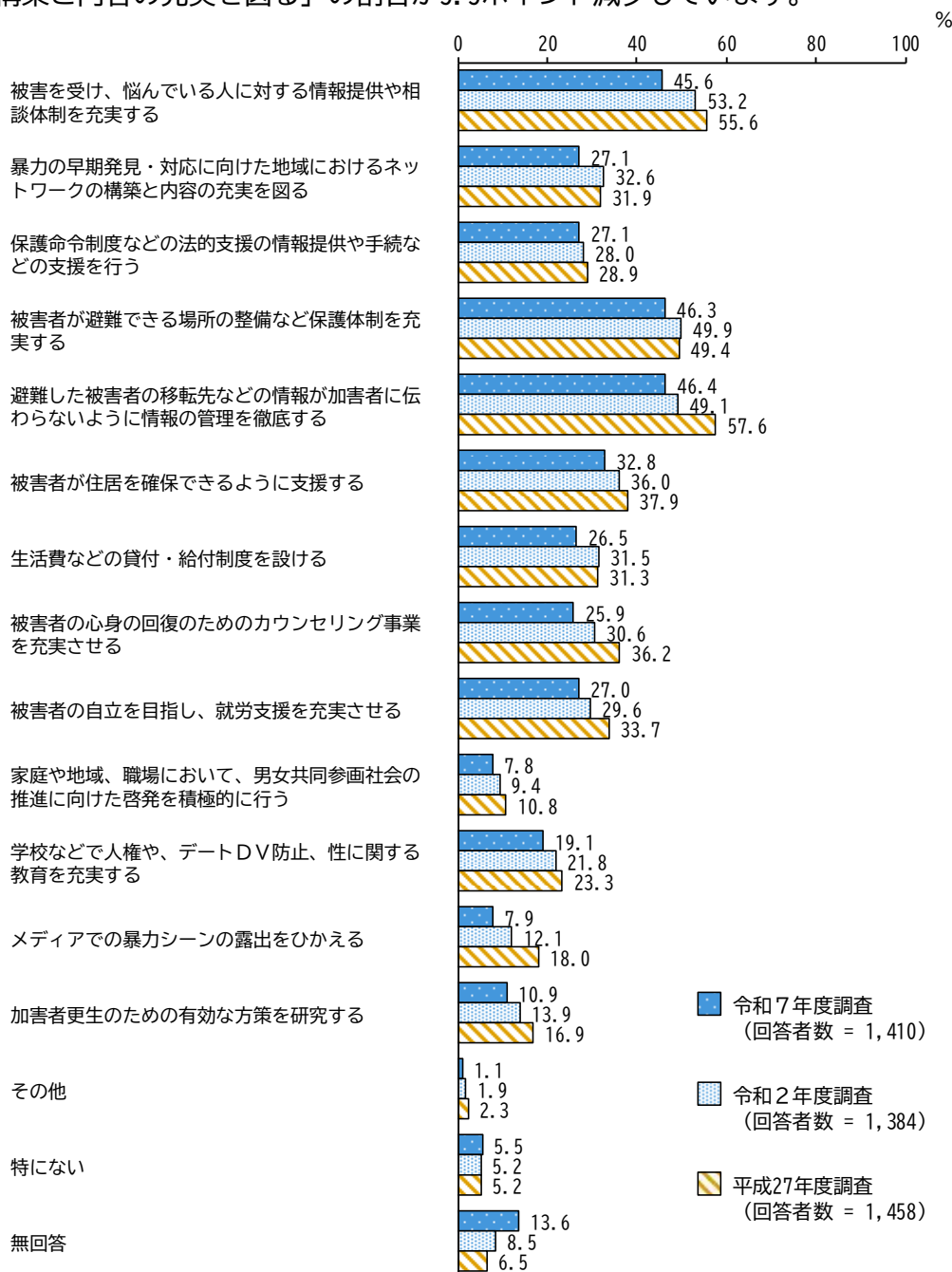


問47 あなたは、配偶者や交際相手などからの暴力の防止や被害者支援のために、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「避難した被害者の移転先などの情報が加害者に伝わらないように情報の管理を徹底する」の割合が46.4%と最も高く、次いで「被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する」の割合が46.3%、「被害を受け、悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実する」の割合が45.6%となっています。

過去調査と比較すると、平成27年度以降「被害を受け、悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実する」「避難した被害者の移転先などの情報が加害者に伝わらないように情報の管理を徹底する」「被害者が住居を確保できるように支援する」「被害者の心身の回復のためのカウンセリング事業を充実させる」「被害者の自立を目指し、就労支援を充実させる」「メディアでの暴力シーンの露出をひかえる」「加害者更生のための有効な方策を研究する」の割合が減少しています。

また、令和2年度調査に比べ、令和7年度では「暴力の早期発見・対応に向けた地域におけるネットワークの構築と内容の充実を図る」の割合が5.5ポイント減少しています。



【性別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「被害を受け、悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実する」「暴力の早期発見・対応に向けた地域におけるネットワークの構築と内容の充実を図る」「保護命令制度などの法的支援の情報提供や手続などの支援を行う」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「被害者が住居を確保できるように支援する」「被害者の自立を目指し、就労支援を充実させる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	被害を受け、悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実する	暴力の早期発見・対応に向けた地域におけるネットワークの構築と内容の充実を図る	保護命令制度などの法的支援の情報提供や手続などの支援を行う	被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する	避難した被害者の移転先などの情報が加害者に伝わらないように情報の管理を徹底する	被害者が住居を確保できるように支援する	生活費などの貸付・給付制度を設ける	被害者の心身の回復のためのカウンセリング事業を充実させる
男性	537	49.7	34.1	30.9	46.9	45.6	30.0	27.7	25.9
女性	808	44.3	23.6	25.7	47.8	48.4	35.5	26.7	26.6
その他（または答えたくない）	14	57.1	21.4	42.9	42.9	50.0	35.7	28.6	28.6

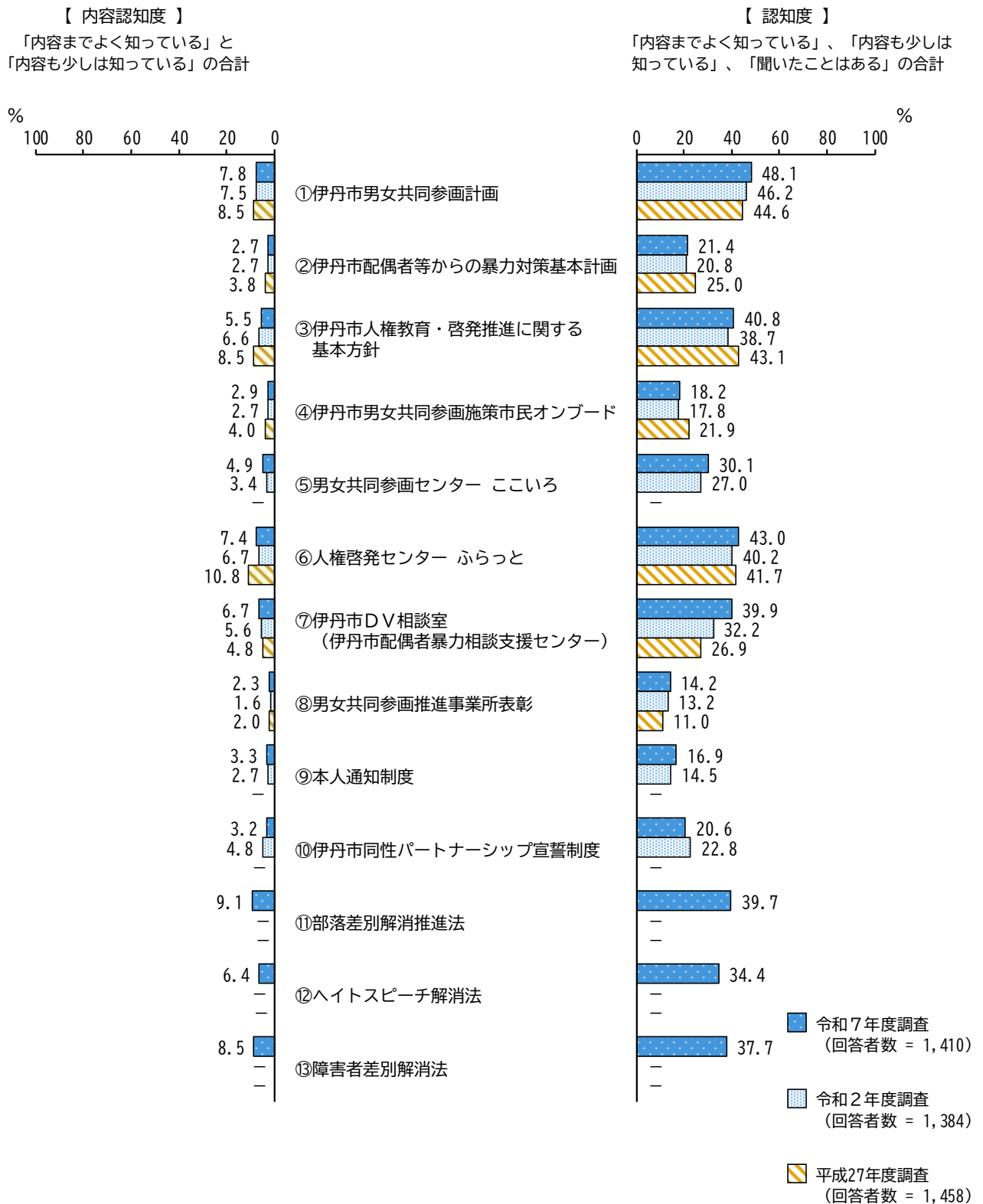
区分	被害者の自立を目指し、就労支援を充実させる	家庭や地域、職場において、男女共同参画社会の推進に向けた啓発を積極的に行う	学校などで人権や、デートDV防止、性に関する教育を充実する	メディアでの暴力シートの露出をひかえる	加害者更生のための有効な方策を研究する	その他	特にない	無回答
男性	24.2	8.8	16.8	7.4	10.2	0.9	5.6	11.4
女性	29.3	7.1	21.3	8.3	11.5	1.4	5.6	12.9
その他（または答えたくない）	35.7	14.3	14.3	0.0	21.4	0.0	21.4	7.1

(4) 人権・男女共同参画に関する市の計画・施策等について

問48 あなたは、次のような言葉や名称についてご存知ですか。(○はそれぞれ1つ)

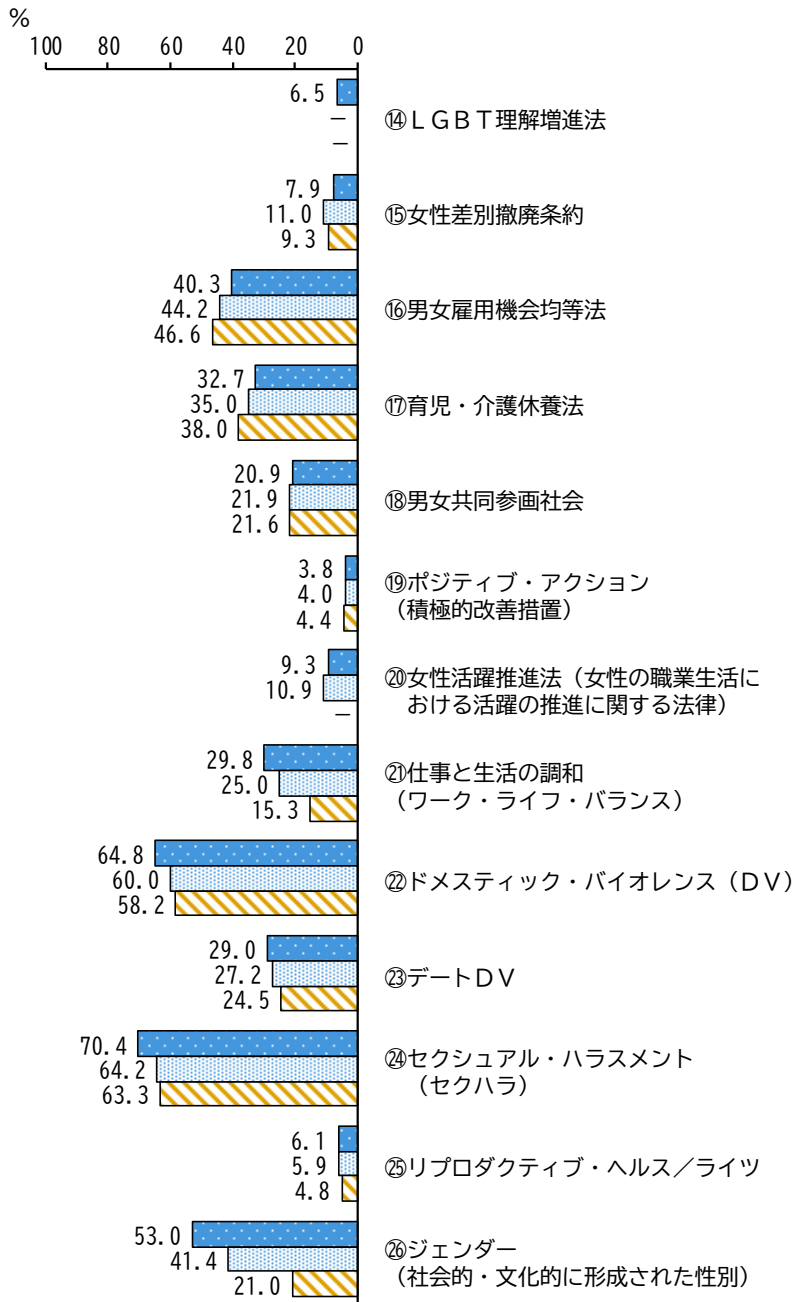
内容の認知度を、過去調査と比較すると、平成27年度以降『⑭セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)』『⑯ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)』の割合が増加しています。

認知度を、過去調査と比較すると、平成27年度以降『⑦伊丹市DV相談室(伊丹市配偶者暴力相談支援センター)』『⑫ドメスティック・バイオレンス(DV)』『⑬デートDV』『⑯ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)』の割合が増加しています。



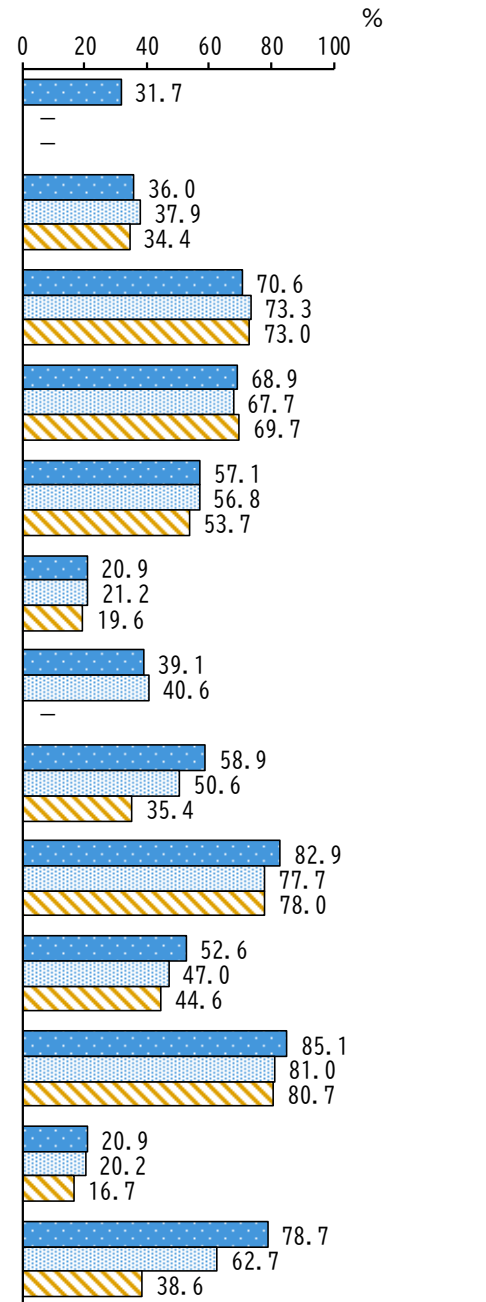
【 内容認知度 】

「内容までよく知っている」と
「内容も少しは知っている」の合計



【 認知度 】

「内容までよく知っている」、「内容も少しは知っている」、「聞いたことはある」の合計



■ 令和7年度調査 (回答者数 = 1,410)

■ 令和2年度調査 (回答者数 = 1,384)

■ 平成27年度調査 (回答者数 = 1,458)

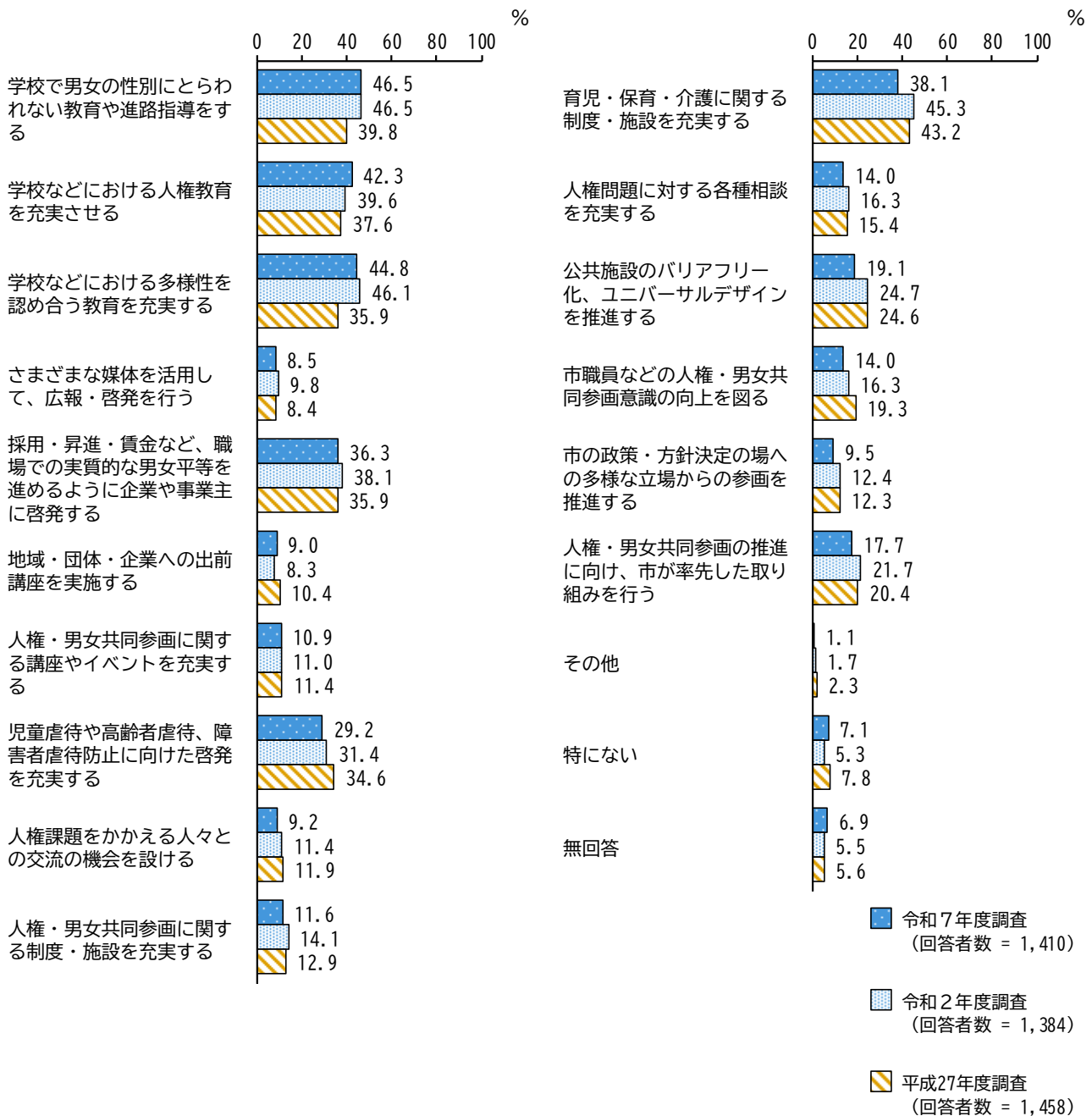
※令和2年度調査、平成27年度調査では「⑪部落差別解消推進法」「⑫ハイトスピーチ解消法」「⑬障害者差別解消法」「⑭ L G B T 理解増進法」の項目はありませんでした。また、平成27年度調査では「⑤男女共同参画センター こころ」「⑨本人通知制度」「⑩伊丹市同性パートナーシップ宣誓制度」「㉒女性活躍推進法 (女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)」の項目はありませんでした。

問49 人権・男女共同参画の実現に向けて今後、市が特に力を入れるべきだと思うものをお答えください。(〇はいくつでも)

「学校で男女の性別にとらわれない教育や進路指導をする」の割合が46.5%と最も高く、次いで「学校などにおける多様性を認め合う教育を充実する」の割合が44.8%、「学校などにおける人権教育を充実させる」の割合が42.3%となっています。

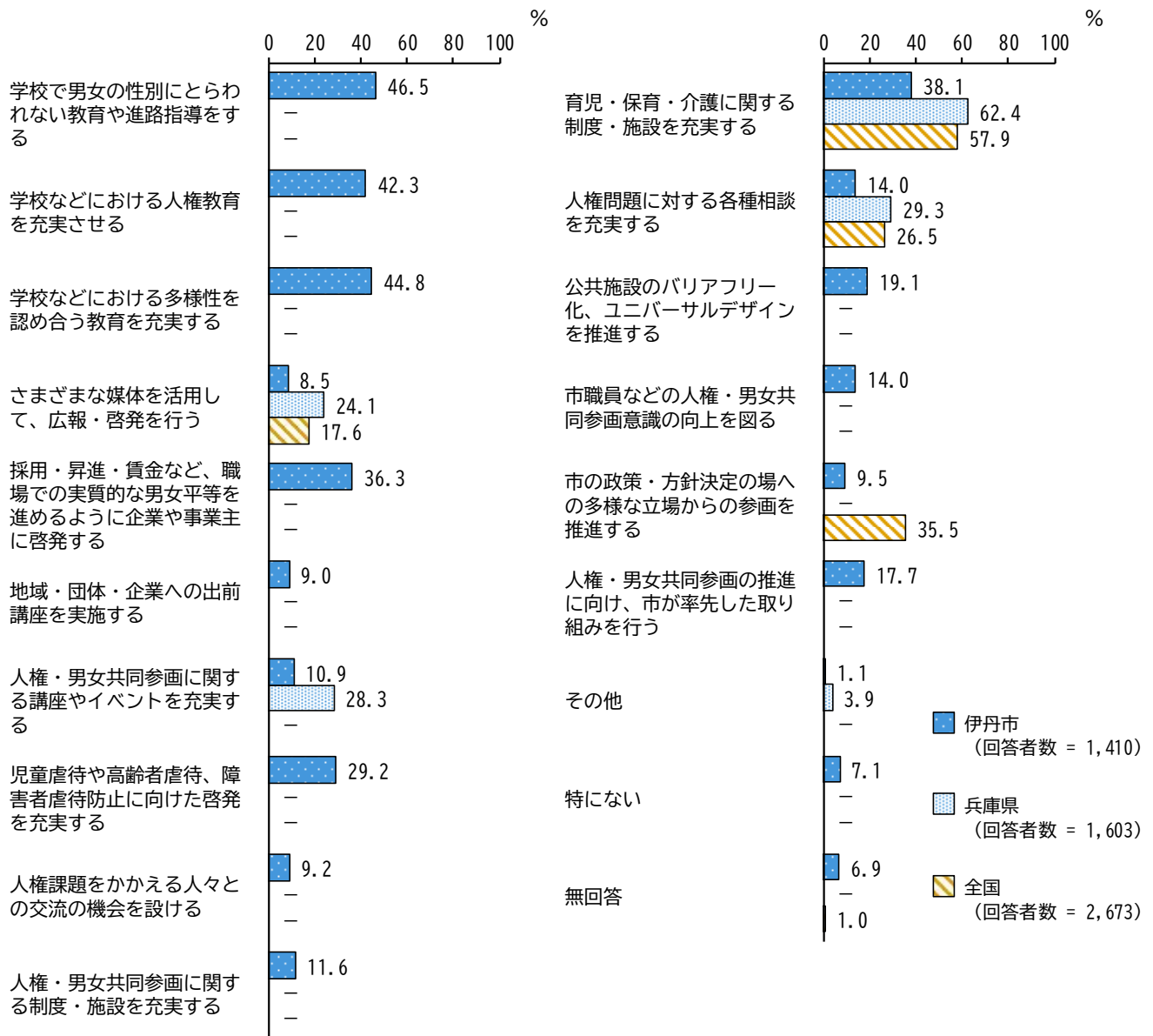
過去調査と比較すると、平成27年度以降「児童虐待や高齢者虐待、障害者虐待防止に向けた啓発を充実する」「市職員などの人権・男女共同参画意識の向上を図る」の割合が減少しています。

また、令和2年度調査に比べ、令和7年度では「育児・保育・介護に関する制度・施設を充実する」の割合が7.2ポイント、「公共施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザインを推進する」の割合が5.6ポイント減少しています。



【県・国比較】

兵庫県調査・全国調査ともに異なる選択肢が多いため、参考として掲載しています



※兵庫県、全国調査には「学校で男女の性別にとらわれない教育や進路指導をする」「学校などにおける人権教育を充実させる」「学校などにおける多様性を認め合う教育を充実する」「採用・昇進・賃金など、職場での実質的な男女平等を進めるように企業や事業主に啓発する」「地域・団体・企業への出前講座を実施する」「児童虐待や高齢者虐待、障害者虐待防止に向けた啓発を充実する」「人権課題をかかえる人々との交流の機会を設ける」「人権・男女共同参画に関する制度・施設を充実する」「公共施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザインを推進する」「市職員などの人権・男女共同参画意識の向上を図る」「人権・男女共同参画の推進に向け、市が率先した取り組みを行う」「特になし」の選択肢はありません。

※兵庫県調査には、加えて「市の政策・方針決定の場への多様な立場からの参画を推進する」の選択肢はありません。

※全国調査には、加えて「人権・男女共同参画に関する講座やイベントを充実する」「その他」の選択肢はありません。

【性・年齢別】

性別にみると、男性に比べ、女性で「児童虐待や高齢者虐待、障害者虐待防止に向けた啓発を充実する」「育児・保育・介護に関する制度・施設を充実する」の割合が高くなっています。

性・年齢別にみると、20歳代から70歳以上まで年齢が上がるほど、男性では「人権・男女共同参画に関する講座やイベントを充実する」の割合が高い傾向にあり、女性では「市職員などの人権・男女共同参画意識の向上を図る」の割合が高くなっています。また、女性10歳代で「学校などにおける多様性を認め合う教育を充実する」、女性70歳以上で「児童虐待や高齢者虐待、障害者虐待防止に向けた啓発を充実する」、女性30歳代、女性60歳代で「育児・保育・介護に関する制度・施設を充実する」、男性70歳以上で「人権・男女共同参画の推進に向け、市が率先した取り組みを行う」の割合が高くなっています。

単位：％

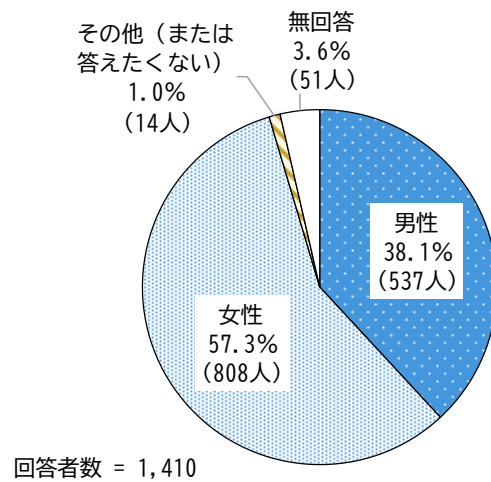
区分	回答者数(件)	学校で男女の性別にと らわれない教育や進路 指導をする	学校などにおける人権 教育を充実させる	学校などにおける多様 性を認め合う教育を充 実する	さまざまな媒体を活用 して、広報・啓発を行 う	採用・昇進・賃金など、 職場での実質的な男女 平等を進めるように企 業や事業主に啓発する	地域・団体・企業への 出前講座を実施する	人権・男女共同参画に 関する講座やイベン トを充実する	児童虐待や高齢者虐 待、障害者虐待防止に 向けた啓発を充実する	人権課題をかかえる 人々との交流の機会を 設ける
男性	537	46.7	44.3	45.4	9.9	35.9	10.1	12.5	23.6	10.2
10歳代	24	29.2	29.2	29.2	4.2	20.8	4.2	8.3	12.5	4.2
20歳代	26	26.9	19.2	23.1	7.7	19.2	3.8	3.8	3.8	7.7
30歳代	40	45.0	42.5	42.5	2.5	35.0	7.5	5.0	20.0	7.5
40歳代	69	37.7	31.9	43.5	5.8	27.5	4.3	7.2	8.7	1.4
50歳代	100	56.0	51.0	54.0	8.0	35.0	9.0	11.0	21.0	10.0
60歳代	102	45.1	48.0	45.1	10.8	36.3	17.6	10.8	23.5	13.7
70歳以上	173	51.4	49.1	48.0	15.0	43.9	10.4	20.2	36.4	13.9
女性	808	49.0	43.6	47.0	8.0	38.6	8.9	10.5	34.7	8.9
10歳代	29	51.7	41.4	55.2	3.4	34.5	3.4	10.3	24.1	3.4
20歳代	42	45.2	23.8	33.3	2.4	33.3	7.1	2.4	26.2	4.8
30歳代	71	43.7	39.4	46.5	8.5	33.8	5.6	11.3	21.1	7.0
40歳代	109	51.4	46.8	48.6	8.3	37.6	10.1	9.2	28.4	12.8
50歳代	165	50.3	44.2	52.1	4.8	43.0	7.3	7.9	35.2	6.7
60歳代	129	42.6	48.1	43.4	8.5	39.5	6.2	7.8	30.2	9.3
70歳以上	261	51.7	43.7	46.0	10.7	38.3	12.3	14.9	45.2	10.0
その他	14	50.0	28.6	35.7	14.3	21.4	7.1	14.3	14.3	14.3

区分	人権・男女共同参画に 関する制度・施設を充 実する	育児・保育・介護に関 する制度・施設を充実 する	人権問題に対する各種 相談を充実する	公共施設のバリアフリ ー化、ユニバーサルデ ザインを推進する	市職員などの人権・男 女共同参画意識の向上 を図る	市の政策・方針決定の 場への多様な立場から の参画を推進する	人権・男女共同参画の 推進に向け、市が率先 した取り組みを行う	その他	特 に な い	無 回 答
男性	14.7	35.8	15.5	17.3	13.4	10.2	19.0	1.5	8.8	3.9
10歳代	8.3	37.5	12.5	16.7	4.2	8.3	4.2	0.0	16.7	8.3
20歳代	7.7	19.2	23.1	11.5	15.4	3.8	11.5	0.0	23.1	0.0
30歳代	10.0	37.5	12.5	10.0	15.0	12.5	17.5	0.0	7.5	2.5
40歳代	7.2	20.3	2.9	11.6	7.2	5.8	10.1	1.4	13.0	2.9
50歳代	15.0	33.0	13.0	21.0	13.0	11.0	12.0	2.0	4.0	1.0
60歳代	18.6	36.3	16.7	18.6	9.8	12.7	17.6	1.0	10.8	0.0
70歳以上	18.5	45.1	20.8	19.1	18.5	10.4	30.6	2.3	5.8	8.7
女性	10.1	41.8	13.7	21.3	15.1	9.4	17.5	0.9	6.3	3.7
10歳代	13.8	20.7	0.0	13.8	6.9	6.9	17.2	3.4	6.9	3.4
20歳代	14.3	38.1	14.3	26.2	4.8	7.1	14.3	2.4	11.9	0.0
30歳代	9.9	49.3	11.3	19.7	9.9	4.2	12.7	0.0	7.0	1.4
40歳代	9.2	42.2	14.7	23.9	11.9	11.0	16.5	2.8	2.8	0.9
50歳代	9.7	40.0	14.5	26.1	13.3	10.3	15.8	0.0	3.6	0.6
60歳代	9.3	48.1	14.0	20.9	16.3	9.3	16.3	0.8	6.2	1.6
70歳以上	10.0	40.2	14.2	17.6	21.1	10.3	21.5	0.4	8.4	9.2
その他	14.3	28.6	14.3	28.6	21.4	14.3	21.4	0.0	14.3	7.1

(5) 回答者属性

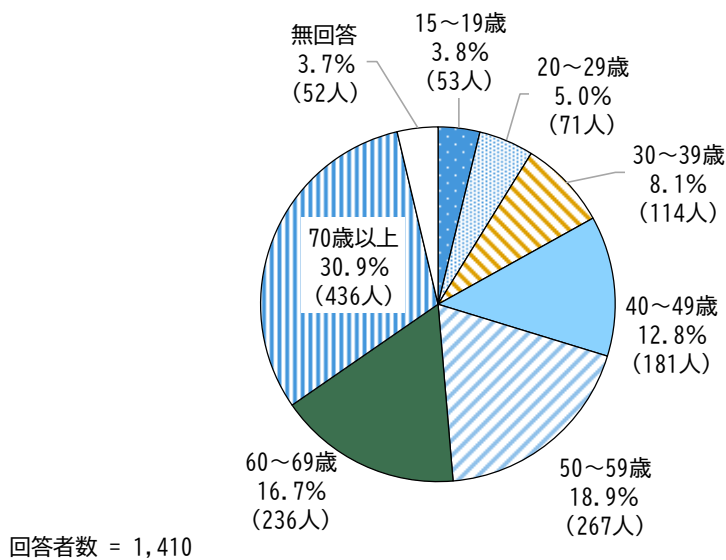
問50 あなたの自認する性別を教えてください。(○は1つ)

「男性」の割合が38.1%、「女性」の割合が57.3%となっています。



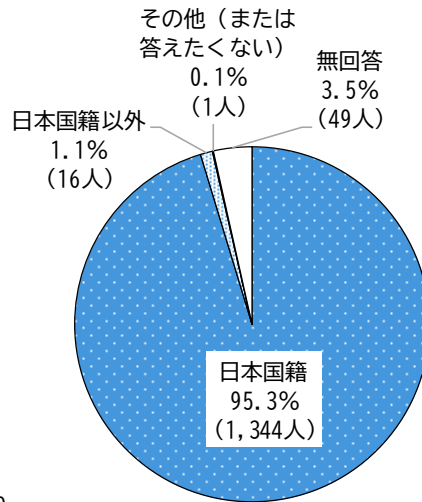
問51 あなたの年齢を教えてください。(2025年9月現在) (○は1つ)

「70歳以上」の割合が30.9%と最も高く、次いで「50～59歳」の割合が18.9%、「60～69歳」の割合が16.7%となっています。



問52 あなたの国籍についておたずねします。(○は1つ)

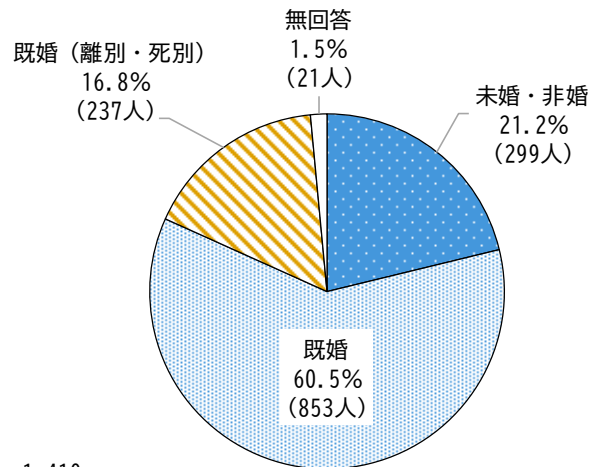
「日本国籍」の割合が95.3%、「日本国籍以外」の割合が1.1%となっています。



回答者数 = 1,410

問53 あなたは、結婚(法律上の婚姻は問わない)していますか。(○は1つ)

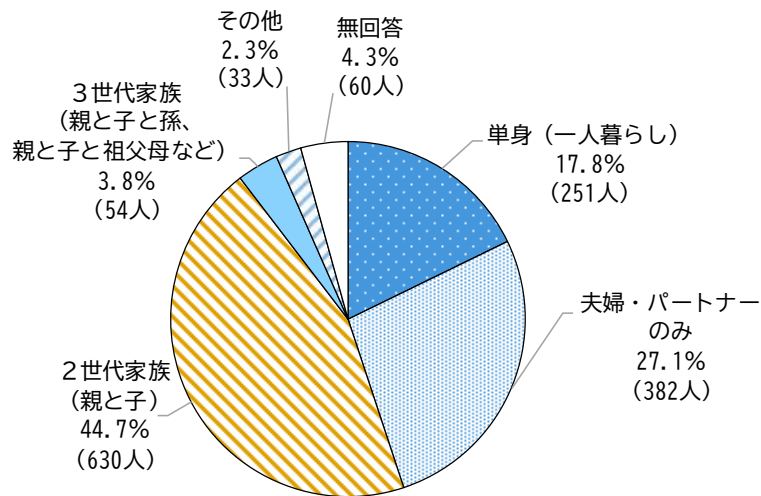
「未婚・非婚」の割合が21.2%、「既婚」の割合が60.5%、「既婚(離別・死別)」の割合が16.8%となっています。



回答者数 = 1,410

問54 あなたの家族（同居）の構成は次のどれにあてはまりますか。（○は1つ）

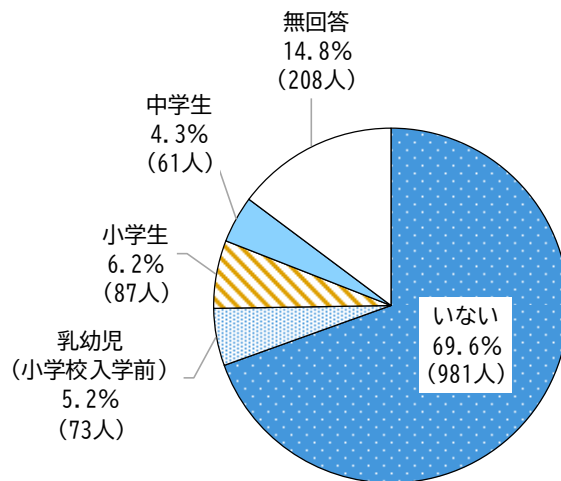
「2世代家族（親と子）」の割合が44.7%と最も高く、次いで「夫婦・パートナーのみ」の割合が27.1%、「単身（一人暮らし）」の割合が17.8%となっています。



回答者数 = 1,410

問55 中学生以下のお子さん（同居）がいますか。お子さんがいる場合、一番年齢の小さなお子さんはどれにあてはまりますか。（○は1つ）

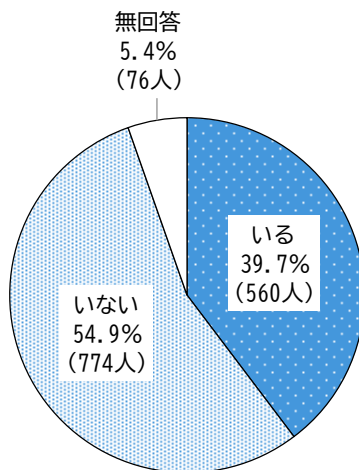
「いない」の割合が69.6%と最も高くなっています。



回答者数 = 1,410

問56 あなたを含めて同居家族に65歳以上の方はいますか。(○は1つ)

「いる」の割合が39.7%、「いない」の割合が54.9%となっています。

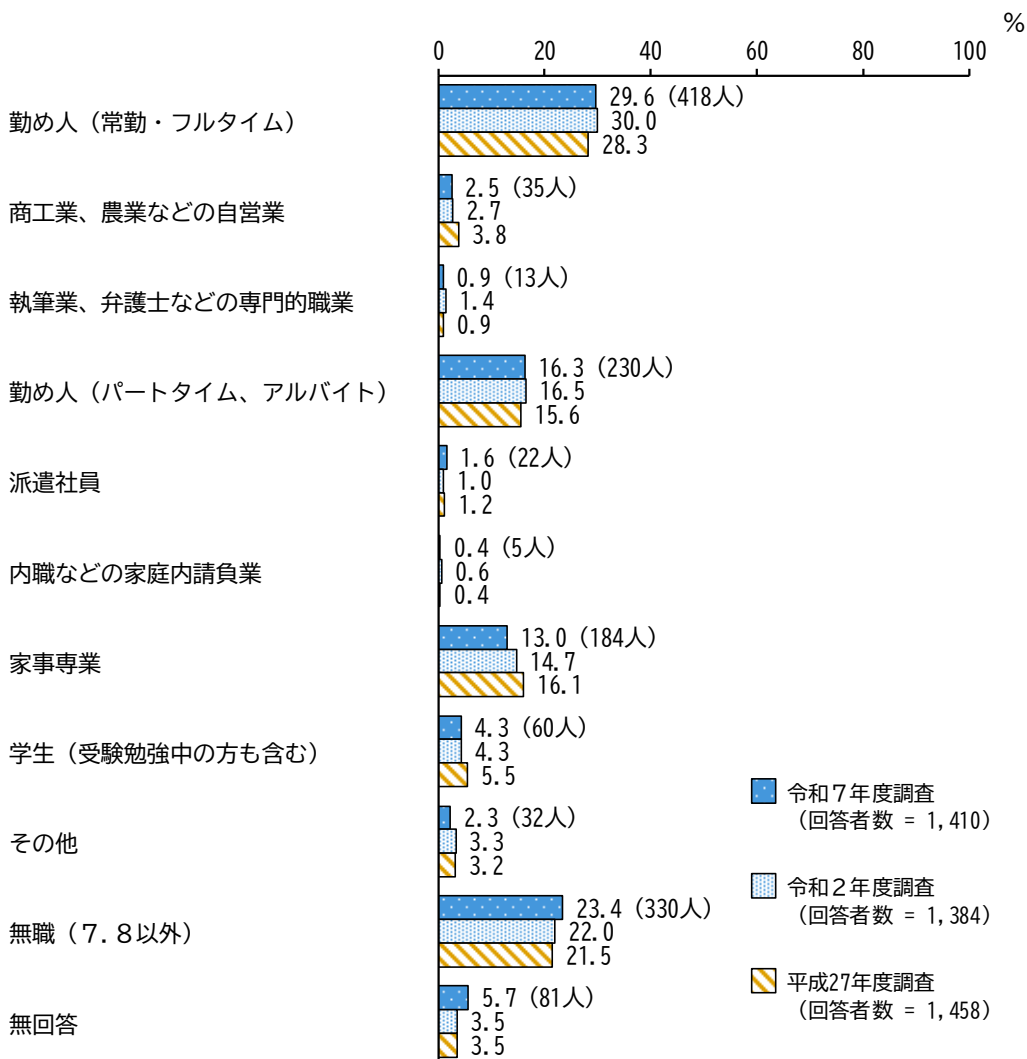


回答者数 = 1,410

問57 あなたの現在のご職業に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

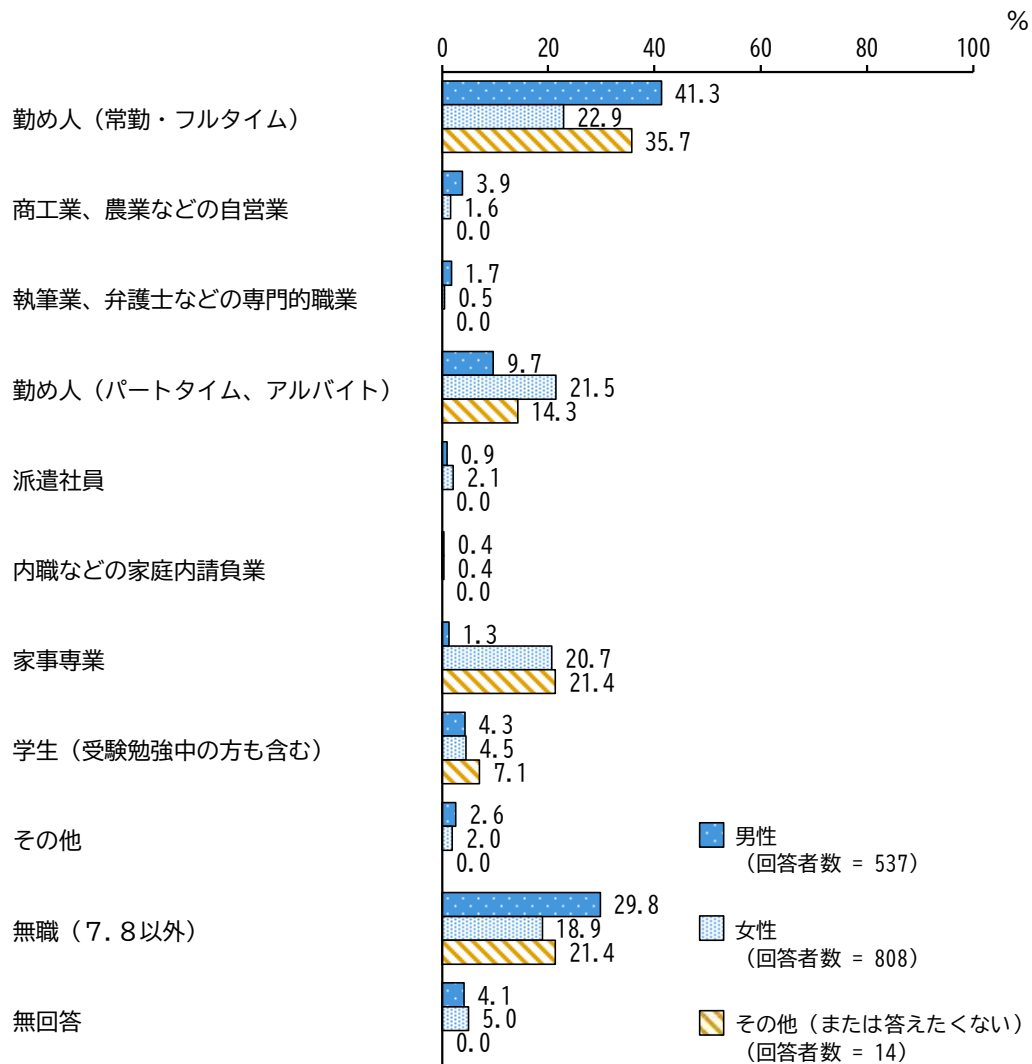
「勤め人(常勤・フルタイム)」の割合が29.6%と最も高く、次いで「無職(7.8以外)」の割合が23.4%、「勤め人(パートタイム、アルバイト)」の割合が16.3%となっています。

過去調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「勤め人（常勤・フルタイム）」「無職（7.8以外）」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「勤め人（パートタイム、アルバイト）」「家事専業」の割合が高くなっています。



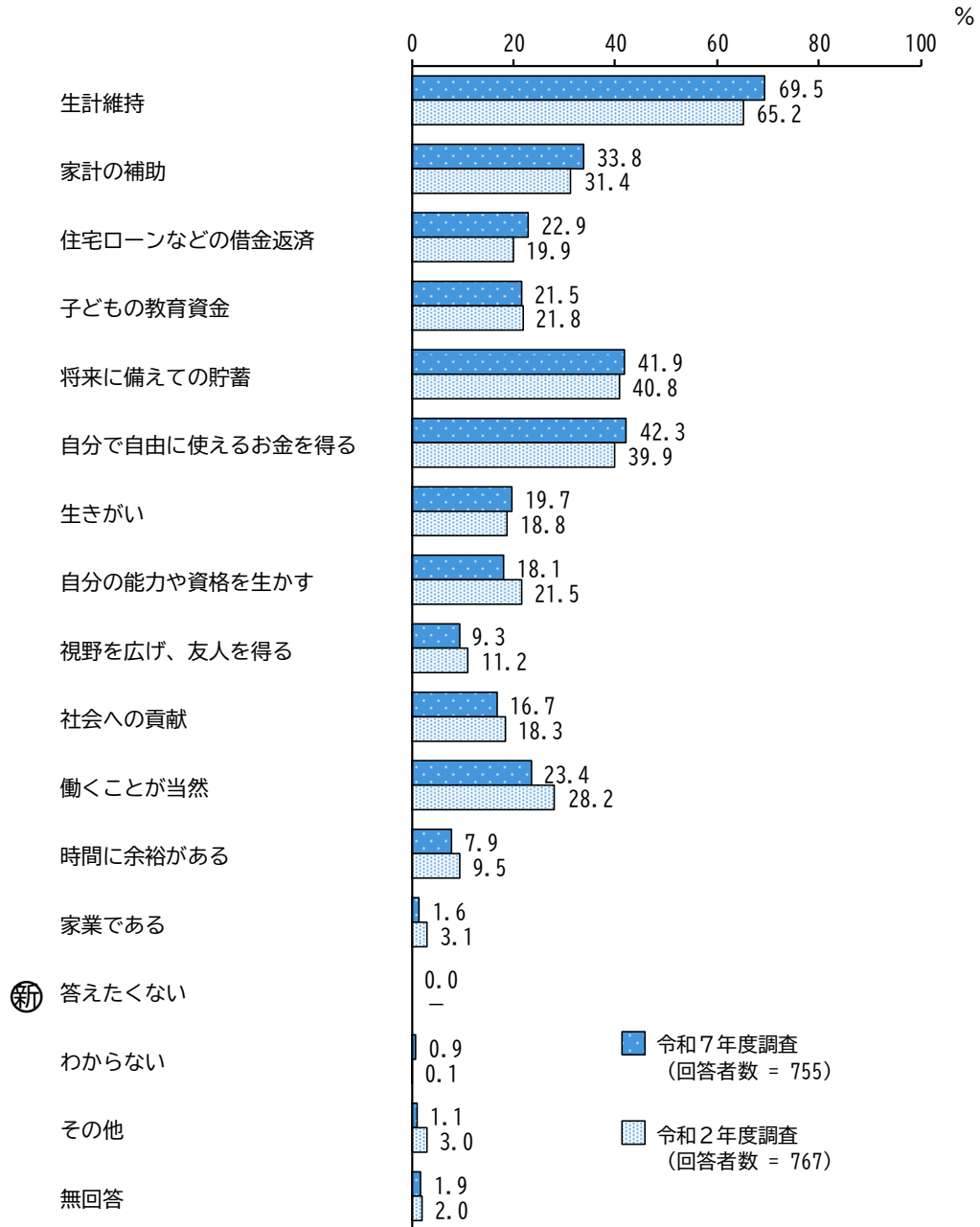


現在働いている方におうかがいします。

問58 あなたが働いているのは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

「生計維持」の割合が69.5%と最も高く、次いで「自分で自由に使えるお金を得る」の割合が42.3%、「将来に備えての貯蓄」の割合が41.9%となっています。

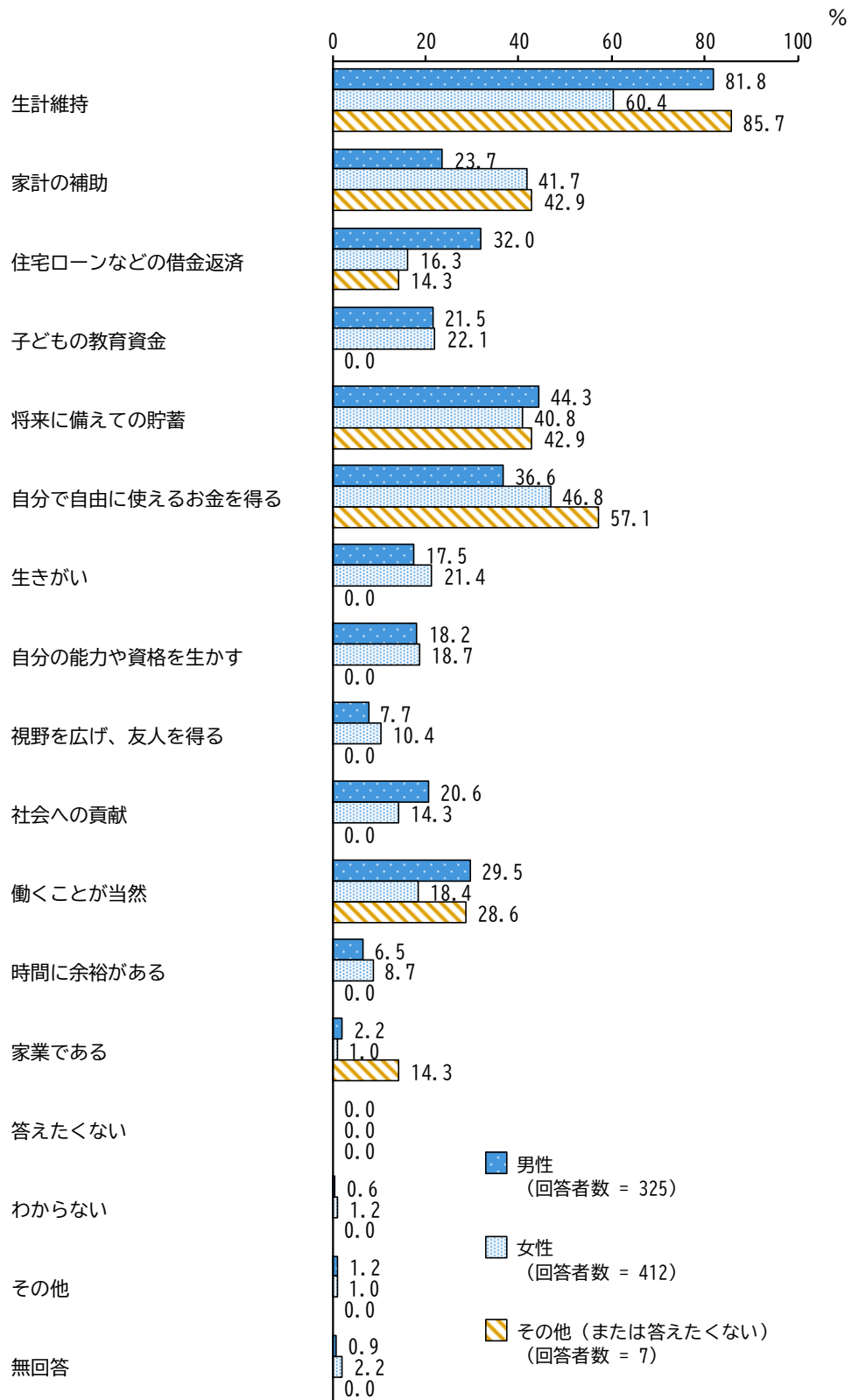
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※令和2年度調査では、「答えたくない」の項目はありませんでした。

【性別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「生計維持」「住宅ローンなどの借金返済」「社会への貢献」「働くことが当然」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「家計の補助」「自分で自由に使えるお金を得る」の割合が高くなっています。



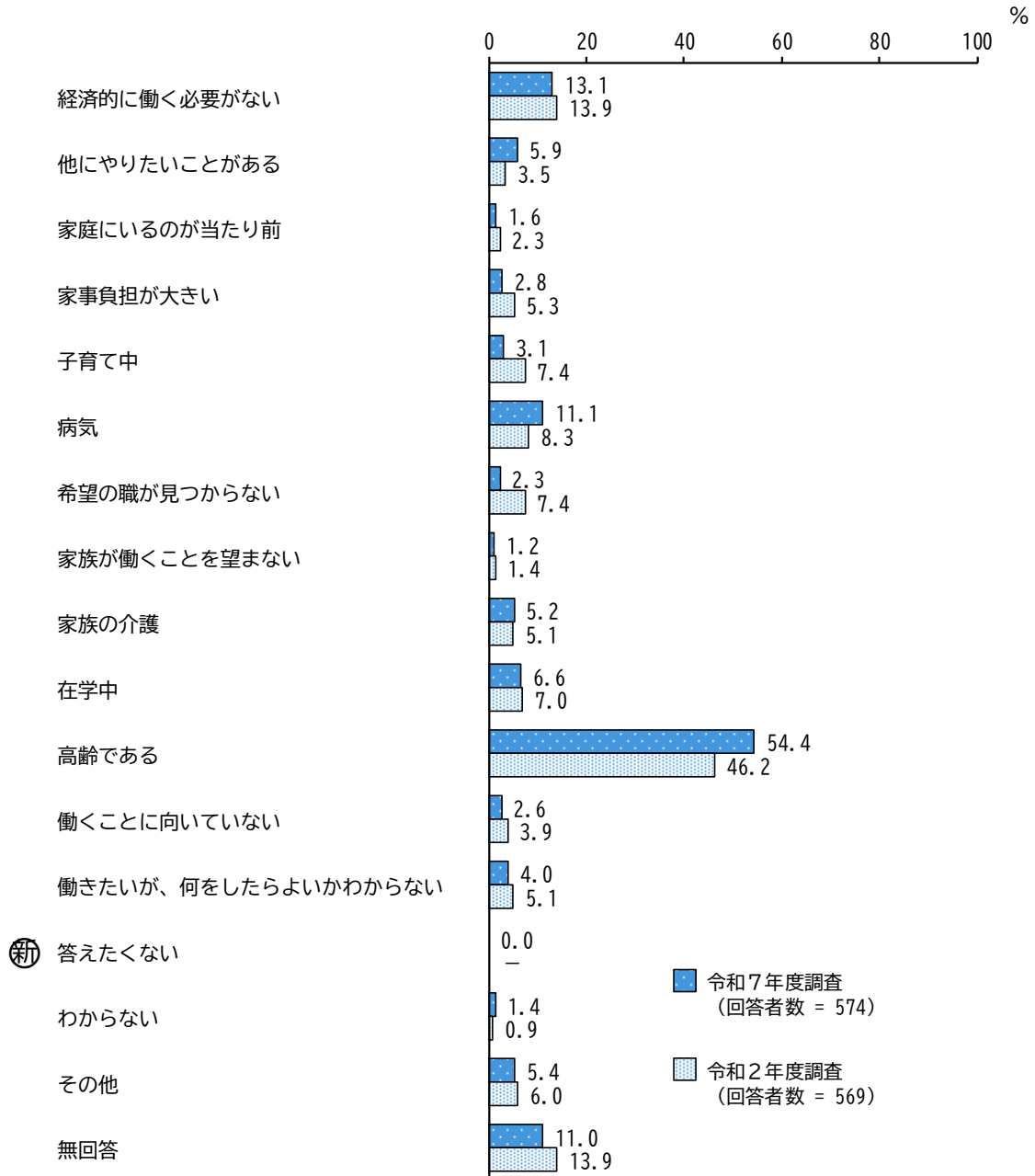


現在働いていない方におうかがいします。

問59 あなたが働いていないのは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

「高齢である」の割合が54.4%と最も高く、次いで「経済的に働く必要がない」の割合が13.1%、「病気」の割合が11.1%となっています。

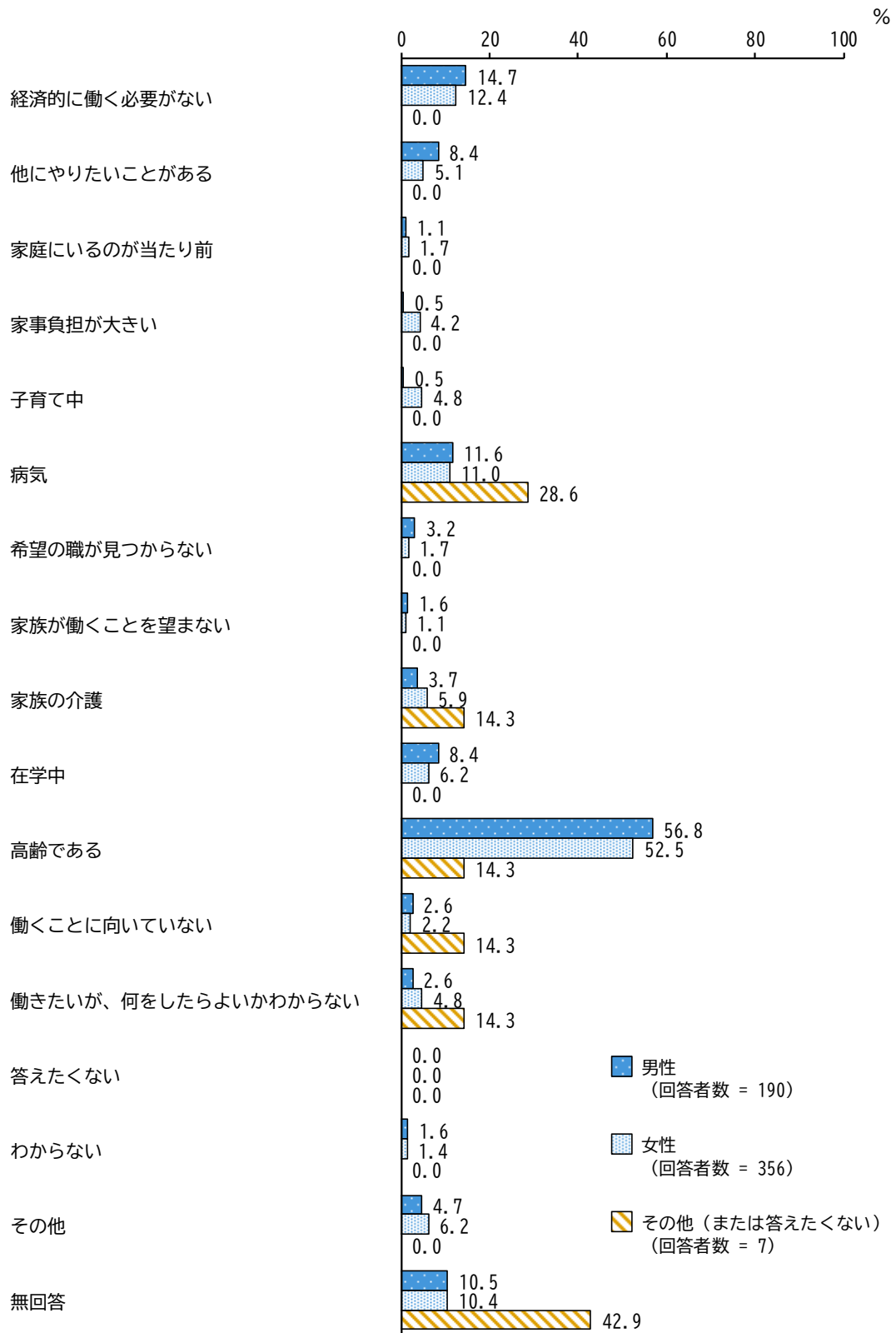
令和2年度調査と比較すると、「高齢である」の割合が8.2ポイント増加しています。一方、「希望の職が見つからない」の割合が5.1ポイント減少しています。



※令和2年度調査では、「答えたくない」の項目はありませんでした。

【性別】

性別にみると、男女で大きな差はみられません。

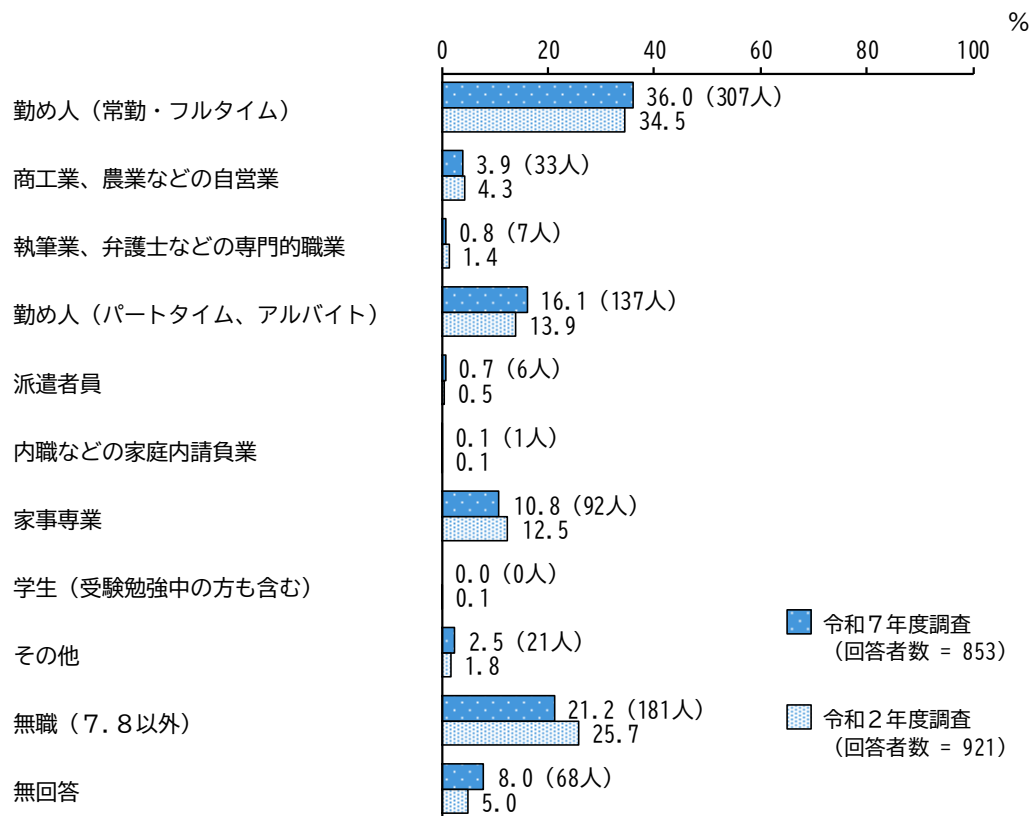


配偶者・パートナーがいる方におうかがいします。

問60 あなたの配偶者・パートナーの現在のご職業に最も近いものはどれですか。

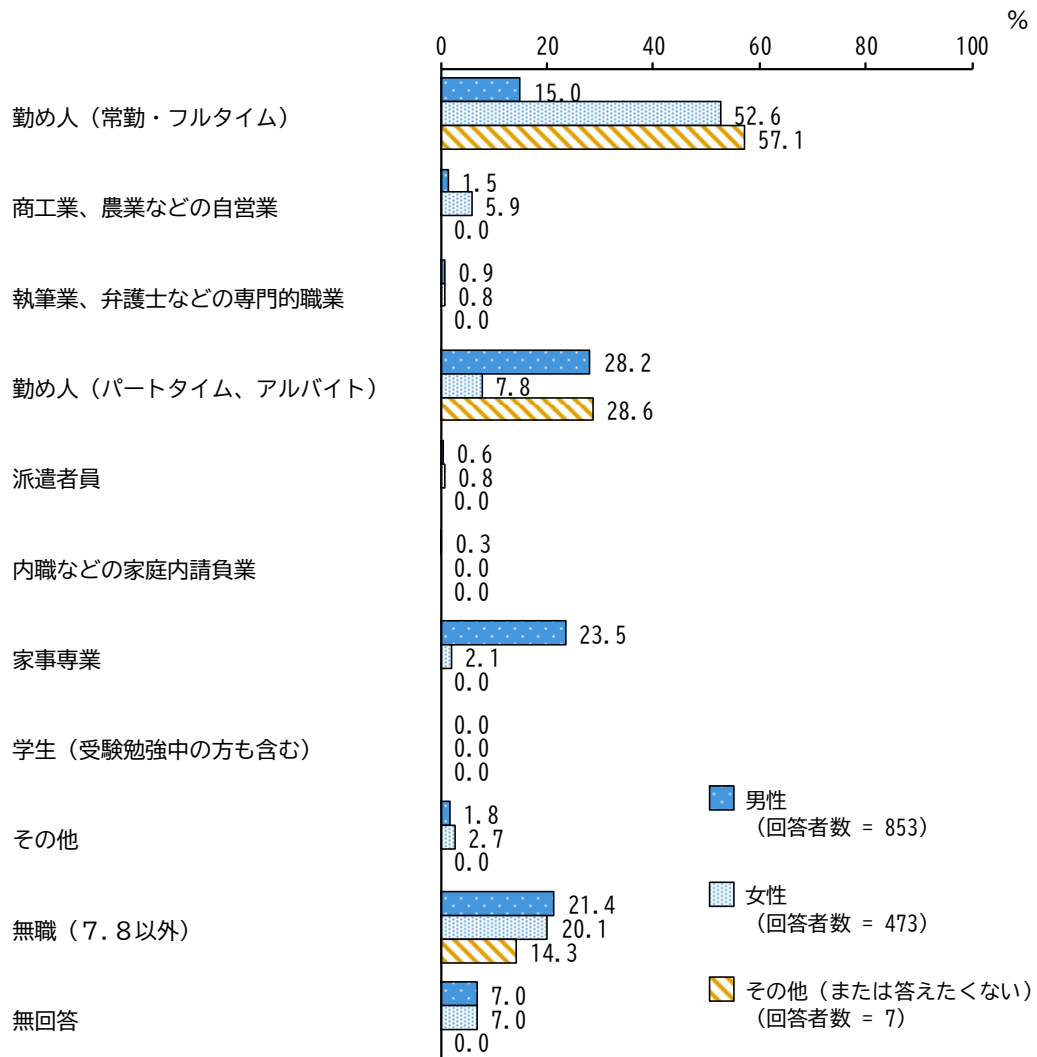
「勤め人（常勤・フルタイム）」の割合が36.0%と最も高く、次いで「無職（7.8以外）」の割合が21.2%、「勤め人（パートタイム、アルバイト）」の割合が16.1%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別にみると、女性に比べ、男性で「勤め人（パートタイム、アルバイト）」「家事専業」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「勤め人（常勤・フルタイム）」の割合が高くなっています。



V 自由記述

問61 人権・男女共同参画に関する事で何かご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

今回の「人権・男女共同参画に関する市民意識調査」の回答の中で、自由記述について103件の記述がありました。これらの意見については、今後の人権・男女共同参画を推進する際の参考として活用します。

内容別件数

1 人権意識全般に関する意見	15件
2 個別の人権課題に関する意見	7件
3 子ども人権に関する意見	6件
4 同和問題に関する意見	4件
5 性的マイノリティに関する意見	4件
6 男女共同参画社会に関する意見	14件
7 子育てに関する意見	4件
8 介護などに関する意見	4件
9 仕事に関する意見	4件
10 人権・男女共同参画の取り組みに関する意見	12件
11 意識調査全体に関する意見	22件
12 その他の意見	7件

VI 調査票

じんけんもんだい
人権問題についておたずねします。

とい 問1 あなたは、「人権」を、どのくらい身近な問題として感じていますか（○は1つ）

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. 非常に身近に感じる | 2. かなり身近に感じる |
| 3. どちらとも言えない | 4. あまり身近に感じない |
| 5. まったく身近に感じない | 6. わからない |

とい 問2 次の①～③のそれぞれについて、あなたはどのように思いますか（○はそれぞれ1つ）

① 今の日本は、人権が尊重されている社会である

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらとも言えない | 4. どちらかといえばそう思わない |
| 5. そうは思わない | |

② 市民一人ひとりの人権意識は5～6年前に比べて高くなっている

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらとも言えない | 4. どちらかといえばそう思わない |
| 5. そうは思わない | |

③ 5～6年前に比べて人権が侵害されていることは減っている

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらとも言えない | 4. どちらかといえばそう思わない |
| 5. そうは思わない | |

とい 問3 あなたは、今までに、自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか（○は1つ）

- | | |
|----------|--------|
| 1. ある | →問3-1へ |
| 2. ない | →問4へ |
| 3. わからない | →問4へ |

問5 日本の社会には、人権にかかわるさまざまな問題がありますが、あなたが特に関心を
お持ちのものはどのようなことですか（〇は5つまで）

- | | |
|---------------------------------------|------------------|
| 1. 女性に関する問題 | 2. 子どもに関する問題 |
| 3. 高齢者に関する問題 | 4. 障がいのある人に関する問題 |
| 5. 部落差別（同和問題） | 6. アイヌの人々に関する問題 |
| 7. 日本に居住している外国人に関する問題 | |
| 8. エイズ患者・HIV（エイズ・ウイルス）感染者等に関する問題 | |
| 9. ハンセン病患者・回復者などに関する問題 | |
| 10. 新型コロナウイルス感染症の感染者・医療従事者やその家族に関する問題 | |
| 11. 刑を終えて出所した人に関する問題 | |
| 12. 犯罪被害者に関する問題 | |
| 13. インターネットによる人権侵害の問題 | |
| 14. 北朝鮮当局によって拉致された被害者に関する問題 | |
| 15. ホームレスの人に関する問題 | |
| 16. LGBTQ（※）などの性的マイノリティに関する問題 | |
| 17. 人身取引（強制労働などを目的とした人身取引、性的搾取）に関する問題 | |
| 18. 風評にもとづく偏見や差別など、災害に伴う人権侵害の問題 | |
| 19. 働く人の権利に関する問題 | 20. 環境と人にかかわる問題 |
| 21. 特にない | 22. その他の問題（ ） |

※LGBTQ：同性愛者（レズビアン/ゲイ）や両性愛者（バイセクシュアル）など性的指向における少数者や、トランスジェンダーなど性自認（性同一性）における少数者を指します。
「LGBTQ」はレズビアン/ゲイ/バイセクシュアル/トランスジェンダー/クエスチョニング・クィアの頭文字をとった表現です。

問6 女性に関する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのは
どのようなことですか（〇は3つまで）

- | | |
|---|------------|
| 1. 男女の性別による固定的な意識（「男は仕事、女は家庭」など） | |
| 2. 昇給・昇進の格差など、職場での男女の待遇の違い | |
| 3. 女性の社会進出のための支援制度の不備 | |
| 4. 女性が政策や方針などの決定に参画する機会が少ない（女性の政治家や管理職が少ないなど） | |
| 5. マタニティ・ハラスメント（職場での妊娠・出産などを理由とする不利益取扱いなど） | |
| 6. ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人・パートナーからの暴力・暴言など） | |
| 7. セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ） | |
| 8. ストーカー行為 | |
| 9. 売春・買春、援助交際 | |
| 10. アダルトビデオ・ポルノ雑誌における女性のヌード写真や映像の商品化など | |
| 11. 女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること | |
| 12. 痴漢やわいせつ行為などの性犯罪 | |
| 13. わからない | 14. その他（ ） |

問7 子どもに関する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか（〇は3つまで）

1. 保護者が言うことを聞かない子どもにしつけのつもりで体罰を加えること
2. 子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄したりすること
3. 子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめ（インターネットを使ったものも含む）をしたりすること
4. いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事
5. 学校や地域の状況、社会の変化に合わない、不合理な校則が残っていること
6. 学校や就職先の選択などについて、大人が子どもの意見を無視すること
7. 教師や保育士などによる言葉の暴力や体罰
8. ビデオ、インターネットなどで暴力や性などの有感情報がはんらんしていること
9. 親の事情などによって、子どもが無国籍や無戸籍になること
10. 児童買春や児童ポルノなど、子どもを性的な商売の道具にすること
11. 貧困のために進学や就職が困難になったり、健康な生活ができなかったりすること
12. 日常的に家事や家族の世話を余儀なくされている子ども（ヤングケアラー）が、学校生活や進学・就職などに支障をきたしていること
13. わからない
14. その他（)

問8 高齢者に関する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか（〇は3つまで）

1. 道路の段差解消、エレベーターの設置など、高齢者が暮らしやすいまちづくりへの配慮が足りないこと
2. 働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分保障されていないこと
3. 悪徳商法（悪質商法）や詐欺などによる被害が多いこと
4. 高齢者だけでは賃貸住宅などへの入居が難しいこと
5. 家族が世話を避けたり、家族から虐待を受けたりすること
6. 病院や福祉施設において劣悪な処遇や虐待を受けること
7. 家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと
8. 高齢者が邪魔者扱いされ、意見や行動が尊重されないこと
9. 情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと
10. わからない
11. その他（)

問9 障がいのある人に関する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか（〇は3つまで）

1. 道路の段差解消、エレベーターの設置など、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりへの配慮が足りないこと
2. 働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分でないこと
3. 学校や職場で不利な扱いを受けたり虐待を受けたりすること
4. 障がいのある人の賃貸住宅などへの入居が難しいこと
5. 家族が世話をすることを避けたり、家族から虐待を受けたりすること
6. 病院や福祉施設において劣悪な処遇や虐待を受けること
7. スポーツ活動や文化活動などへ気楽に参加できないこと
8. 社会復帰や社会参加のための受入態勢が十分でないこと
9. 情報をわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと
10. 障がいのある人の意見や行動が尊重されないこと
11. 障害者差別解消法(※)の内容や目的が十分理解されていないこと
12. 障がいのある人の生きる権利を認めようとしなないといった考え方が残っていること
13. わからない
14. その他（ ）

※障害者差別解消法：「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」

2016（平成28）年4月1日 施行

問10 部落差別（同和問題）について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか（〇は3つまで）

1. 差別的な言動があること
2. 差別的な落書きがあること
3. インターネットを悪用した差別的な情報の掲載があること
4. 就職・職場での差別・不利な扱いがあること
5. 結婚問題での周囲からの反対があること
6. 部落差別（同和問題）を知らない人がいること
7. 身元調査を実施すること
8. 地域の活動やつきあいで差別・不利な扱いがあること
9. いわゆる同和地区への居住の敬遠があること
10. 部落差別解消推進法(※)の内容や目的が十分理解されていないこと
11. 特に起きているとは思わない
12. 私自身が部落差別（同和問題）のことを知らない
13. わからない
14. その他（ ）

※部落差別解消推進法：「部落差別の解消の推進に関する法律」

2016（平成28）年12月16日 施行

問11 日本に居住している外国人に関する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか（〇は3つまで）

1. 入学・学校で不利な扱いを受けること
2. 就職・職場で不利な扱いを受けること
3. 住宅の申込や入居で不利な扱いを受けること
4. 年金など社会保障制度で不利な扱いを受けること
5. 結婚問題で周囲から反対されること
6. 文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けたりすること
7. ヘイトスピーチ(※)によるいやがらせなどがあること
8. ヘイトスピーチ解消法(※)の内容や目的が十分理解されていないこと
9. 病院や施設などで、外国語の表記などの対応が不十分であること
10. 政治に意見が十分反映されないこと
11. 差別的な言動や差別的な落書きがあること
12. インターネットを悪用した差別的な情報が掲載されること
13. わからない
14. その他（ ）

※ヘイトスピーチ：特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動のこと。

※ヘイトスピーチ解消法：「本邦外出身に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組みの推進に関する法律」2016(平成28)年6月3日施行

問12 今後、地域に住む外国人が増えることをあなたはどのように思いますか。（〇は3つまで）

1. 外国人の言葉や文化等を知る機会が増える
2. 外国のことについて関心を持つようになる
3. 社会に多様性が生まれる
4. 労働者不足の解消につながる
5. 異文化に対する偏見がなくなることにつながる
6. 地域の活性化につながる
7. 地域で他の国籍の人たちと交流できる機会が増える
8. 文化・習慣の違いによるトラブルが生じる
9. 言葉の壁によるトラブルが生じる
10. 緊急時や災害時における地域活動でトラブルが起きないか不安を感じる
11. 日本人の働き先や仕事が減る
12. 地域の環境（治安、風紀等）に悪い影響があると思う
13. 具体的な心配事はないが、外国人住民が増えることに漠然とした不安を感じる
14. 特になにも思わない
15. わからない
16. その他（ ）

問15 インターネット（パソコン、スマートフォンなど）を悪用した人権侵害について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか（〇は3つまで）

1. 他人へのひどい悪口（誹謗中傷）や差別的な表現などを掲載すること
2. 事件や事故の被害者や加害者の実名や顔写真などの情報を無断で掲載すること
3. 不正アクセスのような行為によって個人情報流出すること
4. 犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること
5. ポルノ画像など有害なホームページがあること
6. 悪徳商法（悪質商法）によるインターネット取引での被害があること
7. いったん流れた情報の修正や回収が難しいこと
8. 差別を助長するような情報を掲載すること
9. プライバシーに関する情報を第三者が無断で掲載すること
10. リベンジポルノ（元交際相手の性的な画像などを、相手の同意を得ることなく、仕返しのためにインターネットの掲示板やSNSなどに公表する行為）が行われていること
11. わからない
12. その他（)

問16 インターネット上で他人を誹謗中傷するなど、人権侵害と思われるような投稿やWEBページを見たとき、あなたはどのようにされますか（〇は1つ）

1. 自分とかかわりがないので、特に何もしない
2. そのような投稿・WEBページは、見ずに無視する
3. 自分にかかわりがあれば、反対意見を書き込む
4. 自分にかかわりがなくても、反対意見を書き込む
5. 自分にかかわりがあれば、プロバイダまたは関係機関に知らせる
6. 自分にかかわりがなくても、プロバイダまたは関係機関に知らせる
7. 誹謗中傷するWEBページ、投稿は見たことがない
8. わからない
9. その他（)

問17 インターネットによる人権問題を解決するためには、どのようなことが必要だと思いますか（〇は3つまで）

1. インターネットによる人権侵害を受けた人のための相談や支援体制を充実すること
2. インターネット利用者に対する個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための教育・啓発を行うこと
3. プロバイダによる情報の削除や自主規制を推進すること
4. 不当・違法な情報発信者に対する監視、取締りを強化すること
5. 発信者情報の開示や、裁判の簡素化のための法整備を進めること
6. 表現の自由に関わる問題であり、対策には慎重な対応が必要
7. わからない
8. その他（)

問18 犯罪被害者の方やその家族について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか（〇は3つまで）

1. 犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと
2. 警察などに相談しても必ずしも期待どおりの結果が得られないこと
3. 過剰な取材などにより生活の平穏が破られたり、プライバシーの侵害があったりすること
4. 事件に関して周囲からの偏見や差別があること
5. 捜査・刑事裁判で受ける精神的負担に対し、こころのケアが不十分であること
6. 刑事裁判手続に犯罪被害者や家族の声がまだ十分反映されないこと
7. 加害者が裁判所から命じられた賠償金を支払わないこと
8. わからない
9. その他（

問19 LGBTQ（※）などの性的マイノリティに関し、あなたは現在、特にどのような人権問題が起きていると思われますか（〇は3つまで）

※LGBTQ：同性愛者（レズビアン/ゲイ）や両性愛者（バイセクシュアル）など性的指向における少数者や、トランスジェンダーなど性自認（性同一性）における少数者を指します。
「LGBTQ」はレズビアン/ゲイ/バイセクシュアル/トランスジェンダー/クエスチョニング・クィアの頭文字をとった表現です。

1. 職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること
2. 就職・職場で不利な扱いを受けること
3. パートナーとの関係が公に認められないこと
4. 差別的な言動をされること
5. 賃貸住宅などへの入居が難しいこと
6. 宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否されること
7. じろじろ見られたり、避けられたりすること
8. 性的マイノリティであることを本人の承諾なしに第三者に伝えること（アウティング）
9. わからない
10. その他（

問20 家族や親しい人から、LGBTQなどの性的マイノリティだと打ち明けられた場合、あなたはどうか感じますか（〇は1つ）

1. 抵抗を感じる
2. どちらかといえば抵抗を感じる
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば抵抗を感じない
5. 抵抗を感じない
6. わからない

問21 LGBTQなどの性的マイノリティの人権問題を解決するためには、どのようなことが必要だと思えますか（〇は3つまで）

1. 正しい理解を深めるための教育・啓発活動を進めること
2. 相談や支援体制を充実すること
3. 性的マイノリティの人権を擁護する法律の整備を進めること
4. パートナーシップ制度（※）を設けること
5. 公共施設や学校などのトイレや更衣室について利用しやすい環境を整備すること
6. 公共機関の申請書やアンケートの性別記載欄について配慮を行うこと
7. わからない
8. その他（ ）

※ パートナーシップ制度…一方又は双方の性的マイノリティのカップルが互いに人生のパートナーであることを自治体が証明する制度

問22 北朝鮮当局によって拉致された被害者などについて、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか（〇は3つまで）

1. 被害者の情報がまったく得られないこと
2. 家族と一緒に生活をするという当然の権利を奪われていること
3. 身体や居住移転の自由を奪われ、帰国できないこと
4. 帰国など、期待どおりの結果が得られないこと
5. 被害者及びその家族に対し傷つけるような報道があること
6. 被害者及びその家族を興味本位で見ていること
7. 拉致問題に関する国民の理解が足りないこと
8. わからない
9. その他（ ）

問23 働く人の人権について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか（〇は3つまで）

1. 長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が保てないこと
2. 休暇制度があっても取れないような実態があること
3. 非正規雇用の割合が高くなり、待遇の差が大きくなっていること
4. 無理なノルマを課したり賃金不払い残業やパワーハラスメントが横行したりといった職場が存在すること
5. わからない
6. その他（ ）

問24 あなたが、人権尊重の考えについて強く影響を受けたと思われるものは次のどれですか。
 当てはまるものを選んでください（〇は3つまで）

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 幼児期の人権教育 | 2. 小学校時代の人権教育 |
| 3. 中学校時代の人権教育 | 4. 高等学校時代の人権教育 |
| 5. 大学・短大・専門学校時代の人権教育 | 6. 市町や県主催の講演会や研修会 |
| 7. 学校やPTA主催の講演会や研修会 | 8. 地域の自治会・婦人会主催の講演会や研修会 |
| 9. 職場での人権研修会 | 10. 市民団体主催の講演会や研修会 |
| 11. 家族でのふれあいのなかから | 12. 地域でのふれあいのなかから |
| 13. 職場でのふれあいのなかから | 14. 友人とのふれあいのなかから |
| 15. 関心がない | |

問25 人権啓発を進めるために、市民に対してどのような啓発活動が効果的と思われるですか
 （〇は3つまで）

- | | |
|--|------------|
| 1. テレビ・ラジオ | 2. 新聞広告や記事 |
| 3. 県・市の広報紙 | 4. 映画・ビデオ |
| 5. パンフレット・ポスター | |
| 6. SNS（X〈旧ツイッター〉、フェイスブックなど）、ホームページなどのインターネット | |
| 7. 講演会や講義形式の研修会・学習会 | |
| 8. ワークショップ形式（専門家や人権侵害の被害者などをまじえた少人数の討議・活動）の研修会・学習会 | |
| 9. 相互の理解を深めるための交流会 | |
| 10. 車イスやアイマスクなどをもちいた障がいのある人や高齢者などの疑似体験会 | |
| 11. 人権問題をテーマとした展示会 | |
| 12. 人権問題に関する小説、作文、標語などの募集 | |
| 13. 人権問題をテーマとしたイベント（講演会、コンサート、展示会などを複合的に実施） | |
| 14. 特にない | |
| 15. わからない | |
| 16. その他（ | ） |

問26 次①から⑧にあげる考え方について、あなたはどのようにお考えですか。
直観で○をつけてください。(①～⑧について○はそれぞれ1つ)

	強く思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは思わない	全く思わない	わからない
① 人権講演会や研修会に参加することで、 人権尊重の意識は強まる	1	2	3	4	5	6
② 競争社会だから能力による格差が生じるのは 仕方がない	1	2	3	4	5	6
③ 家庭や地域で、幼い頃からものごとの善悪や 決まりごとの大切さを教えることが必要だ	1	2	3	4	5	6
④ 学校で、いじめや差別をなくす人権教育を 進めれば人権問題は解決する。	1	2	3	4	5	6
⑤ 個人の権利より、地域のみんなの利益が 優先されるべきだ	1	2	3	4	5	6
⑥ みんなが、思いやりや優しさを持てば人権問題は 解決する	1	2	3	4	5	6
⑦ 自分の権利ばかり主張して、他人の権利を 尊重しない人が増えている	1	2	3	4	5	6
⑧ 部落差別（同和問題）は、口に出さないで そっとしていれば自然になくなる	1	2	3	4	5	6
⑨ 外国人も日本人と同じように人権は守られる べきだ。	1	2	3	4	5	6
⑩ 感染症に関する偏見や差別の問題は、教育や 啓発によって正しい知識を得ることで解決できる	1	2	3	4	5	6

ここからは、^{だんじょきょうどうさんかく}男女共同参画についておたずねします。

^{だんじょきょうどうさんかく}男女共同参画とは

^{しゃかい}社会のあらゆる分野の活動に、^{じょせい}女性と^{だんせい}男性が、^{じぶん}自分の意思で^{いっしょ}共に^{さんかく}参画する機会が^{ほしょう}保障され、^{ひと}すべての人が^{せいべつ}性別にかかわらず、^{ひとり}一人ひとりの^{こせい}個性と^{のうりよく}能力を^{じゅうぶん}十分に^{はつき}発揮することができる^{せきにん}とともに、^わ責任を^あ分かち合うこと。

問27 ^{にちじょうてき}日常的な家事・^{しごと}仕事などの^{やくわりぶんたん}役割分担についておうかがいします。

「A. ^{りそ}理想」は^{ぜんいん}全員の方が^{かた}お答えください。

「B. ^{げんじょう}現状」は^{はいぐうしや}配偶者（^{ほうりつじょう}法律上の^{こんいん}婚姻は問いません）が^{かた}いる方の^{かた}みお答えください。

また、^{こまだ}子育て、^{こうれいしや}高齢者の^{かいい}介護に関する項目は、^{かた}該当する方のみお答えください。

（○はそれぞれ1つ）

	A. ^{りそ} 理想				B. ^{げんじょう} 現状			
	^{おも} 主に ^{おと} 夫	^{おも} 主に ^{つま} 妻	^{ふう} 夫婦 ^{どう} 同 ^{てい} 程度	^そ その他	^{おも} 主に ^{おと} 夫	^{おも} 主に ^{つま} 妻	^{ふう} 夫婦 ^{どう} 同 ^{てい} 程度	^そ その他
① ^{せいかつひ} 生活費の ^{かくほ} 確保	1	2	3	4	1	2	3	4
② ^{すいじ} 炊事・ ^{そうじ} 掃除・ ^{せんたく} 洗濯などの ^{かじ} 家事	1	2	3	4	1	2	3	4
③ ^{きんじよ} 近所とのつきあい	1	2	3	4	1	2	3	4
④ ^{こまだ} 子育て	1	2	3	4	1	2	3	4
⑤ ^{こうれいしや} 高齢者の ^{かいい} 介護	1	2	3	4	1	2	3	4

問28 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方がありますが、あなたは、この考え方に賛成しますか。(〇は1つ)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 賛成 | 2. どちらかといえば賛成する |
| 3. どちらかといえば賛成しない | 4. 賛成しない |

問28 で「1.賛成」、「2.どちらかといえば賛成する」と答えた方に
おうかがいします。

問28-1 賛成と思うのはなぜですか。(〇はいくつでも)

1. 妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
2. 育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから
3. 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
4. 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから
5. 自分の両親も役割分担をしていたから
6. その他 ()

問28 で「3.どちらかといえば賛成しない」、「4.賛成しない」と答えた方に
おうかがいします。

問28-2 賛成しないと思うのはなぜですか。(〇はいくつでも)

1. 固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから
2. 夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから
3. 妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから
4. 男女平等に反すると思うから
5. 育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから
6. 自分の両親も外で働いていたから
7. その他 ()

問29 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という考え方がありますが、あなたは、この考え方に賛成しますか。(〇は1つ)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 賛成する | 2. どちらかといえば賛成する |
| 3. どちらかといえば賛成しない | 4. 賛成しない |

問30 あなたが問28と問29で回答したように考えるようになった理由について、
 あてはまるものをお答えください。
 (○は2つまで)

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 1. 親や祖父母から言われたから | 2. 配偶者やその親がそのような考えだから |
| 3. 学校で教わったから | 4. 職場(の人)がそういう考えだから |
| 5. 知人・友人がそのような考えだから | |
| 6. 新聞・テレビ・インターネットなどメディアの影響 | |
| 7. 行政の講座、イベント、刊行物 | 8. 生活上やむをえないから |
| 9. その他(具体的に |) |
| 10. わからない | |

問31 あなたは、今の日本社会を見た場合、男性と女性の地位は平等になっていると思いますか。
 (○はそれぞれ1つ)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性のほうが優遇されている	平等である	どちらかといえば女性のほうが優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
①学校教育では	1	2	3	4	5	6
②雇用の機会や職場での賃金・待遇では	1	2	3	4	5	6
③家庭生活では	1	2	3	4	5	6
④地域、ボランティア活動では	1	2	3	4	5	6
⑤社会の慣習やしきたりでは	1	2	3	4	5	6
⑥法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
⑦政治(政策決定)・経済活動の場では	1	2	3	4	5	6
⑧全体として、男女の地位は	1	2	3	4	5	6

問32 あなたは、一般的に女性が仕事をもつことについて、どのようにお考えですか。
あなたの考えに最も近いものをお答えください。(〇は1つ)

1. 女性は仕事をもたない方がよい
2. 結婚するまでは、仕事をもつ方がよい
3. 子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい
4. ずっと仕事を続ける方がよい
5. 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい
6. その他(具体的に)
7. わからない

問33 生活の中での「仕事」と「家庭生活や地域活動」の優先度について、あなたの理想と現状に最も近いものを、それぞれお答えください。(〇はそれぞれ1つ)

	A. 理想	B. 現状
1. 「仕事」を優先している	1	1
2. どちらかといえば「仕事」を優先している	2	2
3. 「仕事」と「家庭生活や地域活動」のバランスをうまくとっている	3	3
4. どちらかといえば「家庭生活や地域活動」を優先している	4	4
5. 「家庭生活や地域活動」を優先している	5	5
6. わからない	6	6

問34 小学校入学前のお子さんがある方におうかがいします。育児に関わる時間は、週平均で1日どれくらいですか。(〇は1つ)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 30分未満 | 2. 30分以上1時間未満 |
| 3. 1時間以上2時間未満 | 4. 2時間以上3時間未満 |
| 5. 3時間以上 | |

問35 現在、収入をとまなう仕事をしている方におうかがいします。現在残業も含めて週あたり何時間くらい仕事をしていますか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 20時間未満 | 2. 20時間以上30時間未満 |
| 3. 30時間以上40時間未満 | 4. 40時間以上50時間未満 |
| 5. 50時間以上60時間未満 | 6. 60時間以上 |

※週あたりの目安：1日8時間、週5日勤務の方で40時間勤務となります。

問36 育児休業・介護休業を取るとしたら、どうするのがよいと思いますか。あなたの考えに一番近いものをお答えください。(〇はそれぞれ1つ)

	A. 育児休業	B. 介護休業
1. 夫のみ取る方がよい	1	1
2. どちらかといえば夫が取る方がよい	2	2
3. 妻のみ取る方がよい	3	3
4. どちらかといえば妻が取る方がよい	4	4
5. 夫も妻も取る方がよい	5	5
6. 夫の親族は夫が、妻の親族は妻が取る方がよい	-	6
7. 介護を受けるものと同性のものが取る方がよい	-	7
8. その他 ()	8	8

あと11ページあります。

大変ですが、最後まで

ご回答をお願いします。



しょうがっこうにゅうがくまえ こ がた
小学校入学前のお子さんがいる方
 (ほんにん にんしんちゆう がた ふく
 本人またはパートナーが妊娠中の方も 含む) 、
 または、かいご ひつよう しんぞく がた がた
 または、介護の必要な親族がいる方 (いた方) におうかがいします。

とひ
問37 あなたは、いくじきゆうぎよう・かいごきゆうぎよう しゆとく
 育児休業・介護休業を取得されましたか。また、その予定はありますか。
 (○はそれぞれ1つ)

	しゆとく しゆとくする よてい 取得した／取得する予定	しゆとく しゆとくしない よてい 取得していない／取得しない予定
1. <small>いくじきゆうぎよう</small> 育児休業	1	2
2. <small>かいごきゆうぎよう</small> 介護休業	1	2

とひ
問37 で「取得していない／取得しない予定」とお答えの方におうかがいします。

とひ
問37-1 取得しなかった理由について、あなたの考えに最も近いものをお答えください。
 (○はそれぞれ1つ)

	A. <small>いくじきゆうぎよう</small> 育児休業	B. <small>かいごきゆうぎよう</small> 介護休業
1. <small>はいぐうしゅ</small> 配偶者 (パートナー) が取得した (する) ので	1	1
2. <small>しゅうにゅう すく ほう と</small> 収入の少ない方が取るのがよいから	2	2
3. <small>いくじ かいご つま おこな ほう てき</small> 育児・介護は、妻が行う方が適しているから	3	3
4. <small>いくじ かいご おつと おこな ほう てき</small> 育児・介護は、夫が行う方が適しているから	4	4
5. <small>いくじ かいごきゆうぎよう と しょうしん さしざわ</small> 育児・介護休業を取ると昇進に差障りがあるから	5	5
6. <small>しよくば いくじ かいごきゆうぎよう と ふんいき</small> 職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから	6	6
7. <small>しごと ししょう</small> 仕事に支障がでるから	7	7
8. <small>しよくば いくじ かいごきゆうぎようせいど</small> 職場に育児・介護休業制度がないから	8	8
9. <small>いくじ かいご</small> 育児・介護をしたくないから	9	9
10. <small>いくじ かいご しかた</small> 育児・介護の仕方がわからないから	10	10
11. <small>おや そふぼ</small> 親や祖父母がみてくれるから	11	11
12. <small>た</small> その他	12	12

問38 女性が再就職や起業、地域活動、地域貢献など様々な活動に参加するために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 再就職や地域活動などに関する相談の充実
2. 講座など、学習機会の提供・充実
3. 家族の支援
4. 育児に関する支援
5. 介護に関する支援
6. 活動に関する補助金など、金銭的支援
7. 女性の参加に対する理解・支援
8. 女性が社会で活動することはあたりまえという風潮
9. 女性自身の自立
10. その他 ()

問39 女性が出産などを理由に離職せず、同じ職場で働きつづけるために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 保育所や学童保育(児童クラブ)など、子どもを預けられる環境の整備
2. 介護支援の充実
3. 育児支援の充実
4. 男性の家事・育児・介護をすることへの理解・意識改革
5. 女性が働きつづけることへの周囲の理解・意識改革
6. 働きつづけることへの女性自身の意識改革
7. 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方の改革
8. 職場における育児・介護との両立支援制度の充実
9. 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
10. 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進への不利益な取り扱いの禁止
11. その他 ()
12. 特にない
13. わからない

問40 出産などでいったん離職した女性が、再び社会で活躍する形として、あなたがよいと思うものをお答えください。(〇はいくつでも)

1. これまでの知識・経験を生かして働けるよう、正社員として再就職する
2. 仕事と生活の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職する
3. これまでの知識・経験を生かして、かつ働く時間を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する
4. 働く時間を最も重視して、パート・アルバイトなどで再就職する
5. 自宅で仕事を行う在宅ワークやテレワーク、在宅勤務などで働く
6. 家事・育児・介護の経験を生かし、資格を取って働く
7. これまでの経験を生かしてボランティアや地域活動で地域に貢献する
(育児・介護ボランティア、自治会、防災活動、グループ活動など)
8. これまでの経験を生かして企業やNPOの立ち上げを行う
(小売店経営、IT企業設立、ボランティア団体設立など)
9. その他 ()
10. 特にない
11. わからない

問41 あなたは政策や方針決定の場において女性の参画をすすめるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 女性議員が増えること
2. 男女の比率が偏らないように積極的に女性に参画してもらうこと
3. 市、企業、各関係機関・団体などが女性の登用を推進すること
4. 女性の人材などに関する情報の収集・整備・提供に努めること
5. 女性自身が自覚し、政策・方針決定の場へ参画できる力をつけること
6. 女性が参画しなくても特に問題はないので、参画する必要はない
7. その他 ()

問42 男性が育児や介護、地域活動に参加していくためには、何が有効だと思いますか。あなたが有効だと思うものをすべてお答えください。(〇はいくつでも)

1. 男性も育児や地域活動に参加するのはあたりまえという風潮をつくる
2. 男性が育児休業・介護休業を取得しやすい職場環境の整備を推進する
3. 長時間労働を抑制する
4. 男性を対象とした家事・育児・介護に関する講座を開催する
5. 男性同士が交流できる場・機会を提供する
6. 男性が地域活動に積極的に参加できるように支援する
7. 男性のための相談体制の充実を図る
8. 女性が仕事をもち、経済力を高める
9. その他 ()

セクハラ・DVについておたずねします。

セクハラとは（セクシュアル・ハラスメント、性的いやがらせ）

職場、学校、地域活動などにおいて、相手の意に反した攻撃的で屈辱的な性的言動や勧誘により、仕事などをしていくうえで、一定の不利益を与えたり、環境を悪化させたりすること。

DVとは（ドメスティック・バイオレンス）

配偶者や恋人など親密な関係にある人、または親密な関係にあった人から振られる暴力のこと。

立ち入った質問になりますが、調査へのご協力をお願いいたします。

この調査は無記名で実施しており、個人が特定されることは一切ありません。

問43 あなた自身や周りの方がセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたことはありますか。（〇はそれぞれ1つ）

	ある	ない
①自分自身	1	2
②友人や職場の仲間など、自分の周りの人	1	2

問44 あなたは、次のようなことが配偶者間や交際相手間で行われた場合、暴力にあたるとおもうか。（〇はそれぞれ1つ）

	どんな場合でも暴力にあたるとおもう	暴力にあたる場合も、そうでもない場合もあるとおもう	暴力に当たるとは思わない
①平手で打つ	1	2	3
②大声でどなる	1	2	3
③いやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	3
④「誰のおかげで生活できていると思っているのか」「甲斐性なし」などと言う	1	2	3
⑤交友関係や電話を細かく監視、制限する	1	2	3

問45 あなたは、配偶者や交際相手から次にあげるような暴力を1つでも受けたことがありますか。
(○はそれぞれ1つ)

	何度もあった	1・2度あった	ない
①なぐる、けるなどの身体的暴力	1	2	3
②ののしる、おどすなどの言葉の暴力や、 無視するなどの精神的暴力	1	2	3
③性行為の強要、避妊に協力しない などの性的暴力	1	2	3
④生活費を渡さない、仕事に就くことを 禁じるなどの経済的暴力	1	2	3
⑤実家や友人とのつきあいや本人の行動を 監視、制限する社会的暴力	1	2	3

問45で「1. 何度もあった」「2. 1・2度あった」とお答えの方におうかがいします。

問45-1 暴力があった時点でのあなたと相手との関係をお答えください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------|----------|
| 1. 配偶者 | 2. 元配偶者 |
| 3. 交際相手 | 4. 元交際相手 |

問45-2 あなたは、暴力を受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
(○はいくつでも)

1. 伊丹市配偶者暴力相談支援センター (伊丹市DV相談室)
2. 他の配偶者暴力相談支援センター
3. 女性のための悩み電話相談、女性のためのカウンセリング、女性のための法律相談など
4. 市役所の相談窓口
5. 警察
6. 法務局・地方法務局、人権擁護委員
7. 民間の専門家や専門機関 (弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど)
8. 医療関係者 (医師、看護師など)
9. 学校関係者 (教員、養護教員、スクールカウンセラーなど)
10. 民生委員・児童委員
11. 家族や親せき
12. 友人・知人
13. その他 ()
14. どこ (だれ) にも相談しなかった → 問45-3へ

ここからは、人権・男女共同参画に関する市の計画・施策等についておたずねします。

問48 あなたは、次のような言葉や名称についてご存知ですか。(〇はそれぞれ1つ)

		内容までよく知っている	内容も少しは知っている	聞いたことはある	全く知らない
伊丹市の計画・施策等	①伊丹市男女共同参画計画	1	2	3	4
	②伊丹市配偶者等からの暴力対策基本計画	1	2	3	4
	③伊丹市人権教育・啓発推進に関する基本方針	1	2	3	4
	④伊丹市男女共同参画施策市民オンブード	1	2	3	4
	⑤男女共同参画センターここいろ	1	2	3	4
	⑥人権啓発センターふらっと	1	2	3	4
	⑦伊丹市DV相談室 (伊丹市配偶者暴力相談支援センター)	1	2	3	4
	⑧男女共同参画推進事業所表彰	1	2	3	4
	⑨本人通知制度	1	2	3	4
	⑩伊丹市同性パートナーシップ宣誓制度	1	2	3	4
人権・男女共同参画に関すること	⑪部落差別解消推進法	1	2	3	4
	⑫ハイトスピーチ解消法	1	2	3	4
	⑬障害者差別解消法	1	2	3	4
	⑭LGBT理解増進法	1	2	3	4
	⑮女性差別撤廃条約	1	2	3	4
	⑯男女雇用機会均等法	1	2	3	4
	⑰育児・介護休業法	1	2	3	4
	⑱男女共同参画社会	1	2	3	4
	⑲ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	1	2	3	4
	⑳女性活躍推進法 (女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)	1	2	3	4
㉑仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)	1	2	3	4	

	内容までよく知っている	内容も少しは知っている	聞いたことはある	全く知らない
②ドメスティック・バイオレンス（DV）	1	2	3	4
③デートDV	1	2	3	4
④セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）	1	2	3	4
⑤リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（※）	1	2	3	4
⑥ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）	1	2	3	4

※リプロダクティブ・ヘルス/ライツ：子どもを産むかどうか、子どもの数、出産間隔、出産する時期を自らの意思で決定するなど、性と生殖に関する健康・権利のこと

問49 人権・男女共同参画の実現に向けて今後、市が特に力を入れるべきだと思うものをお答えください。（〇はいくつでも）

1. 学校で男女の性別にとられない教育や進路指導をする
2. 学校などにおける人権教育を充実させる
3. 学校などにおける多様性を認め合う教育を充実させる
4. さまざまな媒体を活用して、広報・啓発を行う（具体的に：)
5. 採用・昇進・賃金など、職場での実質的な男女平等を進めるように企業や事業主に啓発する
6. 地域・団体・企業への出前講座を実施する
7. 人権・男女共同参画に関する講座やイベントを充実させる
8. 児童虐待や高齢者虐待、障害者虐待防止に向けた啓発を充実させる
9. 人権課題をかかえる人々との交流の機会を設ける
10. 人権・男女共同参画に関する制度・施設を充実させる
11. 育児・保育・介護に関する制度・施設を充実させる
12. 人権問題に対する各種相談を充実させる
13. 公共施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザインを推進する
14. 市職員などの人権・男女共同参画意識の向上を図る
15. 市の政策・方針決定の場への多様な立場からの参画を推進する
16. 人権・男女共同参画の推進に向け、市が率先した取り組みを行う
17. その他（具体的に：)
18. 特になし

ここからは、あなたご自身のことについておたずねします。

問50 あなたの自認する性別を教えてください。(○は1つ) ※統計上必要ですのでおたずねします。

- | | |
|--------------------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
| 3. その他 (または答えたくない) | |

問51 あなたの年齢を教えてください。(2025年9月現在) (○は1つ)

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 15～19歳 | 2. 20～29歳 | 3. 30～39歳 | 4. 40～49歳 |
| 5. 50～59歳 | 6. 60～69歳 | 7. 70歳以上 | |

問52 あなたの国籍についておたずねします。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|-----------|
| 1. 日本国籍 | 2. 日本国籍以外 |
| 3. その他 (または答えたくない) | |

問53 あなたは、結婚(法律上の婚姻は問わない)していますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|-------|---------------|
| 1. 未婚・非婚 | 2. 既婚 | 3. 既婚 (離別・死別) |
|----------|-------|---------------|

問54 あなたの家族(同居)の構成は次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

- | |
|----------------------------|
| 1. 単身 (一人暮らし) |
| 2. 夫婦・パートナーのみ |
| 3. 2世代家族 (親と子) |
| 4. 3世代家族 (親と子と孫、親と子と祖父母など) |
| 5. その他 () |

問55 中学生以下のお子さん(同居)がいますか。

お子さんがいる場合、一番年齢の小さなお子さんはどれにあてはまりますか。(○は1つ)

- | | |
|--------|-----------------|
| 1. いない | 2. 乳幼児 (小学校入学前) |
| 3. 小学生 | 4. 中学生 |

問56 あなたを含めて同居家族に65歳以上の方はいますか。(○は1つ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

問57 あなたの現在のご職業に最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 勤め人 (常勤・フルタイム) | 2. 商工業、農業などの自営業 |
| 3. 執筆業、弁護士などの専門的職業 | 4. 勤め人 (パートタイム、アルバイト) |
| 5. 派遣者員 | 6. 内職などの家庭内請負業 |
| 7. 家事専業 | 8. 学生 (受験勉強中の方も含む) |
| 9. その他 () | |
| 10. 無職 (7.8以外) | |

現在働いている方におうかがいします。

問58 あなたが働いているのは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. 生計維持 | 2. 家計の補助 |
| 3. 住宅ローンなどの借金返済 | 4. 子どもの教育資金 |
| 5. 将来に備えての貯蓄 | 6. 自分で自由に使えるお金を得る |
| 7. 生きがい | 8. 自分の能力や資格を生かす |
| 9. 視野を広げ、友人を得る | 10. 社会への貢献 |
| 11. 働くことが当然 | 12. 時間に余裕がある |
| 13. 家業である | 14. 答えたくない |
| 15. わからない | 16. その他 () |

現在働いていない方におうかがいします。

問59 あなたが働いていないのは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 経済的に働く必要がない | 2. 他にやりたいことがある |
| 3. 家庭にいるのが当たり前 | 4. 家事負担が大きい |
| 5. 子育て中 | 6. 病気 |
| 7. 希望の職が見つからない | 8. 家族が働くことを望まない |
| 9. 家族の介護 | 10. 在学中 |
| 11. 高齢である | 12. 働くことに向いていない |
| 13. 働きたいが、何をしたらよいかわからない | |
| 14. 答えたくない | 15. わからない |
| 16. その他 () | |

はいくうしや がた
配偶者・パートナーがいる方におうかがいします。

問60 あなたの配偶者・パートナーの現在のご職業に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 勤め人 (常勤・フルタイム) | 2. 商工業、農業などの自営業 |
| 3. 執筆業、弁護士などの専門的職業 | 4. 勤め人 (パートタイム、アルバイト) |
| 5. 派遣者員 | 6. 内職などの家庭内請負業 |
| 7. 家事専業 | 8. 学生 (受験勉強中の方も含む) |
| 9. その他 () | |
| 10. 無職 (7.8以外) | |

問61 人権・男女共同参画に関する事で何かご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

Blank area for writing responses to Question 61.

ちょうさ しゅうりょう
調査はこれで終了です。

どうふう へんしんようふうとう ちょうさひょう い
同封の返信用封筒にこの調査票のみ入れて、

がつ にち きん
10月24日(金)までにポストに

い
入れてください。

きょうりやく
ご協力ありがとうございました。



令和7年度
伊丹市人権・男女共同参画に関する
市民意識調査結果報告書

発行年月：令和8年3月

発行：伊丹市 市民自治部 共生推進室
同和・人権・平和課（電話：072-784-8077）
男女共同参画課（電話：072-784-8146）
〒664-8503 伊丹市千僧1-1

7 市 107 - 1 - 075A4